

厚木市民意識調査報告書

平成30年1月

厚木市

I. 調査の概要	
1 調査の目的	3
2 調査項目	3
3 調査設計	3
4 回収結果	3
5 報告書の見方	3
6 標本誤差	4
II. 回答者の属性	
1 回答者の属性	
(1) 性別	7
(2) 年齢	7
(3) 家族構成	7
(4) 居住地区	8
(5) 住居形態	8
(6) 居住年数	9
(7) 職業	9
(8) 通勤（通学）先	10
(9) 最寄駅	10
III. 意識調査結果	
1 暮らしの状況	
(1) 定住意向	13
(2) 住み続けたい理由	16
(3) 他地区・市外に転出したい理由	19
2 市の現状と将来	
(1) 市の現在のイメージ	21
(2) 市の将来のイメージ	24

目次

3	子育て・福祉・健康	
(1)	子どもを産み育てられる環境を整える取組	27
(2)	地域包括ケア社会の実現への取組	30
(3)	がん検診の受診状況	32
(4)	自殺予防の対策	34
(5)	かかりつけ医	36
4	安全・防災	
(1)	本厚木駅周辺の治安	38
(2)	防犯対策に効果的な取組	40
(3)	セーフコミュニティの考え方	42
(4)	地域の防犯活動への参加	44
(5)	身に付ける必要がある応急手当・実行可能な応急手当	46
5	人権	
(1)	人権侵害を受けた経験	49
(2)	人権や差別に対する関心	51
6	国際交流	
(1)	国際交流の取組	54
7	教育・生涯学習・文化・スポーツ	
(1)	現在の教育への取組	57
(2)	文化芸術活動を充実させる取組	59
(3)	生涯学習活動に参加する上で支障になること	62
(4)	スポーツをする目的・頻度	64
(5)	開催してほしいスポーツイベント	69
8	環境	
(1)	地球温暖化防止への取組	72
(2)	資源とごみの分別	75
(3)	ごみの減量化・資源化の推進	77
(4)	河川整備への取組	80

9	観光	
	(1) 観光の活性化への取組	83
10	まちづくり	
	(1) まちづくり全般の変化	86
	(2) 日常利用する施設の場所	103
	(3) 自宅周辺に必要な施設	105
	(4) 本厚木駅周辺のイメージ	108
	(5) 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと	110
	(6) 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組	112
11	交通・道路	
	(1) 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段	114
	(2) 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場	117
	(3) 市内のバス交通への取組	118
	(4) 市内の道路の現状	122
	(5) 道路整備への取組	126
12	広報	
	(1) 家庭で利用する情報機器	130
	(2) 市の情報の入手方法	132
13	行政	
	(1) 市の施設の利用料	135
	(2) 行政サービスの情報化推進への取組	137
	(3) より良い市民サービスを維持していく取組	140
	(4) 市に必要な施設	142
	(5) 市の施設の利用状況	145
IV.	調査票と集計結果	
	1 調査票 (A)	149
	2 調査票 (B)	159

I. 調査の概要

1 調査の目的

市民のまちづくりに対する考えや市民生活に密着した事項について、市民の意識や市民ニーズを把握するとともに、今後の市政運営等の基礎資料とすることを目的に実施したものである。

2 調査項目

- | | |
|---------------------|------------|
| (1) 暮らしの状況 | (8) 環境 |
| (2) 市の現状と将来 | (9) 観光 |
| (3) 子育て・福祉・健康 | (10) まちづくり |
| (4) 安全・防災 | (11) 交通・道路 |
| (5) 人権 | (12) 広報 |
| (6) 国際交流 | (13) 行政 |
| (7) 教育・生涯学習・文化・スポーツ | |

3 調査設計

- | | |
|------------|---|
| (1) 調査地域 | 厚木市全域 |
| (2) 調査対象 | 厚木市在住の18歳以上の男女（外国籍市民含む） |
| (3) 調査対象者数 | 調査票A：3,000人
調査票B：3,000人 総対象6,000人 |
| (4) 抽出方法 | 無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送配布・郵送回収法 |
| (6) 調査期間 | 平成29年7月1日～7月20日 |

4 回収結果

- | | |
|-----------|---|
| (1) 有効回収数 | 調査票A：1,480人
調査票B：1,550人 総回収3,030人 |
| (2) 回収率 | 調査票A：49.3%
調査票B：51.7% 平均50.5% |

5 報告書の見方

- (1) 図表中の「n」（Number of Casesの略）は、各設問の回答者数のことである。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合がある。
- (3) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。

- (5) 設問によっては、過去に実施した「厚木市民意識調査」の結果と比較している。
- (6) 回答者数が20に満たないものについては、図表に示すに留め、この報告書の中では特に取りあげていない。
- (7) 集計結果の比率を考察する上では、割合表現を以下のとおりとした。ただし複数の選択肢または年代などの項目をまとめて考察する場合は必ずしもこの限りではない。

回答の比率（例）	割合表現	回答の比率（例）	割合表現
20.0%	2割	24.0%～25.9%	2割半ば
20.1%～20.9%	約2割	26.0%～27.4%	2割半ばを超え
21.0%～22.4%	2割を超え	27.5%～28.9%	3割近く
22.5%～23.9%	2割半ば近く	29.0%～29.9%	約3割

6 標本誤差

今回の調査は、調査対象となる母集団（厚木市全域に住む満18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、母集団に対する標本誤差が生じることがある。

標本誤差は次式で統計学的に得られ、①比率算出の基数（n）、②回答の比率（P）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(100-p)}{n}}$$

N = 母集団数
 （厚木市の満18歳以上人口）
 n = 比率算出の基数（回答者数）
 p = 回答の比率（%）

(注) $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$

今回の調査結果の標本誤差は次表のようになる。（この表の計算式の信頼度は95%）

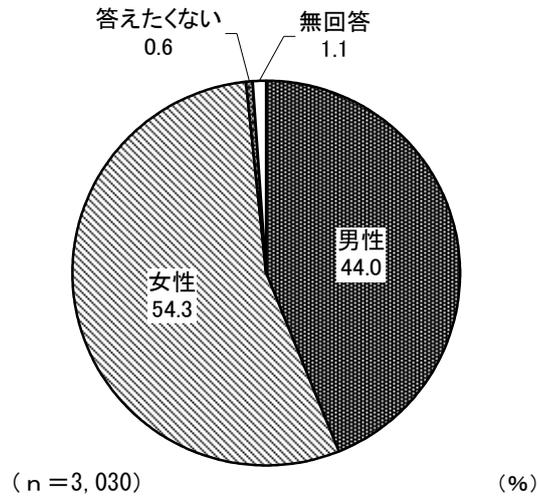
n（基数）	回答比率				
	90%または10%	80%または20%	70%または30%	60%または40%	50%
3,030票	±1.07	±1.42	±1.63	±1.74	±1.78
1,550票	±1.49	±1.99	±2.28	±2.44	±2.49
1,480票	±1.53	±2.04	±2.33	±2.50	±2.55
1,000票	±1.85	±2.47	±2.83	±3.03	±3.09
500票	±2.63	±3.50	±4.01	±4.29	±4.38
300票	±3.39	±4.52	±5.18	±5.54	±5.65
100票	±5.88	±7.84	±8.98	±9.60	±9.80

例えば、問1の「現在お住まいの地区にずっと住み続けたいですか。」という質問に対して、「ずっと住み続けたい」と答えた人は、3,030人のうち59.2%であった。回答者数が3,030人、回答率が60%前後のときの標本誤差は、上の表では±1.74%であるから、「ずっと住み続けたい」と考えている人は、厚木市在住の18歳以上の男女全体（母集団）の57.46%から60.94%の間にあると推定できる。（信頼度が95%のため、この推定は95%の確率で正しいといえることになる。）

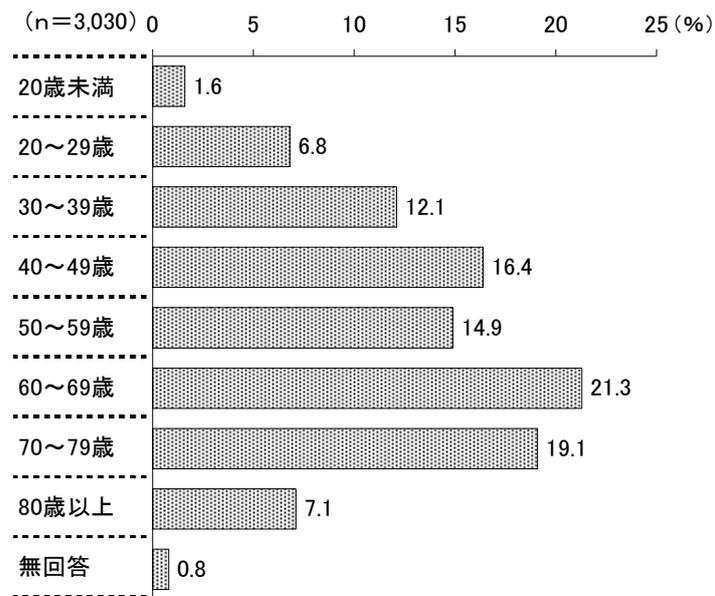
II. 回答者の属性

1 回答者の属性

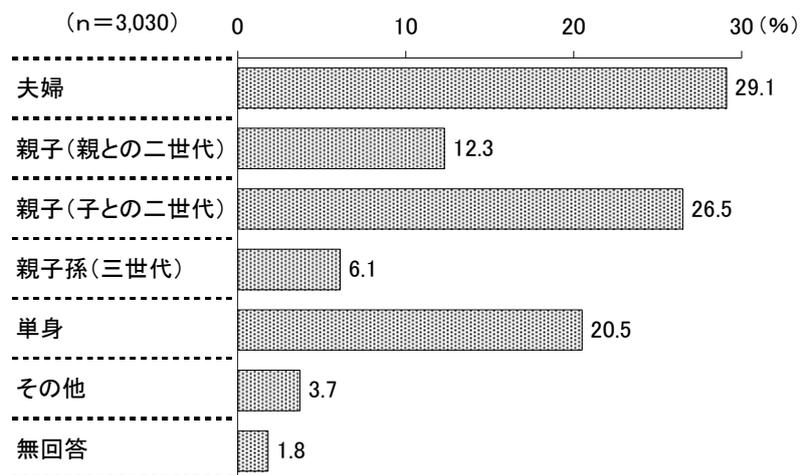
(1) 性別



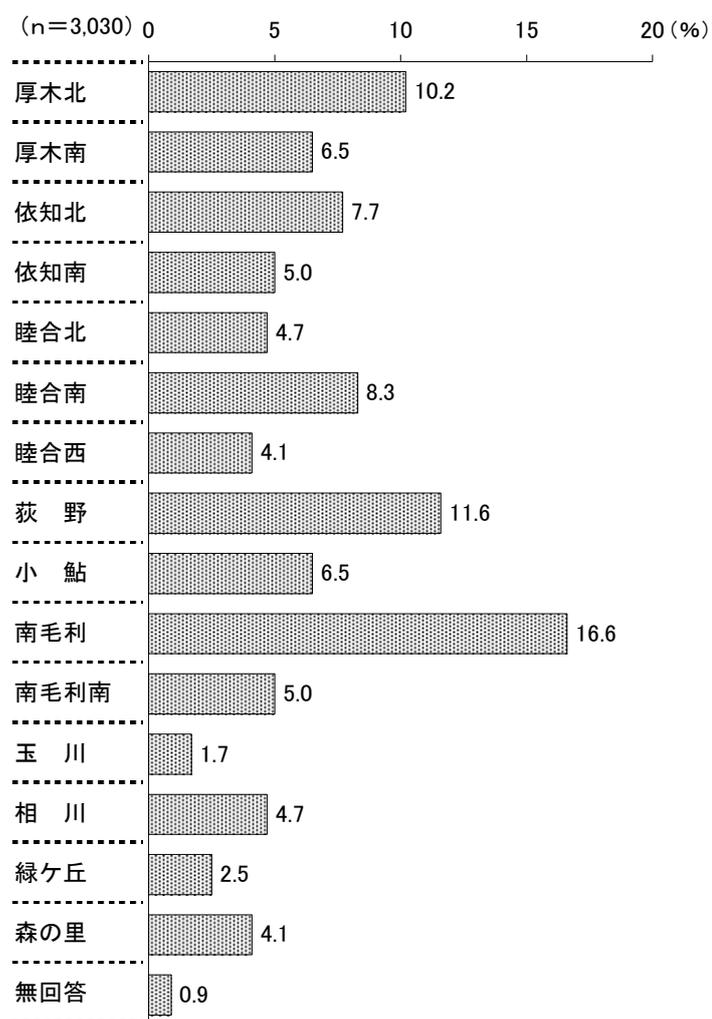
(2) 年齢



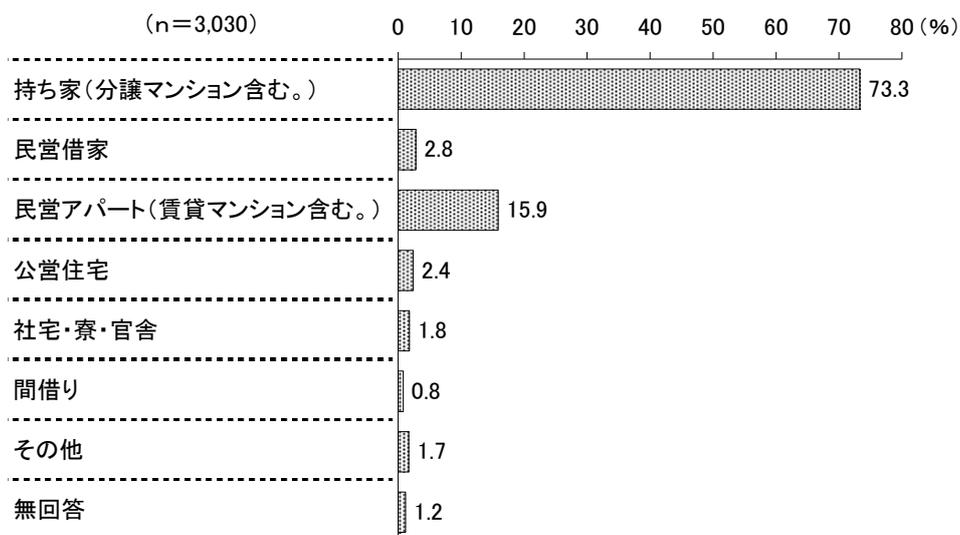
(3) 家族構成



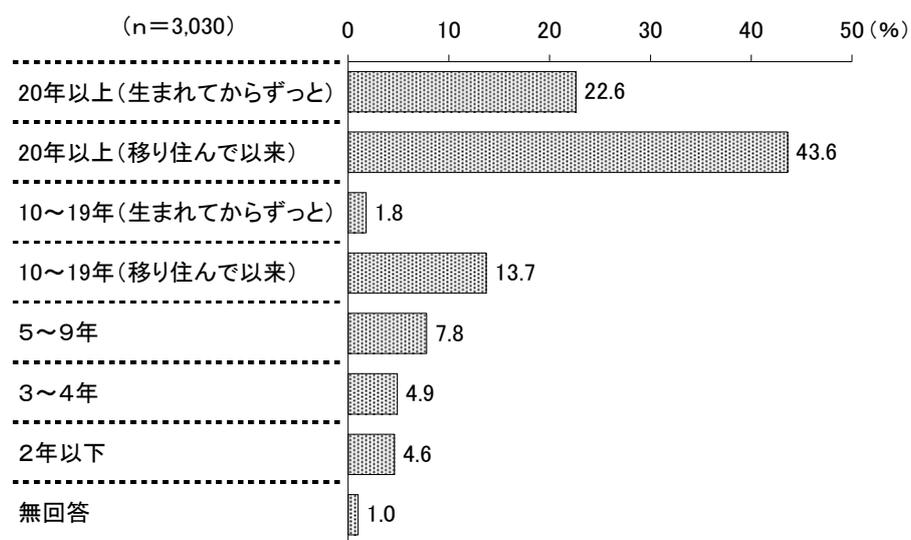
(4) 居住地区



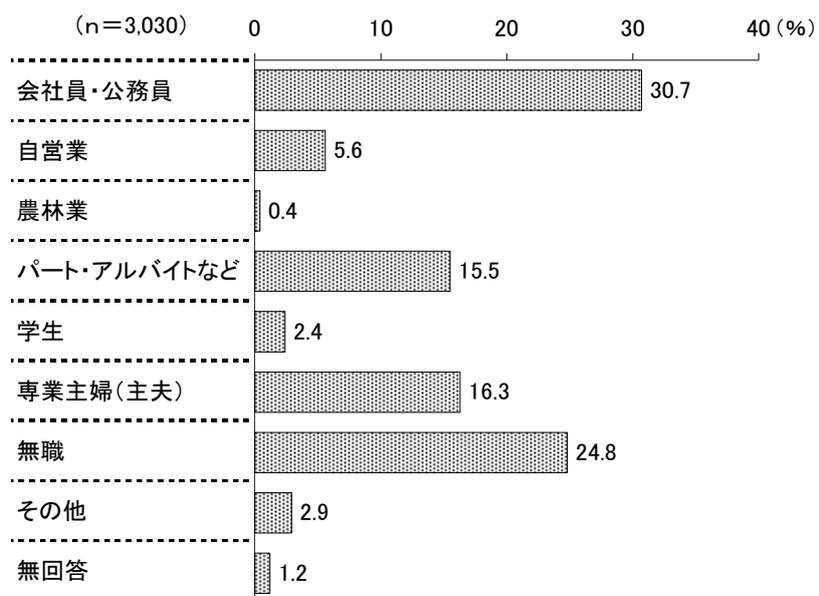
(5) 住居形態



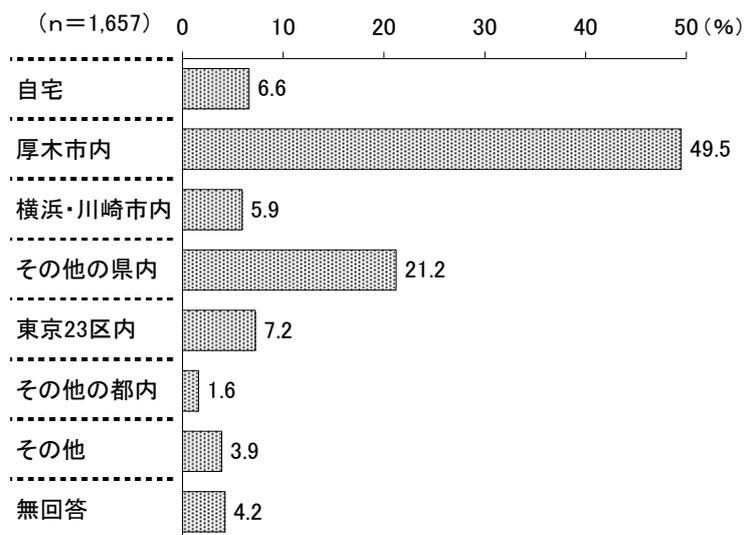
(6) 居住年数



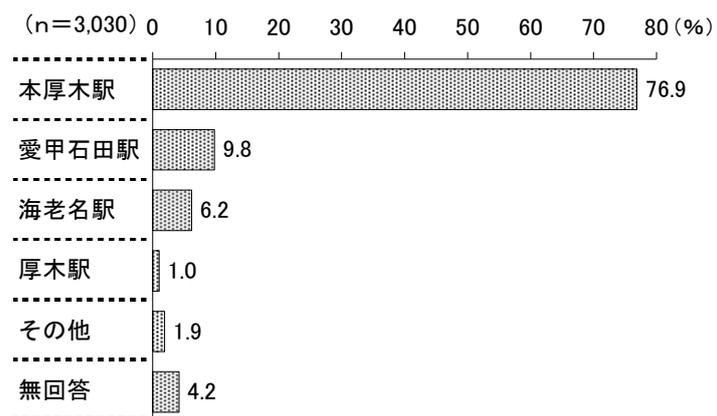
(7) 職業



(8) 通勤（通学）先



(9) 最寄駅



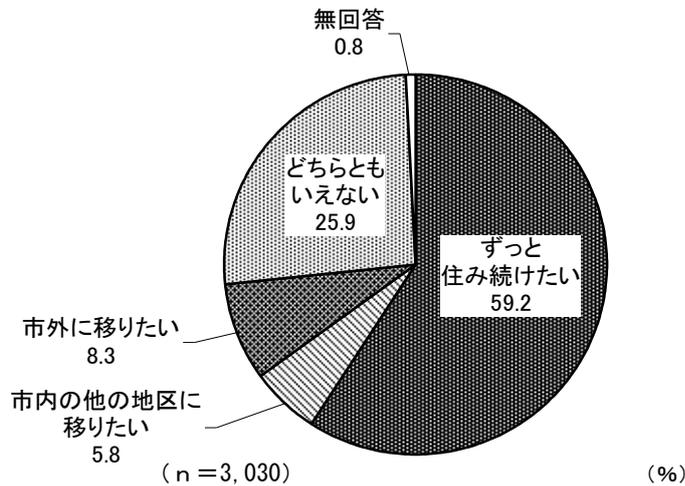
Ⅲ. 意識調査結果

1 暮らしの状況

(1) 定住意向 (A・B：問1)

問. 現在お住まいの地区にずっと住み続けたいですか。(1つだけ選んでください)

図1-1-1 定住意向



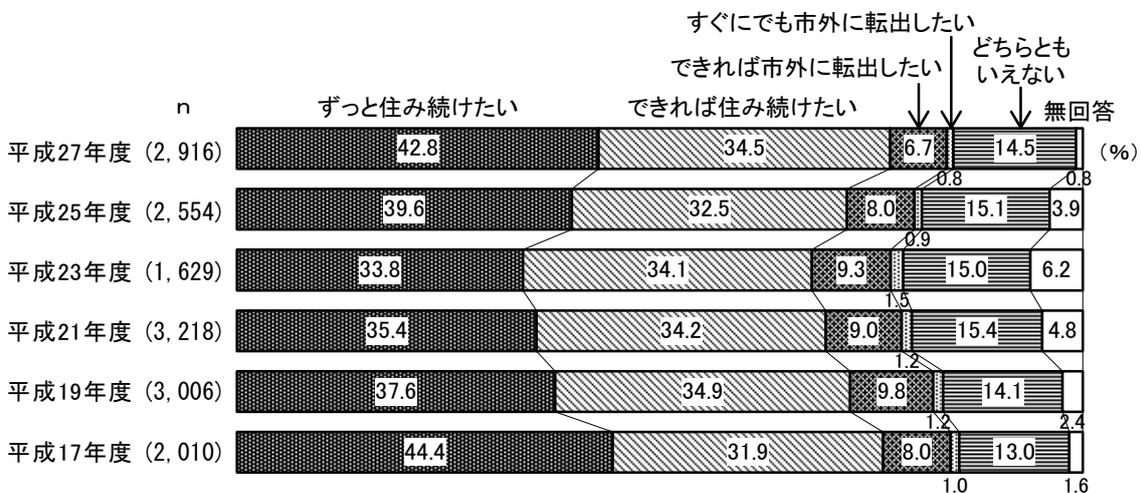
【全体】

現在お住まいの地区への定住意向について聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(59.2%)が約6割と高くなっている。「市内の他の地区に移りたい」(5.8%)と「市外に移りたい」(8.3%)はともに1割未満となっている。

【経年変化】

平成27年度以前の調査では、「厚木市への定住意向」について聴いていた。また、一部の選択肢も異なっているため、平成27年度以前の調査結果を参考に記載する。

図1-1-2 厚木市への定住意向一過去の調査結果

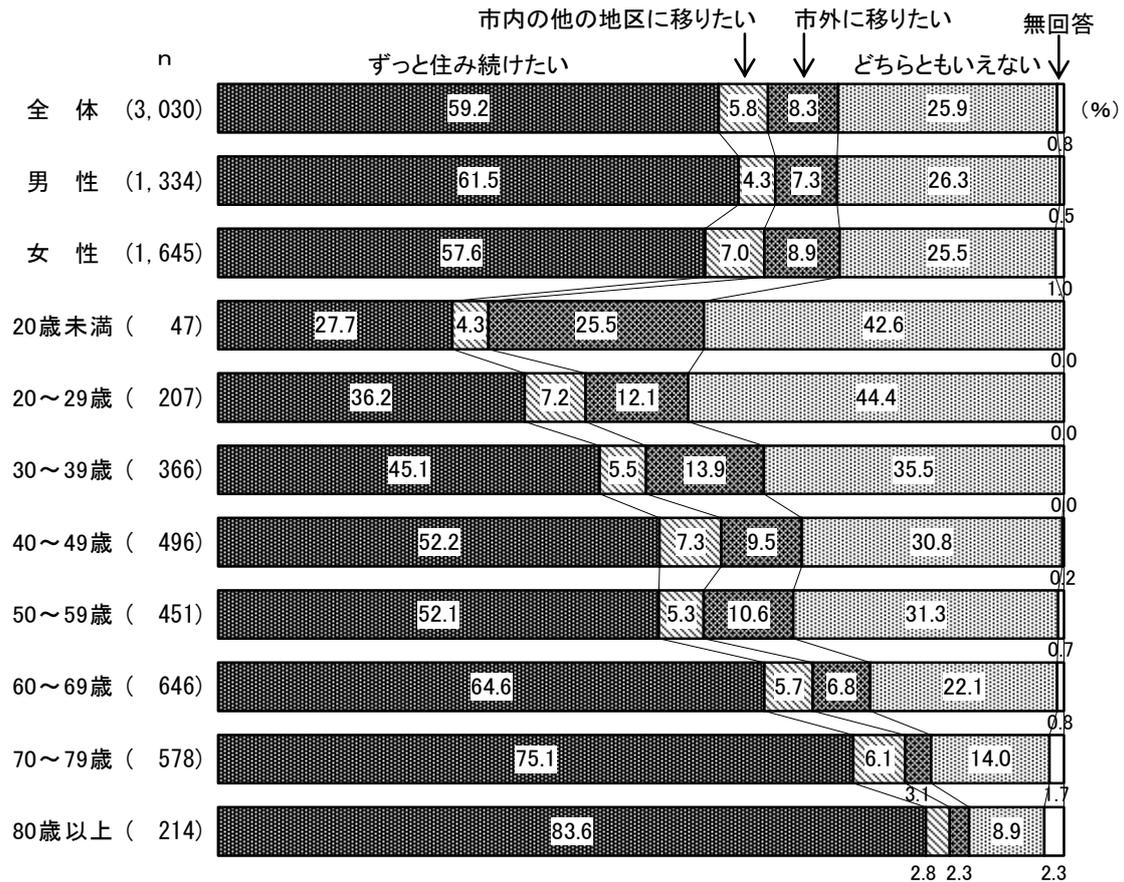


【属性別】

性別で見ると、男性では「ずっと住み続けたい」(61.5%)が女性(57.6%)より3.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「ずっと住み続けたい」は80歳以上(83.6%)で8割半ば近く、70~79歳(75.1%)で7割半ば、60~69歳(64.6%)で6割半ばと高くなっている。20歳未満では「ずっと住み続けたい」(27.7%)が3割近くとなっている。

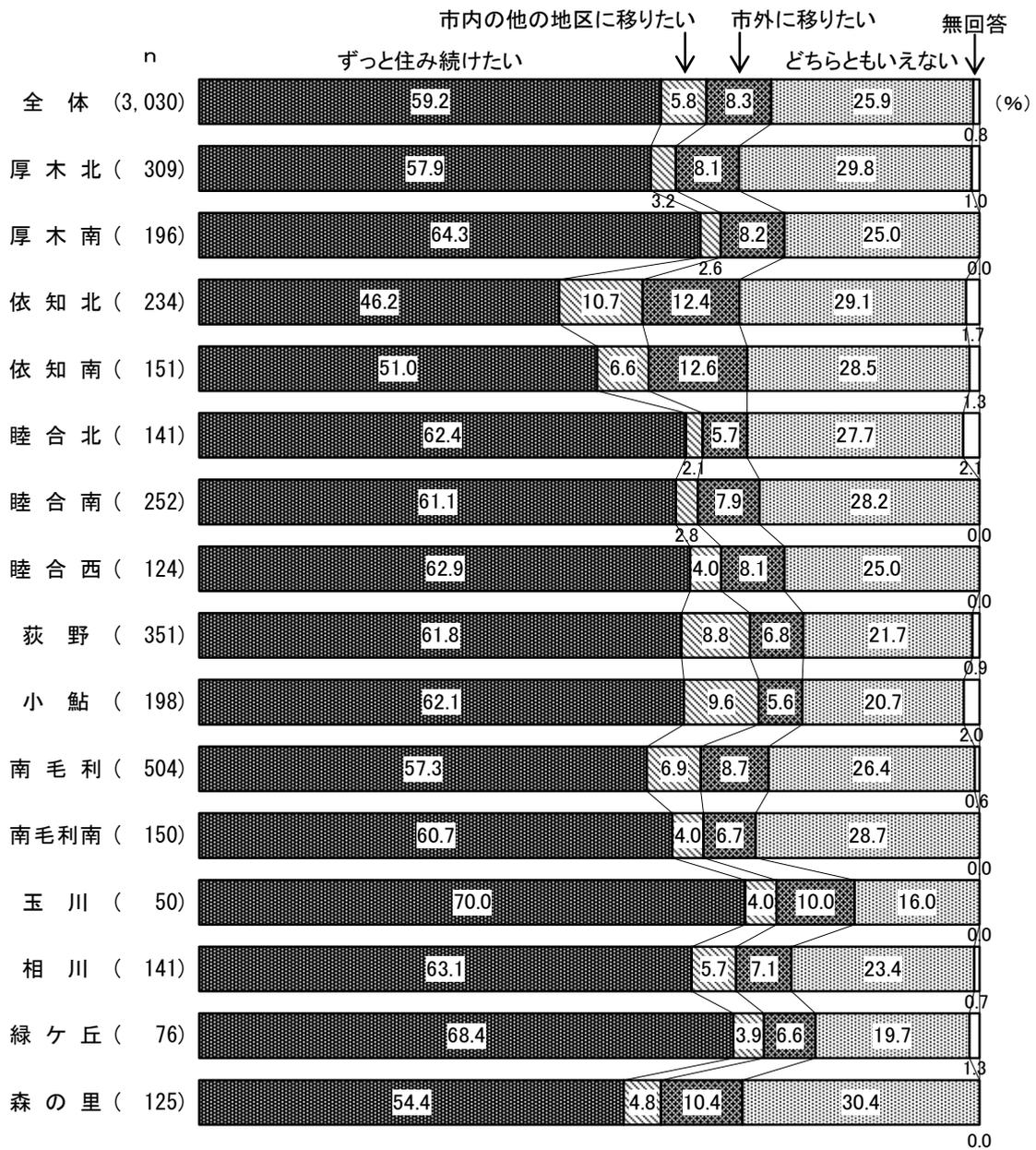
図1-1-3 定住意向一性別、年齢別



【属性別】

居住地区別で見ると、「ずっと住み続けたい」は玉川（70.0%）で7割と最も高く、次いで緑ヶ丘（68.4%）、厚木南（64.3%）、相川（63.1%）となっている一方、依知北（46.2%）では4割半ばを超え、依知南（51.0%）と森の里（54.4%）、南毛利（57.3%）、厚木北（57.9%）では5割台にとどまっている。

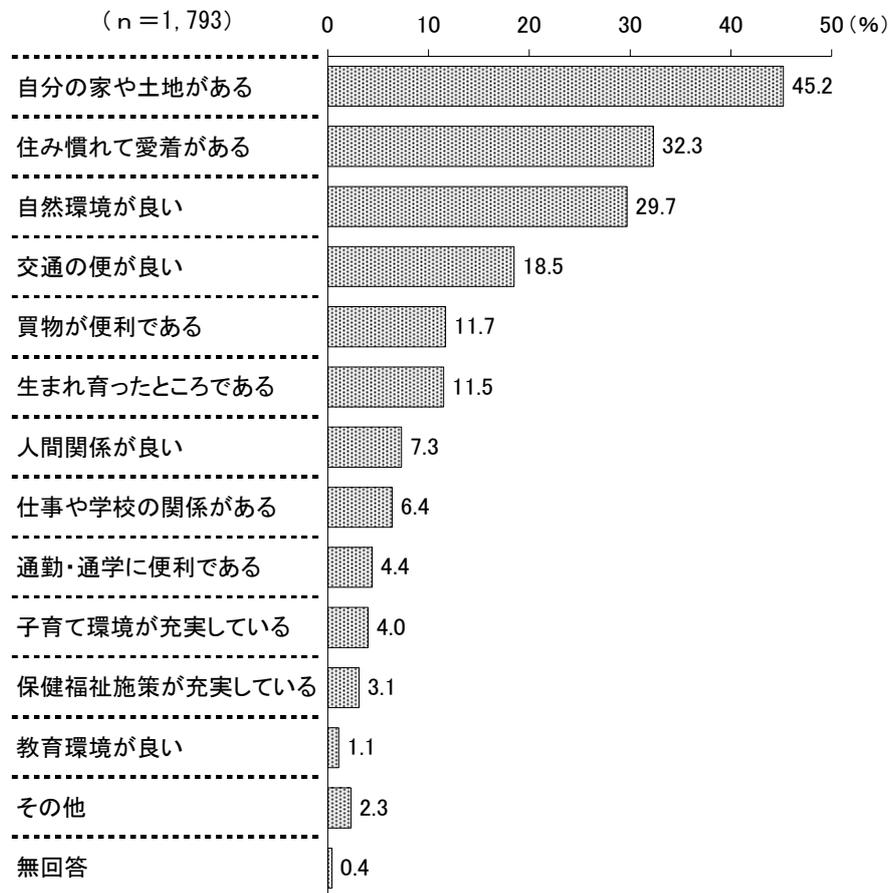
図1-1-4 定住意向-居住地区別



(2) 住み続けたい理由 (A・B：問2)

問. 「住み続けたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。(2つまで選んでください)

図1-2-1 住み続けたい理由



【全体】

現在お住まいの地区に「ずっと住み続けたい」と答えた1,793人に、住み続けたい理由について聞いたところ、「自分の家や土地がある」(45.2%)が4割半ばで最も高く、次いで「住み慣れて愛着がある」(32.3%)、「自然環境が良い」(29.7%)、「交通の便が良い」(18.5%)、「買物が便利である」(11.7%)、「生まれ育ったところである」(11.5%)となっている。

【経年変化】

平成27年度以前の調査では「厚木市に住み続けたい理由」について聴いており、回答の対象者が異なっているため、参考に記載する。

表1-2-1 住み続けたい理由—経年変化

(%)

調査年	n	自分の家や土地がある	住み慣れて愛着がある	自然環境が良い	交通の便が良い	買物が便利である	生まれ育ったところである	人間関係が良い	仕事や学校の関係がある	通勤・通学に便利である	子育て環境が充実している	保健福祉施策が充実している	教育環境が良い	その他	無回答
平成29年度	1,793	45.2	32.3	29.7	18.5	11.7	11.5	7.3	6.4	4.4	4.0	3.1	1.1	2.3	0.4
平成27年度	2,253	48.9	33.5	27.9	14.0	8.6	14.4	5.6	9.5	3.6	8.5	2.5	0.6	2.9	1.0
平成25年度	1,842	44.1	32.2	32.0	15.0	9.9	13.4	5.3	9.3	4.5	5.1	3.5	0.5	3.3	0.8
平成23年度	1,106	52.8	33.4	31.0	12.6	6.6	13.5	6.1	9.0	5.2	4.4	2.9	0.4	3.4	2.3
平成21年度	2,237	54.7	35.0	29.8	12.5	7.3	14.9	5.7	9.4	3.6	-	2.8	1.2	2.0	0.7
平成19年度	2,178	53.9	35.2	30.9	10.1	9.1	15.2	7.0	8.3	2.9	-	3.4	0.6	1.7	2.2
平成17年度	1,534	53.4	42.6	27.4	11.3	8.7	25.2	5.3	6.4	2.4	-	2.4	0.7	1.0	0.3

(注1) 平成27年度調査以前では、厚木市に「ずっと住み続けたい」または「できれば住み続けたい」と答えた人に対して質問していたため、平成27年度以前の調査結果は参考に掲載する。

(注2) 平成23年度調査以降では、「子育て環境が充実している」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「自然環境が良い」（31.0％）が男性（28.0％）より3.0ポイント高くなっている。一方、男性では「通勤・通学に便利である」（6.5％）が女性（2.5％）より4.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、60～69歳と80歳以上では「自分の家や土地がある」が5割台と高くなっている。20～29歳では「交通の便が良い」（30.7％）と「生まれ育ったところである」（30.7％）が約3割と高くなっている。

居住年数別で見ると、20年以上（移り住んで以来）では「自分の家や土地がある」（48.9％）が高くなっている。10～19年（生まれてからずっと）では「自然環境が良い」（43.5％）が4割半ば近くと高くなっている。20年以上（生まれてからずっと）では「生まれ育ったところである」（35.8％）が3割半ばと高くなっている。

表1-2-2 住み続けたい理由—性別、年齢別、居住年数別

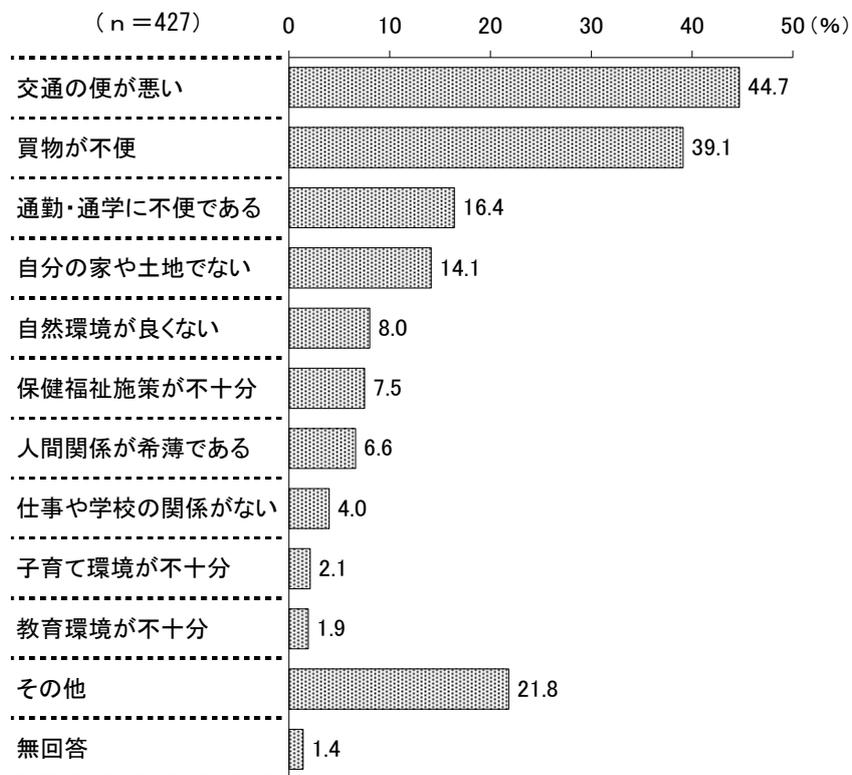
(%)

		n	自分の家や土地がある	住み慣れて愛着がある	自然環境が良い	交通の便が良い	買物が便利である	生まれ育ったところである	人間関係が良い	仕事や学校の関係がある	通勤・通学に便利である	子育て環境が充実している	保健福祉施策が充実している	教育環境が良い	その他	無回答
全 体		1,793	45.2	32.3	29.7	18.5	11.7	11.5	7.3	6.4	4.4	4.0	3.1	1.1	2.3	0.4
性別	男 性	820	44.3	31.1	28.0	19.4	11.2	12.8	5.6	7.1	6.5	2.7	2.9	1.0	2.6	0.7
	女 性	948	46.2	33.5	31.0	17.5	12.2	10.3	8.5	5.8	2.5	5.3	3.2	1.2	2.1	0.2
年 齢 別	20 歳 未 満	13	30.8	53.8	38.5	7.7	-	23.1	-	-	-	-	7.7	-	7.7	-
	20 ～ 29 歳	75	12.0	37.3	16.0	30.7	14.7	30.7	2.7	10.7	10.7	8.0	1.3	1.3	-	-
	30 ～ 39 歳	165	35.8	19.4	18.8	15.8	12.1	21.8	6.1	14.5	12.1	18.2	0.6	5.5	1.8	-
	40 ～ 49 歳	259	38.6	32.8	25.5	17.0	10.4	10.4	4.6	15.1	8.5	10.8	0.8	2.3	1.5	1.2
	50 ～ 59 歳	235	46.8	31.9	26.4	18.3	11.9	9.4	8.9	10.6	8.1	2.1	2.1	0.9	2.6	0.4
	60 ～ 69 歳	417	53.2	36.2	34.1	17.7	11.3	11.0	6.5	3.1	1.0	0.2	1.9	-	2.4	-
	70 ～ 79 歳	434	46.3	36.6	35.3	18.7	12.2	6.2	8.3	0.9	0.7	0.5	5.5	0.2	2.3	0.7
80 歳 以 上	179	54.7	21.8	31.3	20.1	12.8	11.2	11.7	-	0.6	-	6.7	-	3.9	0.6	
居 住 年 数 別	20年以上(生まれてからずっと)	506	47.4	33.4	23.1	13.8	7.7	35.8	4.2	4.9	2.2	2.4	1.6	0.4	1.0	0.6
	20年以上(移り住んで以来)	832	48.9	38.9	32.5	20.3	12.1	1.1	8.8	4.3	2.8	1.0	3.6	0.2	2.5	0.5
	10～19年(生まれてからずっと)	23	39.1	26.1	43.5	4.3	17.4	13.0	13.0	-	-	13.0	4.3	-	4.3	-
	10～19年(移り住んで以来)	202	37.1	25.2	32.2	22.8	19.3	1.5	5.4	12.9	8.4	11.4	4.0	2.5	2.5	-
	5 ～ 9 年	108	35.2	15.7	30.6	17.6	10.2	2.8	13.9	12.0	8.3	13.0	4.6	5.6	3.7	-
	3 ～ 4 年	68	33.8	10.3	30.9	22.1	11.8	1.5	4.4	13.2	17.6	14.7	1.5	2.9	5.9	-
	2 年 以 下	34	32.4	2.9	29.4	20.6	17.6	8.8	5.9	11.8	14.7	5.9	2.9	5.9	2.9	-

(3) 他地区・市外に転出したい理由 (A・B:問3)

問. 「他の地区または市外に移りたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。
(2つまで選んでください)

図1-3-1 他地区・市外に転出したい理由



【全体】

「市内の他の地区に移りたい」または「市外に移りたい」と答えた427人に、他地区・市外に転出したい理由について聞いたところ、「交通の便が悪い」(44.7%)が4割半ばで最も高く、次いで「買物が不便」(39.1%)、「通勤・通学に不便である」(16.4%)、「自分の家や土地でない」(14.1%)、「自然環境が良くない」(8.0%)となっている。

【経年変化】

平成27年度以前の調査では「厚木市外に転出したい理由」について聴いており、回答の対象者が異なっているため、参考に記載する。

表1-3-1 他地区・市外に転出したい理由—経年変化

(%)

調査年	n	交通の便が悪い	買物が不便	通勤・通学に不便である	自分の家や土地でない	自然環境が良くない	保健福祉施策が不十分	人間関係が希薄である	仕事や学校の関係がない	子育て環境が不十分	教育環境が不十分	その他	無回答
平成29年度	427	44.7	39.1	16.4	14.1	8.0	7.5	6.6	4.0	2.1	1.9	21.8	1.4
平成27年度	217	39.2	31.3	20.3	11.1	8.3	6.5	12.4	6.0	6.5	4.6	24.4	0.5
平成25年度	227	38.3	31.3	19.4	14.1	3.5	5.3	11.9	4.0	1.3	3.1	30.8	0.0
平成23年度	177	41.2	29.4	22.0	14.1	8.5	6.2	8.5	5.6	7.9	6.2	22.6	2.8
平成21年度	329	45.0	33.1	19.5	10.6	12.2	8.5	10.3	5.2	-	10.6	18.5	0.3
平成19年度	331	42.3	25.4	26.0	10.0	12.4	9.1	7.6	5.4	-	10.9	23.6	0.3
平成17年度	182	45.1	33.5	28.0	3.8	12.6	9.3	6.0	7.1	-	8.8	23.6	0.0

(注1) 平成27年度調査以前では、厚木市から「できれば市外に転出したい」または「すぐにでも市外に転出したい」と答えた人に対して質問していたため、平成27年度以前の調査結果は参考に掲載する。

(注2) 平成23年度調査以降では、「子育て環境が不十分」の選択肢を追加している。

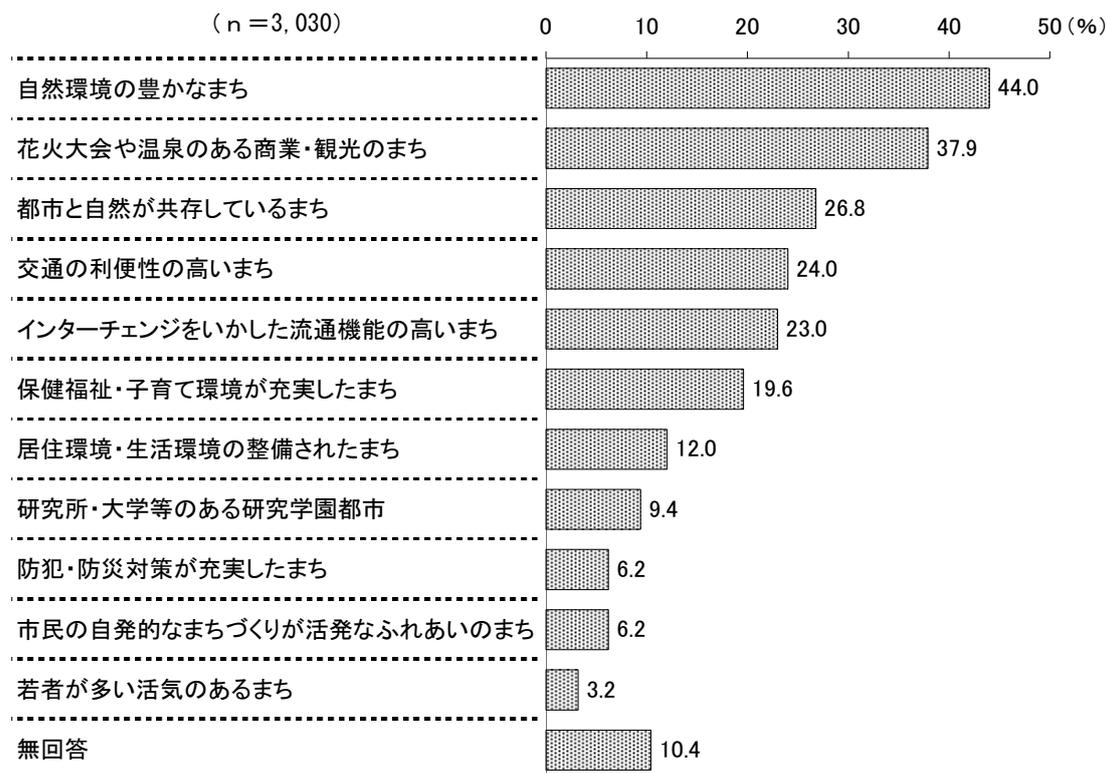
2 市の現状と将来

(1) 市の現在のイメージ (A・B：問4①)

問. 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。

(該当するものを3つまで選んでください)

図2-1-1 市の現在のイメージ



【全体】

市の現在のイメージについて聞いたところ、「自然環境の豊かなまち」(44.0%)が4割半ばで最も高く、次いで「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」(37.9%)、「都市と自然が共存しているまち」(26.8%)、「交通の利便性の高いまち」(24.0%)、「インターチェンジをいかした流通機能の高いまち」(23.0%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、一部の選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

表2-1-1 市の現在のイメージ経年変化（上位5項目）

(%)

順位	平成29年度 (n=3,030)		平成27年度 (n=2,916)		平成25年度 (n=2,554)		平成23年度 (n=1,629)		平成21年度 (n=3,218)		平成19年度 (n=3,006)		平成17年度 (n=2,010)	
1	自然環境の豊かなまち	44.0	自然環境の豊かなまち	50.9	自然環境の豊かなまち	48.7	自然環境の豊かなまち	42.4	花火大会、鮎、温泉(飯山、七沢)のまち	45.7	花火大会、鮎、温泉(飯山、七沢)のまち	46.5	花火大会、鮎、温泉(飯山、七沢)のまち	49.0
2	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	37.9	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	28.5	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	30.1	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	41.0	恵まれた自然環境をもつまち	41.1	恵まれた自然環境をもつまち	42.9	恵まれた自然環境をもつまち	43.4
3	都市と自然が共存しているまち	26.8	都市と自然が共存しているまち	28.2	都市と自然が共存しているまち	24.7	都市と自然が共存するまち	24.7	都市と自然が共存するまち	22.6	都市と自然が共存するまち	23.3	都市と自然が共存するまち	25.7
4	交通の利便性の高いまち	24.0	交通の利便性の高いまち	24.7	交通の利便性の高いまち	23.6	交通の利便性の高いまち	19.3	交通の利便性の高いまち	16.4	交通の利便性の高いまち	17.6	交通の利便性の高いまち	20.6
5	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	23.0	保健福祉・子育て環境が充実したまち	20.3	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	18.4	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	17.0	ハイテク・研究開発型企业の集まるまち	6.7	ハイテク・研究開発型企业の集まるまち	6.2	自治活動の活発なふれあいのまち	5.8

(注1)「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」は、平成27年度調査～平成23年度調査では「花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち」としていた。

(注2)「市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち」は、平成27年度調査～平成23年度調査では「自治活動の活発なふれあいのまち」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「インターチェンジをいかした流通機能の高いまち」（29.4％）が女性（17.8％）より11.6ポイント、「都市と自然が共存しているまち」（30.1％）が女性（24.0％）より6.1ポイント、「交通の利便性の高いまち」（27.4％）が女性（21.6％）より5.8ポイント高くなっている。一方、女性では「保健福祉・子育て環境が充実したまち」（23.9％）が男性（14.6％）より9.3ポイント、「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」（40.9％）が男性（34.2％）より6.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳未満では「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」（57.4％）が5割半ばを超え高くなっている。20歳未満と30～39歳では「保健福祉・子育て環境が充実したまち」が3割台と高くなっている。

表2-1-2 市の現在のイメージ性別、年齢別

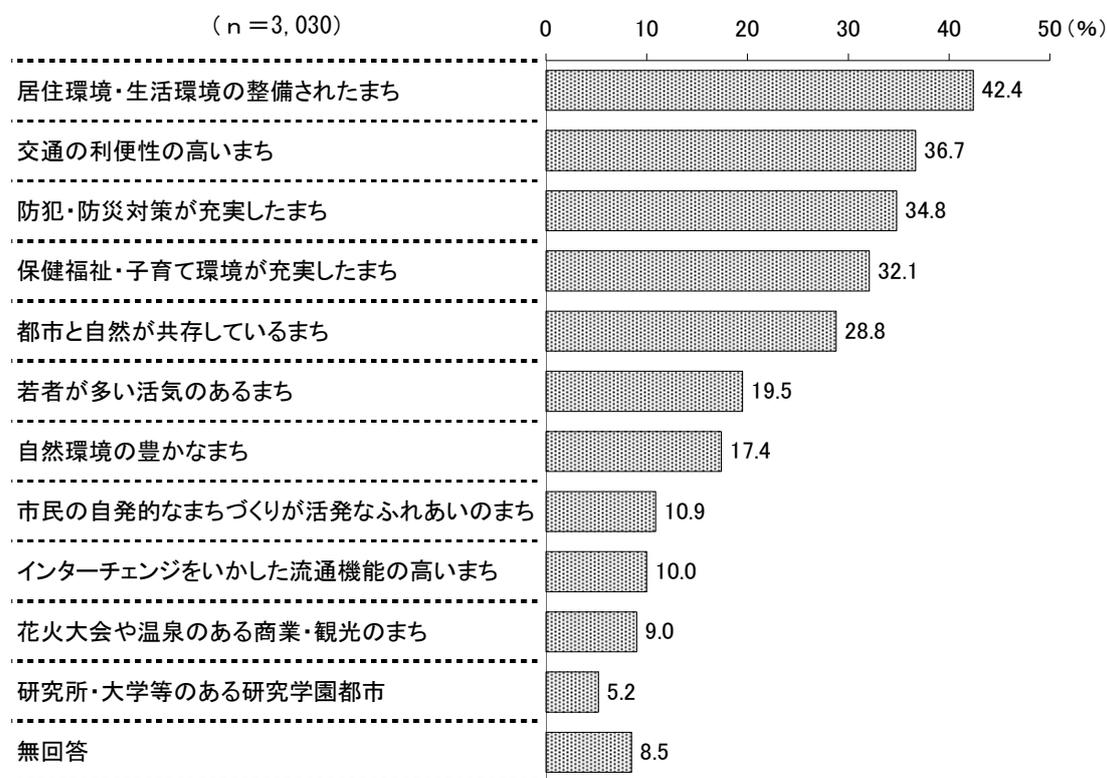
		n	自然環境の豊かなまち	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	都市と自然が共存しているまち	交通の利便性の高いまち	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	研究所・大学等のある研究学園都市	防犯・防災対策が充実したまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	若者が多い活気のあるまち	無回答
全 体		3,030	44.0	37.9	26.8	24.0	23.0	19.6	12.0	9.4	6.2	6.2	3.2	10.4
性別	男 性	1,334	42.5	34.2	30.1	27.4	29.4	14.6	13.7	10.8	6.6	5.8	4.0	9.4
	女 性	1,645	45.5	40.9	24.0	21.6	17.8	23.9	10.7	8.2	6.0	6.6	2.6	11.1
年 齢 別	20歳未満	47	34.0	57.4	23.4	21.3	8.5	34.0	19.1	12.8	4.3	17.0	10.6	4.3
	20～29歳	207	35.7	45.4	29.5	27.1	22.2	18.8	11.1	7.2	3.4	5.3	7.7	6.8
	30～39歳	366	39.9	39.6	27.3	23.8	23.2	32.8	11.7	7.1	3.8	7.7	4.4	6.0
	40～49歳	496	44.2	45.0	26.8	22.6	24.0	23.0	9.7	9.5	5.6	4.8	3.6	7.7
	50～59歳	451	49.2	44.6	25.9	22.4	29.0	17.3	9.5	8.9	4.7	5.8	1.8	6.7
	60～69歳	646	45.8	32.5	26.5	24.1	25.5	15.3	12.8	9.0	7.0	6.3	1.7	13.0
	70～79歳	578	45.3	31.8	26.8	25.4	19.2	16.6	14.5	13.1	8.5	5.4	2.2	14.4
	80歳以上	214	42.1	25.7	27.1	26.2	14.0	12.6	13.6	6.1	9.8	8.4	4.7	18.2

(2) 市の将来のイメージ (A・B:問4②)

問. 厚木市が将来どのようなまちになってほしいと思いますか。

(該当するものを3つまで選んでください)

図2-2-1 市の将来のイメージ



【全体】

市の将来のイメージについて聞いたところ、「居住環境・生活環境の整備されたまち」(42.4%)が4割を超えて最も高く、次いで「交通の利便性の高いまち」(36.7%)、「防犯・防災対策が充実したまち」(34.8%)、「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(32.1%)、「都市と自然が共存しているまち」(28.8%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、一部の選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

表2-2-1 市の将来のイメージ経年変化（上位5項目）

(%)

順位	平成29年度 (n=3,030)	平成27年度 (n=2,916)	平成25年度 (n=2,554)	平成23年度 (n=1,629)	平成21年度 (n=3,218)	平成19年度 (n=3,006)	平成17年度 (n=2,010)
1	居住環境・生活環境の整備されたまち 42.4	居住環境・生活環境の整備されたまち 39.6	居住環境・生活環境の整備されたまち 39.3	都市と自然が共存しているまち 39.0	自然環境の豊かな都市 56.3	自然環境の豊かな都市 61.3	自然環境の豊かな都市 75.3
2	交通の利便性の高いまち 36.7	交通の利便性の高いまち 36.5	交通の利便性の高いまち 33.6	居住環境・生活環境の整備されたまち 35.4	居住環境・生活環境の整備されたまち 49.7	居住環境・生活環境の整備されたまち 52.3	保健福祉都市 35.5
3	防犯・防災対策が充実したまち 34.8	保健福祉・子育て環境が充実したまち 36.4	保健福祉・子育て環境が充実したまち 32.5	交通の利便性の高いまち 34.5	防犯・防災対策が充実したまち 47.3	防犯・防災対策が充実したまち 47.3	心のふれあいのある交流都市 30.4
4	保健福祉・子育て環境が充実したまち 32.1	都市と自然が共存しているまち 33.0	都市と自然が共存しているまち 31.9	防犯・防災対策が充実したまち 32.5	保健福祉都市 23.2	保健福祉都市 26.4	居住環境・生活環境の整備されたまち 29.9
5	都市と自然が共存しているまち 28.8	防犯・防災対策が充実したまち 32.1	防犯・防災対策が充実したまち 30.5	保健福祉・子育て環境が充実したまち 31.4	若者が多い活気のあるまち 20.4	若者が多い活気のあるまち 17.7	若者が多い活気のあるまち 20.8

(注1)「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」は、平成27年度調査～平成23年度調査では「花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち」としていた。

(注2)「市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち」は、平成27年度調査～平成23年度調査では「自治活動の活発なふれあいのまち」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(35.0%)が男性(28.6%)より6.4ポイント高くなっている。一方、男性では「都市と自然が共存しているまち」(30.7%)が女性(27.6%)より3.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、50～59歳では「居住環境・生活環境の整備されたまち」(48.1%)が5割近くと高くなっている。20歳未満では「交通の利便性の高いまち」(51.1%)が5割を超えて高くなっている。30～39歳では「防犯・防災対策が充実したまち」(40.2%)と「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(39.1%)が約4割と高くなっている。

表2-2-2 市の将来のイメージ性別、年齢別

(%)

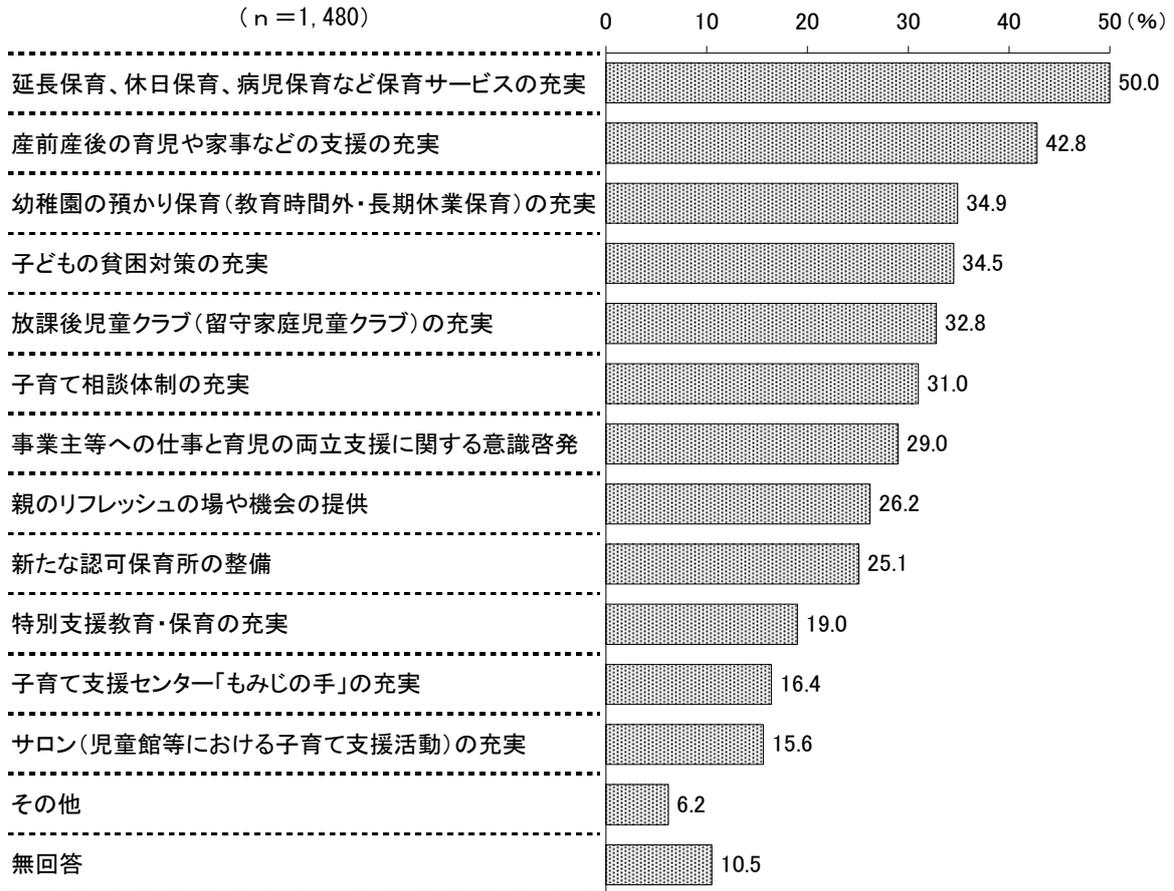
		n	居住環境・生活環境の整備されたまち	交通の利便性の高いまち	防犯・防災対策が充実したまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	都市と自然が共存しているまち	若者が多い活気のあるまち	自然環境の豊かなまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	インターネットのエンジンをいかけたまち	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	研究所・大学等のある研究学園都市	無回答
全体		3,030	42.4	36.7	34.8	32.1	28.8	19.5	17.4	10.9	10.0	9.0	5.2	8.5
性別	男性	1,334	43.7	36.4	34.5	28.6	30.7	19.4	18.9	10.4	11.2	9.1	6.7	7.6
	女性	1,645	41.5	36.8	35.0	35.0	27.6	19.5	16.3	11.1	9.1	8.8	4.1	9.1
年齢別	20歳未満	47	42.6	51.1	23.4	29.8	27.7	25.5	14.9	19.1	8.5	25.5	2.1	2.1
	20～29歳	207	38.2	44.9	33.3	36.2	28.5	16.9	13.0	6.3	11.1	18.4	1.9	7.7
	30～39歳	366	41.0	40.7	40.2	39.1	33.3	14.5	13.7	8.5	9.3	15.8	5.7	3.6
	40～49歳	496	45.6	36.1	36.3	31.0	30.2	17.3	12.3	11.7	11.3	10.5	4.8	7.5
	50～59歳	451	48.1	38.1	33.3	33.0	29.3	21.3	14.4	11.8	12.2	10.0	4.0	6.9
	60～69歳	646	42.0	34.7	33.6	35.4	29.6	18.1	20.1	11.0	10.8	3.6	5.7	9.9
	70～79歳	578	41.0	33.4	36.5	26.0	26.0	24.9	22.5	11.6	7.3	5.5	7.3	10.0
	80歳以上	214	33.6	31.8	29.9	24.8	23.8	18.7	24.8	10.3	7.5	5.1	4.7	16.4

3 子育て・福祉・健康

(1) 子どもを産み育てられる環境を整える取組（A：問5）

問. 安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、どのような取組が必要であると思いますか。（5つまで選んでください）

図3-1-1 子どもを産み育てられる環境を整える取組



【全体】

子どもを産み育てられる環境を整える取組について聞いたところ、「延長保育、休日保育、病児保育など保育サービスの充実」(50.0%)が5割で最も高く、次いで「産前産後の育児や家事などの支援の充実」(42.8%)、「幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実」(34.9%)、「子どもの貧困対策の充実」(34.5%)、「放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実」(32.8%)、「子育て相談体制の充実」(31.0%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、一部の選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

表3-1-1 子どもを産み育てられる環境を整える取組—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,471)	平成25年度 (n=1,270)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)	平成19年度 (n=1,500)
1	延長保育、休日保育、病児保育など保育サービスの充実 50.0	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 54.4	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 56.7	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 67.4	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 64.6	小児医療の充実 38.7
2	産前産後の育児や家事などの支援の充実 42.8	子ども医療費助成制度の充実 49.0	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 49.9	小児医療(子ども医療費の助成等)の充実 49.0	小児医療体制(小児救急医療などの整備)の充実 59.6	子どもが安心して外出できる環境の整備 37.7
3	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 34.9	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 36.6	子ども医療費助成制度の充実 49.7	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 42.2	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発 41.0	保育サービスの充実 35.1
4	子どもの貧困対策の充実 34.5	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 36.4	産前産後における育児や家事などの支援の充実 44.6	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発 40.0	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 35.6	安心・安全のまちづくりの推進 33.3
5	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 32.8	産前産後における育児や家事などの支援の充実 34.7	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 37.8	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 32.9	健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の確保 29.7	職業生活と家庭生活の両立の支援 27.4

(注1)「延長保育、休日保育、病児保育など保育サービスの充実」は、平成27年度調査以前では「延長保育、休日保育など、保育サービスの充実」としていた。

(注2)「特別支援教育・保育の充実」は、平成27年度調査では「特別支援教育の充実」としていた。また、平成25年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注3)平成19年度調査では、選択可能数を3つまでとしていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「放課後児童クラブ（留守家庭児童クラブ）の充実」（37.0％）が男性（28.2％）より8.8ポイント、「延長保育、休日保育、病児保育など保育サービスの充実」（51.9％）が男性（47.8％）より4.1ポイント高くなっている。一方、男性では「新たな認可保育所の整備」（27.5％）が女性（23.3％）より4.2ポイント、「産前産後の育児や家事などの支援の充実」（45.1％）が女性（41.6％）より3.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳未満～29歳では「産前産後の育児や家事などの支援の充実」が6割台と高くなっている。20～39歳では「幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実」が4割半ばと高くなっている。20歳未満では「子どもの貧困対策の充実」（54.5％）が5割半ば、「事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発」（40.9％）が約4割と高くなっている。

表3-1-2 子どもを産み育てられる環境を整える取組—性別、年齢別

(%)

		n	延長保育、休日保育、病児保育など保育サービスの充実	産前産後の育児や家事などの支援の充実	幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実	子どもの貧困対策の充実	放課後児童クラブ（留守家庭児童クラブ）の充実	子育て相談体制の充実	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	親のリフレッシュの場や機会の提供	新たな認可保育所の整備	特別支援教育・保育の充実	子育て支援センター「もみじの手」の充実	サロン（児童館等における子育て支援活動）の充実	その他	無回答
全 体		1,480	50.0	42.8	34.9	34.5	32.8	31.0	29.0	26.2	25.1	19.0	16.4	15.6	6.2	10.5
性別	男 性	650	47.8	45.1	36.6	35.7	28.2	31.7	28.9	26.5	27.5	19.4	16.2	15.5	7.1	9.7
	女 性	806	51.9	41.6	33.9	33.3	37.0	30.1	28.9	25.9	23.3	18.1	16.1	15.5	5.3	11.2
年 齢 別	20歳未満	22	50.0	63.6	31.8	54.5	27.3	27.3	40.9	36.4	36.4	27.3	-	13.6	-	-
	20～29歳	99	53.5	60.6	45.5	23.2	25.3	23.2	20.2	30.3	36.4	22.2	10.1	14.1	7.1	2.0
	30～39歳	186	55.9	52.7	45.2	31.2	37.1	30.6	29.6	38.2	38.7	18.3	13.4	15.6	7.5	1.6
	40～49歳	233	55.4	39.9	37.8	33.5	31.8	30.9	30.5	27.5	24.5	20.2	7.7	12.0	13.3	6.9
	50～59歳	217	52.1	43.8	39.6	40.1	30.4	31.3	30.9	25.3	25.8	17.5	17.5	14.3	5.5	6.0
	60～69歳	316	55.1	44.6	34.5	37.7	37.3	34.5	29.4	20.9	22.2	19.9	19.0	16.1	4.7	9.8
	70～79歳	295	41.4	35.3	24.7	34.6	35.9	31.2	28.5	24.7	18.6	15.3	21.0	19.3	2.7	19.7
	80歳以上	102	29.4	26.5	22.5	27.5	20.6	25.5	26.5	16.7	15.7	19.6	22.5	14.7	3.9	31.4

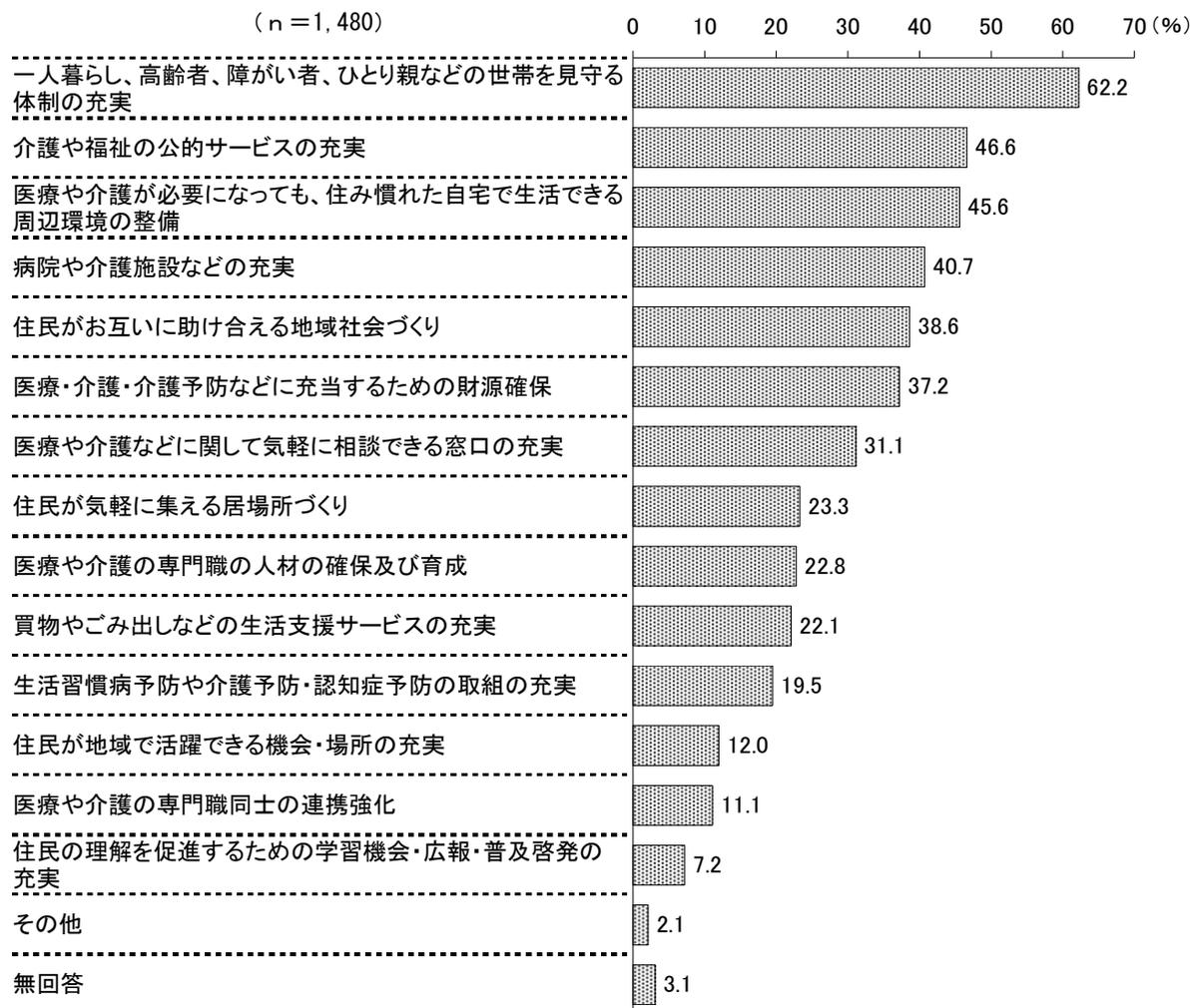
(2) 地域包括ケア社会の実現への取組 (A:問6)

問. 誰もが住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる社会 (地域包括ケア社会) の実現について、どのような取組が必要であると思いますか。

(5つまで選んでください)

図3-2-1 地域包括ケア社会の実現への取組

(n=1,480)



【全体】

地域包括ケア社会の実現への取組について聞いたところ、「一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実」(62.2%)が6割を超えて最も高く、次いで「介護や福祉の公的サービスの充実」(46.6%)、「医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備」(45.6%)、「病院や介護施設などの充実」(40.7%)、「住民がお互いに助け合える地域社会づくり」(38.6%)となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「医療や介護などに関して気軽に相談できる窓口の充実」(33.3%)が男性(27.8%)より5.5ポイント、「一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実」(63.8%)が男性(59.8%)より4.0ポイント高くなっている。一方、男性では「住民が地域で活躍できる機会・場所の充実」(14.6%)が女性(10.0%)より4.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳未満では「病院や介護施設などの充実」(63.6%)が6割半ば近くで、「住民がお互いに助け合える地域社会づくり」(50.0%)が5割と高くなっている。70～79歳では「住民が気軽に集える居場所づくり」(33.9%)が3割半ば近くと高くなっている。20～29歳では「買物やごみ出しなどの生活支援サービスの充実」(33.3%)が3割半ば近く、「医療や介護の専門職同士の連携強化」(25.3%)が2割半ばと高くなっている。

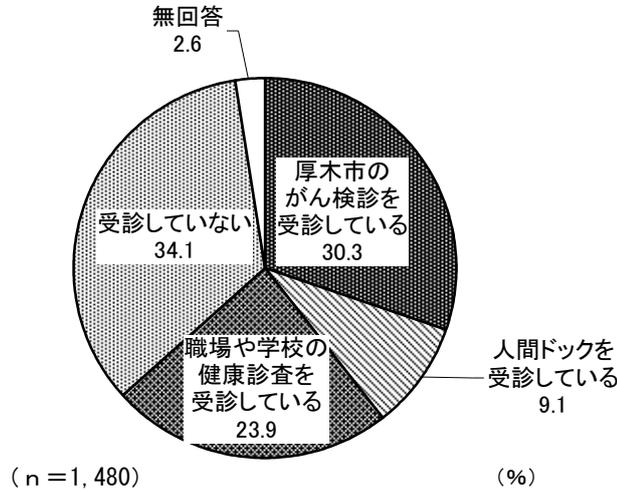
表3-2-1 地域包括ケア社会の実現への取組—性別、年齢別

		n	一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実	介護や福祉の公的サービスの充実	医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備	病院や介護施設などの充実	住民がお互いに助け合える地域社会づくり	医療・介護・介護予防などに充当するための財源確保	医療や介護などに関して気軽に相談できる窓口の充実	住民が気軽に集える居場所づくり	医療や介護の専門職の人材の確保及び育成	買物やごみ出しなどの生活支援サービスの充実	生活習慣病予防や介護予防・認知症予防の取組の充実	住民が地域で活躍できる機会・場所の充実	医療や介護の専門職同士の連携強化	住民の理解を促進するための学習機会・広報・普及啓発の充実	その他	無回答
全体		1,480	62.2	46.6	45.6	40.7	38.6	37.2	31.1	23.3	22.8	22.1	19.5	12.0	11.1	7.2	2.1	3.1
性別	男性	650	59.8	46.6	45.7	40.5	38.6	37.2	27.8	23.8	23.7	22.3	20.0	14.6	10.5	8.3	2.8	2.8
	女性	806	63.8	46.5	45.7	40.6	38.8	37.6	33.3	23.1	22.2	21.7	19.2	10.0	11.3	6.1	1.4	3.5
年齢別	20歳未満	22	45.5	50.0	40.9	63.6	50.0	36.4	18.2	18.2	27.3	22.7	13.6	13.6	13.6	9.1	-	-
	20～29歳	99	55.6	30.3	42.4	30.3	38.4	32.3	24.2	20.2	27.3	33.3	18.2	7.1	25.3	8.1	2.0	1.0
	30～39歳	186	57.5	43.0	51.1	39.8	37.6	42.5	26.3	22.0	28.5	23.7	16.7	12.9	9.7	8.1	2.7	1.1
	40～49歳	233	61.8	43.8	45.9	43.3	34.8	38.2	29.2	16.7	18.9	27.5	15.9	15.0	13.3	6.9	4.7	2.1
	50～59歳	217	68.2	48.8	45.2	40.1	35.9	40.6	30.9	19.4	26.3	21.7	17.5	18.0	12.0	8.8	1.8	1.8
	60～69歳	316	62.7	50.6	45.3	42.1	34.8	35.1	35.8	25.6	24.7	18.4	22.5	11.4	6.0	7.6	1.6	3.5
	70～79歳	295	65.8	49.2	44.7	39.0	46.1	36.6	33.6	33.9	18.3	19.3	23.4	8.8	9.5	5.4	1.0	4.4
	80歳以上	102	55.9	50.0	42.2	43.1	43.1	33.3	32.4	16.7	16.7	16.7	20.6	5.9	12.7	4.9	1.0	9.8

(3) がん検診の受診状況 (A: 問7)

問. がん検診を受診していますか。(主なものを1つだけ選んでください)

図3-3-1 がん検診の受診状況



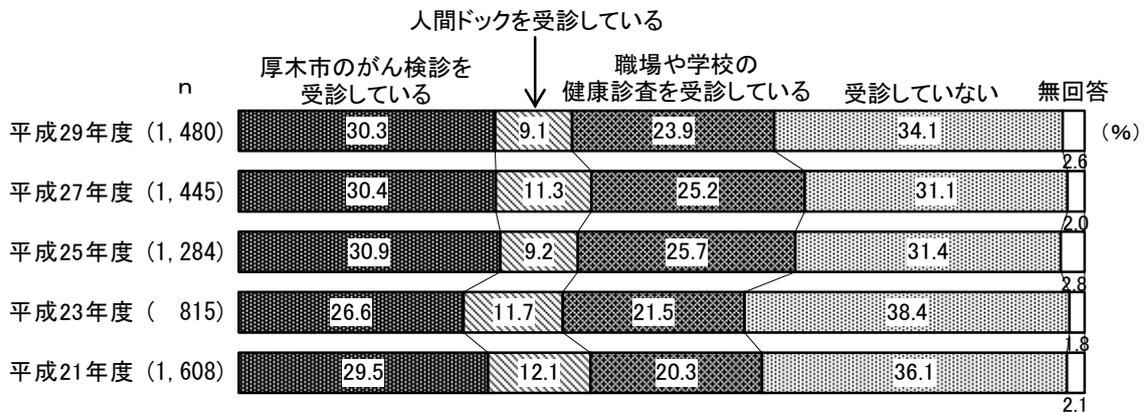
【全体】

がん検診の受診状況について聞いたところ、「厚木市のがん検診を受診している」(30.3%)が約3割、「人間ドックを受診している」(9.1%)が約1割、「職場や学校の健康診査を受診している」(23.9%)が2割半ば近く、この3つを合わせた『受診している』(63.3%)は6割半ば近くとなっている。一方、「受診していない」(34.1%)は3割半ばとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「受診していない」(34.1%)は平成27年度調査(31.1%)より3.0ポイント増加している。

図3-3-2 がん検診の受診状況—経年変化

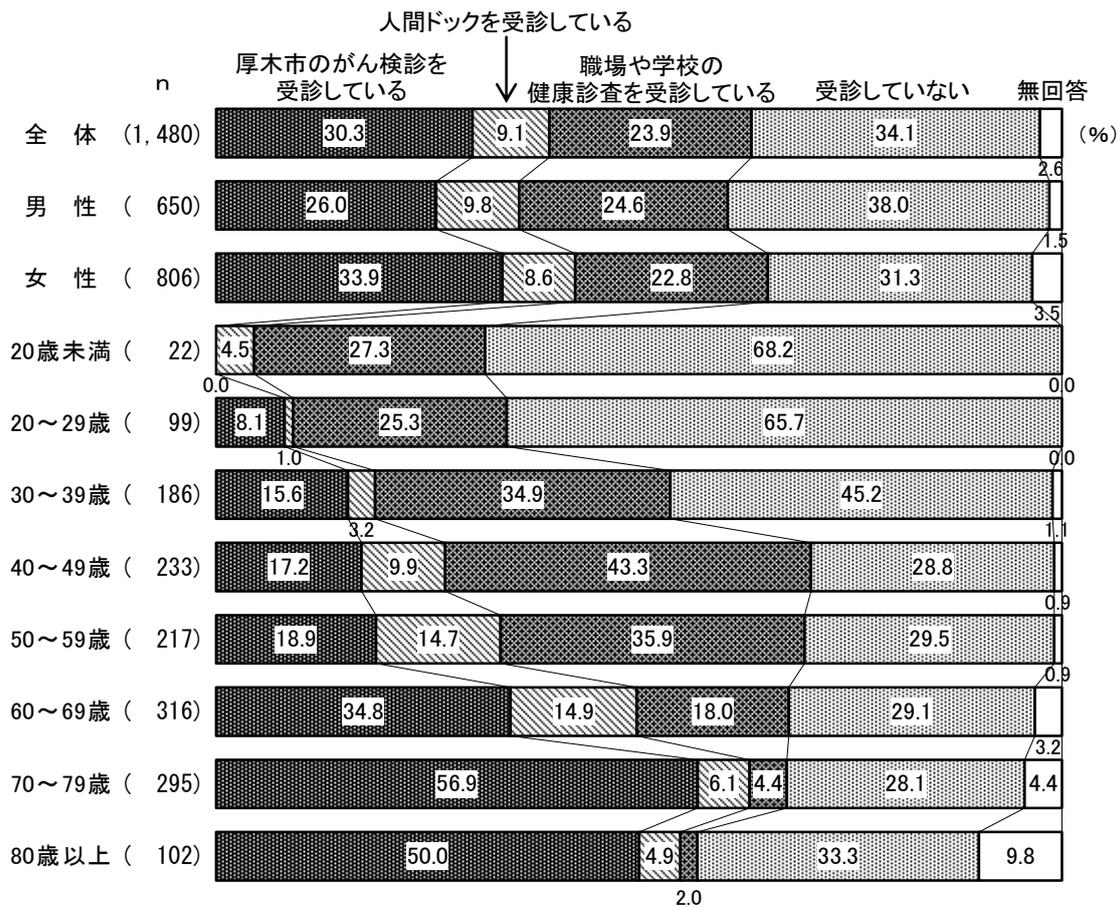


【属性別】

性別で見ると、女性では『受診している』（65.3%）が男性（60.4%）より4.9ポイント、「厚木市のがん検診を受診している」（33.9%）が男性（26.0%）より7.9ポイント高くなっている。一方、男性では「受診していない」（38.0%）が女性（31.3%）より6.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～59歳では『受診している』が約7割、60～79歳では『受診している』が7割近くと高くなっている。70～80歳以上では「厚木市のがん検診を受診している」が5割台と高くなっている。20歳未満～29歳では「受診していない」が6割台と高くなっている。

図3-3-3 がん検診の受診状況一性別、年齢別

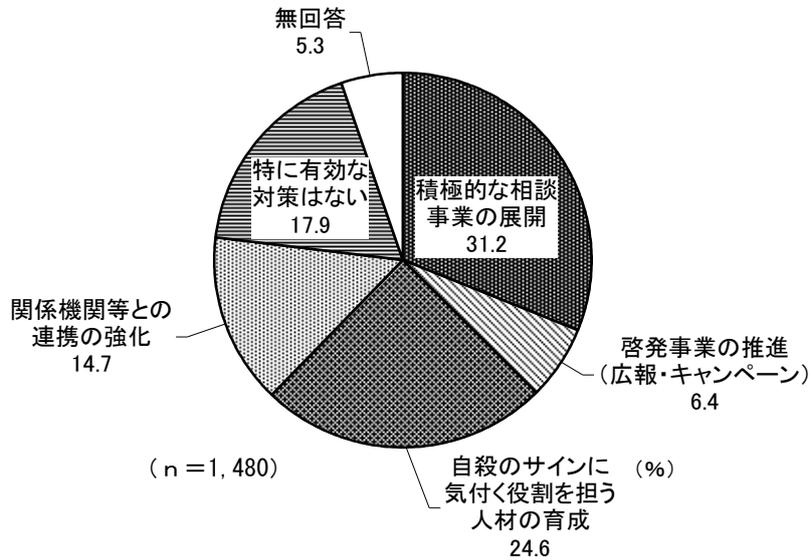


(4) 自殺予防の対策 (A:問8)

問. 自殺を予防するために、どのような対策が必要であると思いますか。

(1つだけ選んでください)

図3-4-1 自殺予防の対策



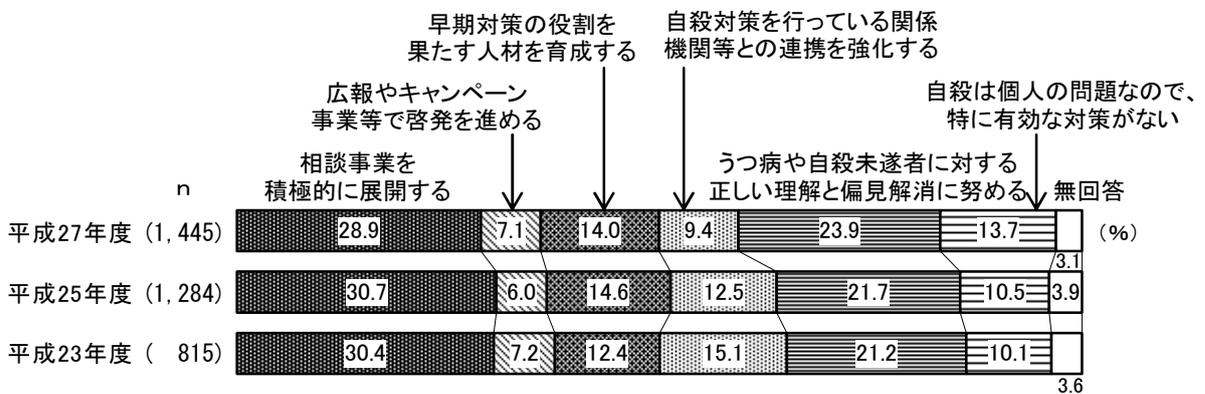
【全体】

自殺予防の対策について聞いたところ、「積極的な相談事業の展開」(31.2%)が3割を超えて最も高く、次いで「自殺のサインに気付く役割を担う人材の育成」(24.6%)、「関係機関等との連携の強化」(14.7%)、「啓発事業の推進 (広報・キャンペーン)」(6.4%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、選択肢が過去と異なっているため、平成27年度以前の調査結果を参考に記載する。

図3-4-2 自殺予防の対策—過去の調査結果

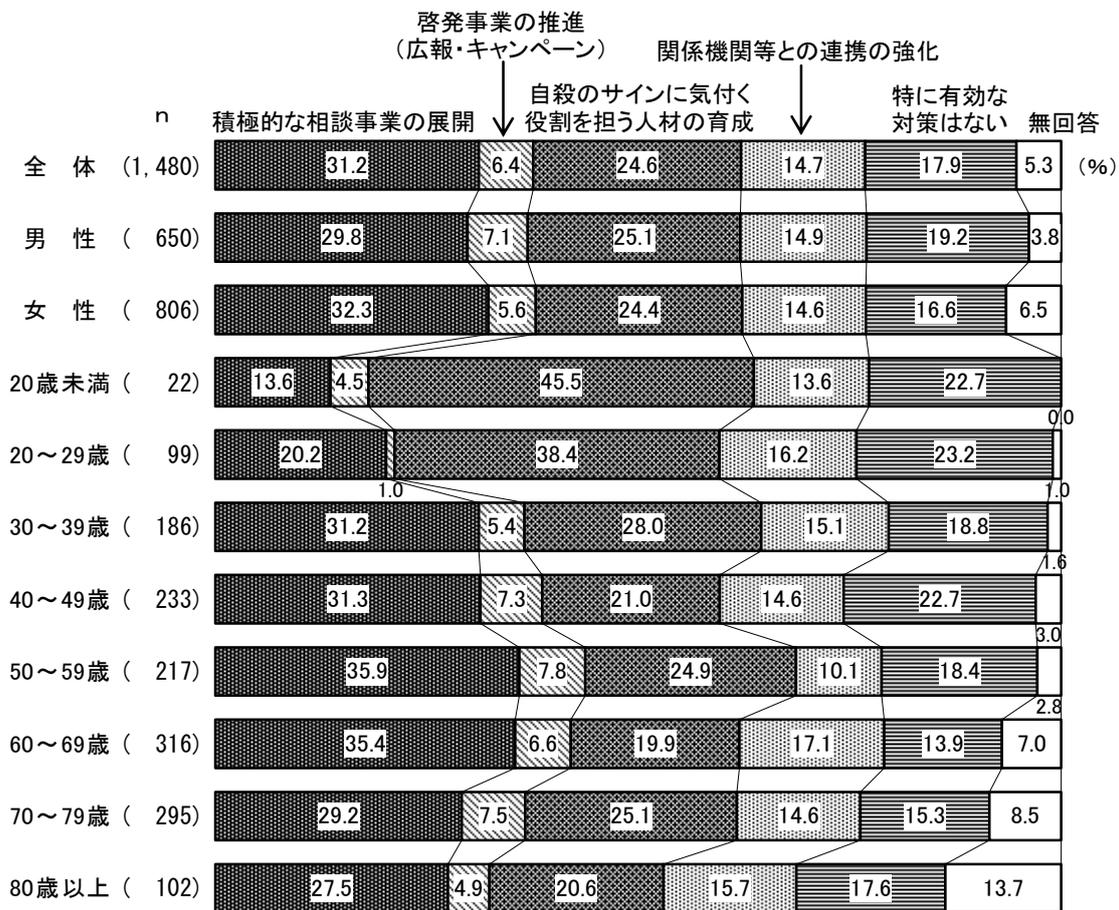


【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、50～69歳では「積極的な相談事業の展開」が3割半ばと高くなっている。「自殺のサインに気付く役割を担う人材の育成」は20歳未満（45.5%）で4割半ば、20～29歳（38.4%）で4割近くと高くなっている。

図3-4-3 自殺予防の対策—性別、年齢別

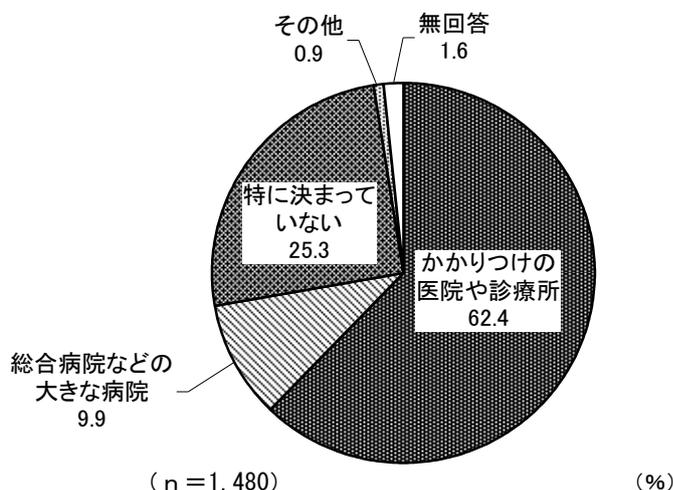


(5) かかりつけ医 (A:問9)

問. 風邪などにかかったとき、通院する医療機関は決まっていますか。

(1つだけ選んでください)

図3-5-1 かかりつけ医



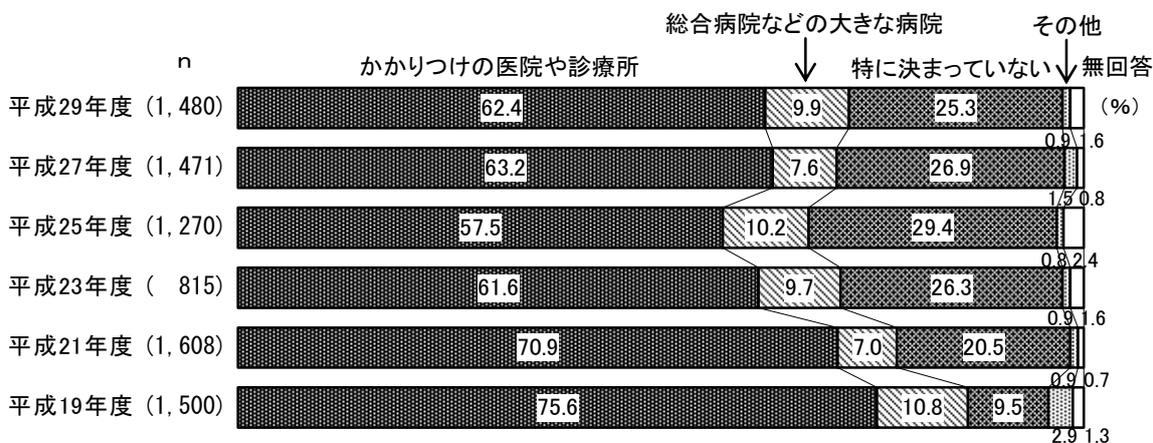
【全体】

風邪などにかかったとき、通院する医療機関について聞いたところ、「かかりつけの医院や診療所」(62.4%)が6割を超えて最も高くなっている。「総合病院などの大きな病院」(9.9%)は約1割、「特に決まっていない」(25.3%)は2割半ばとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、平成27年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図3-5-2 かかりつけ医—経年変化

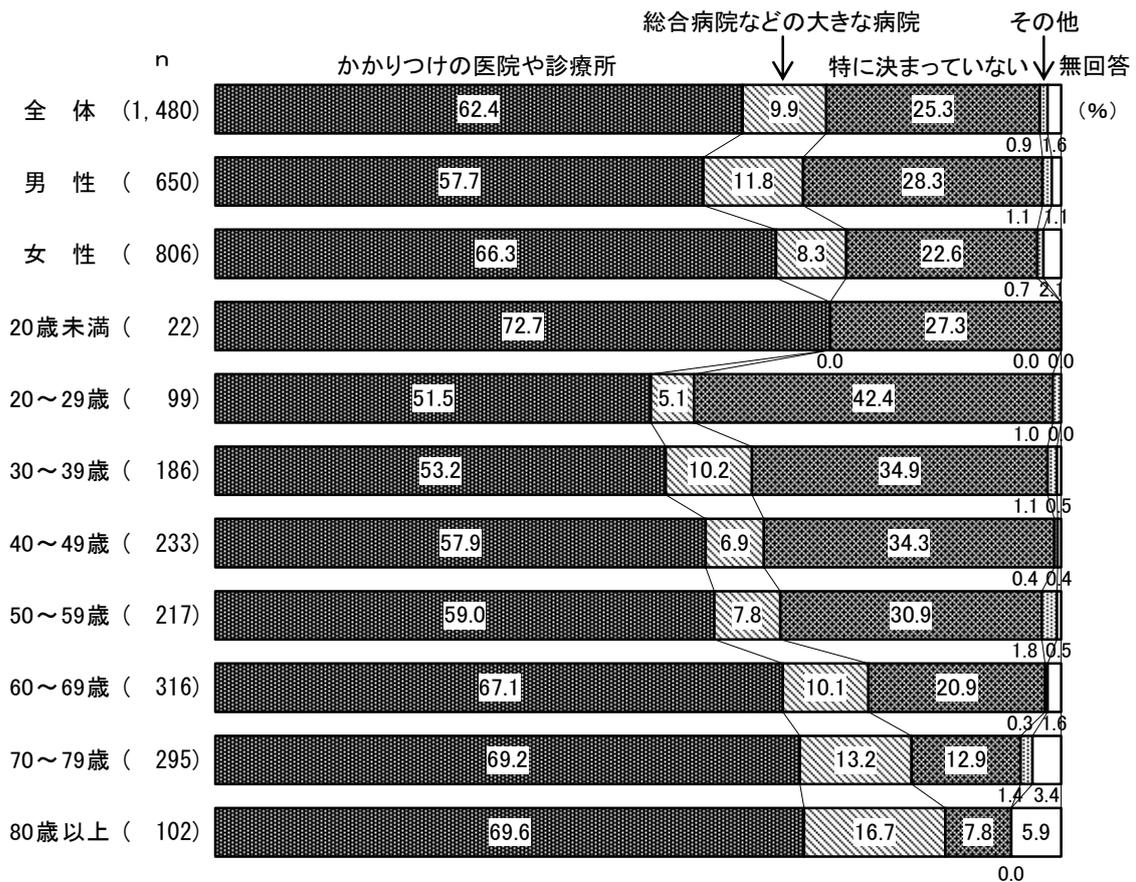


【属性別】

性別で見ると、女性では「かかりつけの医院や診療所」（66.3%）が男性（57.7%）より8.6ポイント高くなっている。一方、男性では「特に決まっていない」（28.3%）が女性（22.6%）より5.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、60～80歳以上では「かかりつけの医院や診療所」が6割台後半と高くなっている。20～29歳では「特に決まっていない」（42.4%）が4割を超えて高くなっている。

図3-5-3 かかりつけ医—性別、年齢別

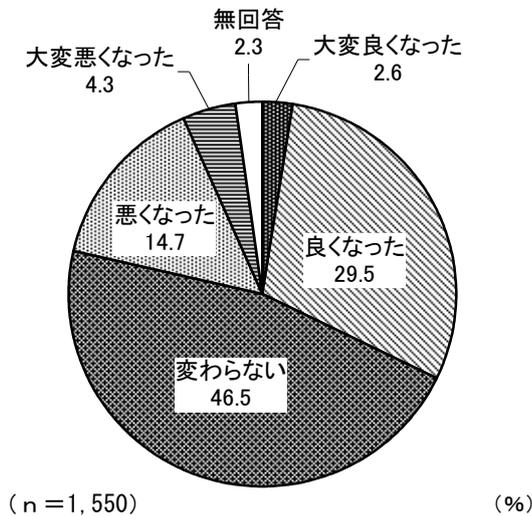


4 安全・防災

(1) 本厚木駅周辺の治安 (B:問5)

問. 現在の本厚木駅周辺の治安について、どのように感じますか。(1つだけ選んでください)

図4-1-1 本厚木駅周辺の治安



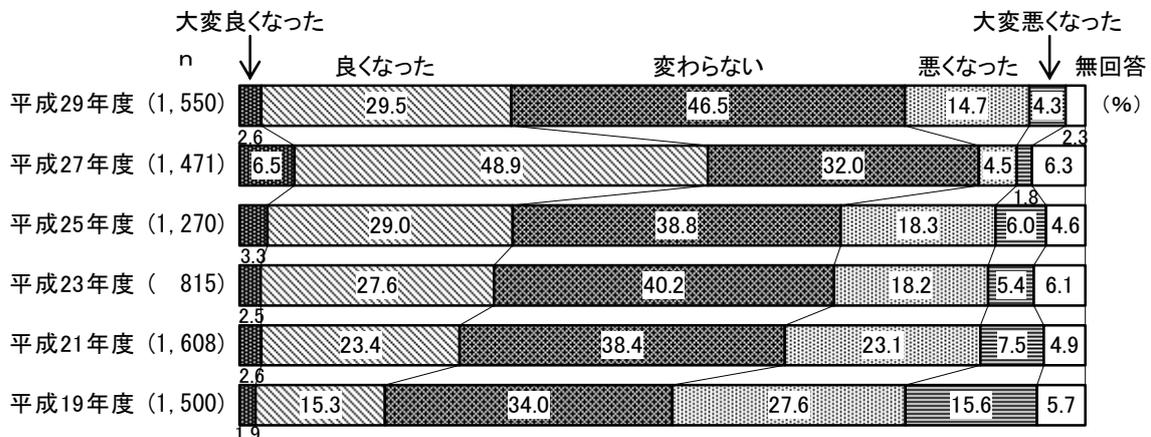
【全体】

本厚木駅周辺の治安について聞いたところ、「大変良くなった」(2.6%)と「良くなった」(29.5%)の2つを合わせた『改善した』(32.1%)が3割を超えている。「変わらない」(46.5%)は4割半ばを超え、「悪くなった」(14.7%)と「大変悪くなった」(4.3%)の2つを合わせた『悪化した』(19.0%)は約2割となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、質問文が平成27年度調査と異なっているため、参考に記載する。

図4-1-2 本厚木駅周辺の治安—経年変化



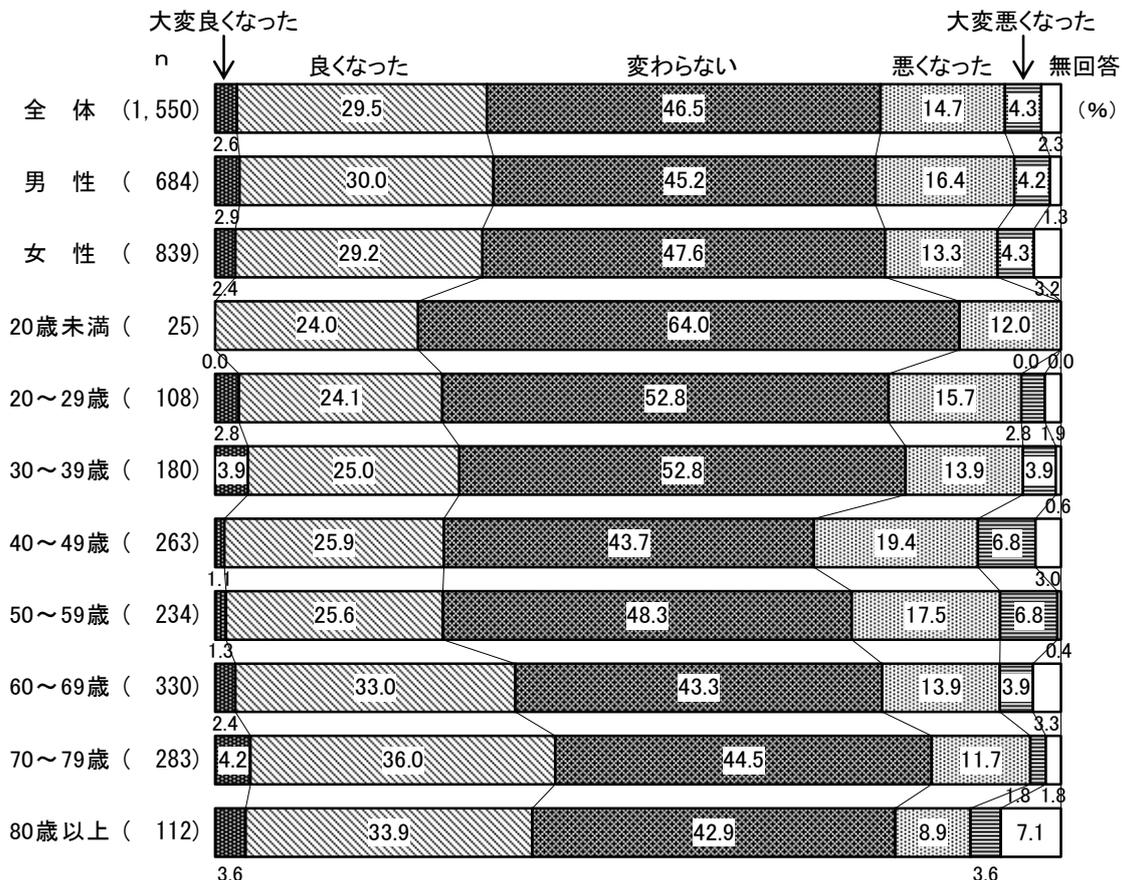
(注) 平成27年度調査では、「本厚木駅周辺の体感治安の向上を図るため客引き行為等防止条例を制定し、客引き行為等指導員による指導や防犯パトロールに努めております。現在の本厚木駅周辺の治安について、どう思いますか。」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、70～80歳以上では『改善した』が4割前後と高くなっている。20歳未満では「変わらない」(64.0%)が6割半ばと高くなっている。40～59歳では『悪化した』が2割台と高くなっている。

図4-1-3 本厚木駅周辺の治安—性別、年齢別

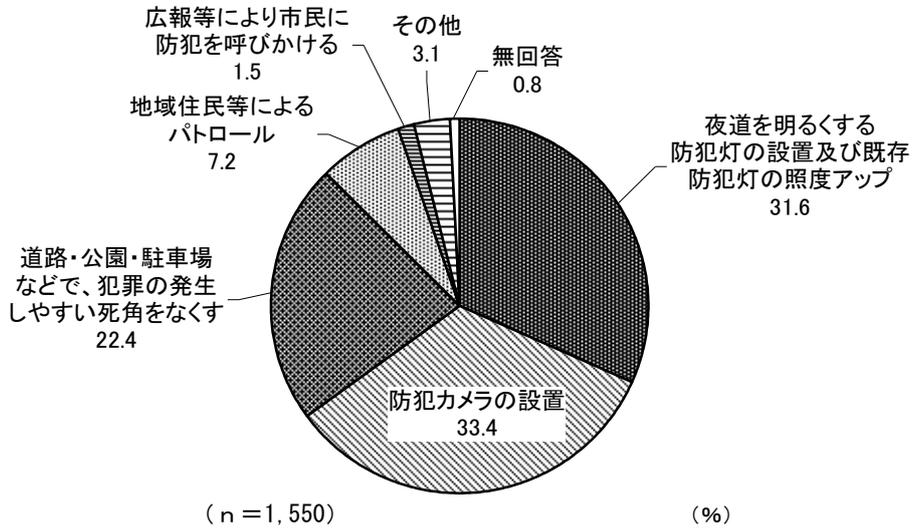


(2) 防犯対策に効果的な取組 (B:問6)

問. 防犯対策について、どのような取組が効果的だと思いますか。

(1つだけ選んでください)

図4-2-1 防犯対策に効果的な取組



【全体】

防犯対策に効果的な取組について聞いたところ、「防犯カメラの設置」(33.4%)と「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(31.6%)がともに3割を超えて高く、次いで「道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(22.4%)、「地域住民等によるパトロール」(7.2%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

表4-2-1 防犯対策に効果的な取組—経年変化

調査年	n	夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ	防犯カメラの設置	道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす	地域住民等によるパトロール	広報等により市民に防犯を呼びかける	その他	無回答
平成29年度	1,550	31.6	33.4	22.4	7.2	1.5	3.1	0.8
平成27年度	1,471	41.7	-	36.8	14.3	2.0	3.5	1.6
平成25年度	1,270	41.9	-	39.1	10.9	2.0	3.8	2.3
平成23年度	815	70.7	-	60.0	38.7	15.7	6.1	2.2
平成21年度	1,608	72.7	-	76.2	39.6	21.0	5.8	2.2
平成19年度	1,500	67.1	-	77.3	40.3	22.3	9.1	2.5

(注1) 平成29年度調査では、「防犯カメラの設置」の選択肢を追加している。

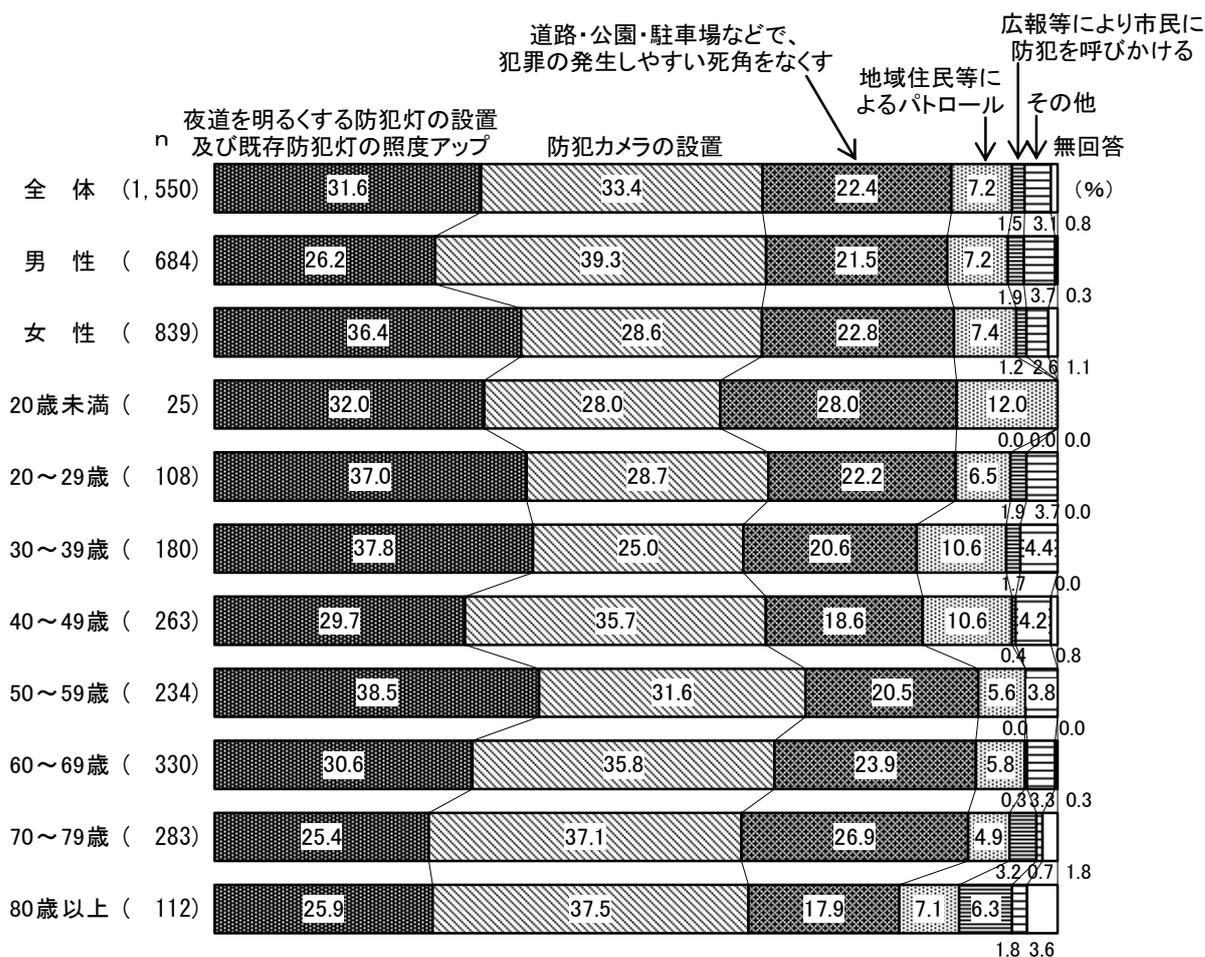
(注2) 平成23年度調査以前では、複数回答で質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「防犯カメラの設置」(39.3%)が女性(28.6%)より10.7ポイント高くなっている。一方、女性では「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(36.4%)が男性(26.2%)より10.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～39歳、50～59歳では「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」が4割近くと高くなっている。70～80歳以上では「防犯カメラの設置」が4割近くと高くなっている。20歳未満と70～79歳では「道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす」が3割近くと高くなっている。

図4-2-2 防犯対策に効果的な取組一性別、年齢別

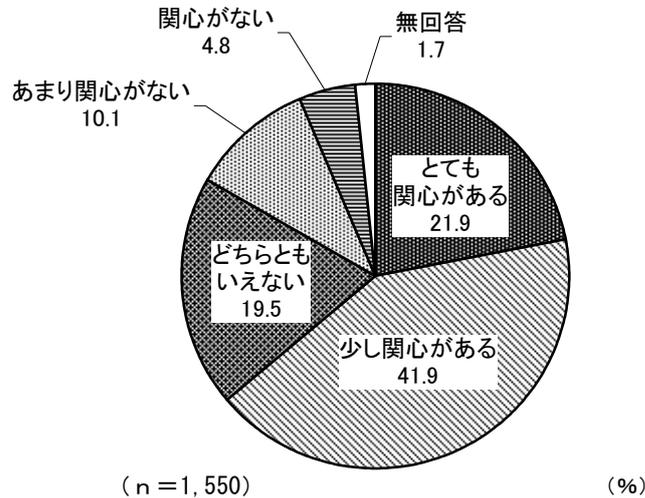


(3) セーフコミュニティの考え方 (B:問7)

問. 市民協働による交通安全や防犯、けがの予防など、セーフコミュニティの手法を用いて安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に、関心がありますか。

(1つだけ選んでください)

図4-3-1 セーフコミュニティの考え方



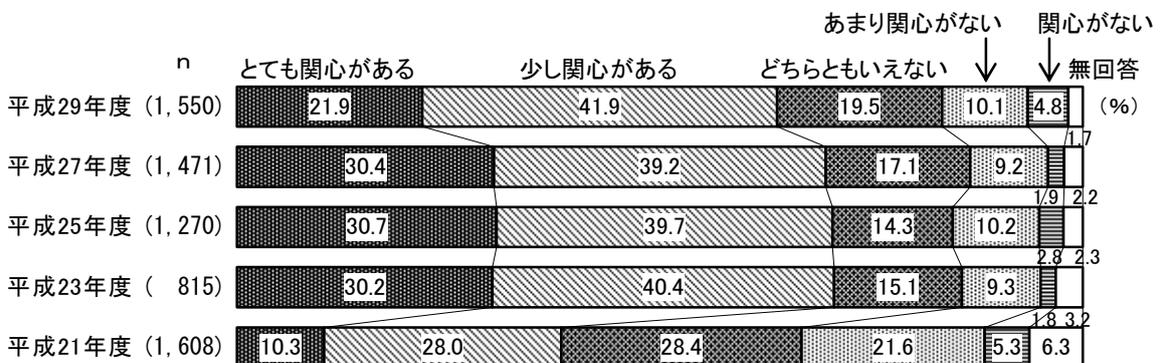
【全体】

セーフコミュニティの考え方に関心があるかについて聞いたところ、「とても関心がある」(21.9%)と「少し関心がある」(41.9%)の2つを合わせた『関心あり』(63.8%)が6割半ば近くと高くなっている。「どちらともいえない」(19.5%)は約2割で、「あまり関心がない」(10.1%)と「関心がない」(4.8%)の2つを合わせた『関心なし』(14.9%)は1割半ばとなっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、質問文が過去と異なっているため、参考に記載する。

図4-3-2 セーフコミュニティの考え方—経年変化



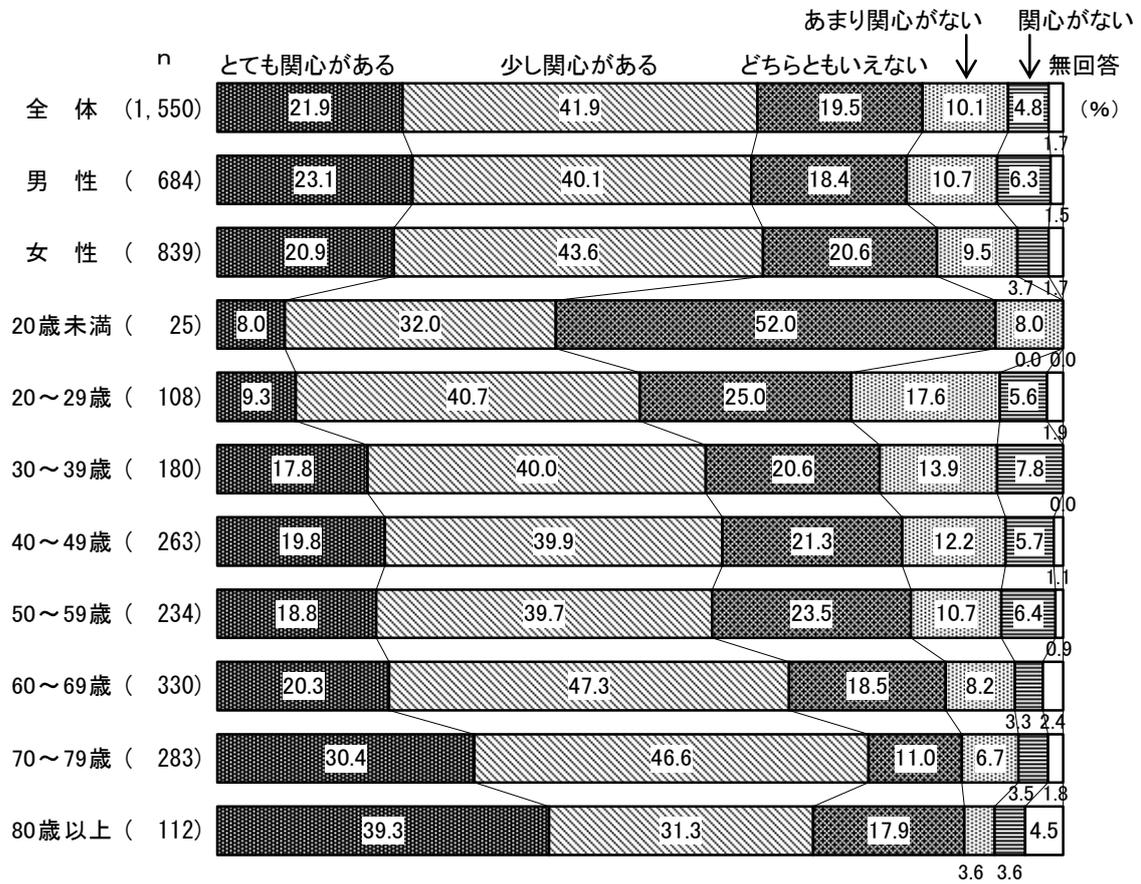
(注) 平成27年度調査～平成23年度調査では、「厚木市は、平成22年11月19日にWHOが推進しているセーフコミュニティの認証を取得しました。今後も、市民と行政が協働して交通安全や防犯、けがの予防など、安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に関心がありますか。」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、70～80歳以上では『関心あり』が7割台と高くなっている。20～39歳では『関心なし』が2割を超えて高くなっている。

図4-3-3 セーフコミュニティの考え方—性別、年齢別

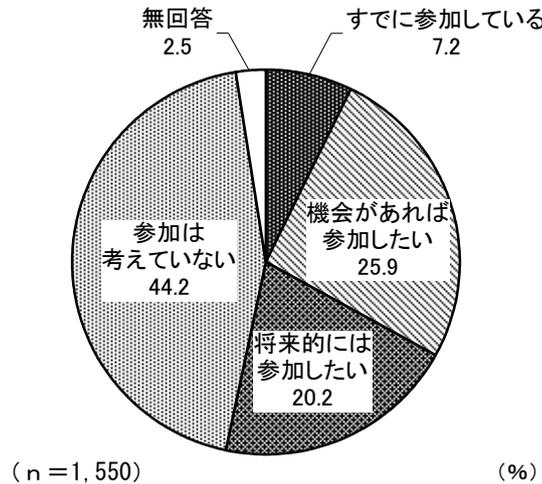


(4) 地域の防犯活動への参加 (B: 問8)

問. 安心・安全なまちづくりの一環として、地域で実施している「防犯パトロール」や「児童・生徒の登下校時の見守り活動(愛の目運動)」などの活動に参加したいと思いますか。

(1つだけ選んでください)

図4-4-1 地域の防犯活動への参加



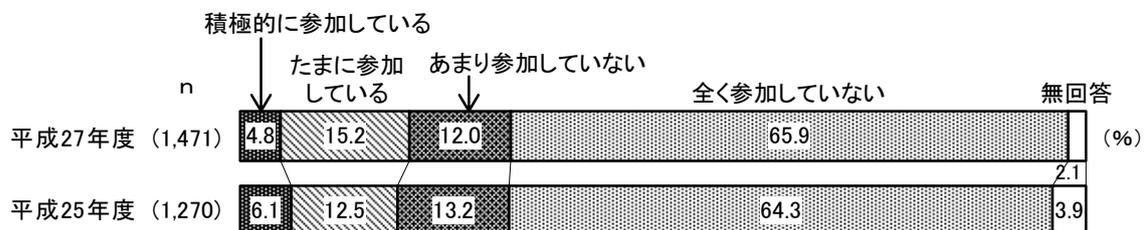
【全体】

地域の防犯活動への参加について聞いたところ、「すでに参加している」(7.2%)は1割未満となっている。「機会があれば参加したい」(25.9%)は2割半ば、「将来的には参加したい」(20.2%)は約2割、「参加は考えていない」(44.2%)は4割半ばとなっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、選択肢が過去と異なっているため、平成27年度以前の調査結果を参考に記載する。

図4-4-2 地域の防犯活動への参加—過去の調査結果

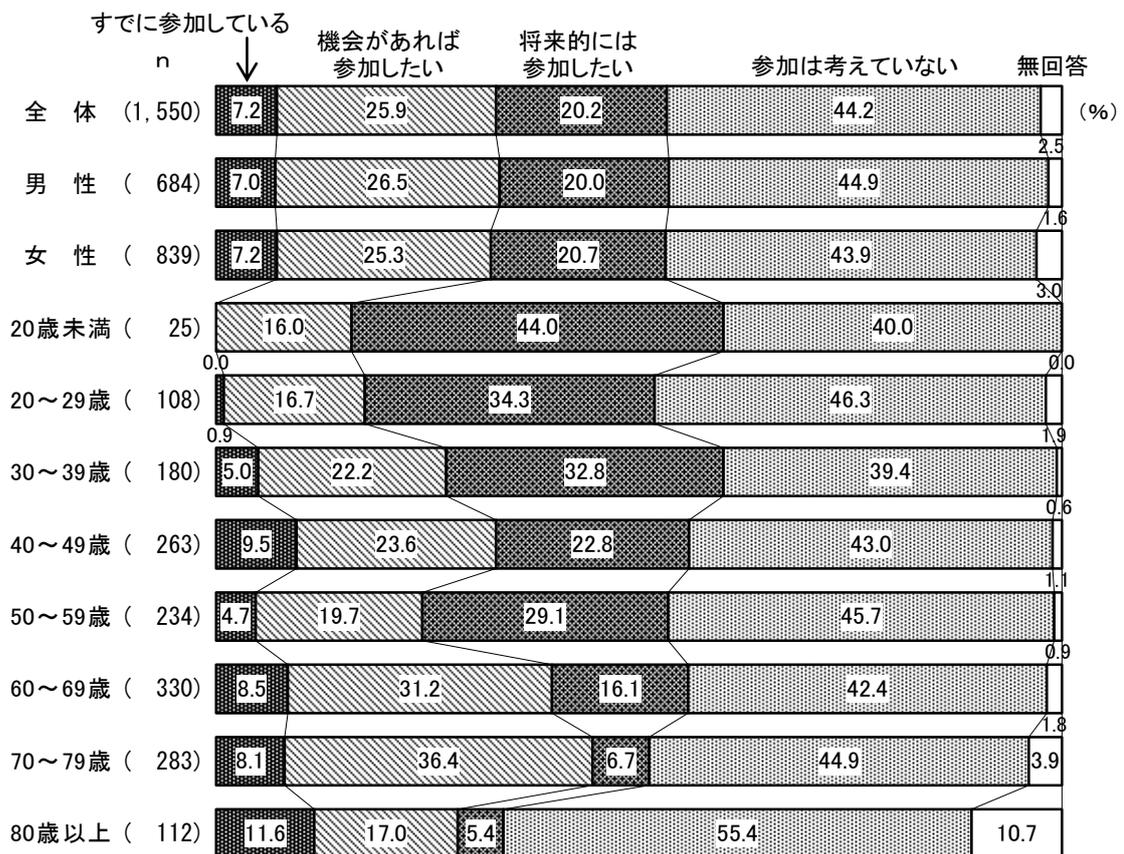


【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、80歳以上では「すでに参加している」(11.6%)が1割を超えている。60～79歳では「機会があれば参加したい」が3割台と高くなっている。「将来的には参加したい」は20歳未満(44.0%)で4割半ば、20～29歳(34.3%)で3割半ばと高くなっている。

図4-4-3 地域の防犯活動への参加—性別、年齢別

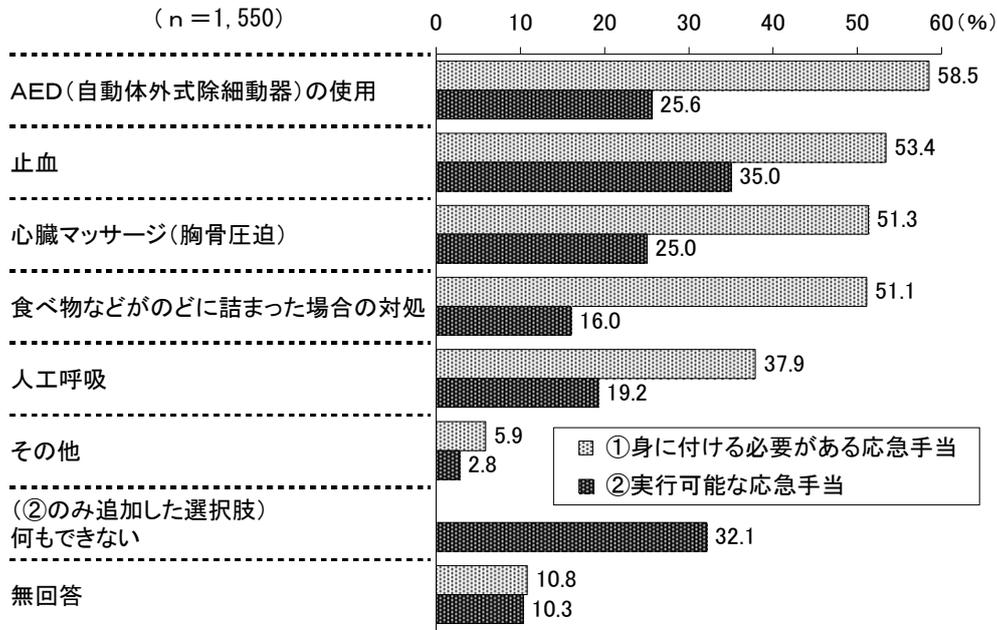


(5) 身に付ける必要がある応急手当・実行可能な応急手当 (B:問9)

問. いざという時のために、どのような応急手当を身に付ける必要があると思いますか。また、どのような応急手当ができますか。

(①~②について、それぞれ該当するものをいくつでも選んでください)

図4-5-1 身に付ける必要がある応急手当・実行可能な応急手当



【全体】

①身に付ける必要がある応急手当について聞いたところ、「AED（自動体外式除細動器）の使用」（58.5%）が6割近くで最も高く、次いで「止血」（53.4%）、「心臓マッサージ（胸骨圧迫）」（51.3%）、「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」（51.1%）、「人工呼吸」（37.9%）となっている。

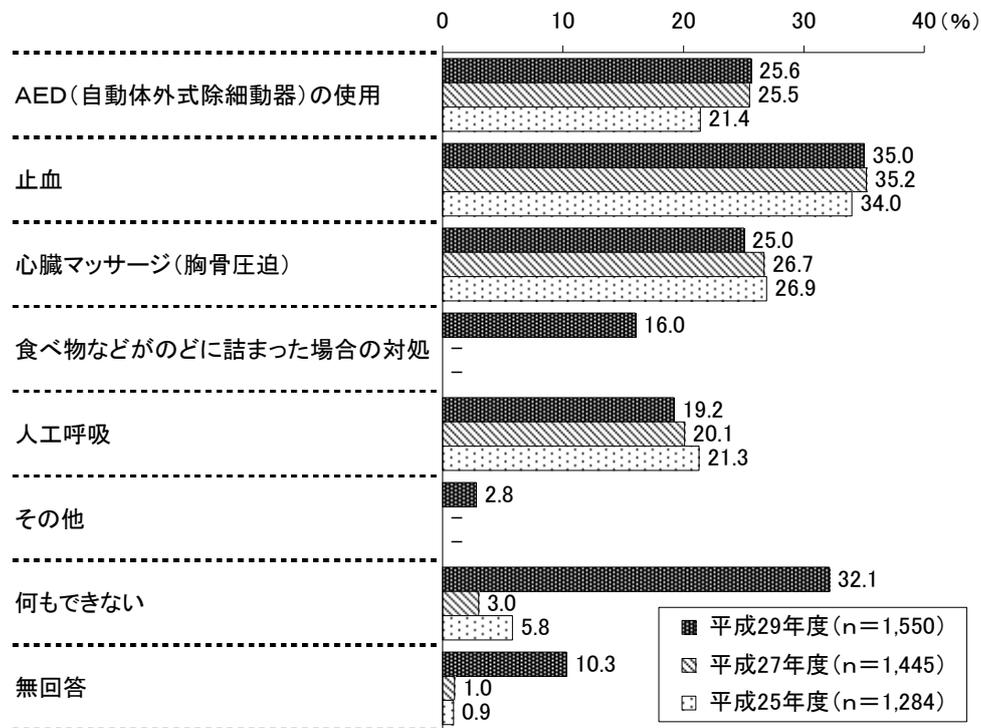
②実行可能な応急手当について聞いたところ、「止血」（35.0%）が3割半ばで最も高く、次いで「AED（自動体外式除細動器）の使用」（25.6%）、「心臓マッサージ（胸骨圧迫）」（25.0%）、「人工呼吸」（19.2%）、「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」（16.0%）となっている。また、「何もできない」（32.1%）は3割を超えている。

【経年変化】

平成27年度以前の調査では、②実行可能な応急手当についてのみ質問していた。

②実行可能な応急手当について経年による変化を見ると、平成27年度以前の調査から質問している4つの選択肢については、平成27年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図4-5-2 実行可能な応急手当—経年変化



(注1) 平成29年度調査では、「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」と「その他」の選択肢を追加している。

(注2) 平成27年度調査以前では、「119番に通報する」、「周囲の人に助けを求める」と「車で近くの病院に運ぶ」の選択肢を追加していた。

【属性別】

①身に付ける必要がある応急手当について性別で見ると、女性では「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」(55.4%)が男性(46.2%)より9.2ポイント高くなっている。一方、男性では「人工呼吸」(41.7%)が女性(34.9%)より6.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、40～49歳以下では「AED(自動体外式除細動器)の使用」が7割を超えて高くなっている。20歳未満では「止血」(84.0%)が8割半ば、「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」(72.0%)が7割を超えて高くなっている。30～39歳では「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」(64.4%)が6割半ばと高くなっている。

②実行可能な応急手当について性別で見ると、男性では「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」(29.8%)が女性(21.0%)より8.8ポイント、「人工呼吸」(23.4%)が女性(16.0%)より7.4ポイント、「AED(自動体外式除細動器)の使用」(28.5%)が女性(23.5%)より5.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳未満～29歳では「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」が4割台と高くなっている。20歳未満では「AED(自動体外式除細動器)の使用」(52.0%)が5割を超え、「人工呼吸」(36.0%)が3割半ばを超えて高くなっている。20～29歳では「止血」(44.4%)が4割半ばと高くなっている。

表4-5-1 身に付ける必要がある応急手当・実行可能な応急手当一性別、年齢別

(%)

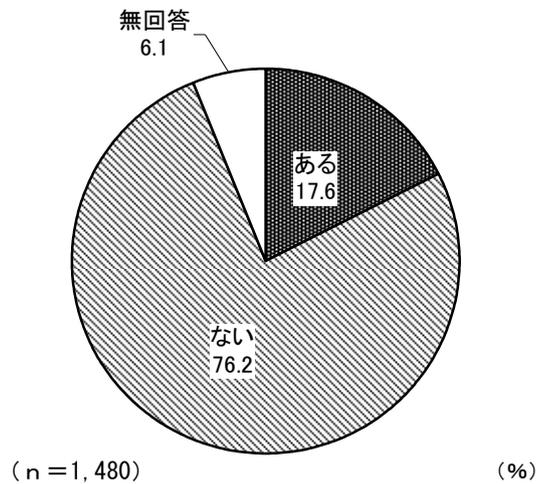
	n	①身に付ける必要がある応急手当							②実行可能な応急手当								
		AED (自動体外式除細動器) の使用	止血	心臓 マッサージ (胸骨圧迫)	食 べ物 な ど が の ど に 詰 ま っ た 場 合 の 対 処	人 工 呼 吸	そ の 他	無 回 答	AED (自動体外式除細動器) の使用	止血	心臓 マッサージ (胸骨圧迫)	食 べ 物 な ど が の ど に 詰 ま っ た 場 合 の 対 処	人 工 呼 吸	そ の 他	何 も で き な い	無 回 答	
全 体	1,550	58.5	53.4	51.3	51.1	37.9	5.9	10.8	25.6	35.0	25.0	16.0	19.2	2.8	32.1	10.3	
性 別	男 性	684	58.9	51.6	51.3	46.2	41.7	7.0	10.2	28.5	35.5	29.8	15.2	23.4	3.1	30.7	9.1
	女 性	839	57.9	55.2	51.7	55.4	34.9	4.8	11.2	23.5	34.9	21.0	16.6	16.0	2.3	33.3	11.2
年 齢 別	20歳未満	25	72.0	84.0	72.0	60.0	44.0	8.0	-	52.0	32.0	40.0	4.0	36.0	4.0	24.0	-
	20～29歳	108	73.1	65.7	64.8	54.6	46.3	11.1	4.6	46.3	44.4	41.7	18.5	27.8	3.7	24.1	2.8
	30～39歳	180	72.8	65.6	63.3	64.4	44.4	7.8	5.6	31.1	39.4	32.2	20.0	22.8	3.9	33.3	5.0
	40～49歳	263	71.1	56.3	58.6	54.0	38.4	6.8	6.1	28.5	31.2	26.6	14.8	18.6	3.4	35.0	5.7
	50～59歳	234	66.7	52.6	56.4	47.4	33.8	4.7	6.4	29.1	33.8	28.6	16.7	20.5	0.9	33.3	7.3
	60～69歳	330	55.8	48.8	48.8	47.9	38.5	6.7	12.7	24.2	37.9	24.5	16.1	17.9	2.4	31.8	11.5
	70～79歳	283	42.0	51.2	38.9	51.2	35.0	2.5	14.8	15.9	35.3	15.9	13.1	15.9	2.8	31.4	16.6
	80歳以上	112	20.5	32.1	27.7	36.6	32.1	2.7	33.0	5.4	25.0	6.3	17.9	11.6	1.8	33.9	25.9

5 人権

(1) 人権侵害を受けた経験 (A: 問10)

問. 自分の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(1つだけ選んでください)

図5-1-1 人権侵害を受けた経験



【全体】

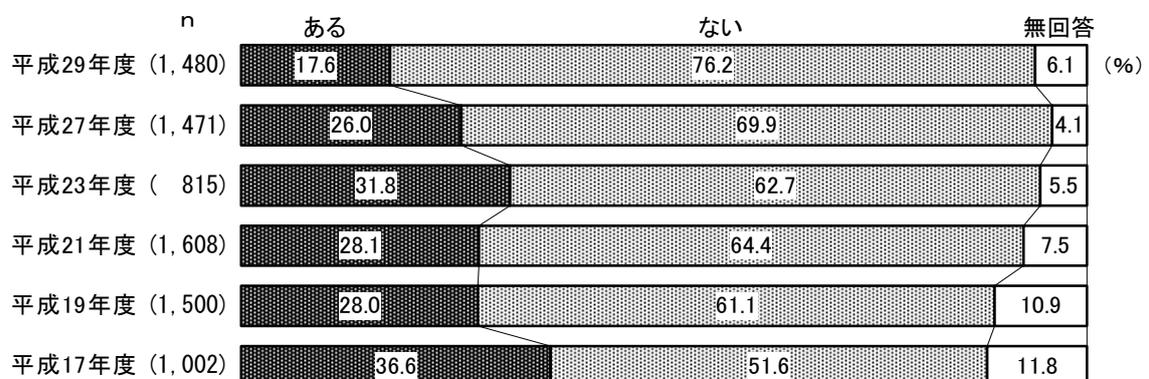
人権侵害を受けた経験について聞いたところ、「ある」(17.6%)は2割近く、「ない」(76.2%)は7割半ばを超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「ある」(17.6%)は平成27年度調査(26.0%)より8.4ポイント減少している。「ない」(76.2%)は平成27年度調査(69.9%)より6.3ポイント増加している。

また、平成23年度以前の調査では、質問の形式が異なっているため、参考に記載する。

図5-1-2 人権侵害を受けた経験—経年変化

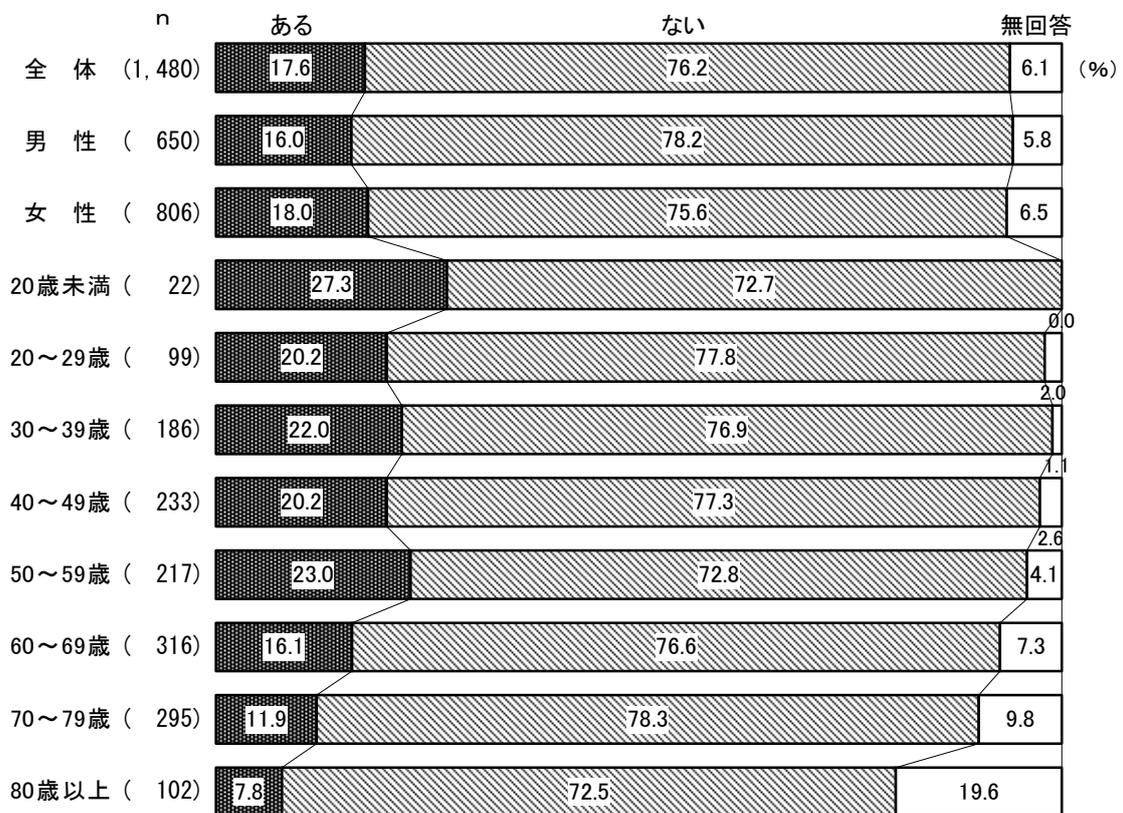


【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、20歳未満では「ある」(27.3%)が2割半ばを超えて高くなっている。

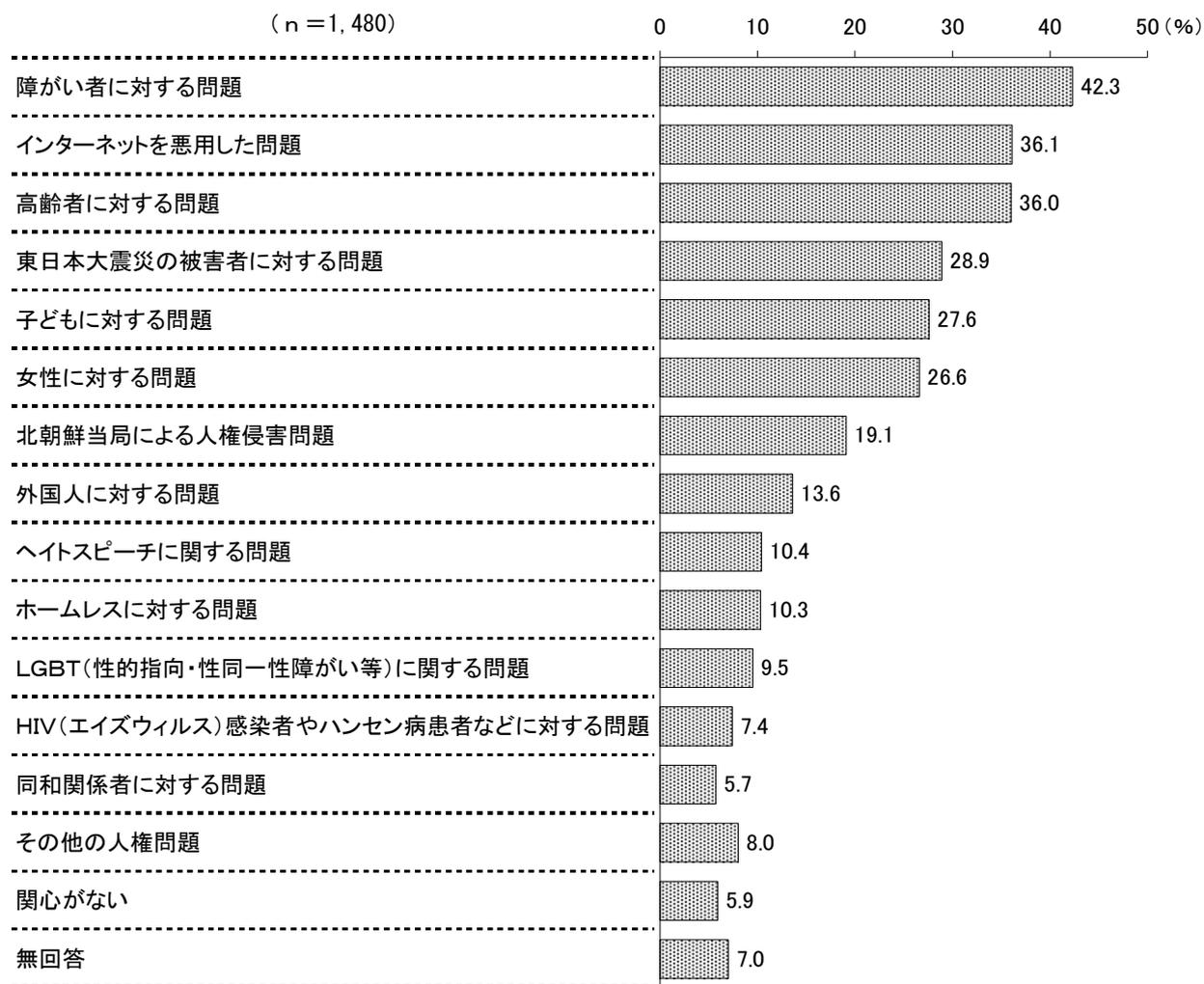
図5-1-3 人権侵害を受けた経験—性別、年齢別



(2) 人権や差別に対する関心 (A: 問11)

問. どのような人権問題や差別に対して、関心がありますか。(いくつでも選んでください)

図5-2-1 人権や差別に対する関心



【全体】

人権や差別に対する関心について聞いたところ、「障がい者に対する問題」(42.3%)が4割を超えて最も高く、次いで「インターネットを悪用した問題」(36.1%)、「高齢者に対する問題」(36.0%)、「東日本大震災の被害者に対する問題」(28.9%)、「子どもに対する問題」(27.6%)、「女性に対する問題」(26.6%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、一部の選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

表5-2-1 人権や差別に対する関心—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	平成29年度 (n=1,480)		平成27年度 (n=1,417)		平成23年度 (n=815)		平成21年度 (n=1,608)		平成19年度 (n=1,500)	
1	障がい者に対する問題	42.3	障がい者に対する問題	37.3	子どもに対する問題	31.7	高齢者に対する問題	30.0	高齢者に対する問題	29.4
2	インターネットを悪用した問題	36.1	子どもに対する問題	33.0	障がい者に対する問題	31.4	障がい者に対する問題	29.4	障がい者に対する問題	27.8
3	高齢者に対する問題	36.0	高齢者に対する問題／インターネットを悪用した問題	31.3	インターネットを悪用した問題	25.3	子どもに対する問題	27.3	子どもに対する問題	26.4
4	東日本大震災の被害者に対する問題	28.9			高齢者に対する問題	23.8	北朝鮮当局による人権侵害問題	25.4	インターネットを悪用した問題	23.1
5	子どもに対する問題	27.6	女性に対する問題	26.0	女性に対する問題	16.9	インターネットを悪用した問題	24.9	北朝鮮当局による人権侵害問題	19.2

(注) 平成29年度調査では、「東日本大震災の被害者に対する問題」、「ヘイトスピーチに関する問題」、「LGBT（性的指向・性同一性障がい等）に関する問題」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「女性に対する問題」(33.3%)が男性(18.2%)より15.1ポイント高くなっている。一方、男性では「外国人に対する問題」(18.2%)が女性(10.0%)より8.2ポイント、「ハイトスピーチに関する問題」(13.2%)が女性(7.6%)より5.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、50～59歳では「障がい者に対する問題」(49.3%)が約5割と高くなっている。60～80歳以上では「高齢者に対する問題」が4割台と高くなっている。20歳未満では「子どもに対する問題」(50.0%)が5割、「女性に対する問題」(54.5%)が5割半ば、「ホームレスに対する問題」(27.3%)が2割半ばを超え、「LGBT(性的指向・性同一性障がい等)に関する問題」(31.8%)が3割を超えて高くなっている。

表5-2-2 人権や差別に対する関心—性別、年齢別

(%)

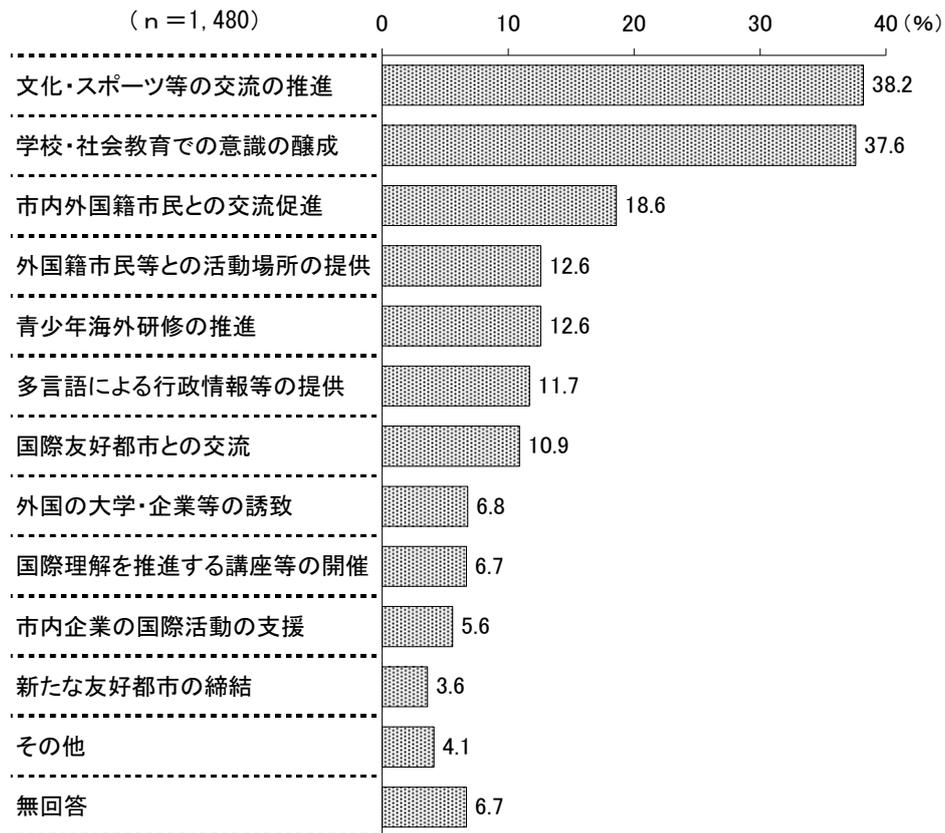
		n	障がい者に対する問題	インターネットを悪用した問題	高齢者に対する問題	東日本大震災の被害者に対する問題	子どもに対する問題	女性に対する問題	北朝鮮当局による人権侵害問題	外国人に対する問題	ハイトスピーチに関する問題	ホームレスに対する問題	LGBT(性的指向・性同一性障がい等)に関する問題	その他の人権問題	HIV(エイズウイルス)感染者やハンセン病患者などに対する問題	同和関係者に対する問題	関心がない	無回答
全体		1,480	42.3	36.1	36.0	28.9	27.6	26.6	19.1	13.6	10.4	10.3	9.5	8.0	7.4	5.7	5.9	7.0
性別	男性	650	42.6	36.5	36.0	26.8	25.5	18.2	20.8	18.2	13.2	11.8	8.5	7.7	6.5	7.4	6.3	6.3
	女性	806	41.8	35.6	35.9	30.5	29.2	33.3	17.7	10.0	7.6	9.1	10.4	7.9	8.2	4.3	5.7	7.7
年齢別	20歳未満	22	45.5	31.8	31.8	18.2	50.0	54.5	27.3	18.2	9.1	27.3	31.8	13.6	13.6	4.5	-	-
	20～29歳	99	38.4	43.4	17.2	19.2	32.3	33.3	10.1	17.2	4.0	7.1	18.2	3.0	4.0	4.0	8.1	3.0
	30～39歳	186	42.5	42.5	23.1	25.8	39.8	36.6	13.4	21.5	7.5	11.3	17.2	8.1	9.7	5.9	4.3	2.2
	40～49歳	233	42.5	41.2	27.5	25.8	31.3	32.6	18.5	18.0	12.4	7.3	12.0	9.0	6.9	5.6	7.3	5.2
	50～59歳	217	49.3	37.3	38.2	28.6	29.5	35.5	18.9	12.0	9.7	9.7	8.3	9.7	10.6	6.5	7.4	5.1
	60～69歳	316	43.0	36.7	40.2	33.9	23.4	20.9	18.7	12.3	15.5	12.3	8.9	8.9	7.9	6.3	6.0	5.4
	70～79歳	295	40.3	29.8	48.5	34.2	18.6	15.9	25.8	9.5	8.1	11.5	2.4	5.8	4.7	6.1	3.4	11.5
	80歳以上	102	31.4	19.6	45.1	24.5	21.6	11.8	18.6	4.9	6.9	5.9	2.0	9.8	5.9	2.0	8.8	21.6

6 国際交流

(1) 国際交流の取組 (A: 問12)

問. 異文化への理解を深め、国際化に対応するためには、どのような取組が必要であると思いますか。(2つまで選んでください)

図6-1-1 国際交流の取組



【全体】

国際交流の取組について聞いたところ、「文化・スポーツ等の交流の推進」(38.2%)と「学校・社会教育での意識の醸成」(37.6%)がともに4割近くで高く、次いで「市内外国籍市民との交流促進」(18.6%)、「外国籍市民等との活動場所の提供」(12.6%)、「青少年海外研修の推進」(12.6%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、一部の選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

表6-1-1 国際交流の取組—経年変化

調 査 年	n	(%)												
		推 進 文 化 ・ ス ポ ー ツ 等 の 交 流 の	醸 成 学 校 ・ 社 会 教 育 で の 意 識 の	進 市 内 外 国 籍 市 民 と の 交 流 促	の 外 国 籍 市 民 等 と の 活 動 場 所	青 少 年 海 外 研 修 の 推 進	提 多 言 語 に よ る 行 政 情 報 等 の	国 際 友 好 都 市 と の 交 流	外 国 の 大 学 ・ 企 業 等 の 誘 致	の 国 際 理 解 を 推 進 す る 講 座 等	市 内 企 業 の 国 際 活 動 の 支 援	新 た な 友 好 都 市 の 締 結	そ の 他	無 回 答
平成29年度	1,480	38.2	37.6	18.6	12.6	12.6	11.7	10.9	6.8	6.7	5.6	3.6	4.1	6.7
平成27年度	1,445	36.6	-	28.2	-	15.4	14.1	10.9	10.8	10.4	6.4	4.8	4.4	8.2
平成25年度	1,270	30.2	-	24.7	-	17.7	15.6	10.1	13.4	9.6	9.2	3.9	4.0	9.8
平成23年度	815	38.5	-	25.8	-	16.3	11.4	12.6	11.4	9.1	7.4	4.7	4.3	5.2
平成21年度	1,608	44.1	-	22.6	-	15.3	12.3	15.0	9.1	11.4	7.2	-	5.6	5.3
平成19年度	1,500	40.1	-	21.6	-	14.7	13.7	11.0	7.5	9.7	4.5	-	2.9	12.3
平成17年度	1,002	44.3	-	25.4	-	17.4	14.9	13.5	11.9	16.1	6.3	-	3.1	7.8

(注1) 平成29年度調査では、「学校・社会教育での意識の醸成」、「外国籍市民等との活動場所の提供」の選択肢を追加している。

(注2) 平成23年度調査以降では、「新たな友好都市の締結」の選択肢を追加している。

(注3) 「多言語による行政情報等の提供」は、平成27年度調査以前では「市のパンフレット、道路標識等の外国語表示の整備」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「市内企業の国際活動の支援」(8.2%)が女性(3.6%)より4.6ポイント、「文化・スポーツ等の交流の推進」(40.0%)が女性(36.6%)より3.4ポイント、「市内外国籍市民との交流促進」(20.6%)が女性(17.2%)より3.4ポイント高くなっている。一方、女性では「学校・社会教育での意識の醸成」(39.6%)が男性(35.1%)より4.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～29歳では「学校・社会教育での意識の醸成」(45.5%)が4割半ばと高くなっている。20歳未満では「青少年海外研修の推進」(27.3%)が2割半ばを超えて高くなっている。30～39歳では「多言語による行政情報等の提供」(21.5%)が2割を超えて高くなっている。

表6-1-2 国際交流の取組—性別、年齢別

		(%)													
		n	文化・スポーツ等の交流の推進	学校・社会教育での意識の醸成	市内外国籍市民との交流促進	外国籍市民等との活動場所の提供	青少年海外研修の推進	多言語による行政情報等の提供	国際友好都市との交流	外国の大学・企業等の誘致	国際理解を推進する講座等の開催	市内企業の国際活動の支援	新たな友好都市の締結	その他	無回答
全 体		1,480	38.2	37.6	18.6	12.6	12.6	11.7	10.9	6.8	6.7	5.6	3.6	4.1	6.7
性別	男 性	650	40.0	35.1	20.6	13.4	12.9	10.9	10.2	8.0	7.1	8.2	3.8	4.5	4.5
	女 性	806	36.6	39.6	17.2	12.0	12.7	12.3	11.5	5.7	6.2	3.6	3.5	3.6	8.4
年 齢 別	20歳未満	22	36.4	36.4	4.5	13.6	27.3	13.6	18.2	4.5	9.1	9.1	4.5	9.1	-
	20～29歳	99	34.3	45.5	17.2	8.1	13.1	16.2	13.1	8.1	4.0	8.1	4.0	3.0	1.0
	30～39歳	186	39.8	39.8	17.2	11.8	8.1	21.5	15.6	7.5	2.7	5.4	4.8	2.2	2.2
	40～49歳	233	40.3	33.9	15.9	12.9	9.4	13.7	15.0	10.7	8.2	3.4	3.9	5.2	3.4
	50～59歳	217	38.2	41.0	21.7	12.9	10.1	13.4	10.6	8.8	7.8	6.0	3.7	3.2	4.6
	60～69歳	316	37.3	42.1	22.8	14.9	14.2	9.8	5.4	4.7	6.0	3.8	1.9	3.8	7.0
	70～79歳	295	36.6	34.9	18.0	13.2	15.6	5.1	9.2	4.1	8.8	8.1	4.4	4.7	11.9
	80歳以上	102	40.2	21.6	13.7	7.8	16.7	5.9	10.8	5.9	6.9	5.9	3.9	5.9	18.6

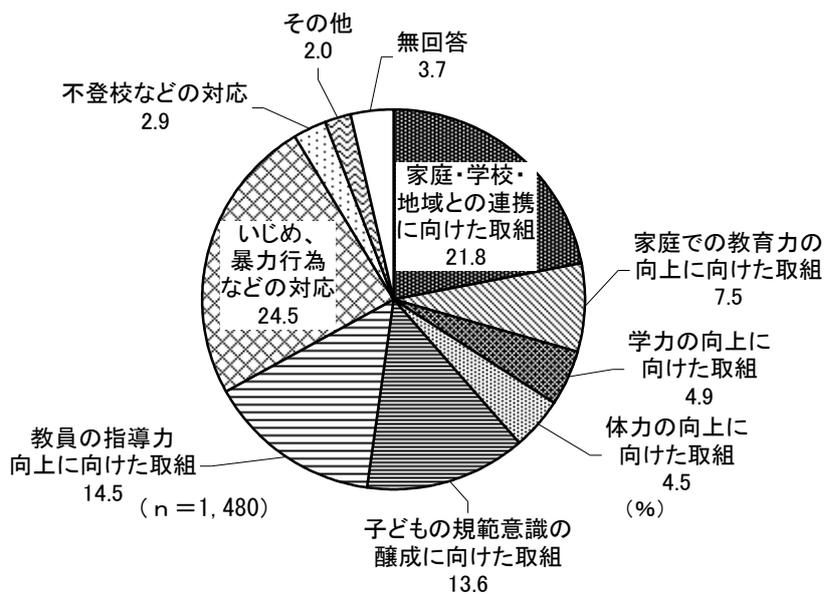
7 教育・生涯学習・文化・スポーツ

(1) 現在の教育への取組 (A: 問13)

問. 現在の教育において、どのような取組が重要であると思いますか。

(1つだけ選んでください)

図7-1-1 現在の教育への取組



【全体】

現在の教育において、どのような取組が重要であるかについて聞いたところ、「いじめ、暴力行為などの対応」(24.5%)が2割半ばで最も高く、次いで「家庭・学校・地域との連携に向けた取組」(21.8%)、「教員の指導力向上に向けた取組」(14.5%)、「子どもの規範意識の醸成に向けた取組」(13.6%)、「家庭での教育力の向上に向けた取組」(7.5%)となっている。

【経年変化】

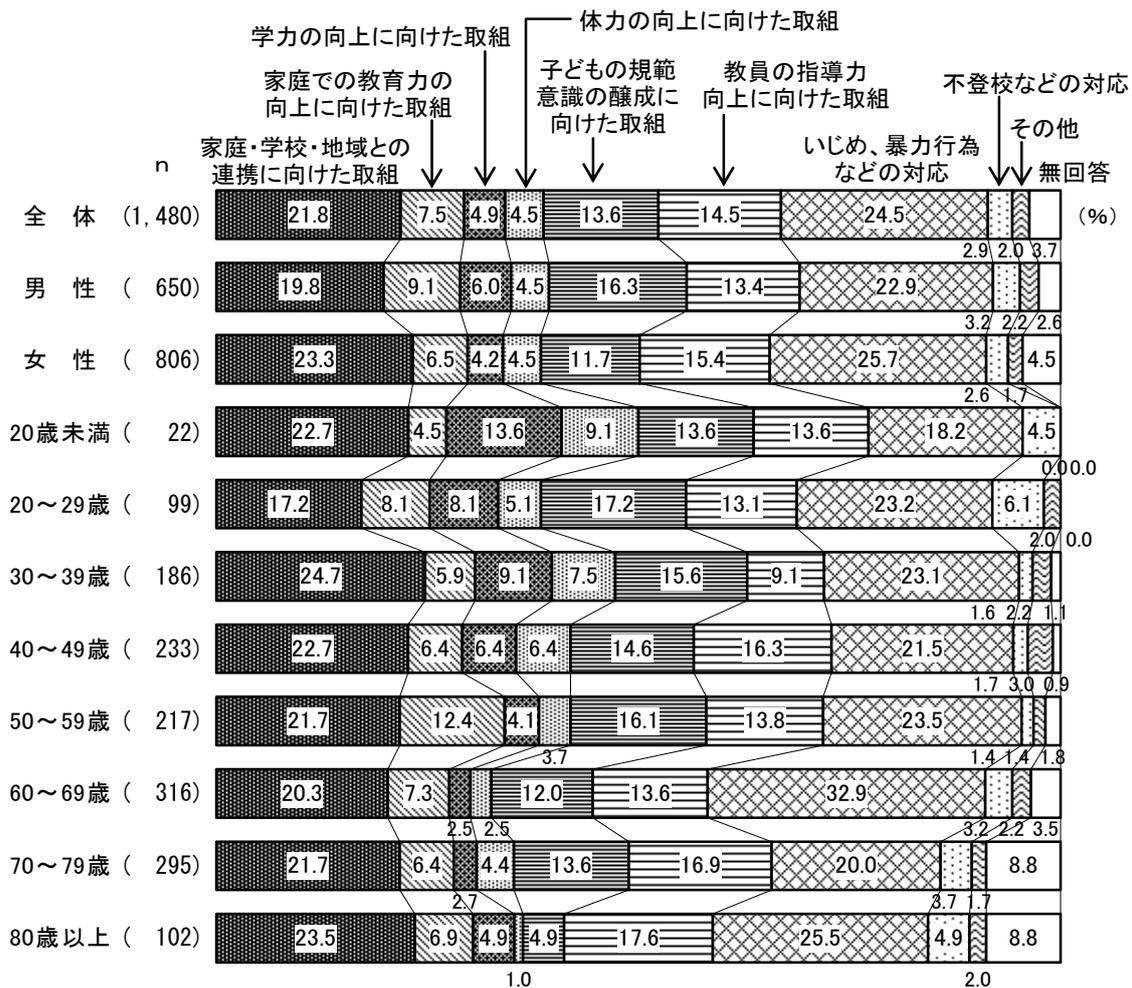
平成29年度調査では、質問文と選択肢が大幅に異なっているため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「家庭・学校・地域との連携に向けた取組」(23.3%)が男性(19.8%)より3.5ポイント高くなっている。一方、男性では「子どもの規範意識の醸成に向けた取組」(16.3%)が女性(11.7%)より4.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、60～69歳では「いじめ、暴力行為などの対応」(32.9%)が3割半ば近くで高くなっている。20歳未満では「学力の向上に向けた取組」(13.6%)が1割半ば近くとなっている。

図7-1-2 現在の教育への取組—性別、年齢別

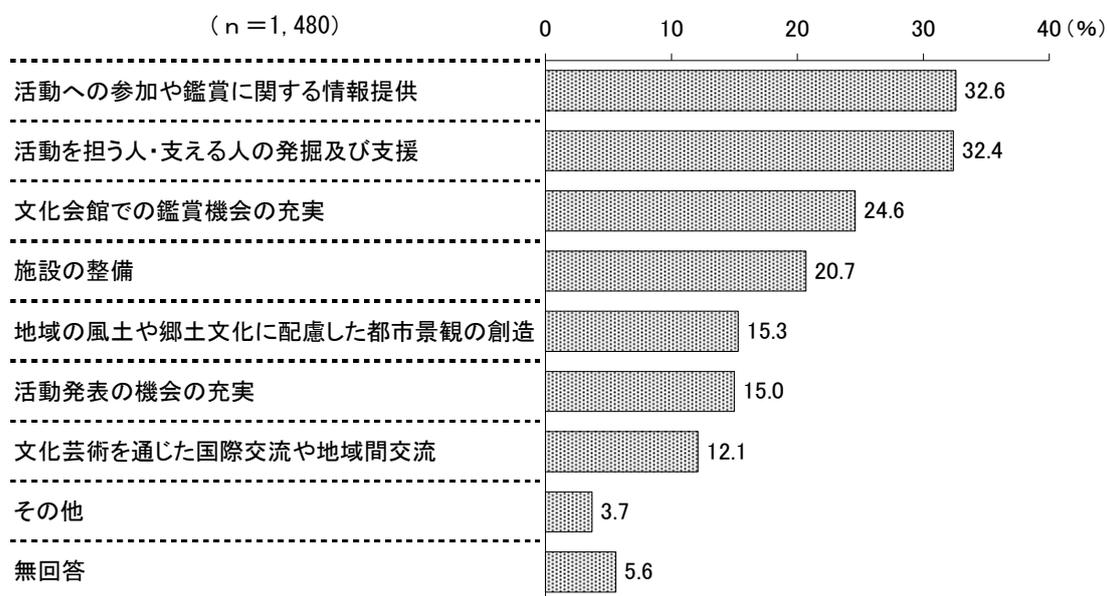


(2) 文化芸術活動を充実させる取組 (A: 問14)

問. 文化芸術活動をより充実させるために、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください)

図7-2-1 文化芸術活動を充実させる取組



【全体】

文化芸術活動を充実させる取組について聞いたところ、「活動への参加や鑑賞に関する情報提供」(32.6%)と「活動を担う人・支える人の発掘及び支援」(32.4%)がともに3割を超えて高く、次いで「文化会館での鑑賞機会の充実」(24.6%)、「施設の整備」(20.7%)、「地域の風土や郷土文化に配慮した都市景観の創造」(15.3%)、「活動発表の機会の充実」(15.0%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

表7-2-1 文化芸術活動を充実させる取組—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)	平成19年度 (n=1,500)
1	活動への参加 や鑑賞に関する 情報提供 32.6	文化芸術活動 や鑑賞活動な どの情報提供 37.0	文化芸術活動 や鑑賞活動な どの情報提供 34.3	芸術文化活動 や鑑賞活動な どの情報提供 34.5	芸術文化活動 や鑑賞活動な どの情報提供 33.2	芸術文化活動 や鑑賞活動な どの情報提供 34.6
2	活動を担う 人・支える人 の発掘及び支 援 32.4	魅力ある都市 景観の創造 33.1	魅力ある都市 景観の創造 32.9	文化会館での 鑑賞機会の充 実 30.7	魅力ある都市 景観の創造 30.8	文化会館での 鑑賞機会の充 実 32.4
3	文化会館での 鑑賞機会の充 実 24.6	文化会館での 鑑賞機会の充 実 31.5	文化会館での 鑑賞機会の充 実 30.1	魅力ある都市 景観の創造 29.4	文化会館での 鑑賞機会の充 実 30.5	魅力ある都市 景観の創造 28.2
4	施設の整備 20.7	学校や福祉施 設など、文化 会館以外での 鑑賞機会の充 実 27.7	学校や福祉施 設など、文化 会館以外での 鑑賞機会の充 実 26.5	学校や福祉施 設など、文化 会館以外での 鑑賞機会の充 実 25.3	学校や福祉施 設など、文化 会館以外での 鑑賞機会の充 実 26.7	学校や福祉施 設など、文化 会館以外での 鑑賞機会の充 実 27.8
5	地域の風土や 郷土文化に配 慮した都市景 観の創造 15.3	市街地での文 化芸術イベン トの充実 26.4	市街地での文 化芸術イベン トの充実 22.8	市街地での文 化芸術イベン トの充実 22.9	文化財や伝統 芸能などの保 存・継承 20.1	文化財や伝統 芸能などの保 存・継承 24.1

(注) 平成29年度調査では、「活動を担う人・支える人の発掘及び支援」と「活動発表の機会の充実」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「文化会館での鑑賞機会の充実」(27.9%)が男性(20.9%)より7.0ポイント、「活動への参加や鑑賞に関する情報提供」(35.0%)が男性(29.5%)より5.5ポイント高くなっている。一方、男性では「地域の風土や郷土文化に配慮した都市景観の創造」(18.0%)が女性(13.2%)より4.8ポイント、「活動を担う人・支える人の発掘及び支援」(34.8%)が女性(30.6%)より4.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30～39歳では「活動への参加や鑑賞に関する情報提供」(39.2%)が約4割と高くなっている。20～29歳では「施設の整備」(29.3%)が約3割と高くなっている。20歳未満では「文化芸術を通じた国際交流や地域間交流」(22.7%)が2割半ば近くと高くなっている。

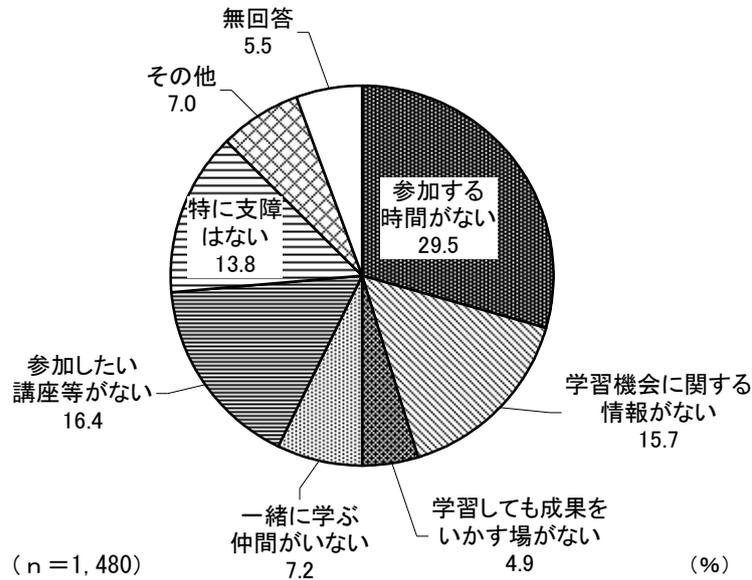
表7-2-2 文化芸術活動を充実させる取組—性別、年齢別

		n	活動への参加や鑑賞に関する情報提供	活動を担う人・支える人の発掘及び支援	文化会館での鑑賞機会の充実	施設の整備	地域の風土や郷土文化に配慮した都市景観の創造	活動発表の機会の充実	文化芸術を通じた国際交流や地域間交流	その他	無回答
全体		1,480	32.6	32.4	24.6	20.7	15.3	15.0	12.1	3.7	5.6
性別	男性	650	29.5	34.8	20.9	21.5	18.0	15.5	13.1	4.6	4.3
	女性	806	35.0	30.6	27.9	20.2	13.2	14.1	11.3	2.7	6.6
年齢別	20歳未満	22	27.3	36.4	27.3	18.2	22.7	9.1	22.7	-	4.5
	20～29歳	99	27.3	35.4	23.2	29.3	16.2	18.2	8.1	5.1	1.0
	30～39歳	186	39.2	31.2	22.6	24.7	12.4	14.5	15.1	2.2	1.6
	40～49歳	233	31.8	28.8	26.6	22.7	13.7	18.0	10.3	5.2	2.1
	50～59歳	217	35.0	28.6	30.4	22.6	12.4	15.7	12.4	1.8	2.8
	60～69歳	316	34.8	35.8	21.2	15.8	17.1	14.2	13.3	4.1	6.0
	70～79歳	295	28.8	33.6	23.7	18.3	17.3	12.5	11.2	4.1	10.5
	80歳以上	102	26.5	32.4	26.5	18.6	18.6	12.7	8.8	4.9	15.7

(3) 生涯学習活動に参加する上で支障になること (A: 問15)

問. 講座・教育などの学習活動へ参加を検討する場合、どのような理由が妨げとなりますか。
(1つだけ選んでください)

図7-3-1 生涯学習活動に参加する上で支障になること



【全体】

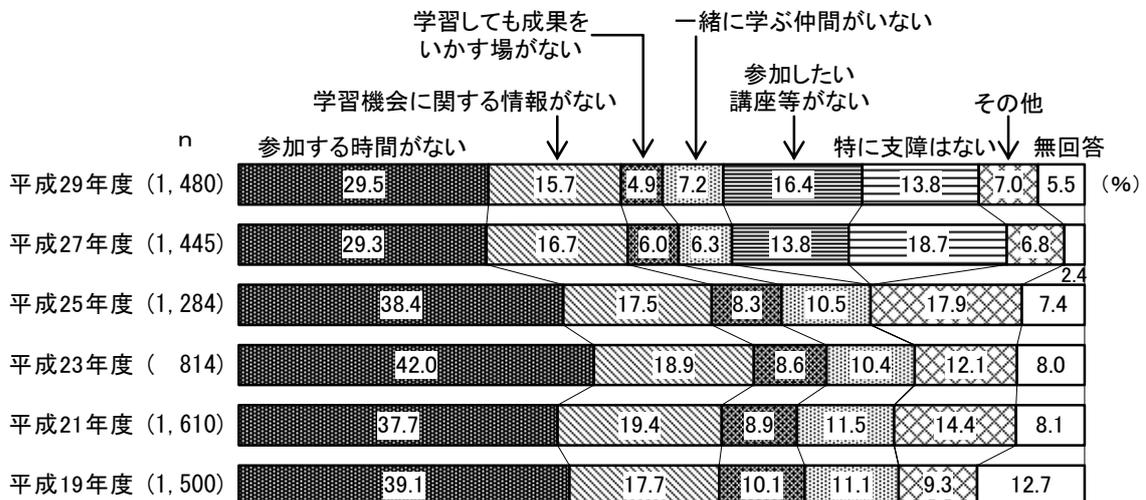
生涯学習活動に参加する上で支障になることについて聞いたところ、「参加する時間がない」(29.5%)が約3割で最も高く、次いで「参加したい講座等がない」(16.4%)、「学習機会に関する情報がない」(15.7%)、「一緒に学ぶ仲間がない」(7.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、平成27年度調査と比べて大きな差異は見られない。

また、平成25年度以前の調査では、一部の選択肢が異なっているため、参考に記載する。

図7-3-2 生涯学習活動に参加する上で支障になること—経年変化



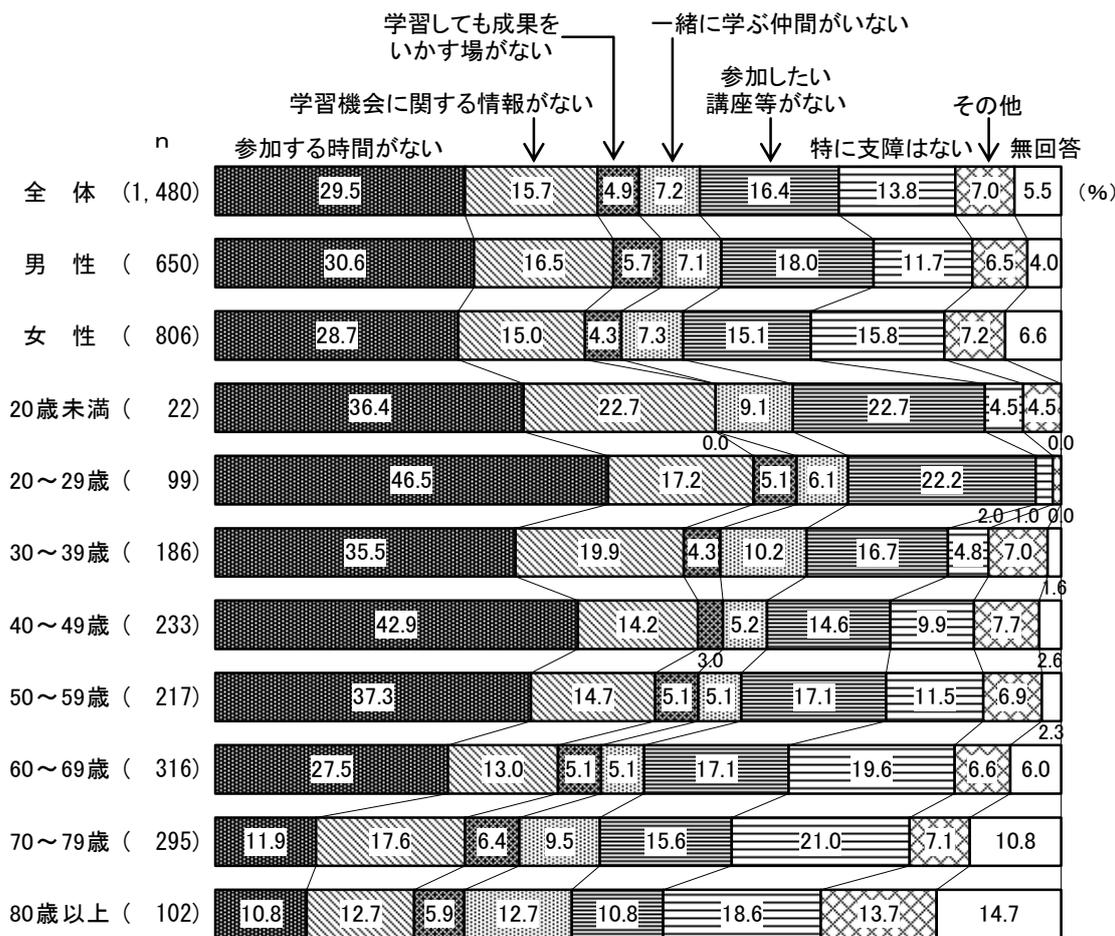
(注) 平成27年度調査以降では、「参加したい講座等がない」と「特に支障はない」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「特に支障はない」（15.8%）が男性（11.7%）より4.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～29歳と40～49歳では「参加する時間がない」が4割台と高くなっている。20歳未満～29歳では「参加したい講座等がない」が2割を超えて高くなっている。20歳未満では「学習機会に関する情報がない」（22.7%）が2割半ば近くと高くなっている。60～80歳以上では「特に支障はない」が2割前後と高くなっている。

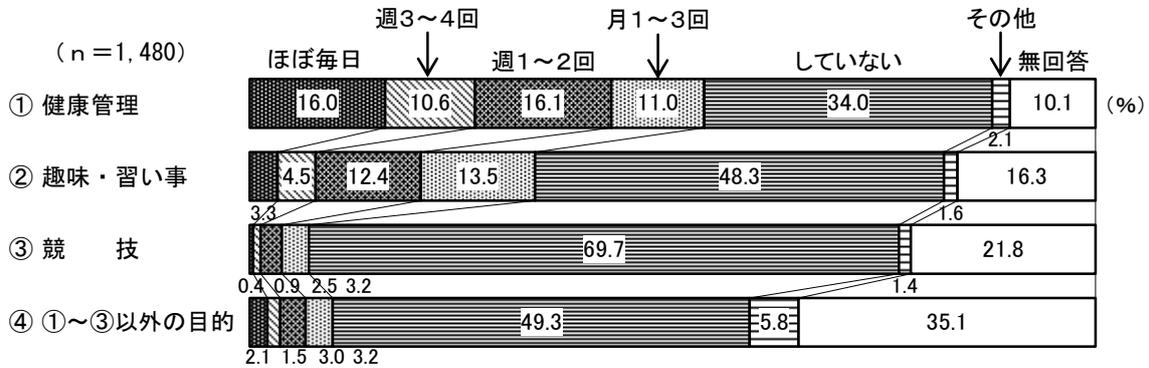
図7-3-3 生涯学習活動に参加する上で支障になること一性別、年齢別



(4) スポーツをする目的・頻度 (A:問16)

問. 運動(スポーツ)をどのような目的で、また、どのくらいの頻度で行っていますか。
 (①～④について、それぞれ該当するものを1つ選んでください)

図7-4-1 スポーツをする目的・頻度



【全体】

スポーツをする目的・頻度について、4つの目的別に頻度を聞いたところ、いずれも「していない」が高くなっている。①健康管理では「ほぼ毎日」(16.0%)と「週1~2回」(16.1%)がともに1割半ばを超えて高く、次いで「月1~3回」(11.0%)、「週3~4回」(10.6%)となっている。

②趣味・習い事では、「月1~3回」(13.5%)と「週1~2回」(12.4%)がともに1割を超えている。

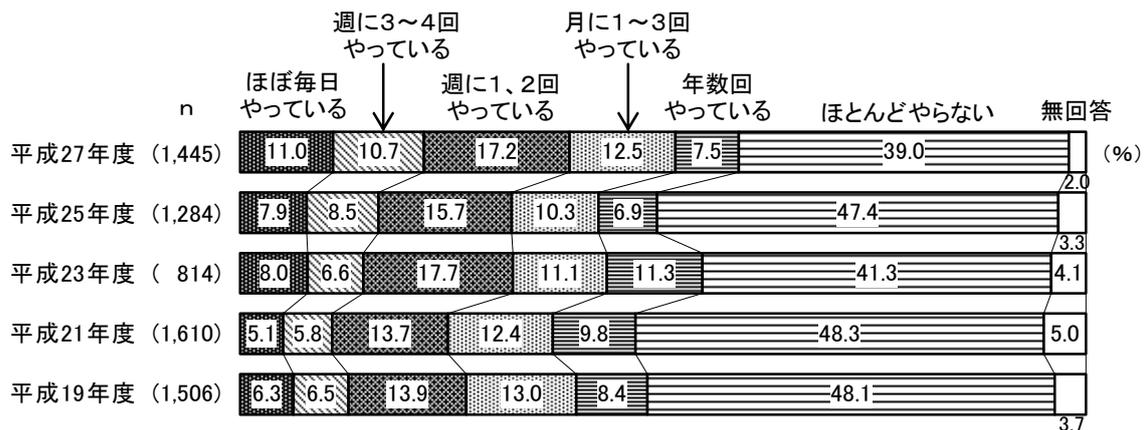
③競技では、「ほぼ毎日」(0.4%)と「週3~4回」(0.9%)、「週1~2回」(2.5%)、「月1~3回」(3.2%)の4つを合わせた『している』(7.0%)は1割未満となっている。

④①~③以外の目的では、「ほぼ毎日」(2.1%)と「週3~4回」(1.5%)、「週1~2回」(3.0%)、「月1~3回」(3.2%)の4つを合わせた『している』(9.8%)は約1割となっている。

【経年変化】

平成27年度以前の調査では、目的を問わずにスポーツをする頻度について聴いており、質問の形式や選択肢が異なっているため、平成27年度以前の調査結果を参考に記載する。

図7-4-2 スポーツをする頻度一過去の調査結果

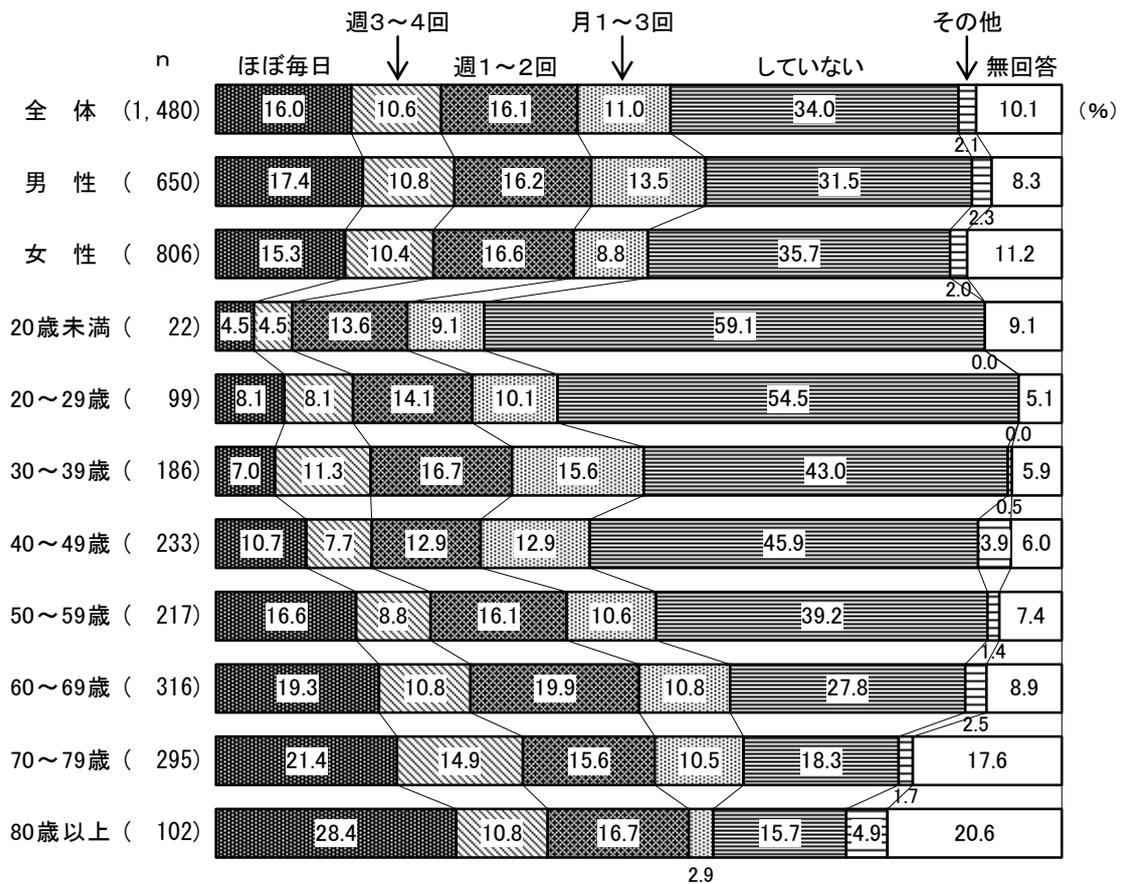


【属性別】①健康管理

①健康管理について性別で見ると、男性では『している』(57.9%)が女性(51.1%)より6.8ポイント高くなっている。一方、女性では「していない」(35.7%)が男性(31.5%)より4.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、60～79歳では『している』が6割台と高くなっている。70～80歳以上では「ほぼ毎日」が2割台と高くなっている。20歳未満～29歳では「していない」が5割台と高くなっている。

図7-4-3 スポーツをする目的・頻度 ①健康管理—性別、年齢別

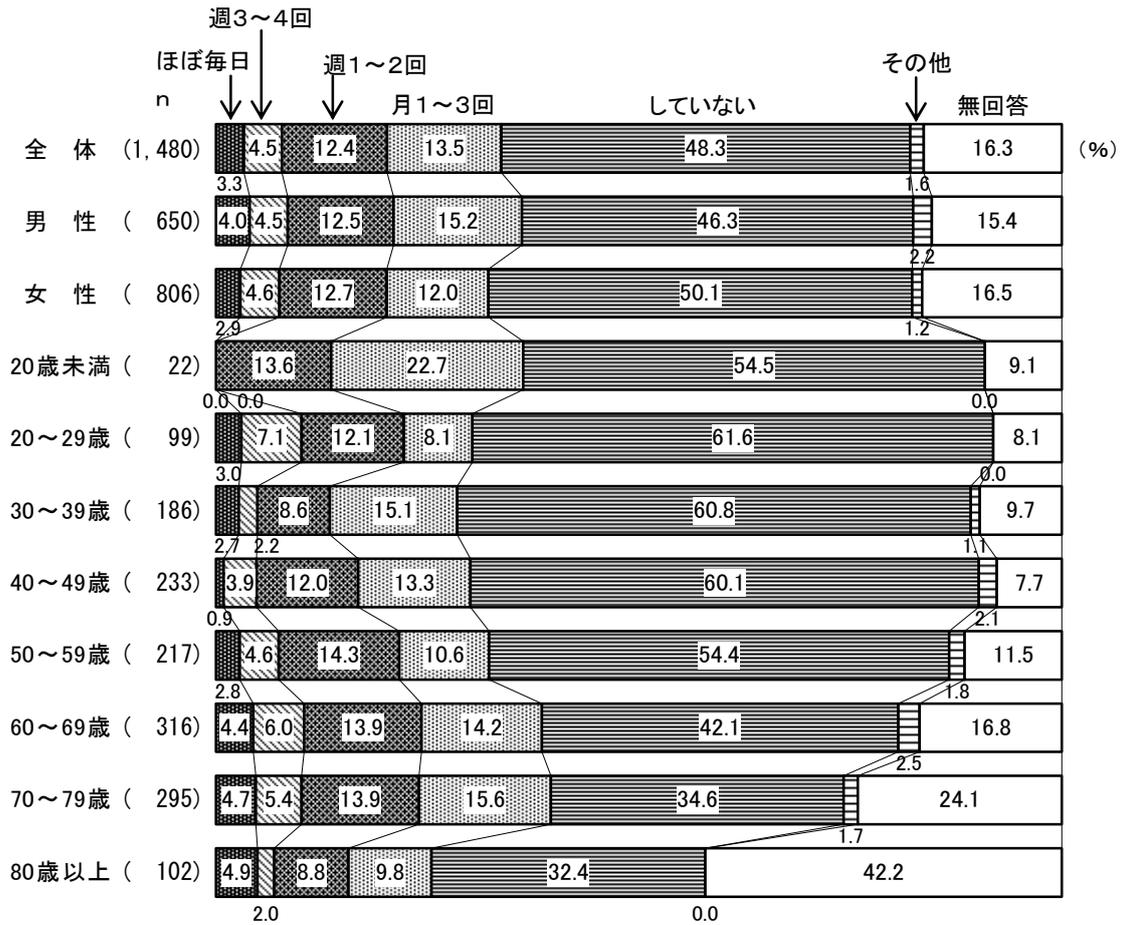


【属性別】②趣味・習い事

②趣味・習い事について性別で見ると、男性では『している』(36.2%)が女性(32.2%)より4.0ポイント高くなっている。一方、女性では「していない」(50.1%)が男性(46.3%)より3.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、60～79歳では『している』が3割台後半と高くなっている。20～49歳では「していない」が6割台と高くなっている。

図7-4-4 スポーツをする目的・頻度 ②趣味・習い事—性別、年齢別

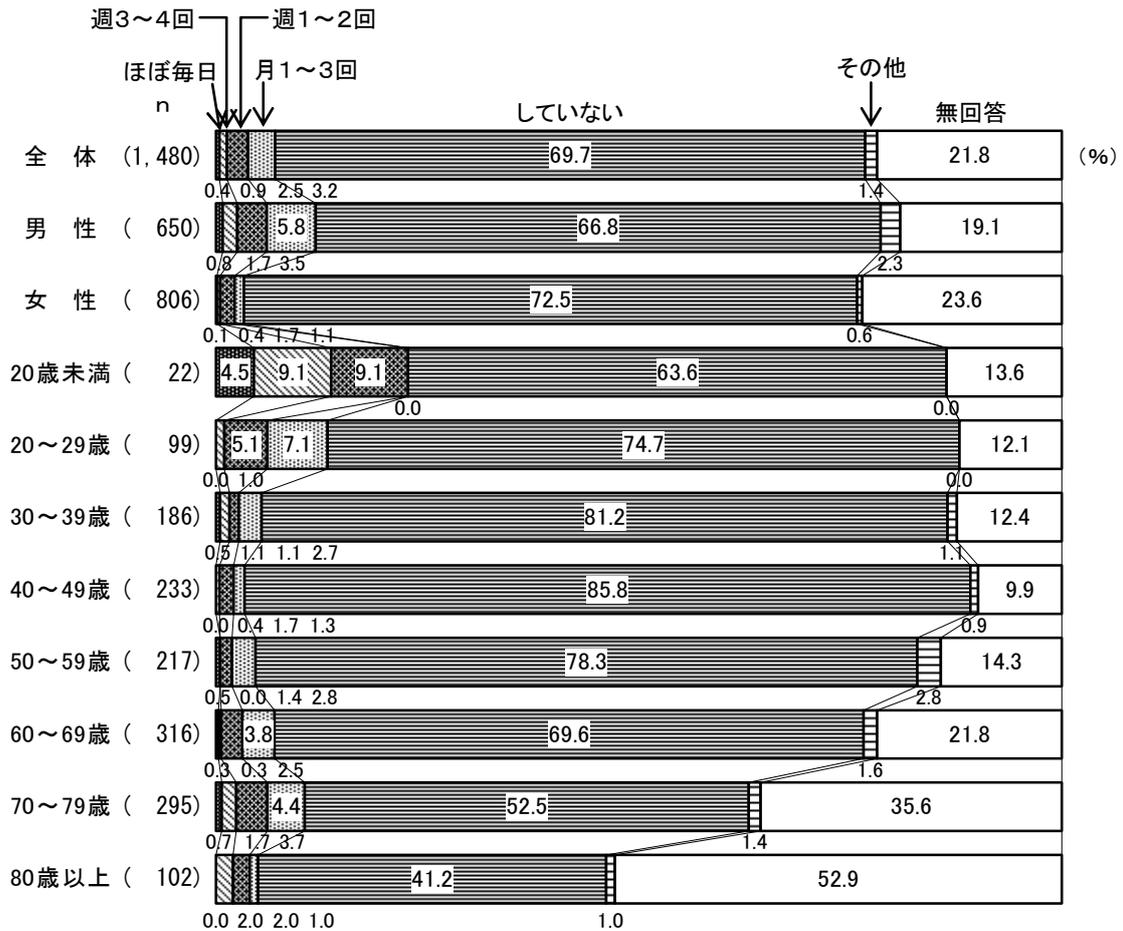


【属性別】③競技

③競技について性別で見ると、男性では『している』(11.8%)が女性(3.3%)より8.5ポイント高くなっている。一方、女性では「していない」(72.5%)が男性(66.8%)より5.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳未満では『している』(22.7%)が2割半ば近くと高くなっている。

図7-4-5 スポーツをする目的・頻度 ③競技—性別、年齢別

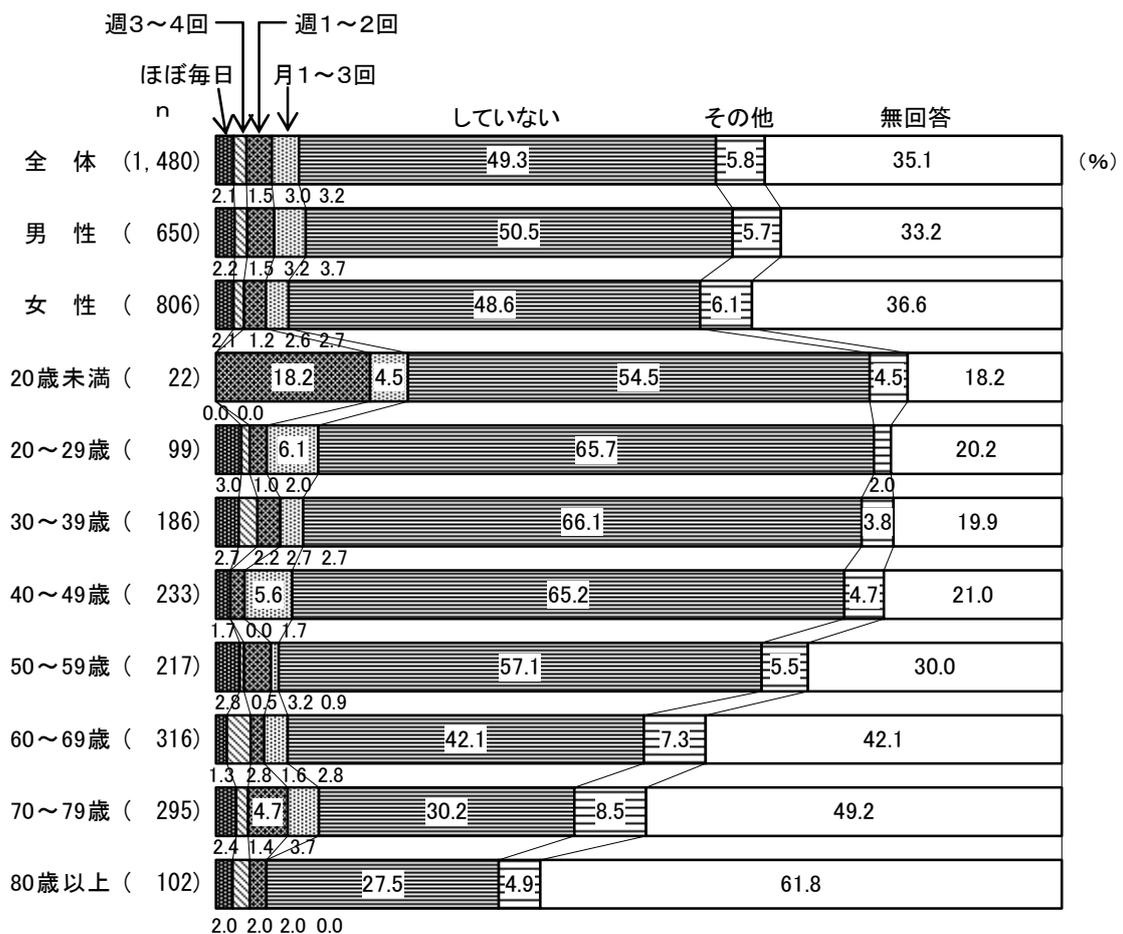


【属性別】④ ①～③以外の目的

④ ①～③以外の目的について性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、20歳未満では『している』(22.7%)が2割半ば近くと高くなっている。

図7-4-6 スポーツをする目的・頻度 ④ ①～③以外の目的-性別、年齢別

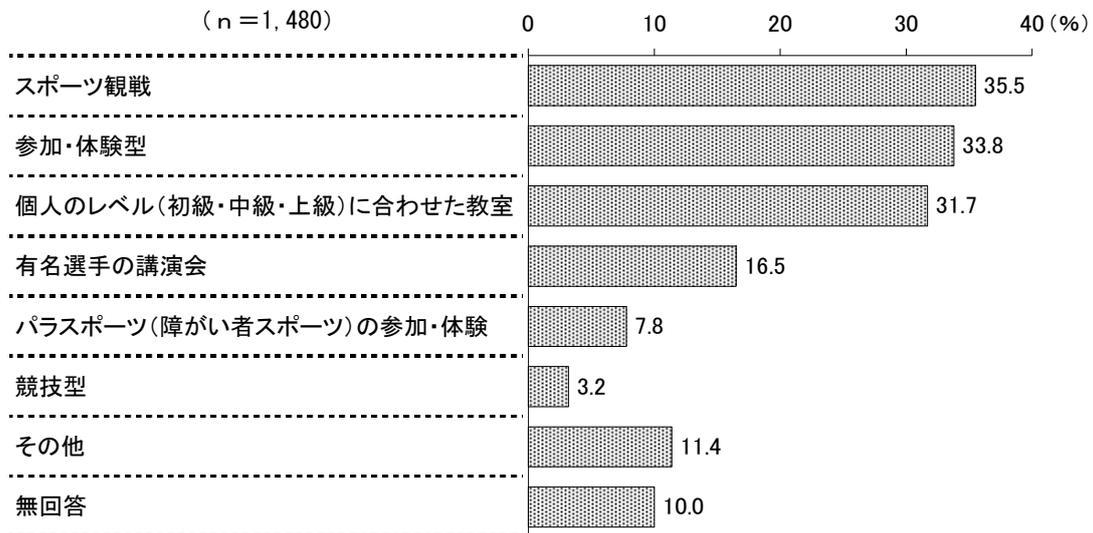


(5) 開催してほしいスポーツイベント (A: 問17)

問. 今後、どのようなスポーツイベントを開催してほしいですか。

(いくつでも選んでください)

図7-5-1 開催してほしいスポーツイベント



【全体】

開催してほしいスポーツイベントについて聞いたところ、「スポーツ観戦」(35.5%)が3割半ばで最も高く、次いで「参加・体験型」(33.8%)、「個人のレベル(初級・中級・上級)に合わせた教室」(31.7%)、「有名選手の講演会」(16.5%)、「パラスポーツ(障がい者スポーツ)の参加・体験」(7.8%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、質問文及び選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

表7-5-1 開催してほしいスポーツイベントー経年変化（上位5項目）

(%)

順位	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=814)	平成21年度 (n=1,610)	平成19年度 (n=1,506)
1	スポーツ観戦 35.5	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 28.9	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 24.1	参加型の大会 やイベント 24.4	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 22.5	初心者を対象 としたスポー ツ大会やイベ ント 20.2
2	参加・体験型 33.8	参加型の大会 やイベント 25.9	参加型の大会 やイベント 18.1	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 22.5	参加型の大会 やイベント 18.8	有名スポーツ 選手を招いて 行うスポーツ に関する講演 やスポーツ教 室、イベント 16.1
3	個人のレベル (初級・中級・ 上級)に合わ せた教室 31.7	公民館で 実施する各種 スポーツイベ ントやスポー ツ教室 20.3	公民館で 実施する各種 スポーツイベ ントやスポー ツ教室 16.6	有名スポーツ 選手を招いて の講演会やス ポーツ教室、 イベント 18.8	有名スポーツ 選手を招いて の講演会やス ポーツ教室、 イベント 18.3	公民館で実施 する各種ス ポーツイベ ントやスポー ツ教室 12.4
4	有名選手の 講演会 16.5	有名スポーツ 選手を招いて の講演会やス ポーツ教室、 イベント 19.9	有名スポーツ 選手を招いて の講演会やス ポーツ教室、 イベント 13.3	公民館で 実施する各種 スポーツイベ ントやスポー ツ教室 15.0	公民館で 実施する各種 スポーツイベ ントやスポー ツ教室 14.2	勝敗を競うこ とを主な目的 としない大会 やイベント 10.5
5	パラスポーツ (障がい者ス ポーツ)の 参加・体験 7.8	順位を競う大 会やイベント 6.6	順位を競う大 会やイベント 4.0	順位を競う大 会やイベント 4.3	順位を競う大 会やイベント 4.5	勝敗を競うこ とを主な目的 とした大会や イベント 6.8

(注) 平成27年度調査以前では、「今後、参加してみたいと思うスポーツイベントは何ですか。」(複数回答)と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「スポーツ観戦」(41.2%)が女性(31.4%)より9.8ポイント高くなっている。一方、女性では「個人のレベル(初級・中級・上級)に合わせた教室」(36.0%)が男性(25.7%)より10.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳未満では「スポーツ観戦」(63.6%)が6割半ば近くと高くなっている。30～39歳と50～59歳では「参加・体験型」が4割を超えて高くなっている。

表7-5-2 開催してほしいスポーツイベントー性別、年齢別

		(%)								
		n	スポーツ観戦	参加・体験型	個人のレベル(初級・中級・上級)に合わせた教室	有名選手の講演会	パラスポーツ(障がい者スポーツ)の参加・体験	競技型	その他	無回答
全 体		1,480	35.5	33.8	31.7	16.5	7.8	3.2	11.4	10.0
性別	男 性	650	41.2	32.8	25.7	18.3	8.2	5.1	12.6	8.8
	女 性	806	31.4	33.9	36.0	15.3	7.6	1.7	10.5	10.9
年齢別	20歳未満	22	63.6	36.4	27.3	18.2	18.2	13.6	-	4.5
	20～29歳	99	37.4	36.4	35.4	21.2	5.1	5.1	10.1	2.0
	30～39歳	186	43.5	41.9	36.0	22.0	12.4	5.9	5.9	3.8
	40～49歳	233	39.1	35.2	27.0	19.3	9.0	3.4	12.4	3.4
	50～59歳	217	41.9	41.0	29.5	19.8	9.2	2.8	10.6	7.8
	60～69歳	316	34.2	32.9	34.5	12.3	7.0	2.2	11.4	10.4
	70～79歳	295	28.1	27.1	33.6	12.2	5.1	1.7	13.6	18.0
	80歳以上	102	17.6	16.7	20.6	12.7	4.9	2.0	19.6	25.5

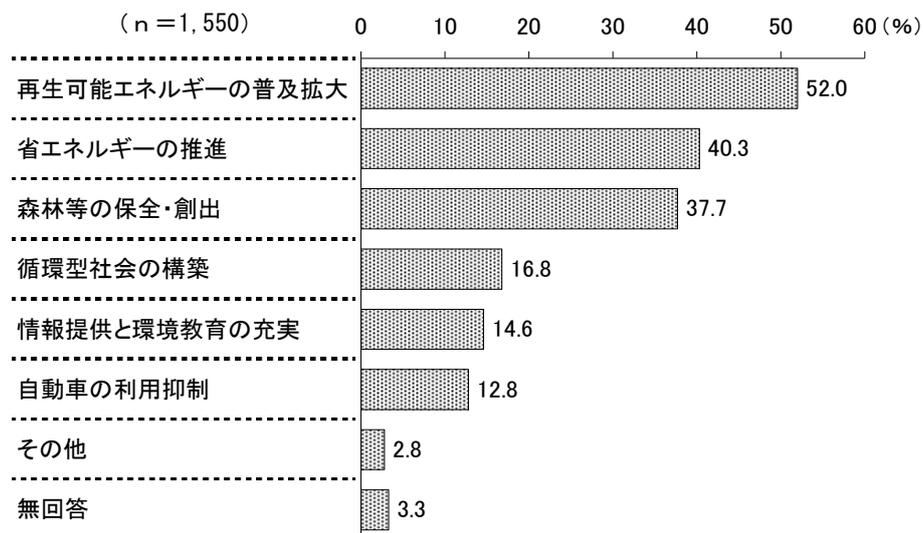
8 環境

(1) 地球温暖化防止への取組 (B:問10)

問. 地球温暖化防止には、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください)

図8-1-1 地球温暖化防止への取組



【全体】

地球温暖化防止への取組について聞いたところ、「再生可能エネルギーの普及拡大」(52.0%)が5割を超えて最も高く、次いで「省エネルギーの推進」(40.3%)、「森林等の保全・創出」(37.7%)、「循環型社会の構築」(16.8%)、「情報提供と環境教育の充実」(14.6%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

表8-1-1 地球温暖化防止への取組—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	平成29年度 (n=1,550)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)	平成19年度 (n=1,500)	平成17年度 (n=1,002)
1	再生可能エネルギーの普及拡大 52.0	各家庭や企業における省エネルギーの推進 67.3	各家庭や企業における省エネルギーの推進 70.1	各家庭や企業における省エネルギーの推進 78.4	各家庭や企業における省エネルギーの推進 81.6	各家庭や企業における省エネルギーの推進 80.8	各家庭や企業における省エネルギーの推進 79.5
2	省エネルギーの推進 40.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 36.5	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 47.7	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 46.9	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 50.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 48.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 49.8
3	森林等の保全・創出 37.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 23.8	行政による地球温暖化防止のPR活動 22.4	行政による地球温暖化防止のPR活動 16.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 19.4	行政による地球温暖化防止のPR活動 21.6	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 23.5
4	循環型社会の構築 16.8	行政による地球温暖化防止のPR活動 23.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 18.5	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 13.7	行政による地球温暖化防止のPR活動 15.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 19.5	行政による地球温暖化防止のPR活動 21.7
5	情報提供と環境教育の充実 14.6						

(注) 平成27年度調査以前では、表8-1-1に示した4つの選択肢と「その他」の合計5つの選択肢で質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「再生可能エネルギーの普及拡大」(53.9%)が女性(50.5%)より3.4ポイント、「自動車の利用抑制」(14.5%)が女性(11.4%)より3.1ポイント高くなっている。一方、女性では「情報提供と環境教育の充実」(15.9%)が男性(12.9%)より3.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳未満では「再生可能エネルギーの普及拡大」(60.0%)が6割、「循環型社会の構築」(28.0%)が3割近くと高くなっている。80歳以上では「自動車の利用抑制」(20.5%)が約2割と高くなっている。

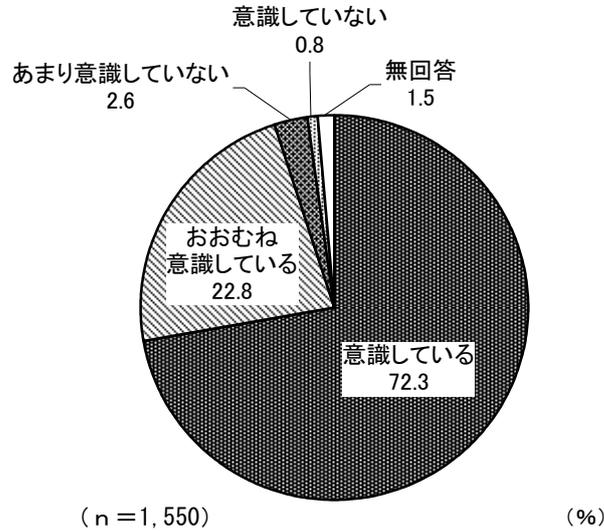
表8-1-2 地球温暖化防止への取組—性別、年齢別

			再生可能エネルギーの普及拡大	省エネルギーの推進	森林等の保全・創出	循環型社会の構築	情報提供と環境教育の充実	自動車の利用抑制	その他	無回答
全 体		1,550	52.0	40.3	37.7	16.8	14.6	12.8	2.8	3.3
性別	男 性	684	53.9	39.8	36.5	18.1	12.9	14.5	3.2	2.5
	女 性	839	50.5	41.1	38.7	15.5	15.9	11.4	2.3	3.8
年齢別	20歳未満	25	60.0	40.0	44.0	28.0	16.0	4.0	-	-
	20～29歳	108	57.4	38.9	38.9	14.8	13.0	13.9	2.8	1.9
	30～39歳	180	55.6	44.4	40.6	14.4	13.3	8.3	3.9	1.1
	40～49歳	263	48.7	44.5	38.0	15.6	13.7	12.9	3.8	2.7
	50～59歳	234	57.7	38.5	38.0	20.5	13.2	9.4	2.1	2.6
	60～69歳	330	52.7	38.8	37.3	20.6	15.2	11.8	2.7	2.1
	70～79歳	283	52.7	40.6	37.5	13.4	15.2	16.6	1.8	4.6
	80歳以上	112	33.9	33.9	31.3	10.7	17.9	20.5	3.6	11.6

(2) 資源とごみの分別 (B: 問11)

問. 資源とごみの分別を意識していますか。(1つだけ選んでください)

図8-2-1 資源とごみの分別



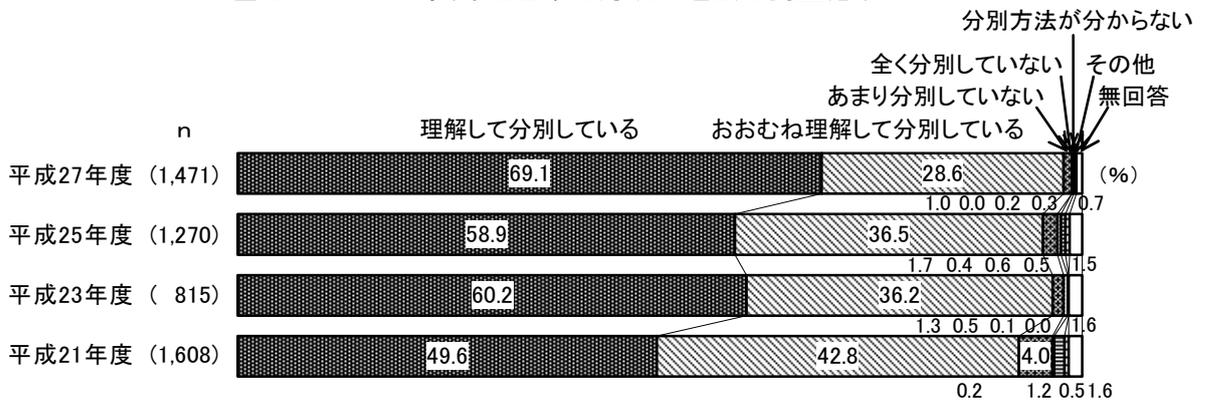
【全体】

資源とごみの分別の意識について聞いたところ、「意識している」(72.3%)と「おおむね意識している」(22.8%)の2つを合わせた『意識あり』(95.1%)が9割半ばと高くなっている。「あまり意識していない」(2.6%)と「意識していない」(0.8%)の2つを合わせた『意識なし』(3.4%)は1割未満となっている。

【経年変化】

平成27年度以前の調査では、「資源とごみの分別方法を理解し、積極的に分別しているか」について質問していた。質問文や選択肢が異なっているため、平成27年度以前の調査結果を参考に記載する。

図8-2-2 資源とごみの分別—過去の調査結果

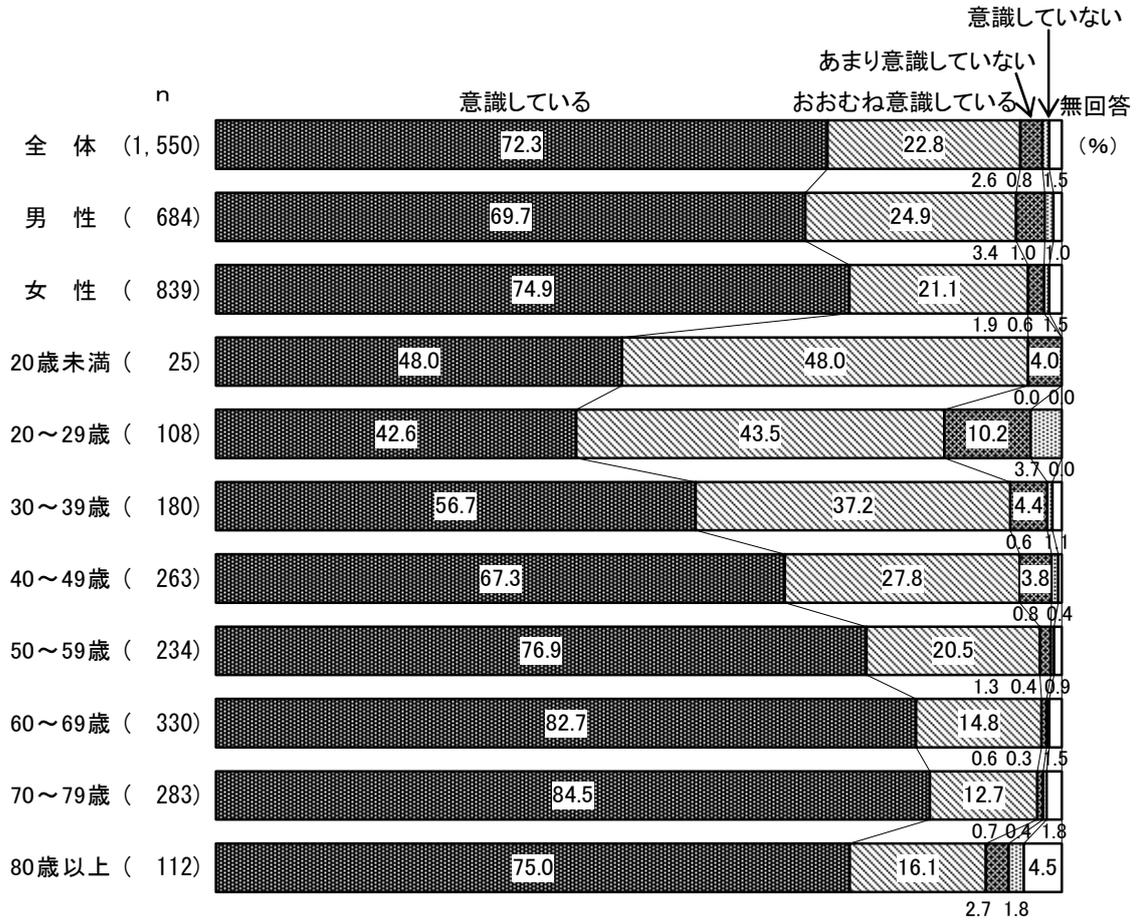


【属性別】

性別で見ると、女性では「意識している」(74.9%)が男性(69.7%)より5.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『意識あり』は20~29歳(86.1%)以外のすべての年代で9割台と高くなっている。60~79歳では「意識している」が8割台と高くなっている。

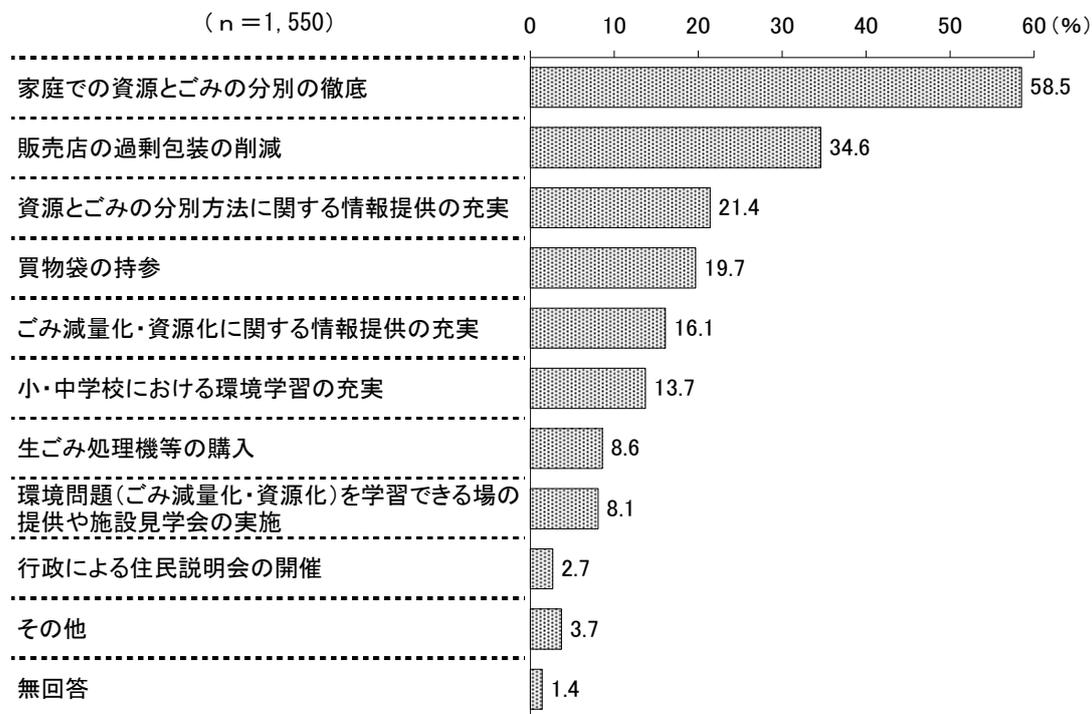
図8-2-3 資源とごみの分別—性別、年齢別



(3) ごみの減量化・資源化の推進 (B:問12)

問. ごみの減量化・資源化を推進する上で、どのような取組が重要だと思いますか。
(2つまで選んでください)

図8-3-1 ごみの減量化・資源化の推進



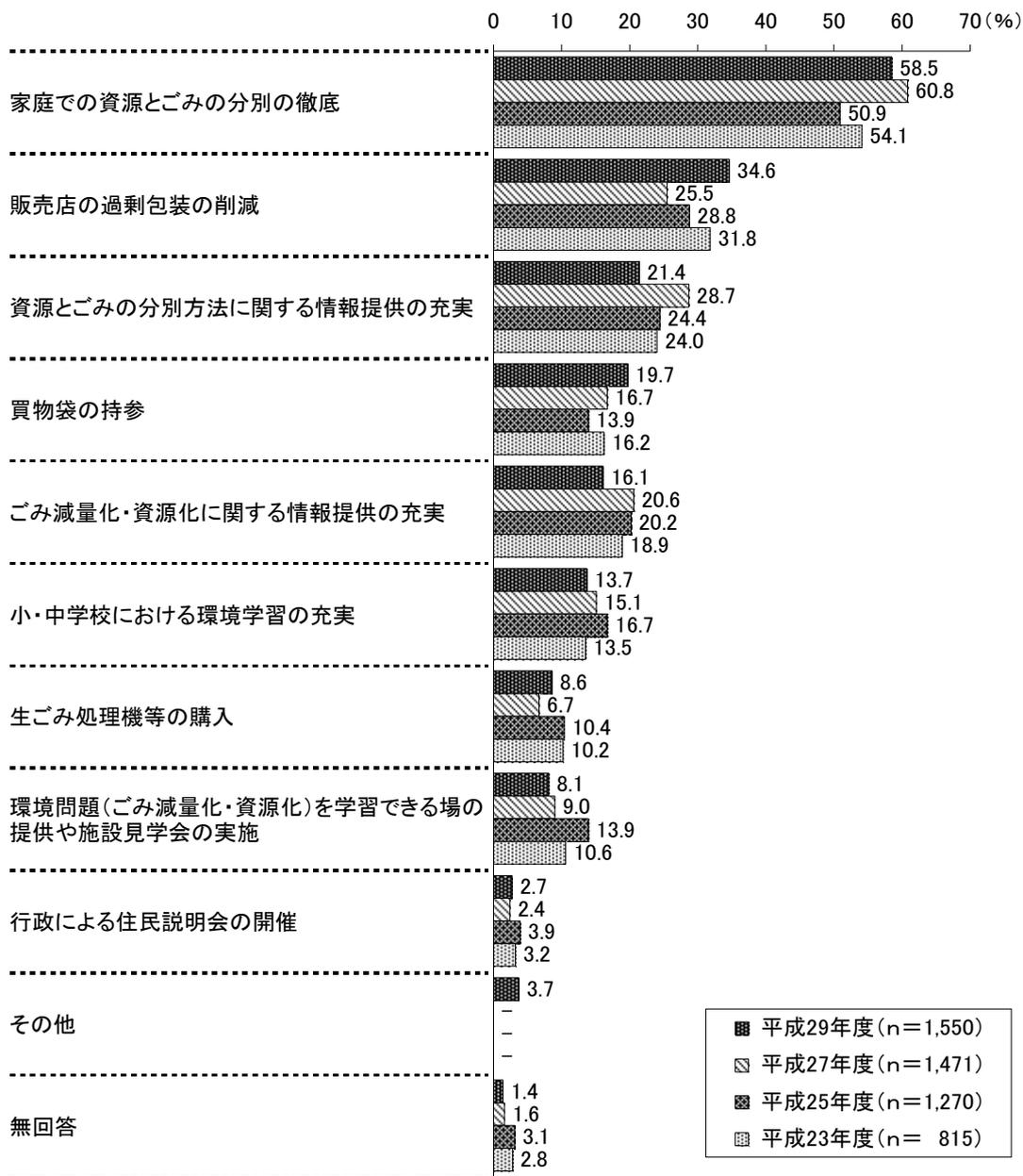
【全体】

ごみの減量化・資源化の推進について聞いたところ、「家庭での資源とごみの分別の徹底」(58.5%)が6割近くで最も高く、次いで「販売店の過剰包装の削減」(34.6%)、「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(21.4%)、「買物袋の持参」(19.7%)、「ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実」(16.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「販売店の過剰包装の削減」(34.6%)は平成27年度調査(25.5%)より9.1ポイント、「買物袋の持参」(19.7%)は平成27年度調査(16.7%)より3.0ポイント増加している。一方、「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(21.4%)は平成27年度調査(28.7%)より7.3ポイント、「ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実」(16.1%)は平成27年度調査(20.6%)より4.5ポイント減少している。

図8-3-2 ごみの減量化・資源化の推進—経年変化



(注) 平成29年度調査では、「その他」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「買物袋の持参」（24.8％）が男性（13.9％）より10.9ポイント高くなっている。一方、男性では「小・中学校における環境学習の充実」（15.9％）が女性（12.0％）より3.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳未満と70～79歳では「家庭での資源とごみの分別の徹底」が6割台後半、「買物袋の持参」が3割近くと高くなっている。30～39歳では「販売店の過剰包装の削減」（46.1％）が4割半ばを超え高くなっている。

表8-3-1 ごみの減量化・資源化の推進—性別、年齢別

(%)

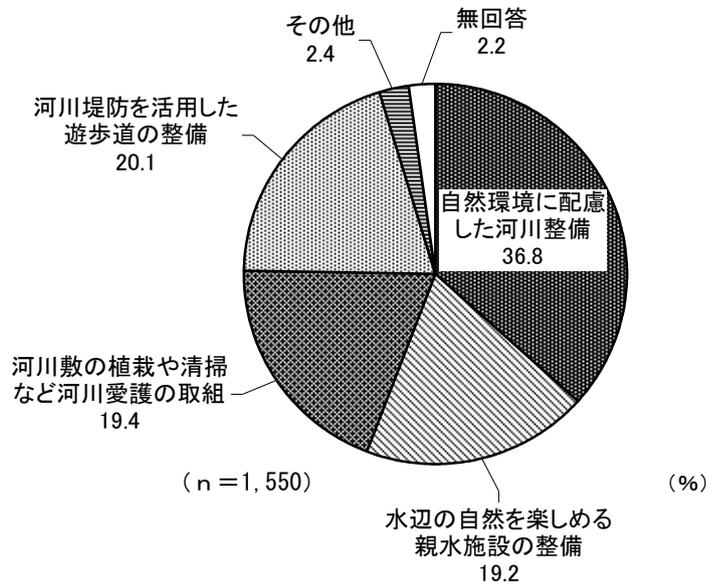
		n	家庭での資源とごみの分別の徹底	販売店の過剰包装の削減	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	買物袋の持参	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	小・中学校における環境学習の充実	生ごみ処理機等の購入	環境問題（ごみ減量化・資源化）を学習できる場の実施	行政による住民説明会の開催	その他	無回答
全 体		1,550	58.5	34.6	21.4	19.7	16.1	13.7	8.6	8.1	2.7	3.7	1.4
性別	男 性	684	57.3	33.0	23.0	13.9	17.1	15.9	9.6	9.4	4.1	4.5	1.2
	女 性	839	59.5	35.9	20.3	24.8	15.6	12.0	7.7	7.0	1.5	2.9	1.2
年齢別	20歳未満	25	68.0	20.0	24.0	28.0	16.0	16.0	16.0	4.0	-	-	-
	20～29歳	108	43.5	37.0	25.0	22.2	17.6	17.6	7.4	8.3	0.9	4.6	-
	30～39歳	180	47.8	46.1	24.4	17.8	11.1	17.2	13.9	6.7	0.6	4.4	-
	40～49歳	263	50.6	36.5	22.1	16.7	19.0	12.9	10.3	7.2	1.1	6.5	1.1
	50～59歳	234	58.5	34.6	23.9	14.1	14.1	17.1	7.7	13.7	1.7	3.4	1.3
	60～69歳	330	63.3	34.5	20.6	20.0	15.5	13.6	6.7	7.9	1.8	3.6	1.2
	70～79歳	283	69.3	26.9	17.3	26.9	17.3	12.4	6.4	6.4	5.7	1.4	1.8
80歳以上	112	64.3	31.3	18.8	19.6	18.8	3.6	9.8	5.4	9.8	3.6	3.6	

(4) 河川整備への取組 (B: 問13)

問. 厚木市内の河川整備について、どのような取組が必要であると思いますか。

(1つだけ選んでください)

図8-4-1 河川整備への取組



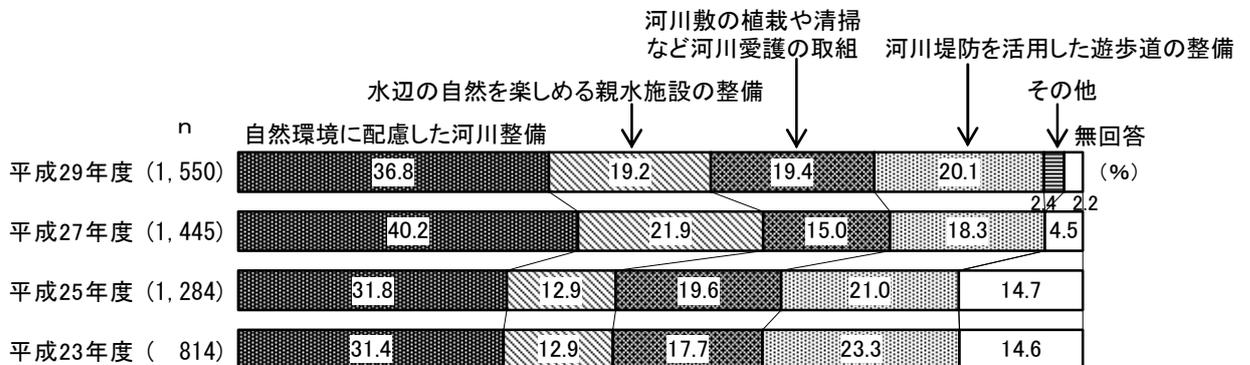
【全体】

河川整備への取組について聞いたところ、「自然環境に配慮した河川整備」(36.8%)が3割半ばを超えて最も高く、次いで「河川堤防を活用した遊歩道の整備」(20.1%)、「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」(19.4%)、「水辺の自然を楽しむる親水施設の整備」(19.2%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、一部の選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

図8-4-2 河川整備への取組—経年変化



(注1) 「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」は、平成27年度調査以前では「河川敷に植栽をしたり清掃をしたりするなど河川愛護の取組」としていた。

(注2) 平成29年度調査では、「その他」の選択肢を追加している。

(注3) 平成25年度調査以前では、「河川環境の整備がされていると感じることは何ですか。」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「河川堤防を活用した遊歩道の整備」(22.1%)が女性(18.6%)より3.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、80歳以上では「自然環境に配慮した河川整備」(43.8%)が4割半ば近くで高くなっている。20歳未満では「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」(28.0%)が3割近くと高くなっている。30～39歳では「水辺の自然を楽しめる親水施設の整備」(30.0%)が3割と高くなっている。

図8-4-3 河川整備への取組一性別、年齢別

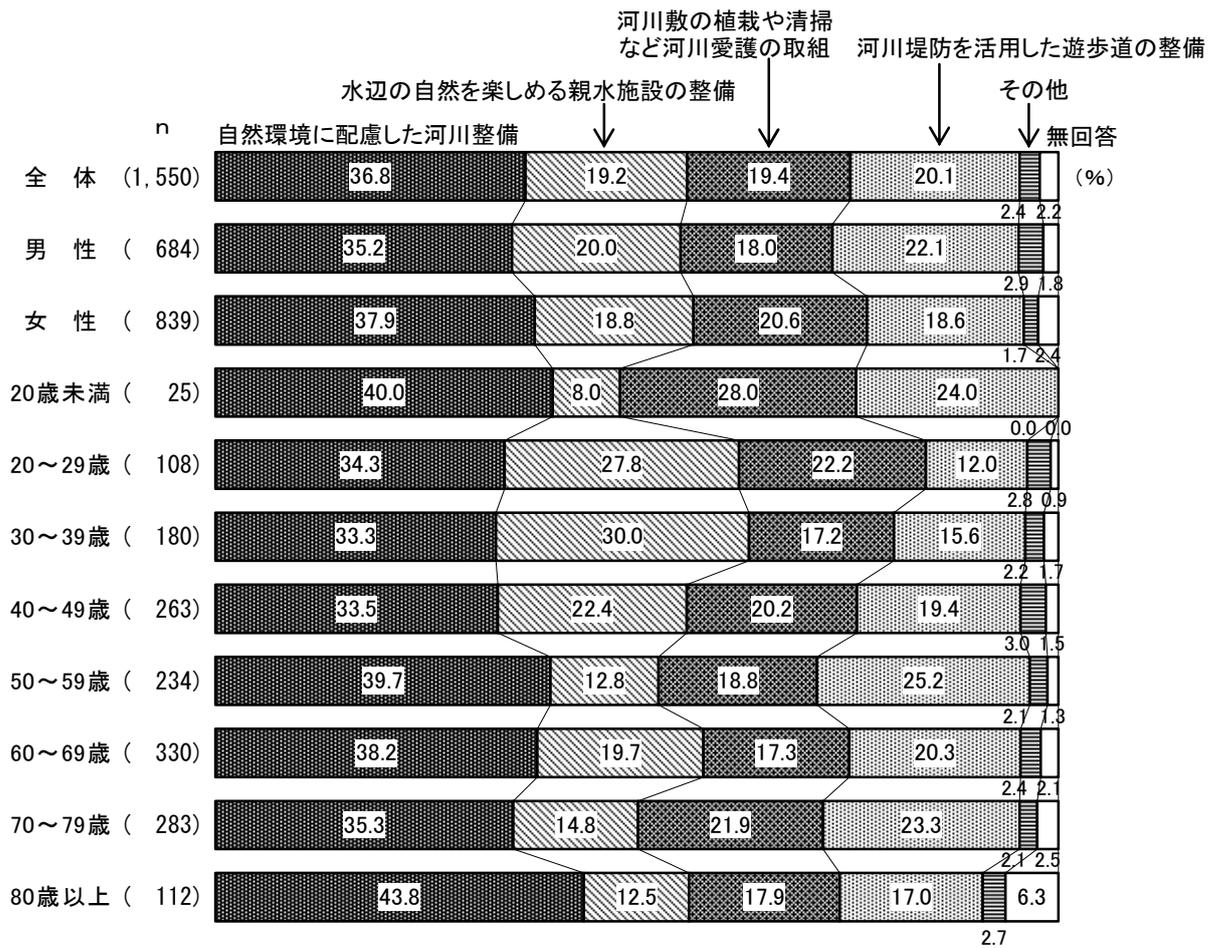
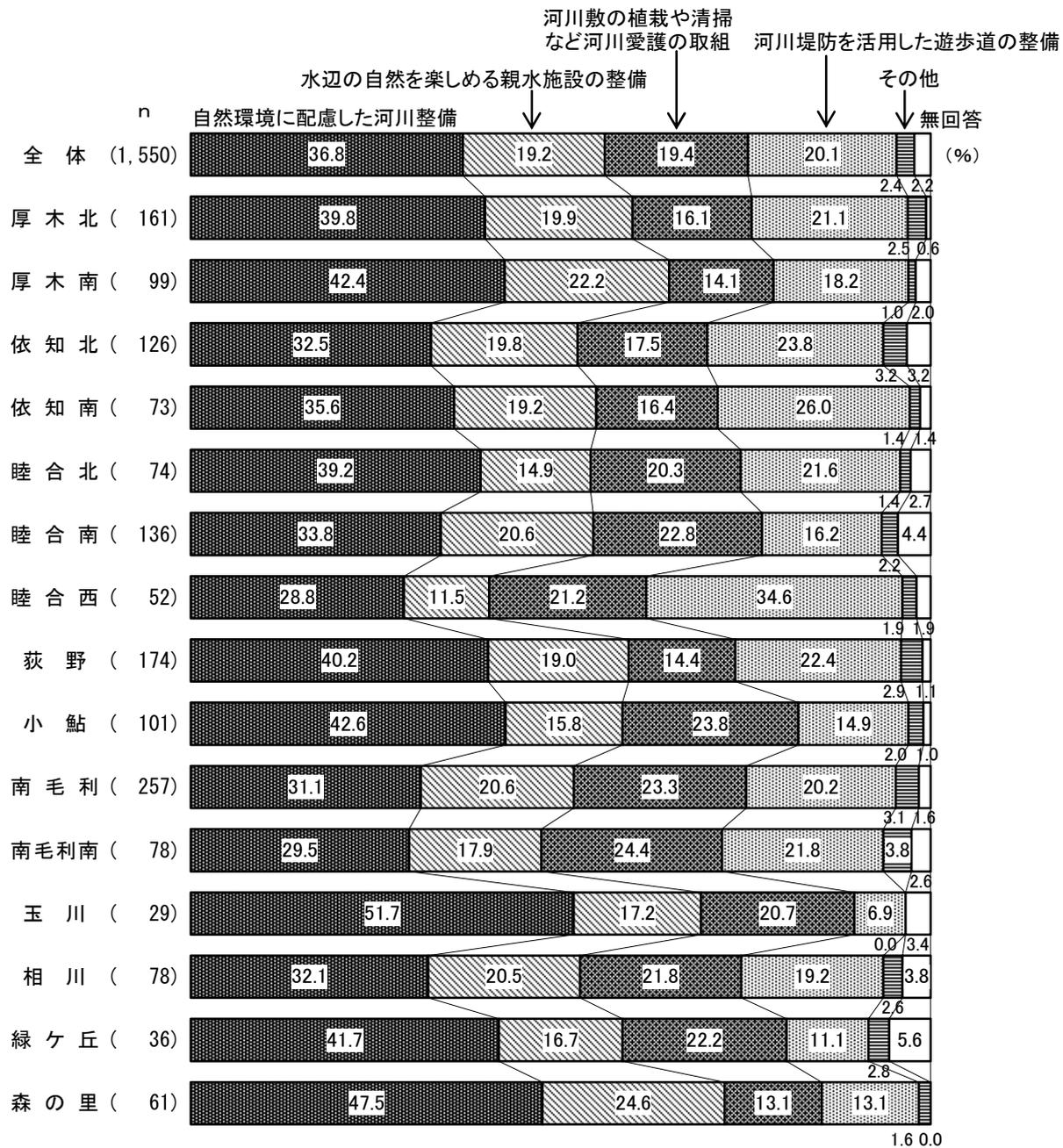


図8-4-4 河川整備への取組—居住地区別



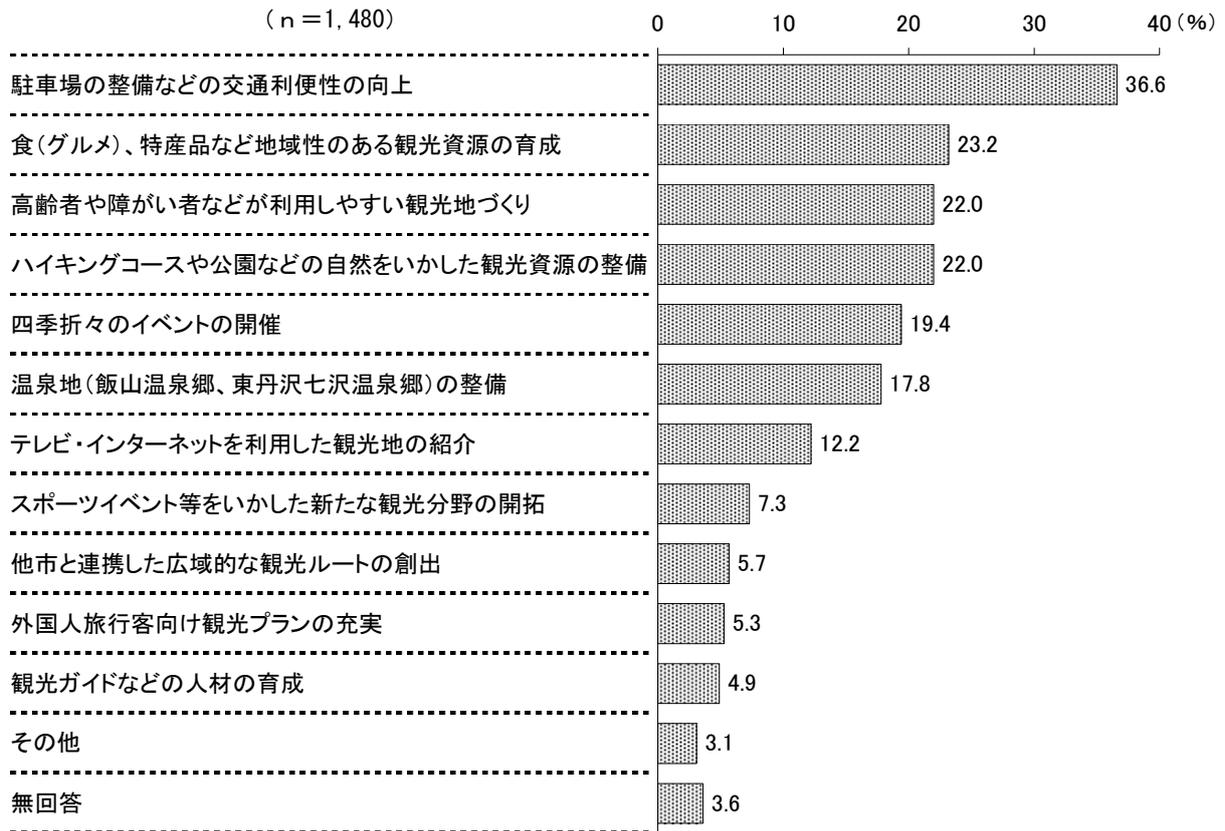
9 観光

(1) 観光の活性化への取組 (A: 問18)

問. 厚木市の観光の活性化には、どのような取組が重要であると思いますか。

(2つまで選んでください)

図9-1-1 観光の活性化への取組



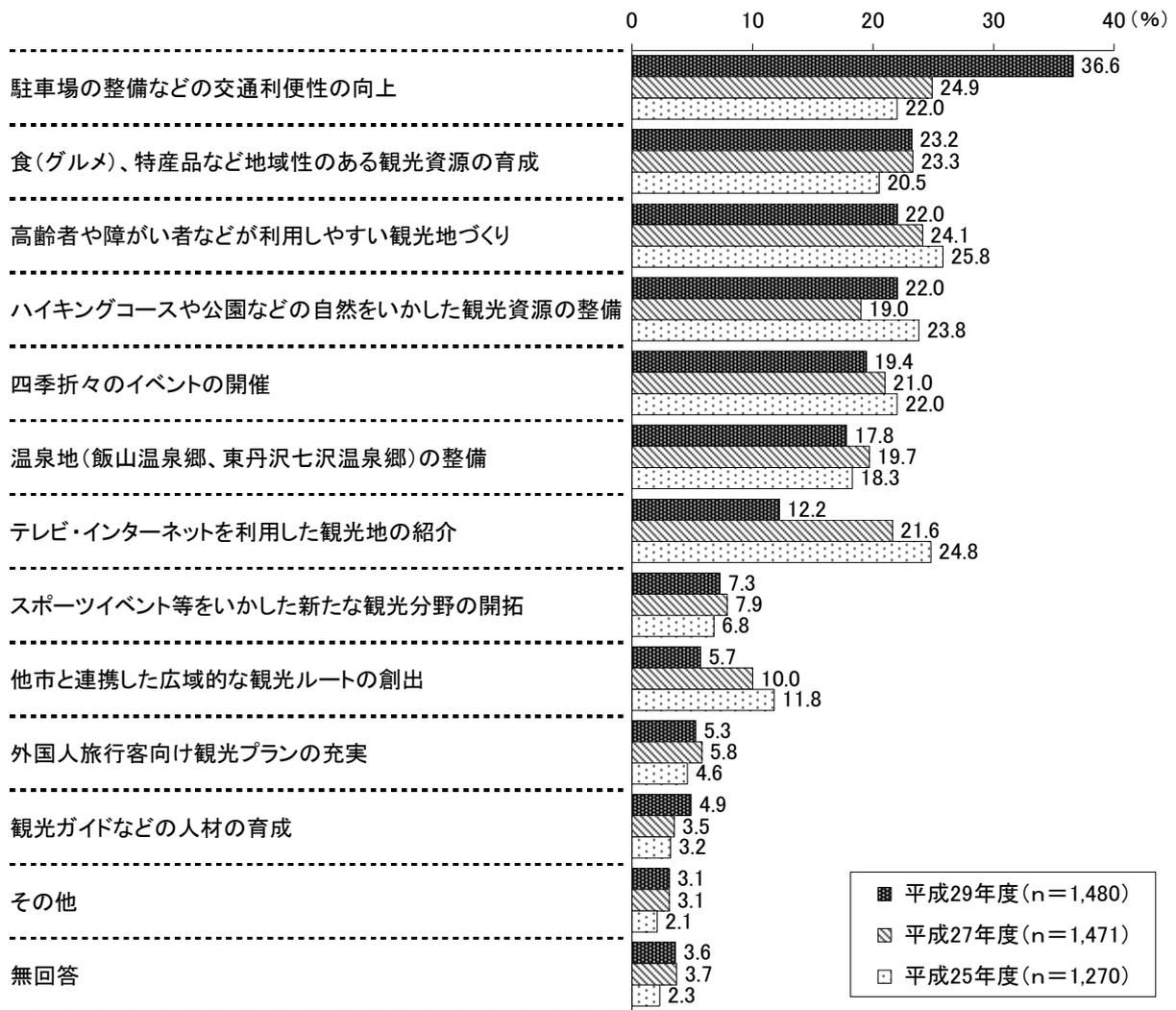
【全体】

観光の活性化への取組について聞いたところ、「駐車場の整備などの交通利便性の向上」(36.6%)が3割半ばを超えて最も高く、次いで「食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成」(23.2%)、「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」(22.0%)、「ハイキングコースや公園などの自然をいかした観光資源の整備」(22.0%)、「四季折々のイベントの開催」(19.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「駐車場の整備などの交通利便性の向上」(36.6%)は平成27年度調査(24.9%)より11.7ポイント、「ハイキングコースや公園などの自然をいかした観光資源の整備」(22.0%)は平成27年度調査(19.0%)より3.0ポイント増加している。一方、「テレビ・インターネットを利用した観光地の紹介」(12.2%)は平成27年度調査(21.6%)より9.4ポイント、「他市と連携した広域的な観光ルートの創出」(5.7%)は平成27年度調査(10.0%)より4.3ポイント減少している。

図9-1-2 観光の活性化への取組—経年変化



【属性別】

性別で見ると、女性では「四季折々のイベントの開催」(21.5%)が男性(16.8%)より4.7ポイント、「駐車場の整備などの交通利便性の向上」(38.6%)が男性(34.3%)より4.3ポイント高くなっている。一方、男性では「温泉地(飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷)の整備」(21.4%)が女性(15.3%)より6.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～29歳では「食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成」(35.4%)が3割半ば、「温泉地(飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷)の整備」(32.3%)が3割を超えて高くなっている。80歳以上では「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」(43.1%)が4割半ば近くと高くなっている。60～69歳では「ハイキングコースや公園などの自然をいかした観光資源の整備」(30.1%)が約3割と高くなっている。20歳未満では「四季折々のイベントの開催」(36.4%)が3割半ばを超え、「テレビ・インターネットを利用した観光地の紹介」(27.3%)が2割半ばを超えて高くなっている。

表9-1-1 観光の活性化への取組—性別、年齢別

		n	駐車場の整備などの交通利便性の向上	食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成	高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり	自然をいかした観光資源の整備	ハイキングコースや公園などの整備	四季折々のイベントの開催	温泉地(飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷)の整備	テレビ・インターネットを利用した観光地の紹介	新たな観光分野の開拓	スポーツイベント等をいかした観光地の創出	他市と連携した広域的な観光	外国人旅行者向け観光プランの充実	観光ガイドなどの人材の育成	その他	無回答
全体		1,480	36.6	23.2	22.0	22.0	19.4	17.8	12.2	7.3	5.7	5.3	4.9	3.1	3.6		
性別	男性	650	34.3	24.0	20.6	23.7	16.8	21.4	11.7	9.2	5.5	5.8	5.5	4.0	2.6		
	女性	806	38.6	22.8	22.8	20.6	21.5	15.3	12.2	5.7	6.0	4.8	4.5	2.2	4.5		
年齢別	20歳未満	22	36.4	18.2	18.2	9.1	36.4	18.2	27.3	-	-	13.6	9.1	-	-		
	20～29歳	99	42.4	35.4	7.1	12.1	16.2	32.3	20.2	7.1	5.1	5.1	3.0	2.0	-		
	30～39歳	186	41.9	28.0	10.2	19.9	21.0	20.4	12.9	9.1	9.1	7.5	2.7	1.6	1.1		
	40～49歳	233	38.6	26.2	15.0	18.9	23.6	24.0	14.6	7.3	5.2	6.0	2.1	4.3	0.9		
	50～59歳	217	38.2	25.8	16.6	23.5	18.9	20.7	14.7	7.8	6.5	6.9	4.1	2.8	1.8		
	60～69歳	316	35.8	21.2	26.3	30.1	17.7	10.4	9.2	9.2	6.0	2.2	5.1	3.5	4.1		
	70～79歳	295	33.6	16.3	31.9	23.1	18.0	12.2	9.2	6.4	4.7	4.7	8.5	3.1	7.5		
	80歳以上	102	25.5	18.6	43.1	13.7	16.7	18.6	5.9	2.0	2.9	5.9	6.9	4.9	9.8		

10 まちづくり

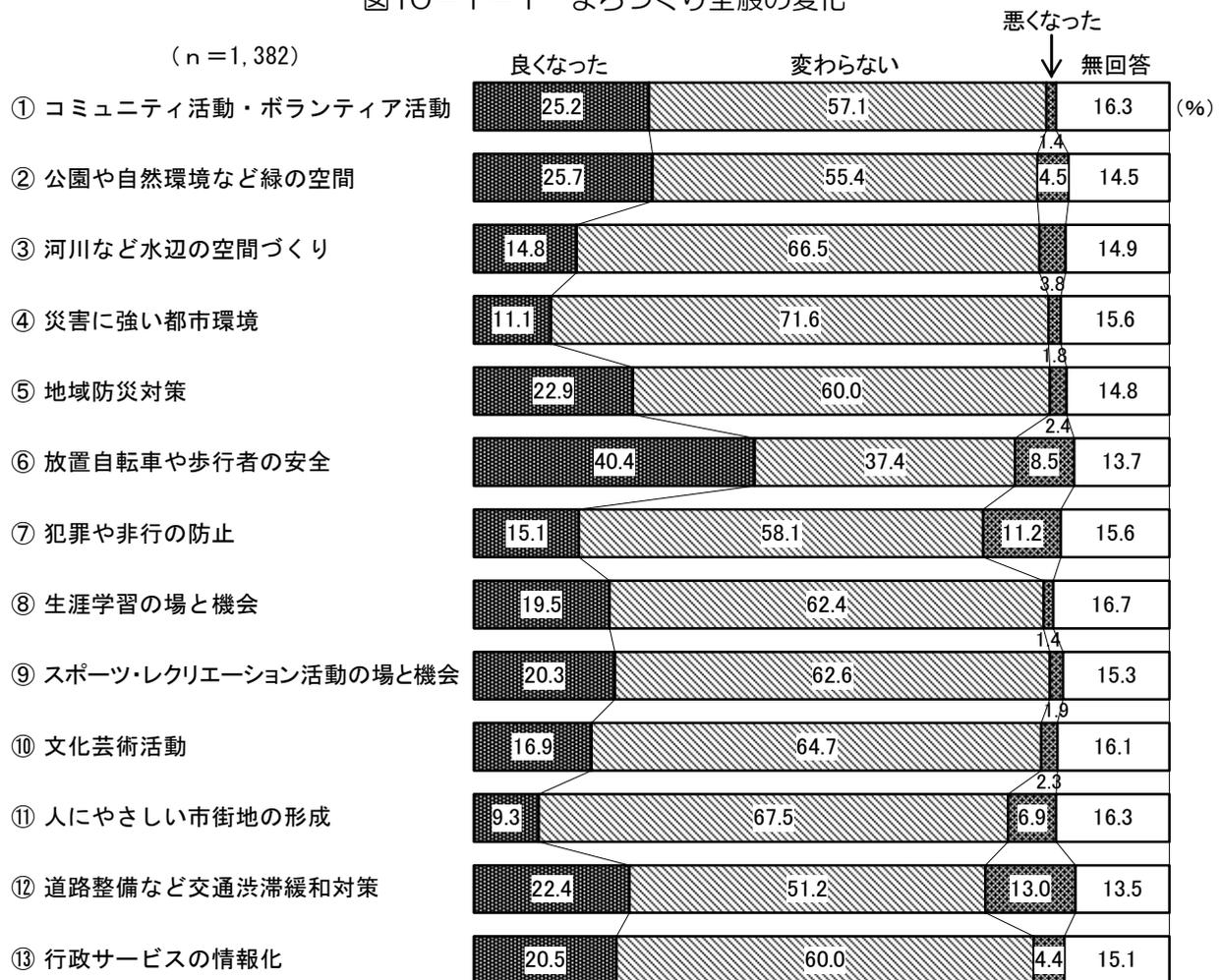
(1) まちづくり全般の変化 (B:問14)

問. まちづくり全般の変化について、おおむね5年前と比べてどう感じますか。

転入されて5年未満の方は、次の設問へお進みください。

(①~⑬について、それぞれ該当するものを1つ選んでください)

図10-1-1 まちづくり全般の変化



【全体】

厚木市内に5年以上住んでいると答えた1,382人に、5年前と比べたまちづくり全般の変化について13項目に分けて聞いたところ、「良くなった」が最も高いのは「⑥放置自転車や歩行者の安全」（40.4%）で約4割となっており、次いで「②公園や自然環境など緑の空間」（25.7%）、「①コミュニティ活動・ボランティア活動」（25.2%）、「⑤地域防災対策」（22.9%）、「⑫道路整備など交通渋滞緩和対策」（22.4%）となっている。

一方、「悪くなった」が最も高いのは「⑫道路整備など交通渋滞緩和対策」（13.0%）と「⑦犯罪や非行の防止」（11.2%）でともに1割を超えており、次いで「⑥放置自転車や歩行者の安全」（8.5%）、「⑪人にやさしい市街地の形成」（6.9%）、「②公園や自然環境など緑の空間」（4.5%）となっている。

また、「変わらない」が最も高いのは「④災害に強い都市環境」（71.6%）で7割を超えており、次いで「⑪人にやさしい市街地の形成」（67.5%）、「③河川など水辺の空間づくり」（66.5%）、「⑩文化芸術活動」（64.7%）、「⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会」（62.6%）となっている。

表10-1-1 まちづくり全般の変化－良くなったもの、変わらないもの、悪くなったもの（上位5項目）

(n=1,382)

(%)

順位	良くなった		変わらない		悪くなった	
1	⑥放置自転車や歩行者の安全	40.4	④災害に強い都市環境	71.6	⑫道路整備など交通渋滞緩和対策	13.0
2	②公園や自然環境など緑の空間	25.7	⑪人にやさしい市街地の形成	67.5	⑦犯罪や非行の防止	11.2
3	①コミュニティ活動・ボランティア活動	25.2	③河川など水辺の空間づくり	66.5	⑥放置自転車や歩行者の安全	8.5
4	⑤地域防災対策	22.9	⑩文化芸術活動	64.7	⑪人にやさしい市街地の形成	6.9
5	⑫道路整備など交通渋滞緩和対策	22.4	⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会	62.6	②公園や自然環境など緑の空間	4.5

【経年変化】

平成29年度調査では、質問項目数が大幅に減少しているため、経年変化は掲載していない。

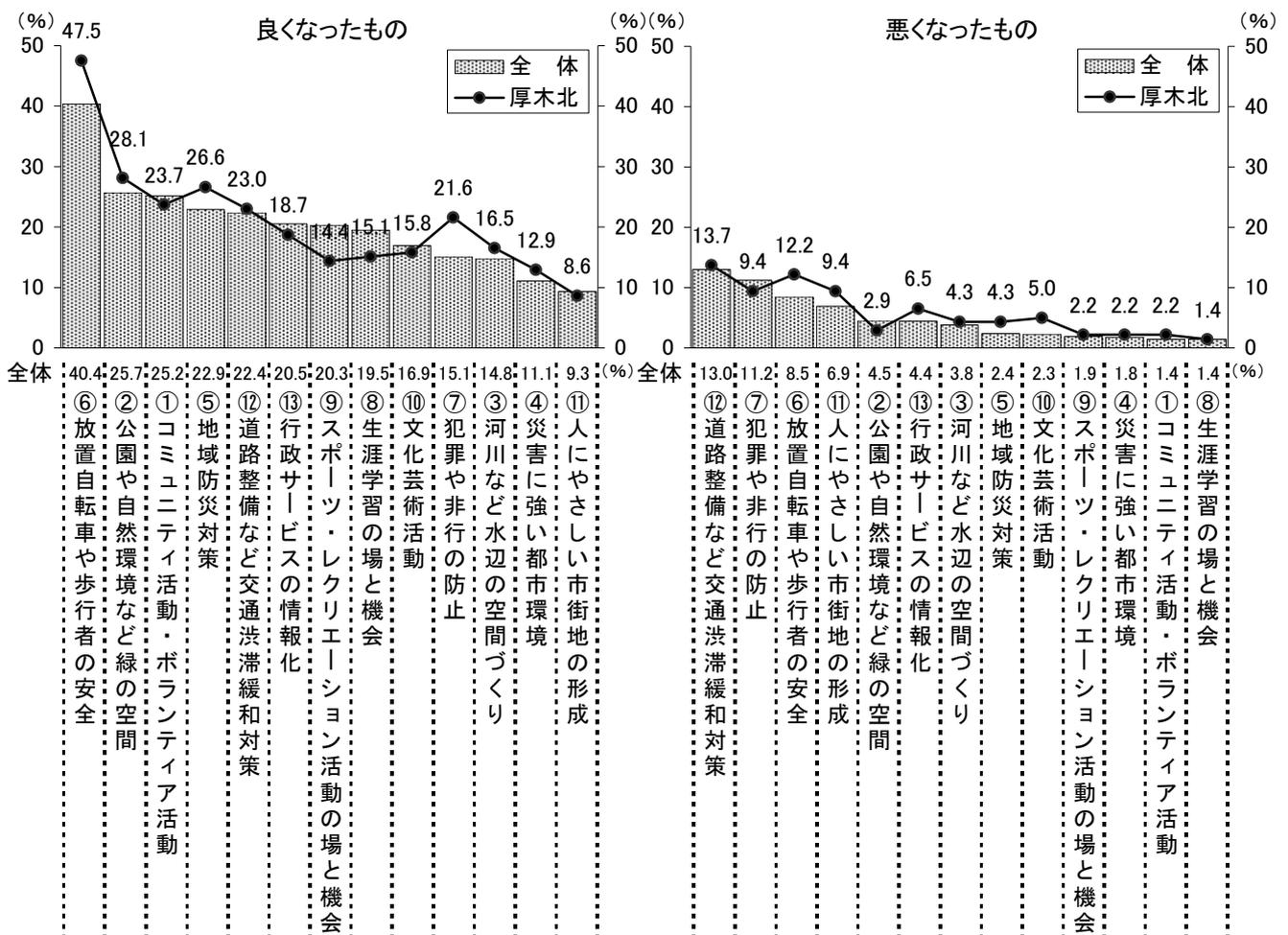
【地区ごとの傾向】

〔厚木北地区〕

「良くなったもの」では、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(47.5%)が全体(40.4%)と比べて7.1ポイント、「⑦犯罪や非行の防止」(21.6%)が全体(15.1%)と比べて6.5ポイント高くなっている。一方、「⑩スポーツ・レクリエーション活動の場と機会」(14.4%)が全体(20.3%)と比べて5.9ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(12.2%)が全体(8.5%)と比べて3.7ポイント高くなっている。

図10-1-2 まちづくり全般の変化—厚木北地区



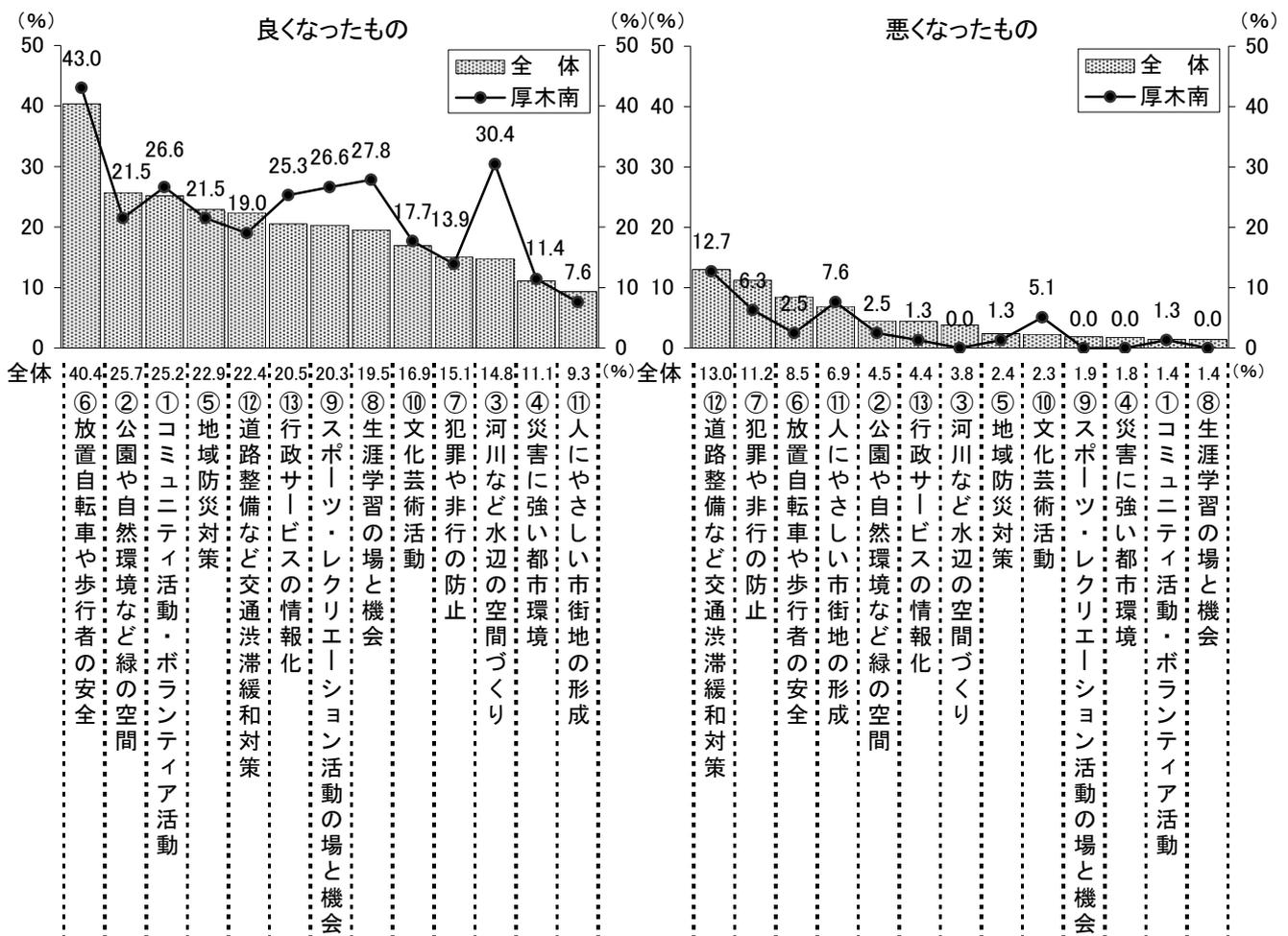
【地区ごとの傾向】

〔厚木南地区〕

「良くなったもの」では、「③河川など水辺の空間づくり」(30.4%)が全体(14.8%)と比べて15.6ポイント、「⑧生涯学習の場と機会」(27.8%)が全体(19.5%)と比べて8.3ポイント、「⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会」(26.6%)が全体(20.3%)と比べて6.3ポイント高くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(2.5%)が全体(8.5%)と比べて6.0ポイント、「⑦犯罪や非行の防止」(6.3%)が全体(11.2%)と比べて4.9ポイント、「③河川など水辺の空間づくり」(0.0%)が全体(3.8%)と比べて3.8ポイント、「⑬行政サービスの情報化」(1.3%)が全体(4.4%)と比べて3.1ポイント低くなっている。

図10-1-3 まちづくり全般の変化—厚木南地区



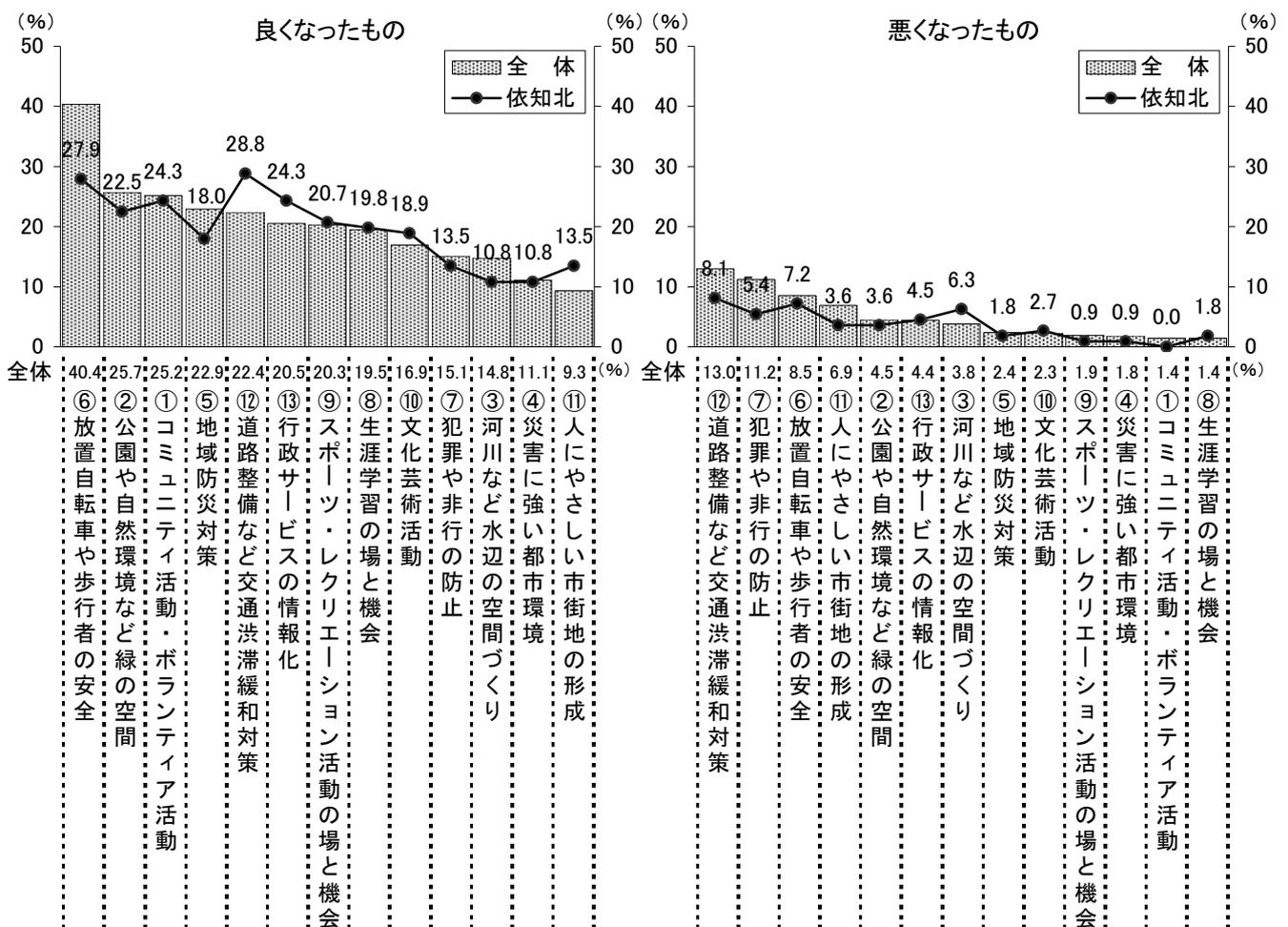
【地区ごとの傾向】

〔依知北地区〕

「良くなったもの」では、「⑫道路整備など交通渋滞緩和対策」(28.8%)が全体(22.4%)と比べて6.4ポイント高くなっている。一方、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(27.9%)が全体(40.4%)と比べて12.5ポイント、「⑤地域防災対策」(18.0%)が全体(22.9%)と比べて4.9ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑦犯罪や非行の防止」(5.4%)が全体(11.2%)と比べて5.8ポイント、「⑫道路整備など交通渋滞緩和対策」(8.1%)が全体(13.0%)と比べて4.9ポイント、「⑪人にやさしい市街地の形成」(3.6%)が全体(6.9%)と比べて3.3ポイント低くなっている。

図10-1-4 まちづくり全般の変化—依知北地区



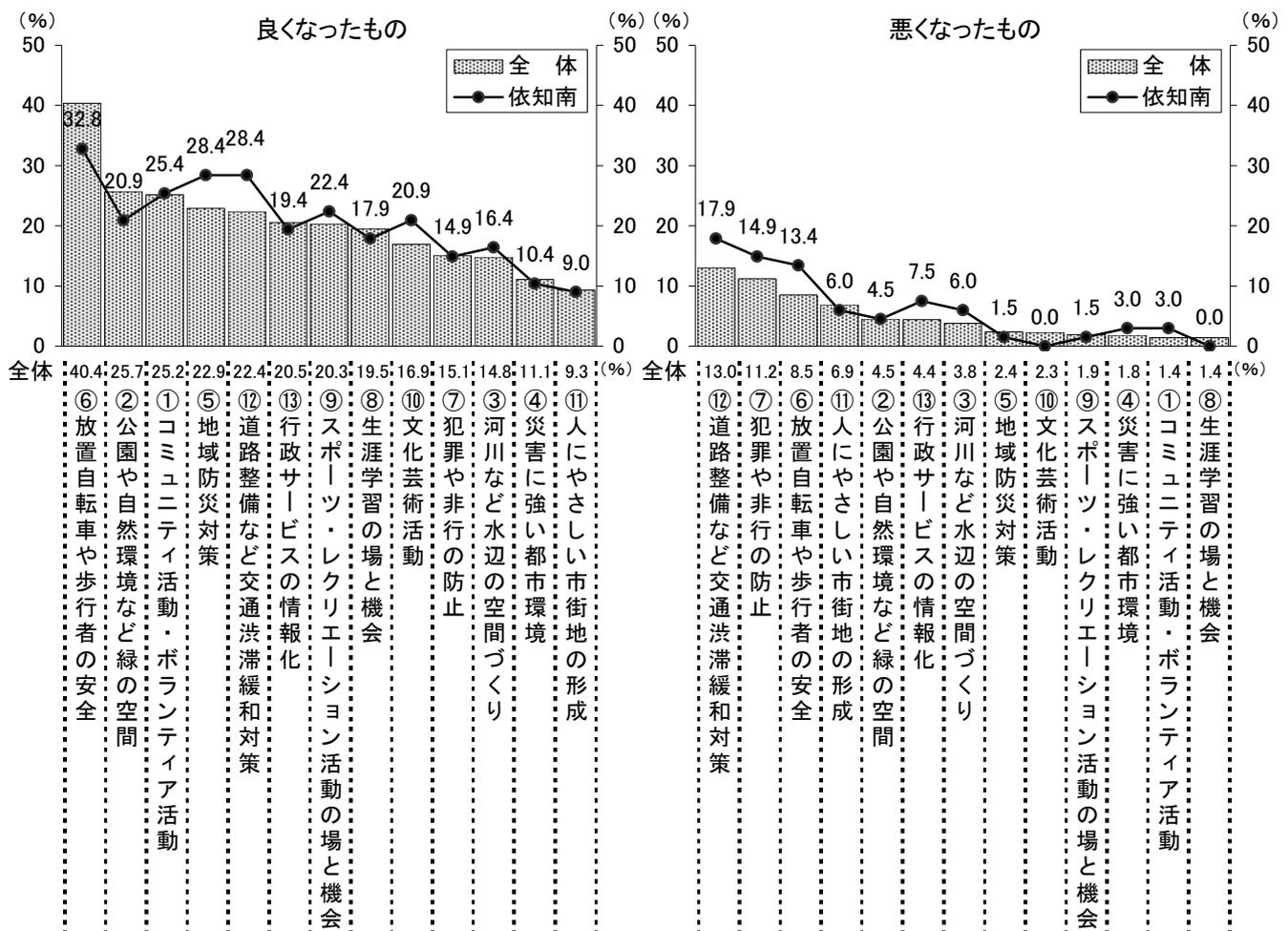
【地区ごとの傾向】

〔依知南地区〕

「良くなったもの」では、「⑫道路整備など交通渋滞緩和対策」(28.4%)が全体(22.4%)と比べて6.0ポイント、「⑤地域防災対策」(28.4%)が全体(22.9%)と比べて5.5ポイント高くなっている。一方、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(32.8%)が全体(40.4%)と比べて7.6ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑫道路整備など交通渋滞緩和対策」(17.9%)が全体(13.0%)と比べて4.9ポイント、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(13.4%)が全体(8.5%)と比べて4.9ポイント、「⑦犯罪や非行の防止」(14.9%)が全体(11.2%)と比べて3.7ポイント、「⑬行政サービスの情報化」(7.5%)が全体(4.4%)と比べて3.1ポイント高くなっている。

図10-1-5 まちづくり全般の変化—依知南地区



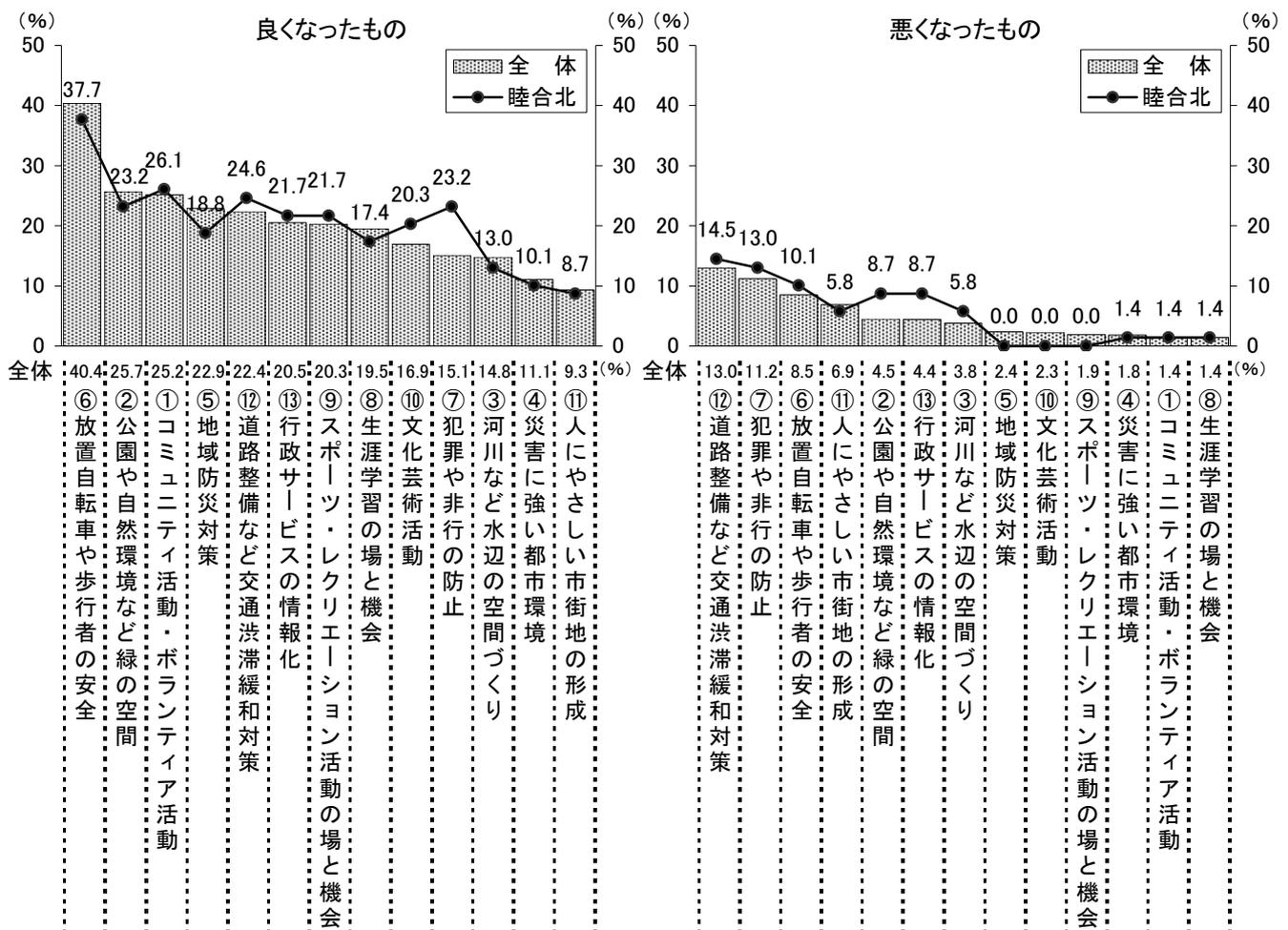
【地区ごとの傾向】

〔睦合北地区〕

「良くなったもの」では、「⑦犯罪や非行の防止」(23.2%)が全体(15.1%)と比べて8.1ポイント高くなっている。一方、「⑤地域防災対策」(18.8%)が全体(22.9%)と比べて4.1ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑬行政サービスの情報化」(8.7%)が全体(4.4%)と比べて4.3ポイント、「②公園や自然環境など緑の空間」(8.7%)が全体(4.5%)と比べて4.2ポイント高くなっている。

図10-1-6 まちづくり全般の変化—睦合北地区



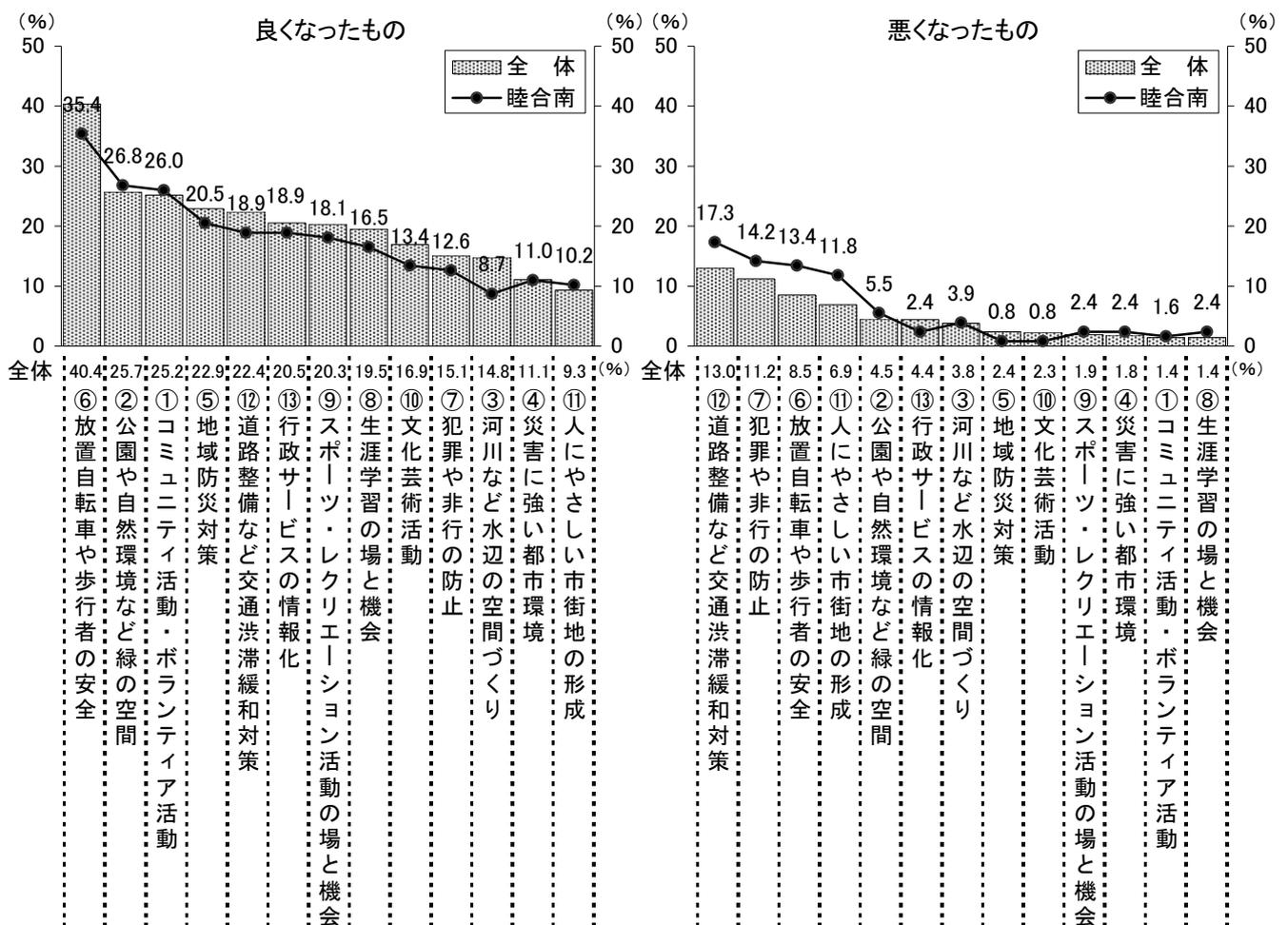
【地区ごとの傾向】

〔睦合南地区〕

「良くなったもの」では、「③河川など水辺の空間づくり」(8.7%)が全体(14.8%)と比べて6.1ポイント、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(35.4%)が全体(40.4%)と比べて5.0ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(13.4%)が全体(8.5%)と比べて4.9ポイント、
「⑪人にやさしい市街地の形成」(11.8%)が全体(6.9%)と比べて4.9ポイント、
「⑫道路整備など交通渋滞緩和対策」(17.3%)が全体(13.0%)と比べて4.3ポイント、「⑦犯罪や非行の防止」(14.2%)が全体(11.2%)と比べて3.0ポイント高くなっている。

図10-1-7 まちづくり全般の変化—睦合南地区



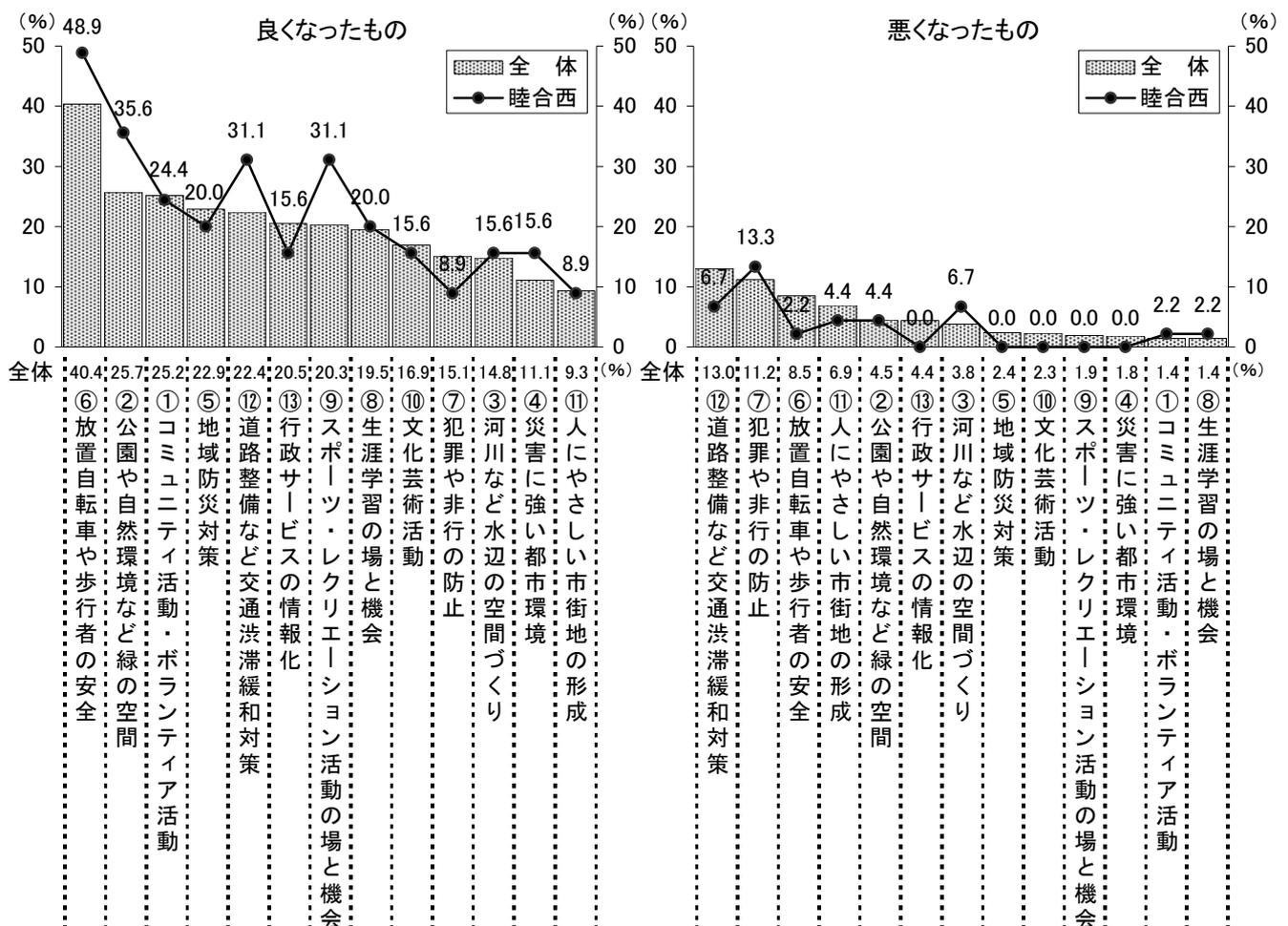
【地区ごとの傾向】

〔睦合西地区〕

「良くなったもの」では、「⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会」(31.1%)が全体(20.3%)と比べて10.8ポイント、「②公園や自然環境など緑の空間」(35.6%)が全体(25.7%)と比べて9.9ポイント、「⑫道路整備など交通渋滞緩和対策」(31.1%)が全体(22.4%)と比べて8.7ポイント、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(48.9%)が全体(40.4%)と比べて8.5ポイント高くなっている。一方、「⑦犯罪や非行の防止」(8.9%)が全体(15.1%)と比べて6.2ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑫道路整備など交通渋滞緩和対策」(6.7%)が全体(13.0%)と比べて6.3ポイント、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(2.2%)が全体(8.5%)と比べて6.3ポイント、「⑬行政サービスの情報化」(0.0%)が全体(4.4%)と比べて4.4ポイント低くなっている。

図10-1-8 まちづくり全般の変化—睦合西地区



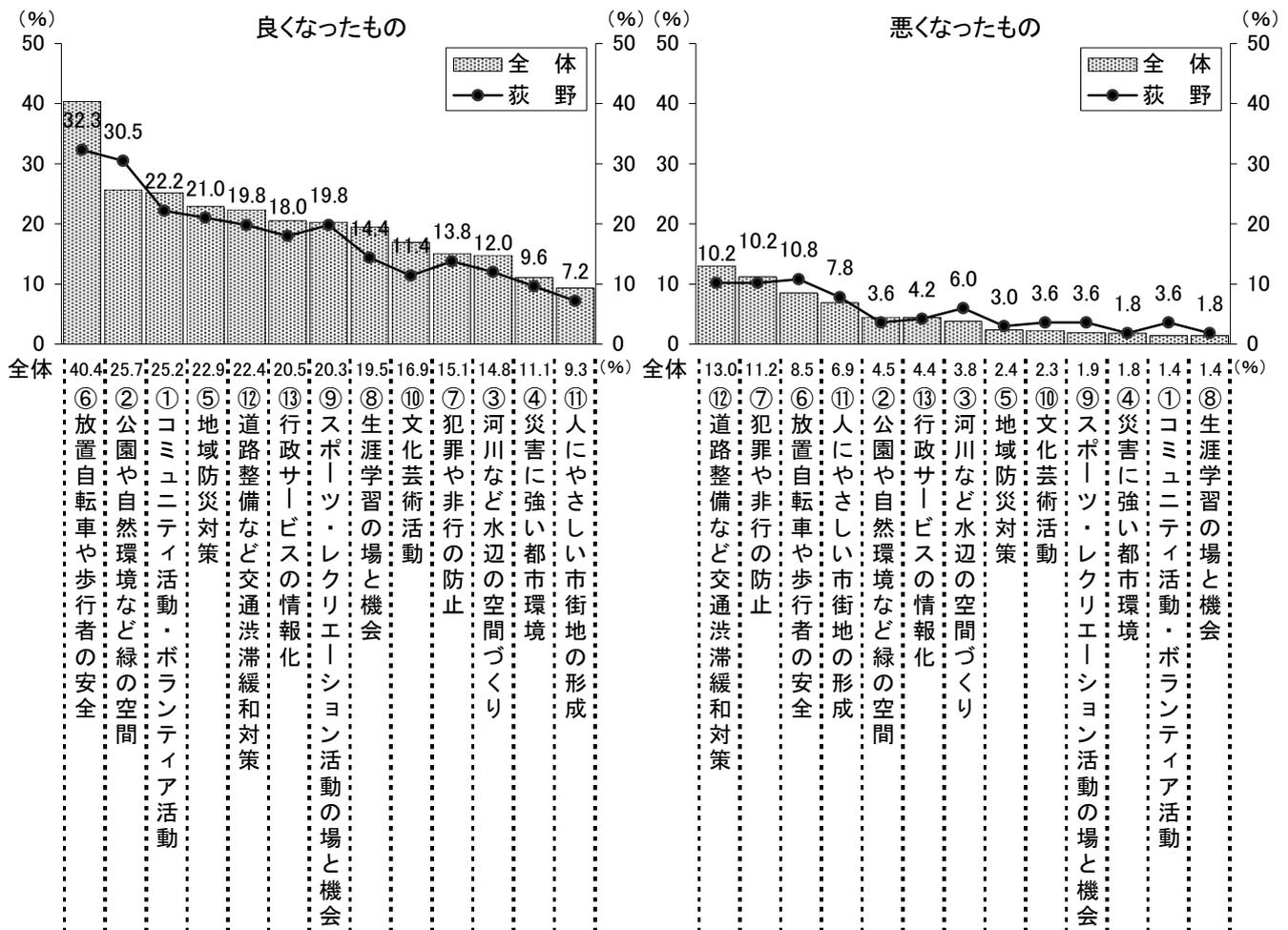
【地区ごとの傾向】

〔荻野地区〕

「良くなったもの」では、「②公園や自然環境など緑の空間」(30.5%)が全体(25.7%)と比べて4.8ポイント高くなっている。一方、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(32.3%)が全体(40.4%)と比べて8.1ポイント、「⑩文化芸術活動」(11.4%)が全体(16.9%)と比べて5.5ポイント、「⑧生涯学習の場と機会」(14.4%)が全体(19.5%)と比べて5.1ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑫道路整備など交通渋滞緩和対策」(10.2%)が全体(13.0%)と比べて2.8ポイント低くなっている。

図10-1-9 まちづくり全般の変化－荻野地区



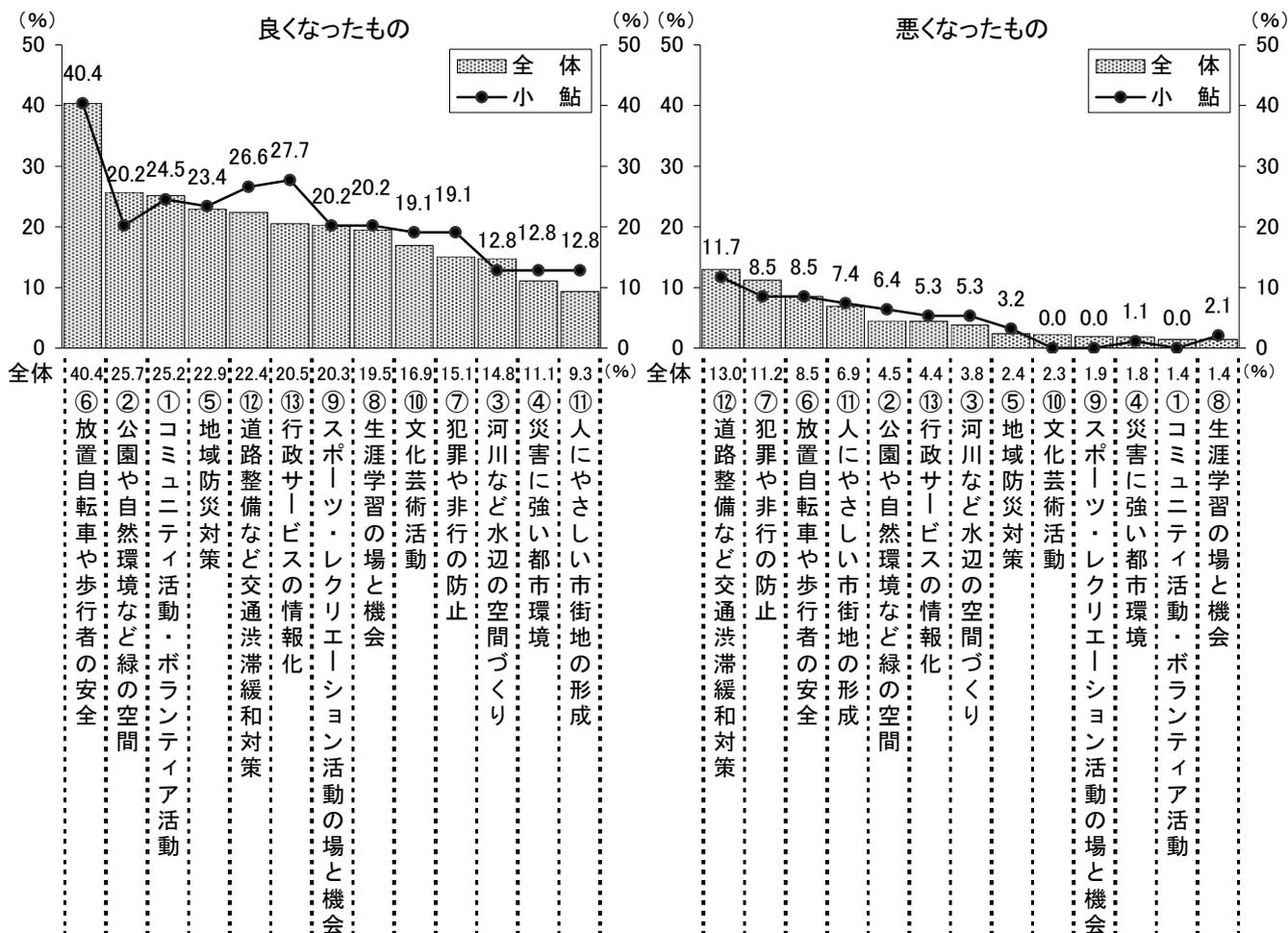
【地区ごとの傾向】

〔小鮎地区〕

「良くなったもの」では、「⑬行政サービスの情報化」(27.7%)が全体(20.5%)と比べて7.2ポイント高くなっている。一方、「②公園や自然環境など緑の空間」(20.2%)が全体(25.7%)と比べて5.5ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑦犯罪や非行の防止」(8.5%)が全体(11.2%)と比べて2.7ポイント低くなっている。

図10-1-10 まちづくり全般の変化—小鮎地区



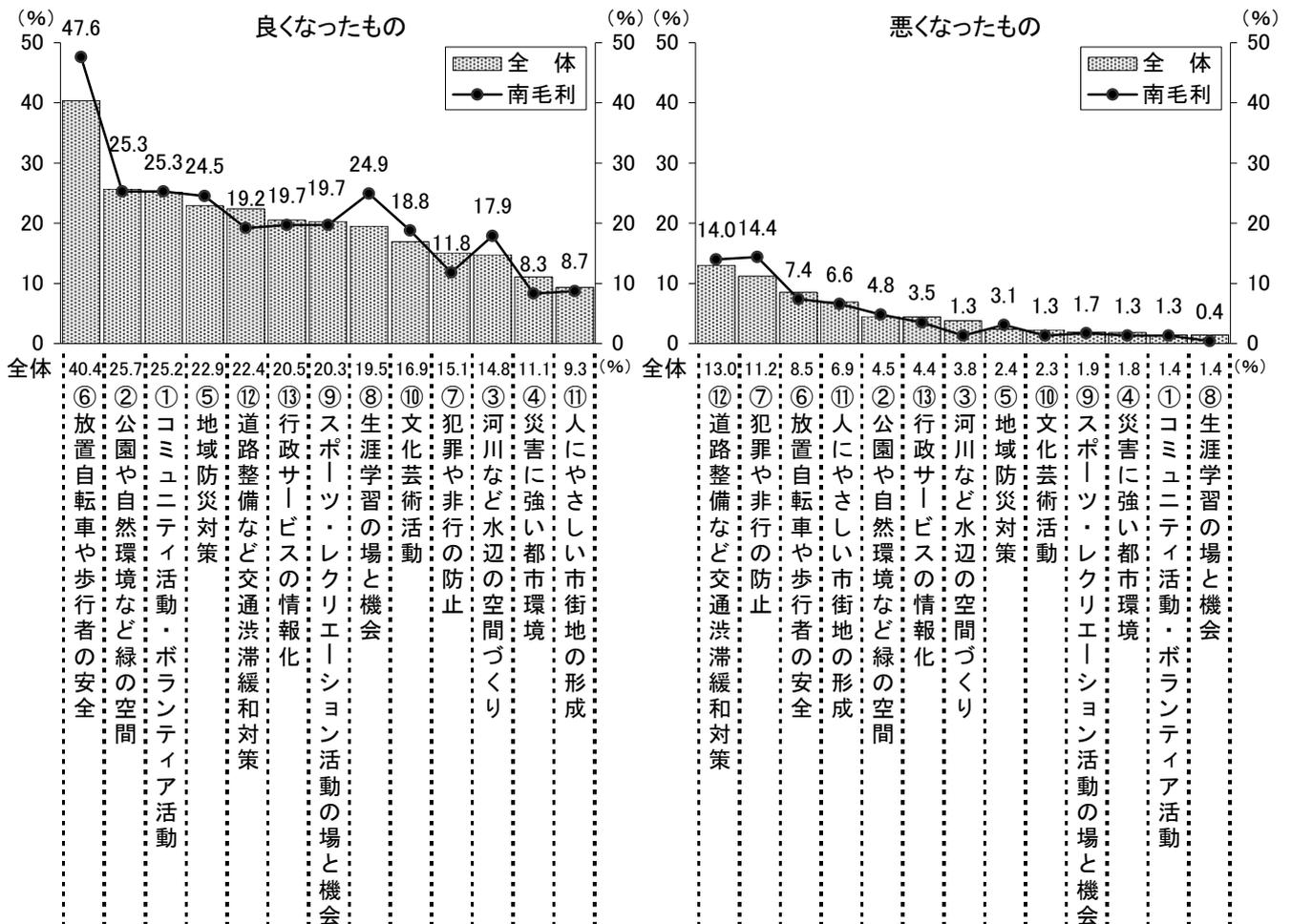
【地区ごとの傾向】

〔南毛利地区〕

「良くなったもの」では、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(47.6%)が全体(40.4%)と比べて7.2ポイント、「⑧生涯学習の場と機会」(24.9%)が全体(19.5%)と比べて5.4ポイント高くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑦犯罪や非行の防止」(14.4%)が全体(11.2%)と比べて3.2ポイント高くなっている。

図10-1-11 まちづくり全般の変化－南毛利地区



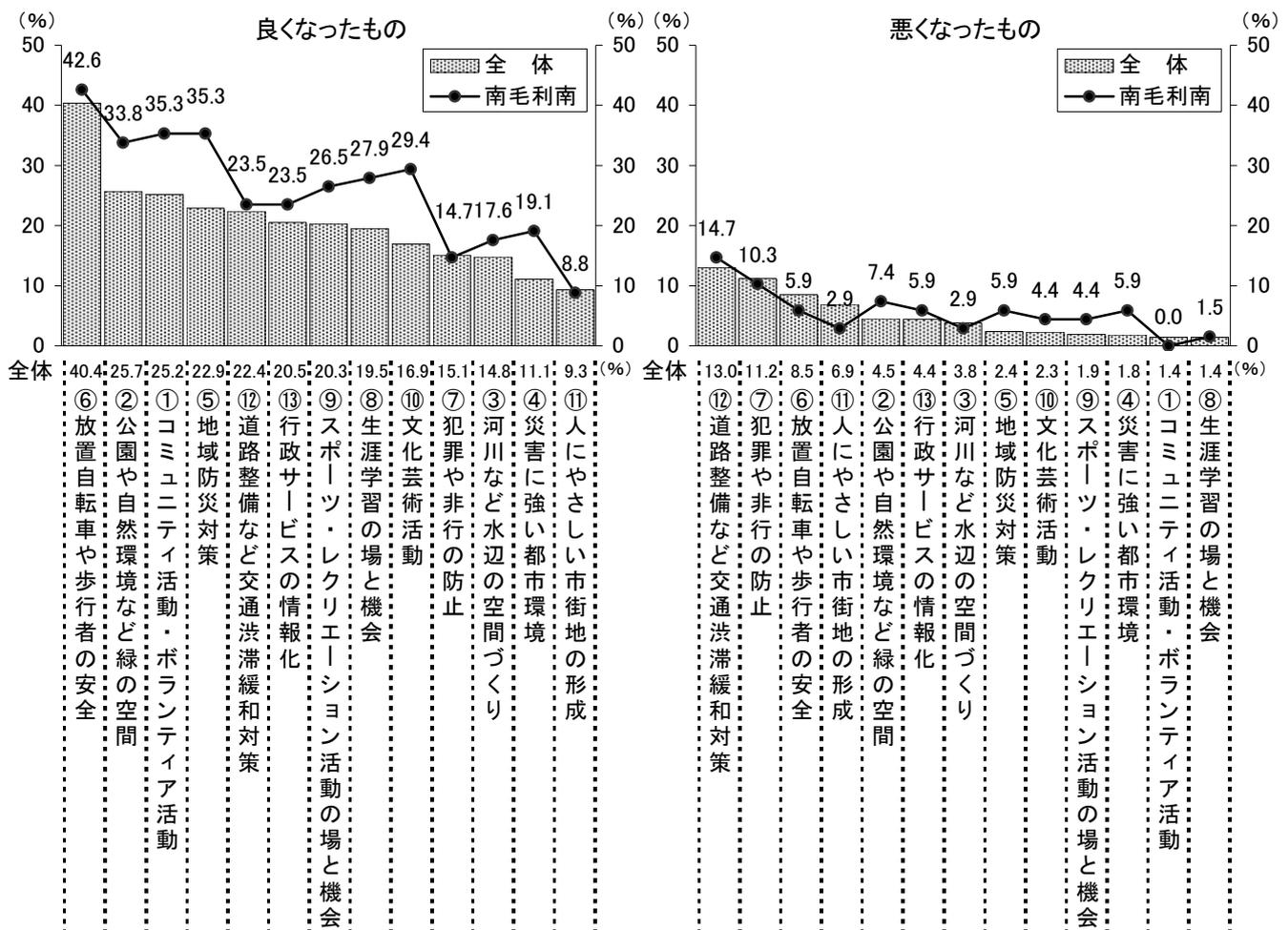
【地区ごとの傾向】

〔南毛利南地区〕

「良くなったもの」では、「⑩文化芸術活動」(29.4%)が全体(16.9%)と比べて12.5ポイント、「⑤地域防災対策」(35.3%)が全体(22.9%)と比べて12.4ポイント、「①コミュニティ活動・ボランティア活動」(35.3%)が全体(25.2%)と比べて10.1ポイント、「⑧生涯学習の場と機会」(27.9%)が全体(19.5%)と比べて8.4ポイント、「②公園や自然環境など緑の空間」(33.8%)が全体(25.7%)と比べて8.1ポイント高くなっている。

「悪くなったもの」では、「④災害に強い都市環境」(5.9%)が全体(1.8%)と比べて4.1ポイント、「⑤地域防災対策」(5.9%)が全体(2.4%)と比べて3.5ポイント高くなっている。一方、「⑪人にやさしい市街地の形成」(2.9%)が全体(6.9%)と比べて4.0ポイント低くなっている。

図10-1-12 まちづくり全般の変化—南毛利南地区



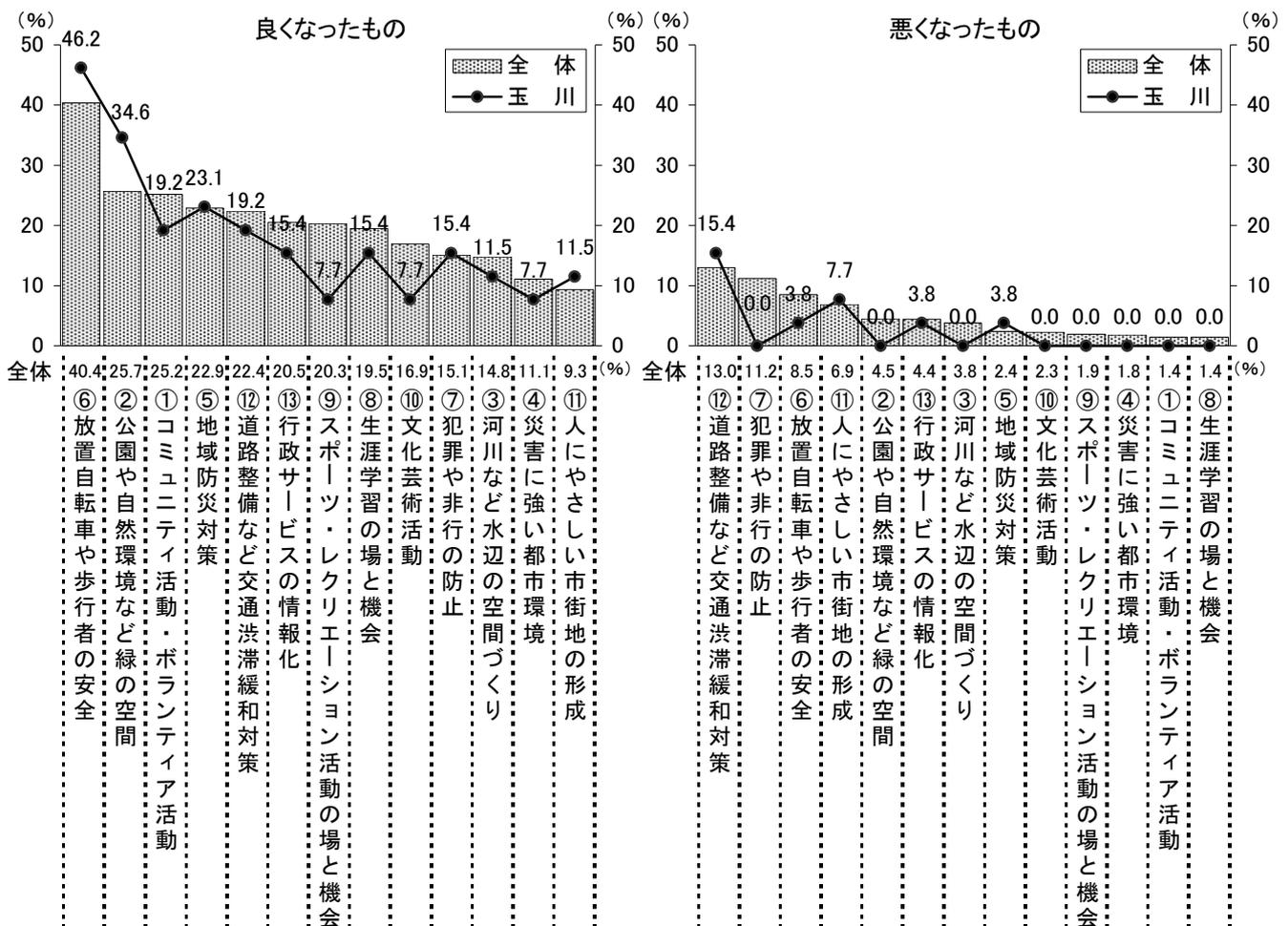
【地区ごとの傾向】

〔玉川地区〕

「良くなったもの」では、「②公園や自然環境など緑の空間」(34.6%)が全体(25.7%)と比べて8.9ポイント、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(46.2%)が全体(40.4%)と比べて5.8ポイント高くなっている。一方、「⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会」(7.7%)が全体(20.3%)と比べて12.6ポイント、「⑩文化芸術活動」(7.7%)が全体(16.9%)と比べて9.2ポイント、「①コミュニティ活動・ボランティア活動」(19.2%)が全体(25.2%)と比べて6.0ポイント、「⑬行政サービスの情報化」(15.4%)が全体(20.5%)と比べて5.1ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑦犯罪や非行の防止」(0.0%)が全体(11.2%)と比べて11.2ポイント、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(3.8%)が全体(8.5%)と比べて4.7ポイント、「②公園や自然環境など緑の空間」(0.0%)が全体(4.5%)と比べて4.5ポイント、「③河川など水辺の空間づくり」(0.0%)が全体(3.8%)と比べて3.8ポイント低くなっている。

図10-1-13 まちづくり全般の変化—玉川地区



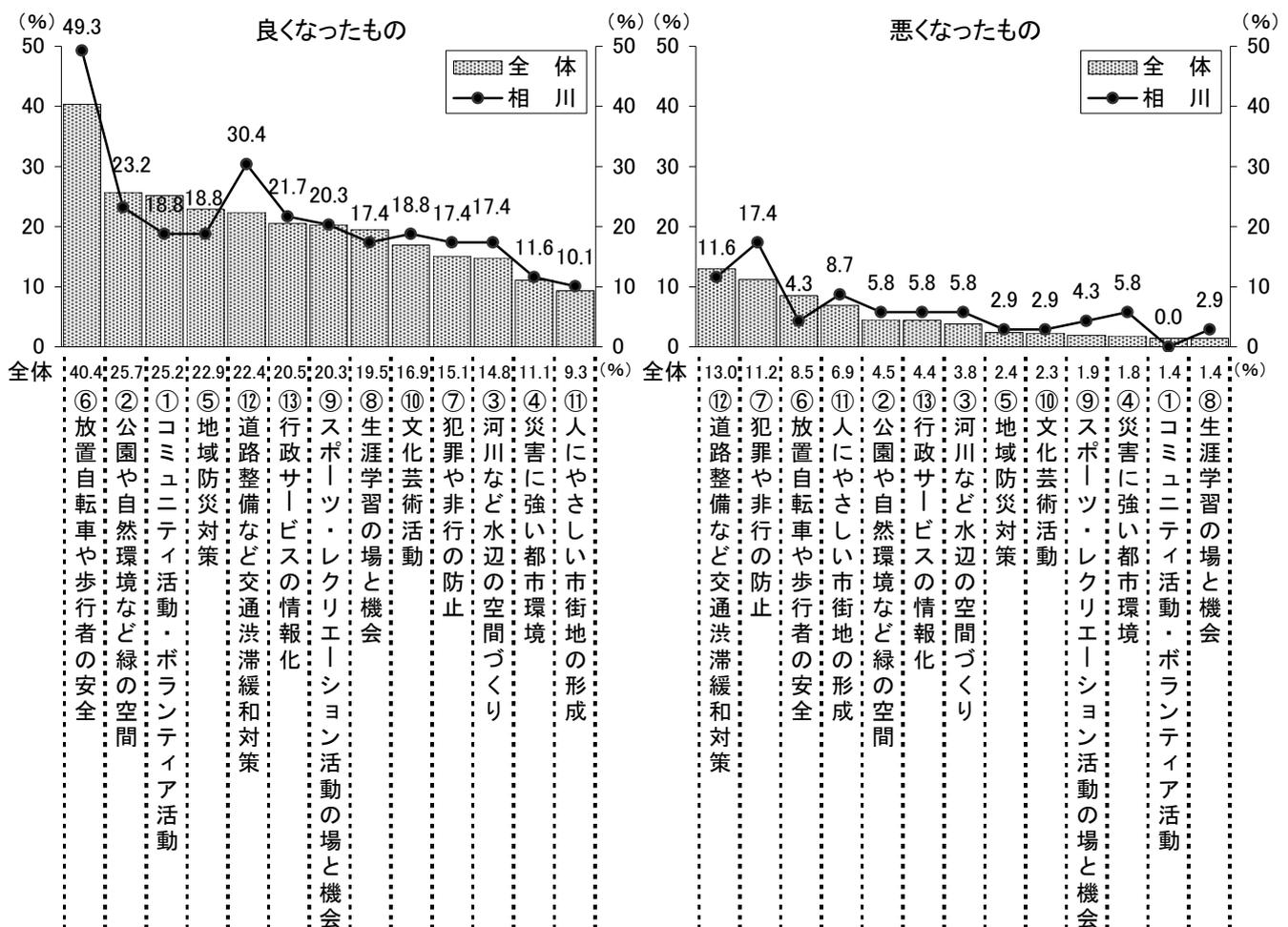
【地区ごとの傾向】

〔相川地区〕

「良くなったもの」では、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(49.3%)が全体(40.4%)と比べて8.9ポイント、「⑫道路整備など交通渋滞緩和対策」(30.4%)が全体(22.4%)と比べて8.0ポイント高くなっている。一方、「①コミュニティ活動・ボランティア活動」(18.8%)が全体(25.2%)と比べて6.4ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑦犯罪や非行の防止」(17.4%)が全体(11.2%)と比べて6.2ポイント高くなっている。一方、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(4.3%)が全体(8.5%)と比べて4.2ポイント低くなっている。

図10-1-14 まちづくり全般の変化—相川地区



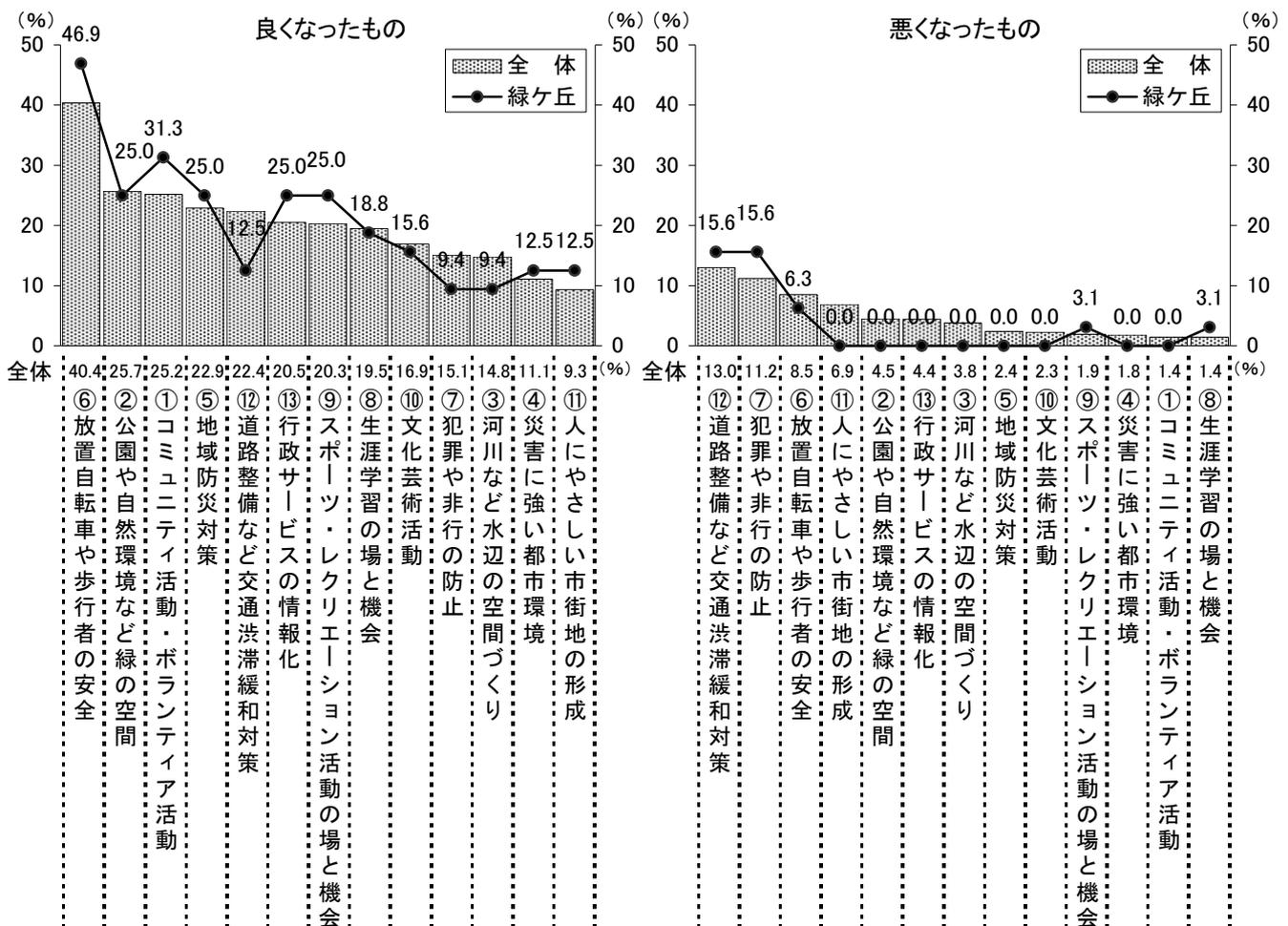
【地区ごとの傾向】

〔緑ヶ丘地区〕

「良くなったもの」では、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(46.9%)が全体(40.4%)と比べて6.5ポイント、「①コミュニティ活動・ボランティア活動」(31.3%)が全体(25.2%)と比べて6.1ポイント高くなっている。一方、「⑫道路整備など交通渋滞緩和対策」(12.5%)が全体(22.4%)と比べて9.9ポイント、「⑦犯罪や非行の防止」(9.4%)が全体(15.1%)と比べて5.7ポイント、「③河川など水辺の空間づくり」(9.4%)が全体(14.8%)と比べて5.4ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑦犯罪や非行の防止」(15.6%)が全体(11.2%)と比べて4.4ポイント高くなっている。一方、「⑪人にやさしい市街地の形成」(0.0%)が全体(6.9%)と比べて6.9ポイント、「②公園や自然環境など緑の空間」(0.0%)が全体(4.5%)と比べて4.5ポイント、「⑬行政サービスの情報化」(0.0%)が全体(4.4%)と比べて4.4ポイント、「③河川など水辺の空間づくり」(0.0%)が全体(3.8%)と比べて3.8ポイント低くなっている。

図10-1-15 まちづくり全般の変化―緑ヶ丘地区



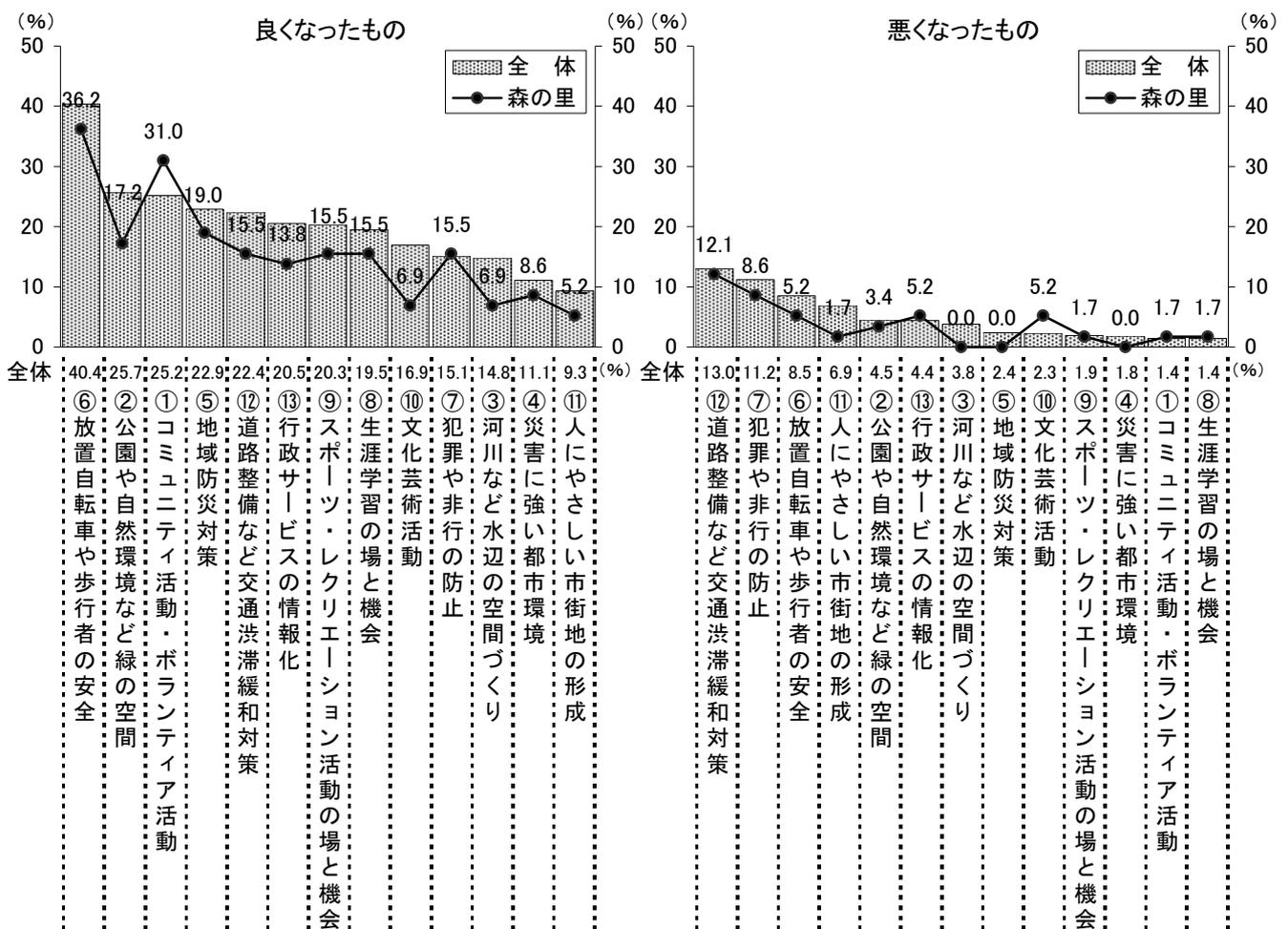
【地区ごとの傾向】

〔森の里地区〕

「良くなったもの」では、「①コミュニティ活動・ボランティア活動」(31.0%)が全体(25.2%)と比べて5.8ポイント高くなっている。一方、「⑩文化芸術活動」(6.9%)が全体(16.9%)と比べて10.0ポイント、「②公園や自然環境など緑の空間」(17.2%)が全体(25.7%)と比べて8.5ポイント、「③河川など水辺の空間づくり」(6.9%)が全体(14.8%)と比べて7.9ポイント、「⑫道路整備など交通渋滞緩和対策」(15.5%)が全体(22.4%)と比べて6.9ポイント、「⑬行政サービスの情報化」(13.8%)が全体(20.5%)と比べて6.7ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑪人にやさしい市街地の形成」(1.7%)が全体(6.9%)と比べて5.2ポイント、「③河川など水辺の空間づくり」(0.0%)が全体(3.8%)と比べて3.8ポイント、「⑥放置自転車や歩行者の安全」(5.2%)が全体(8.5%)と比べて3.3ポイント低くなっている。

図10-1-16 まちづくり全般の変化―森の里地区

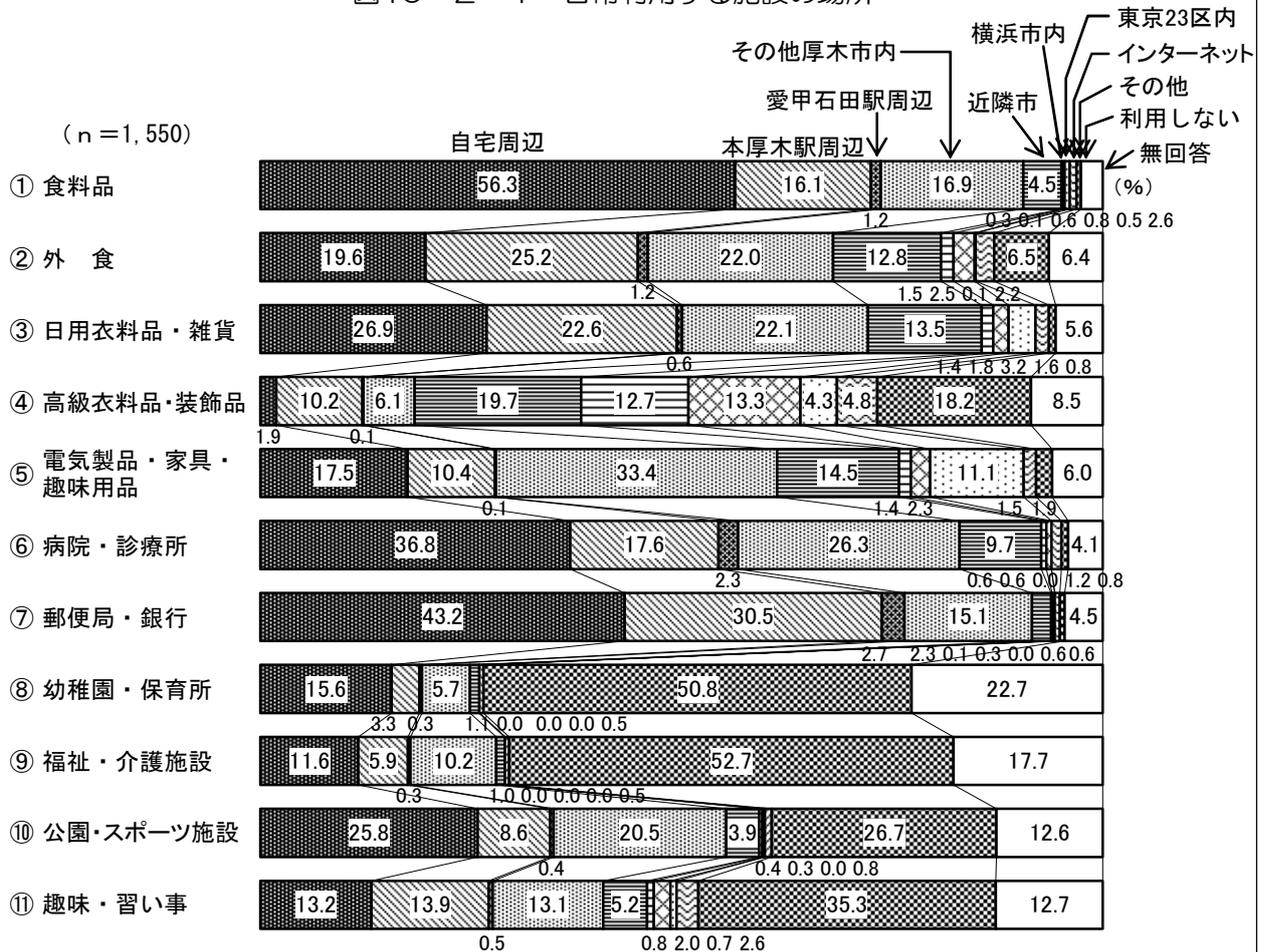


(2) 日常利用する施設の場所 (B: 問15)

問. ふだん、どこにある店舗・施設を利用していますか。

(①～⑪について、それぞれ該当するものを1つ選んでください)

図10-2-1 日常利用する施設の場所



【全体】

日常利用する施設の場所について聞いたところ、①食料品では「自宅周辺」(56.3%)が5割半ばを超えて最も高く、次いで「その他厚木市内」(16.9%)、「本厚木駅周辺」(16.1%)となっている。②外食では「本厚木駅周辺」(25.2%)が2割半ばで最も高く、次いで「その他厚木市内」(22.0%)、「自宅周辺」(19.6%)、「近隣市」(12.8%)となっている。③日用衣料品・雑貨では「自宅周辺」(26.9%)が2割半ばを超えて最も高く、次いで「本厚木駅周辺」(22.6%)、「その他厚木市内」(22.1%)、「近隣市」(13.5%)となっている。④高級衣料品・装飾品では「近隣市」(19.7%)が約2割で最も高く、次いで「東京23区内」(13.3%)、「横浜市内」(12.7%)、「本厚木駅周辺」(10.2%)となっている。⑤電気製品・家具・趣味用品では「その他厚木市内」(33.4%)が3割半ば近くで最も高く、次いで「自宅周辺」(17.5%)、「近隣市」(14.5%)、「インターネット」(11.1%)、「本厚木駅周辺」(10.4%)となっている。

⑥病院・診療所、⑦郵便局・銀行、⑧幼稚園・保育所、⑨福祉・介護施設、⑩公園・スポーツ施設の5項目では、いずれも「自宅周辺」が最も高くなっている。⑪趣味・習い事では、「本厚木駅周辺」(13.9%)、「自宅周辺」(13.2%)、「その他厚木市内」(13.1%)がいずれも1割半ば近くとなっている。

【経年変化】

平成25年度以前の調査から質問していた①食料品、③日用衣料品・雑貨、④高級衣料品・装飾品と、平成27年度調査から質問していた②外食の経年による変化については、平成29年度調査では選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

表10-2-1 日常利用する施設の場所

①食料品、②外食、③日用衣料品・雑貨、④高級衣料品・装飾品一経年変化（上位5項目）

(%)

順位	平成29年度 (n=1,550)		平成27年度 (n=1,417)		平成25年度 (n=1,270)		平成23年度 (n=815)		平成21年度 (n=1,608)		
① 食料品	1	自宅周辺	56.3	その他厚木市内	55.4	その他厚木市内	52.0	その他厚木市内	56.8	その他厚木市内	52.3
	2	その他厚木市内	16.9	本厚木駅周辺	31.1	本厚木駅周辺	37.2	本厚木駅周辺	30.3	本厚木駅周辺	33.1
	3	本厚木駅周辺	16.1	愛甲石田駅周辺	4.0	愛甲石田駅周辺	2.6	愛甲石田駅周辺	3.1	愛甲石田駅周辺	3.2
	4	近隣市	4.5	伊勢原駅周辺	1.6	海老名駅周辺	1.8	海老名駅周辺	1.0	海老名駅周辺	0.9
	5	愛甲石田駅周辺	1.2	相模原市内	1.3	伊勢原駅周辺	1.4	伊勢原駅周辺	0.7	伊勢原駅周辺	0.7
② 外食	1	本厚木駅周辺	25.2	その他厚木市内	40.0						
	2	その他厚木市内	22.0	本厚木駅周辺	31.2						
	3	自宅周辺	19.6	海老名駅周辺	3.9						
	4	近隣市	12.8	東京23区内	2.6						
	5	東京23区内	2.5	横浜市内	2.4						
③ 日用衣料品・ 雑貨	1	自宅周辺	26.9	その他厚木市内	36.6	本厚木駅周辺	38.8	本厚木駅周辺	38.2	本厚木駅周辺	40.2
	2	本厚木駅周辺	22.6	本厚木駅周辺	35.1	その他厚木市内	30.0	その他厚木市内	36.4	その他厚木市内	38.1
	3	その他厚木市内	22.1	海老名駅周辺	6.1	海老名駅周辺	8.0	海老名駅周辺	5.2	海老名駅周辺	3.6
	4	近隣市	13.5	インターネット	2.4	町田市内	5.0	町田市内	3.3	町田市内	2.1
	5	インターネット	3.2	相模原市内	2.2	インターネットショッピング	4.3	インターネットショッピング	2.1	インターネットショッピング	1.1
④ 高級衣料品・ 装飾品	1	近隣市	19.7	東京23区内	18.1	東京23区内	19.8	本厚木駅周辺	20.0	本厚木駅周辺	23.6
	2	東京23区内	13.3	本厚木駅周辺/ 横浜市内	15.6	横浜市内	18.1	横浜市内	15.5	東京23区内	13.7
	3	横浜市内	12.7			本厚木駅周辺	16.1	東京23区内	13.5	横浜市内	13.4
	4	本厚木駅周辺	10.2	海老名駅周辺	8.0	町田市内	12.3	町田市内	10.2	その他厚木市内	11.0
	5	その他厚木市内	6.1	その他厚木市内	7.2	海老名駅周辺	7.4	その他厚木市内	8.6	町田市内	9.6

(注1) 「③日用衣料品・雑貨」は、平成27年度調査以前では「日用衣料品」としていた。

(注2) 平成29年度調査では、「近隣市」の選択肢を追加している。

(注3) 平成27年度調査以前では、「伊勢原駅周辺」、「海老名駅周辺」、「平塚駅周辺」の選択肢を追加していた。

(注4) 平成27年度調査では、「相模原市内」の選択肢を追加していた。

(注5) 平成25年度調査以前では、「町田市内」の選択肢を追加していた。

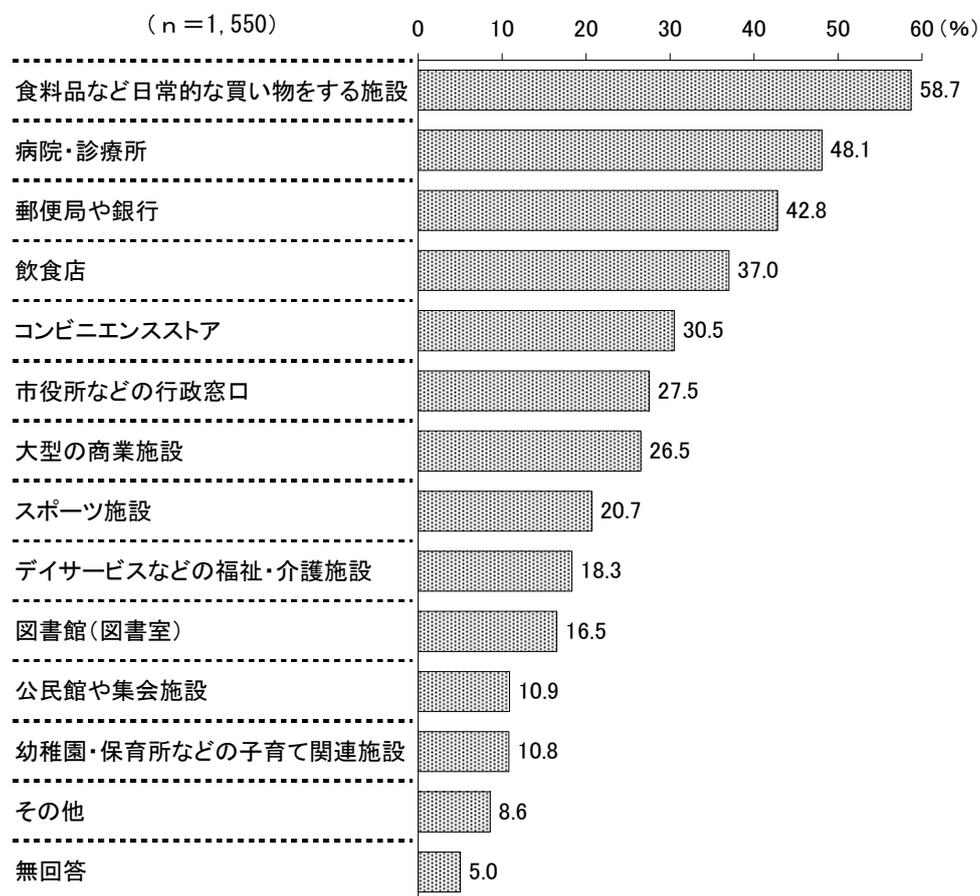
(注6) 「インターネット」は、平成25年度調査以前では「インターネットショッピング」としていた。

(3) 自宅周辺に必要な施設 (B:問16)

問. 自宅周辺に、どのような施設が必要であると思いますか。

※自宅周辺とは、徒歩や自転車で移動できる範囲です。(5つまで選んでください)

図10-3-1 自宅周辺に必要な施設



【全体】

自宅周辺に必要な施設について聞いたところ、「食料品など日常的な買い物をする施設」(58.7%)が6割近くで最も高く、次いで「病院・診療所」(48.1%)、「郵便局や銀行」(42.8%)、「飲食店」(37.0%)、「コンビニエンスストア」(30.5%)となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「郵便局や銀行」(47.0%)が男性(37.7%)より9.3ポイント、「病院・診療所」(51.0%)が男性(44.3%)より6.7ポイント、「市役所などの行政窓口」(30.2%)が男性(24.1%)より6.1ポイント高くなっている。一方、男性では「飲食店」(40.4%)が女性(34.3%)より6.1ポイント、「コンビニエンスストア」(33.5%)が女性(27.9%)より5.6ポイント、「スポーツ施設」(23.7%)が女性(18.4%)より5.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～29歳では「食料品など日常的な買い物をする施設」(66.7%)が6割半ばを超え、「飲食店」(50.0%)が5割と高くなっている。80歳以上では「病院・診療所」(64.3%)が6割半ば、「郵便局や銀行」(50.0%)が5割と高くなっている。20歳未満では「大型の商業施設」(40.0%)が4割、「スポーツ施設」(36.0%)が3割半ばを超え高くなっている。30～39歳では「幼稚園・保育所などの子育て関連施設」(25.0%)が2割半ばと高くなっている。

表10-3-1 自宅周辺に必要な施設—性別、年齢別

(%)

		n	食料品など日常的な買い物をする施設	病院・診療所	郵便局や銀行	飲食店	コンビニエンスストア	市役所などの行政窓口	大型の商業施設	スポーツ施設	デイサービスなどの福祉・介護施設	図書館(図書室)	公民館や集会施設	幼稚園・保育所などの子育て関連施設	その他	無回答
全 体		1,550	58.7	48.1	42.8	37.0	30.5	27.5	26.5	20.7	18.3	16.5	10.9	10.8	8.6	5.0
性別	男 性	684	56.7	44.3	37.7	40.4	33.5	24.1	26.2	23.7	17.0	15.1	9.5	10.2	11.3	4.7
	女 性	839	60.7	51.0	47.0	34.3	27.9	30.2	26.7	18.4	19.0	17.5	12.3	11.4	6.3	5.2
年 齢 別	20歳未満	25	56.0	36.0	48.0	36.0	32.0	16.0	40.0	36.0	12.0	16.0	8.0	4.0	-	-
	20～29歳	108	66.7	35.2	44.4	50.0	36.1	25.0	25.9	25.9	7.4	19.4	1.9	19.4	13.0	3.7
	30～39歳	180	58.3	41.1	35.0	36.7	36.1	22.2	27.8	21.1	5.6	17.8	6.7	25.0	14.4	6.7
	40～49歳	263	58.9	45.6	47.9	38.0	35.7	28.9	30.0	22.8	12.5	17.1	4.9	11.8	8.0	4.6
	50～59歳	234	60.3	50.0	47.4	33.8	32.9	34.2	28.2	18.4	16.2	13.7	9.4	7.7	9.0	2.1
	60～69歳	330	52.7	47.6	36.7	36.7	25.2	26.7	28.5	20.6	21.5	17.9	10.9	8.2	9.7	7.3
	70～79歳	283	61.8	54.1	42.8	36.4	24.0	26.9	23.0	20.1	28.3	16.3	20.5	7.1	4.6	5.3
	80歳以上	112	58.0	64.3	50.0	31.3	30.4	28.6	14.3	12.5	31.3	10.7	19.6	2.7	4.5	4.5

〔居住地区別の結果〕

表10-3-2 自宅周辺に必要な施設—居住地区別

(%)

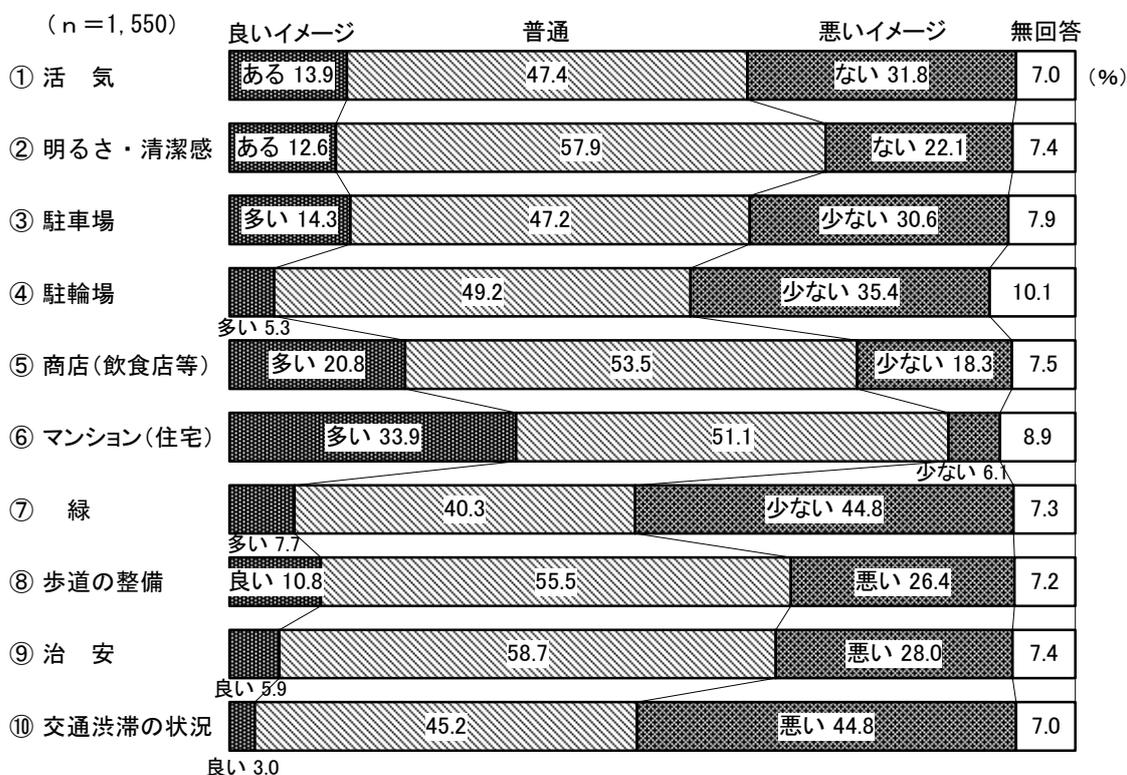
	n	食料品など日常的な買い物をする施設	病院・診療所	郵便局や銀行	飲食店	コンビニエンスストア	市役所などの行政窓口	大型の商業施設	スポーツ施設	デイサービスなどの福祉・介護施設	図書館（図書室）	公民館や集会施設	幼稚園・保育所などの子育て関連施設	その他	無回答	
全 体	1,550	58.7	48.1	42.8	37.0	30.5	27.5	26.5	20.7	18.3	16.5	10.9	10.8	8.6	5.0	
居 住 地 区 別	厚 木 北	161	65.2	45.3	44.7	26.7	27.3	35.4	28.0	16.8	15.5	14.3	8.7	9.3	11.2	5.0
	厚 木 南	99	61.6	45.5	44.4	35.4	33.3	30.3	26.3	18.2	18.2	20.2	10.1	6.1	2.0	7.1
	依 知 北	126	57.1	57.1	35.7	42.9	24.6	26.2	46.8	29.4	24.6	14.3	8.7	11.1	10.3	1.6
	依 知 南	73	63.0	60.3	53.4	39.7	24.7	20.5	31.5	20.5	20.5	11.0	11.0	13.7	9.6	4.1
	睦 合 北	74	56.8	59.5	47.3	37.8	21.6	36.5	28.4	16.2	21.6	16.2	8.1	18.9	9.5	4.1
	睦 合 南	136	53.7	42.6	40.4	38.2	31.6	22.1	19.9	27.9	14.7	18.4	11.0	8.1	11.0	5.9
	睦 合 西	52	53.8	44.2	36.5	19.2	28.8	19.2	19.2	15.4	15.4	19.2	11.5	9.6	7.7	9.6
	荻 野	174	56.9	53.4	43.1	39.7	23.0	27.6	31.0	18.4	23.6	13.8	9.2	8.6	10.9	7.5
	小 鮎	101	71.3	49.5	46.5	45.5	33.7	27.7	24.8	13.9	22.8	7.9	12.9	9.9	5.9	5.0
	南 毛 利	257	56.8	45.5	47.9	36.2	34.2	27.2	20.6	16.3	14.8	17.1	12.8	11.3	7.4	4.3
	南毛利南	78	65.4	38.5	30.8	37.2	32.1	19.2	30.8	32.1	10.3	34.6	5.1	3.8	9.0	2.6
	玉 川	29	72.4	27.6	37.9	31.0	55.2	34.5	17.2	31.0	20.7	13.8	20.7	3.4	6.9	-
	相 川	78	51.3	55.1	44.9	46.2	23.1	39.7	23.1	24.4	16.7	17.9	10.3	24.4	9.0	3.8
	緑ヶ丘	36	58.3	44.4	38.9	30.6	22.2	16.7	19.4	16.7	13.9	19.4	19.4	11.1	2.8	13.9
	森の里	61	39.3	37.7	32.8	37.7	62.3	21.3	18.0	23.0	18.0	13.1	16.4	16.4	8.2	3.3

(4) 本厚木駅周辺のイメージ (B:問17)

問. 現在の本厚木駅周辺(中心市街地)のイメージについて、どのように感じますか。

(①～⑩について、それぞれ該当するものを1つ選んでください)

図10-4-1 本厚木駅周辺のイメージ



【全体】

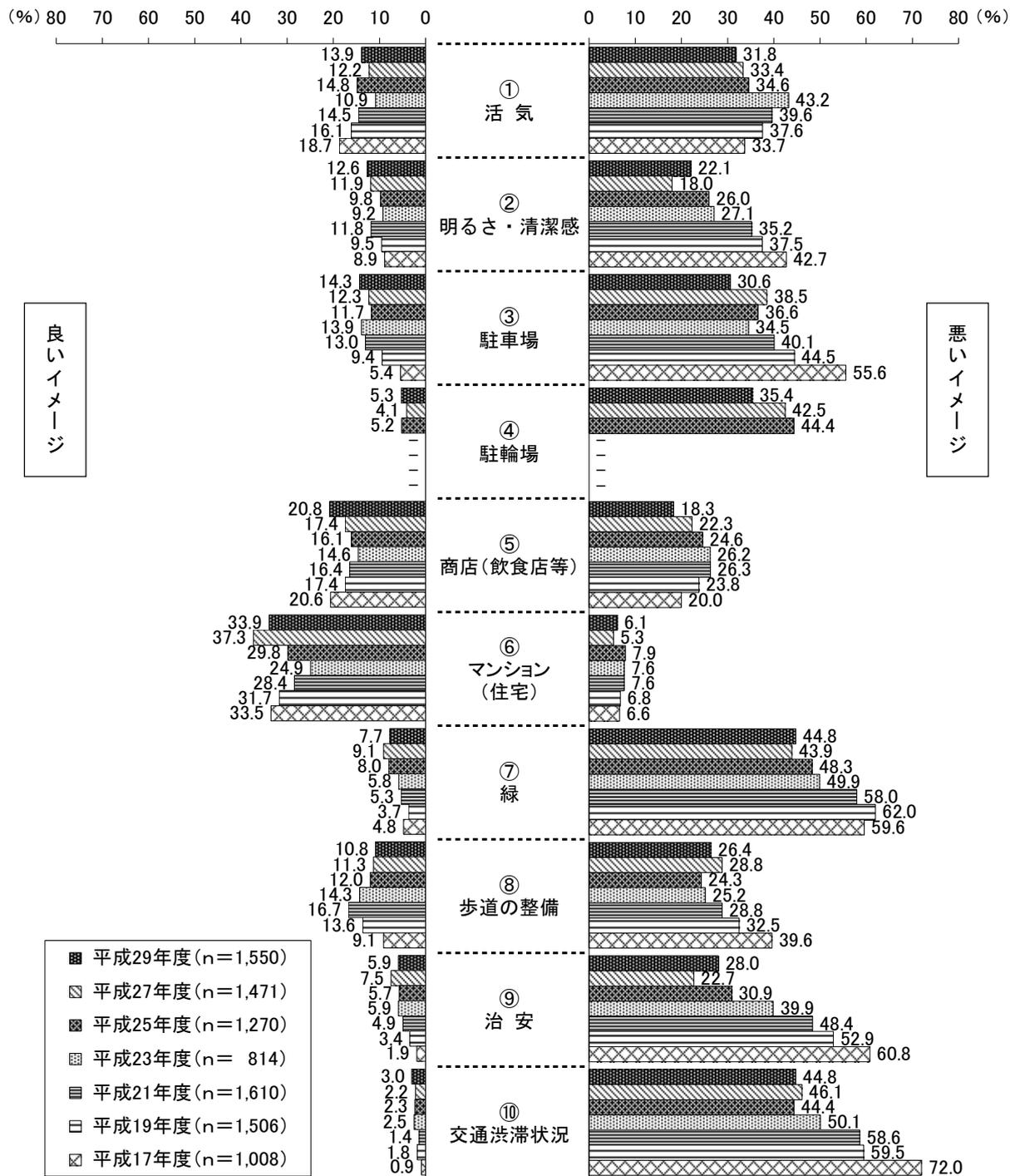
本厚木駅周辺のイメージについて10項目に分けて聴いたところ、良いイメージが最も高いのは「⑥マンション(住宅)」(33.9%)で3割半ば近くとなっており、次いで「⑤商店(飲食店等)」(20.8%)となっている。一方、悪いイメージが最も高いのは「⑦緑」(44.8%)と「⑩交通渋滞の状況」(44.8%)でともに4割半ばとなっており、次いで「④駐輪場」(35.4%)、「①活気」(31.8%)、「③駐車場」(30.6%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、良いイメージは、「⑤商店（飲食店等）」（20.8％）が平成27年度調査（17.4％）より3.4ポイント増加している。一方、「⑥マンション（住宅）」（33.9％）が平成27年度調査（37.3％）より3.4ポイント減少している。

悪いイメージは、「⑨治安」（28.0％）が平成27年度調査（22.7％）より5.3ポイント増加している。一方、「③駐車場」（30.6％）が平成27年度調査（38.5％）より7.9ポイント、「④駐輪場」（35.4％）が平成27年度調査（42.5％）より7.1ポイント減少している。

図10-4-2 本厚木駅周辺のイメージ経年変化

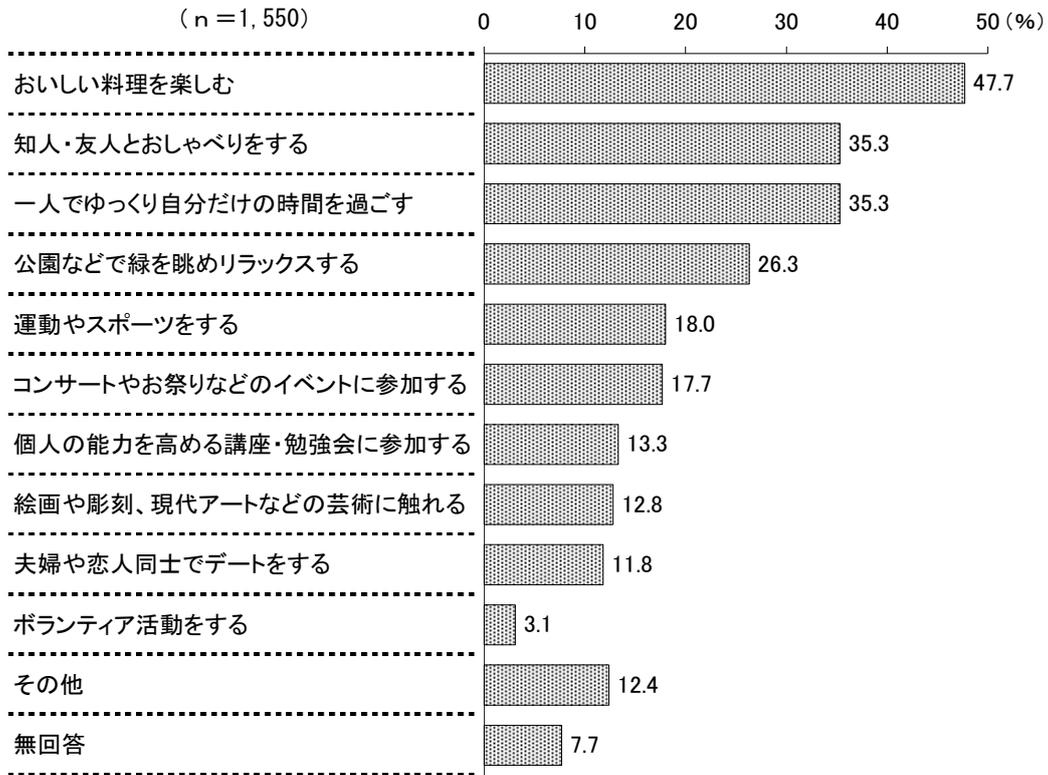


(注) 平成25年度調査以降では、「④駐輪場」の項目を追加している。

(5) 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと (B:問18)

問. 本厚木駅周辺で、仕事・学校帰りや休みの日にどのようなことをしたいですか。
(3つまで選んでください)

図10-5-1 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと



【全体】

仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいことについて聞いたところ、「おいしい料理を楽しむ」(47.7%)が5割近くで最も高く、次いで「知人・友人とおしゃべりをする」(35.3%)、「一人でゆっくり自分だけの時間を過ごす」(35.3%)、「公園などで緑を眺めリラックスする」(26.3%)、「運動やスポーツをする」(18.0%)、「コンサートやお祭りなどのイベントに参加する」(17.7%)となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「知人・友人とおしゃべりをする」(44.9%)が男性(24.0%)より20.9ポイント高くなっている。一方、男性では「公園などで緑を眺めリラックスする」(29.2%)が女性(23.7%)より5.5ポイント、「運動やスポーツをする」(21.2%)が女性(15.9%)より5.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30～59歳では「おいしい料理を楽しむ」が5割台と高くなっている。20歳未満～29歳では「知人・友人とおしゃべりをする」が6割台と高くなっている。20～29歳では「一人でゆっくり自分だけの時間を過ごす」(49.1%)が約5割と高くなっている。20歳未満では「運動やスポーツをする」(36.0%)が3割半ばを超え、「コンサートやお祭りなどのイベントに参加する」(32.0%)が3割を超えて高くなっている。20～49歳では「夫婦や恋人同士でデートをする」が2割台と高くなっている。

表10-5-1 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと一性別、年齢別

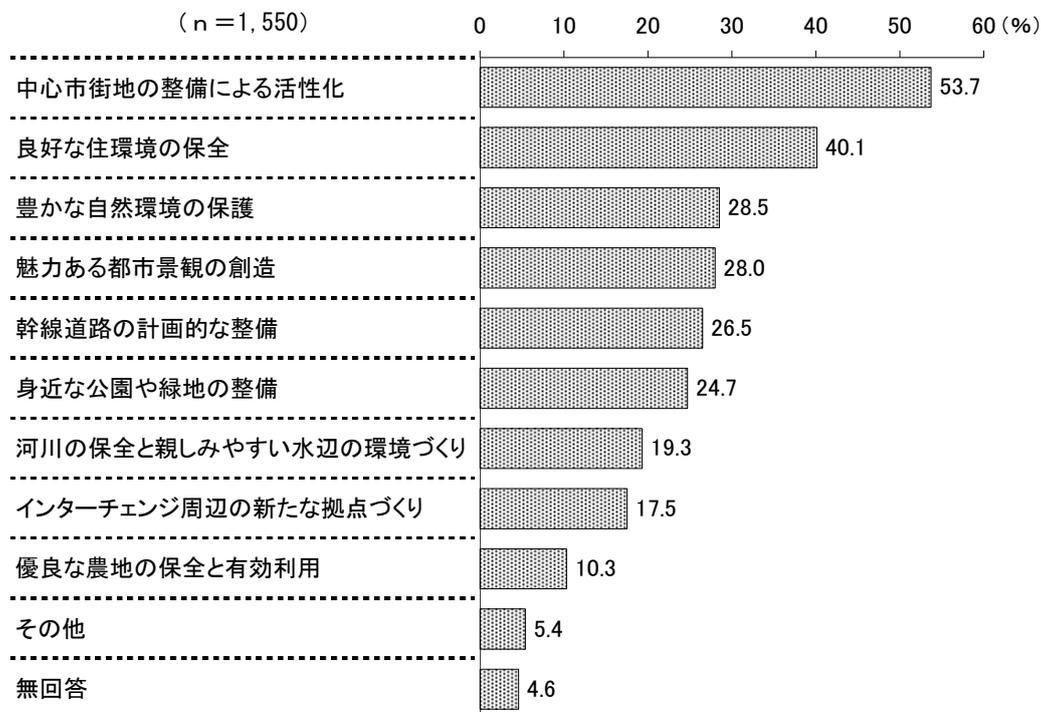
(%)

		n	おいしい料理を楽しむ	知人・友人とおしゃべりをする	一人でゆっくり自分だけの時間を過ごす	公園などで緑を眺めリラックスする	運動やスポーツをする	コンサートやお祭りなどのイベントに参加する	個人の能力を高める講座・勉強会に参加する	絵画や彫刻、現代アートなどの芸術に触れる	夫婦や恋人同士でデートをする	ボランティア活動をする	その他	無回答
全体		1,550	47.7	35.3	35.3	26.3	18.0	17.7	13.3	12.8	11.8	3.1	12.4	7.7
性別	男性	684	46.8	24.0	37.0	29.2	21.2	17.5	12.6	11.3	14.5	3.5	13.0	7.9
	女性	839	48.6	44.9	34.2	23.7	15.9	17.4	13.8	14.1	9.7	2.9	11.1	7.6
年齢別	20歳未満	25	44.0	64.0	36.0	12.0	36.0	32.0	8.0	4.0	8.0	4.0	16.0	-
	20～29歳	108	49.1	63.9	49.1	16.7	30.6	10.2	12.0	4.6	22.2	0.9	8.3	1.9
	30～39歳	180	55.6	36.1	44.4	21.1	27.8	18.9	13.3	9.4	20.0	1.7	10.0	1.7
	40～49歳	263	56.7	29.7	38.4	28.1	22.4	19.4	14.4	9.5	20.2	1.9	12.2	2.3
	50～59歳	234	53.4	39.3	36.3	25.2	13.7	17.5	8.5	12.4	11.5	1.7	15.0	5.1
	60～69歳	330	42.1	31.8	30.6	28.2	13.9	19.7	13.9	17.6	6.7	4.5	15.2	8.8
	70～79歳	283	39.6	29.0	30.0	30.0	14.1	17.0	15.5	17.7	3.5	6.0	8.5	15.9
	80歳以上	112	39.3	30.4	28.6	28.6	8.0	9.8	14.3	10.7	6.3	1.8	13.4	19.6

(6) 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組 (B: 問19)

問. 厚木市の将来的なまちづくりについて、優先的にどのような取組が必要であると思いますか。(3つまで選んでください)

図10-6-1 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組



【全体】

将来的なまちづくりで優先的に必要な取組について聞いたところ、「中心市街地の整備による活性化」(53.7%)が5割半ば近くで最も高く、次いで「良好な住環境の保全」(40.1%)、「豊かな自然環境の保護」(28.5%)、「魅力ある都市景観の創造」(28.0%)、「幹線道路の計画的な整備」(26.5%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、質問文と選択肢が大幅に異なっているため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、男性では「幹線道路の計画的な整備」(32.9%)が女性(21.5%)より11.4ポイント、「河川の保全と親しみやすい水辺の環境づくり」(23.0%)が女性(16.4%)より6.6ポイント、「インターチェンジ周辺の新たな拠点づくり」(20.5%)が女性(15.4%)より5.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳未満では「中心市街地の整備による活性化」(68.0%)が7割近く、「良好な住環境の保全」(52.0%)が5割を超え、「身近な公園や緑地の整備」(48.0%)が5割近くと高くなっている。70～79歳では「豊かな自然環境の保護」(38.2%)が4割近くと高くなっている。50～59歳では「幹線道路の計画的な整備」(35.5%)が3割半ばと高くなっている。

表10-6-1 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組一性別、年齢別

		n	中心市街地の整備による活性化	良好な住環境の保全	豊かな自然環境の保護	魅力ある都市景観の創造	幹線道路の計画的な整備	身近な公園や緑地の整備	河川の保全と親しみやすい水辺の環境づくり	インターチェンジ周辺の新たな拠点づくり	優良な農地の保全と有効利用	その他	無回答
全体		1,550	53.7	40.1	28.5	28.0	26.5	24.7	19.3	17.5	10.3	5.4	4.6
性別	男性	684	51.5	37.9	27.8	26.0	32.9	24.9	23.0	20.5	8.8	6.4	3.5
	女性	839	55.4	42.1	28.8	29.4	21.5	24.9	16.4	15.4	11.7	4.3	5.5
年齢別	20歳未満	25	68.0	52.0	20.0	24.0	20.0	48.0	-	8.0	8.0	-	-
	20～29歳	108	47.2	49.1	25.0	32.4	26.9	24.1	16.7	25.9	11.1	6.5	2.8
	30～39歳	180	48.3	42.8	29.4	26.7	25.0	29.4	15.0	22.2	10.0	7.2	2.8
	40～49歳	263	57.0	39.5	25.9	27.4	27.8	24.3	15.6	21.3	10.3	7.2	2.3
	50～59歳	234	55.6	46.6	24.8	31.2	35.5	18.8	16.2	19.2	8.1	3.8	3.8
	60～69歳	330	55.8	39.4	23.0	28.8	25.5	23.6	26.4	15.5	9.4	4.5	5.2
	70～79歳	283	56.2	32.2	38.2	27.2	23.3	26.5	25.1	11.7	11.0	4.2	6.0
	80歳以上	112	40.2	36.6	34.8	19.6	19.6	25.0	13.4	14.3	16.1	5.4	13.4

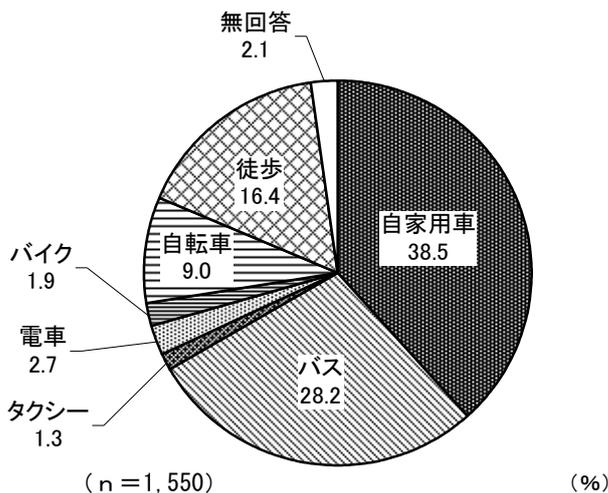
11 交通・道路

(1) 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段 (B:問20)

問. 本厚木駅周辺を訪れるとき、自宅からはどのような交通手段を利用していますか。

(1つだけ選んでください)

図11-1-1 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段



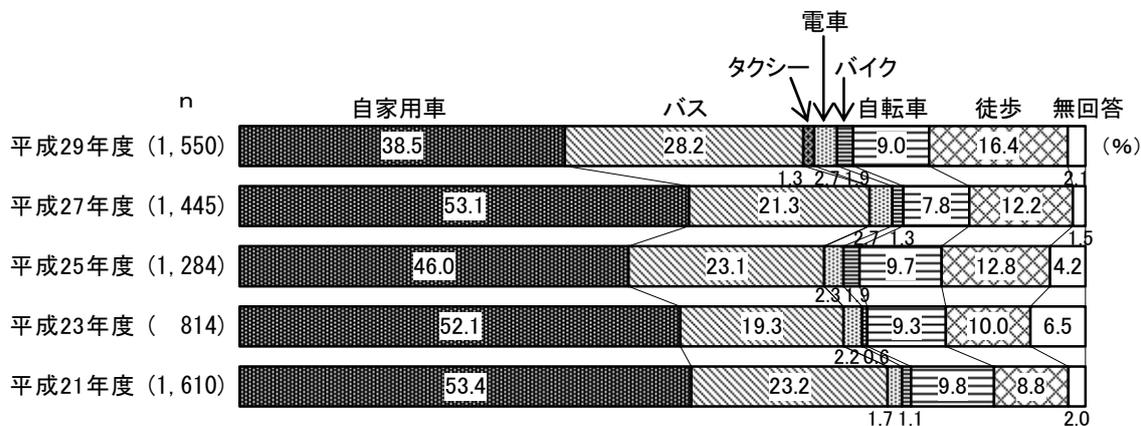
【全体】

本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段について聞いたところ、「自家用車」(38.5%)が4割近くで最も高く、次いで「バス」(28.2%)、「徒歩」(16.4%)、「自転車」(9.0%)となっている。

【経年変化】

平成27年度以前の調査では、「本厚木周辺で買物をするときの自宅からの主な交通手段」について聞いていた。また、一部の選択肢も異なっているため、参考に記載する。

図11-1-2 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段—経年変化



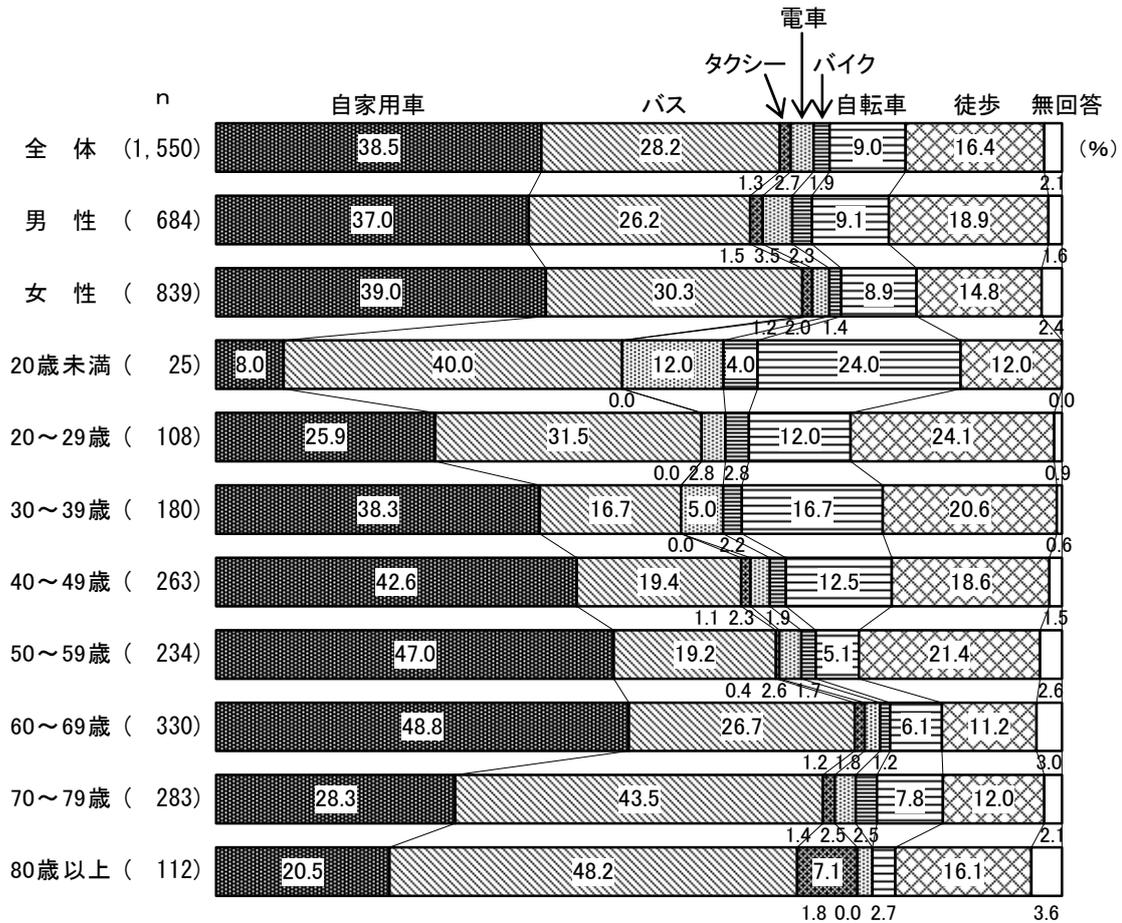
(注) 平成29年度調査では、「タクシー」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「バス」(30.3%)が男性(26.2%)より4.1ポイント高くなっている。一方、男性では「徒歩」(18.9%)が女性(14.8%)より4.1ポイント高くなっている。

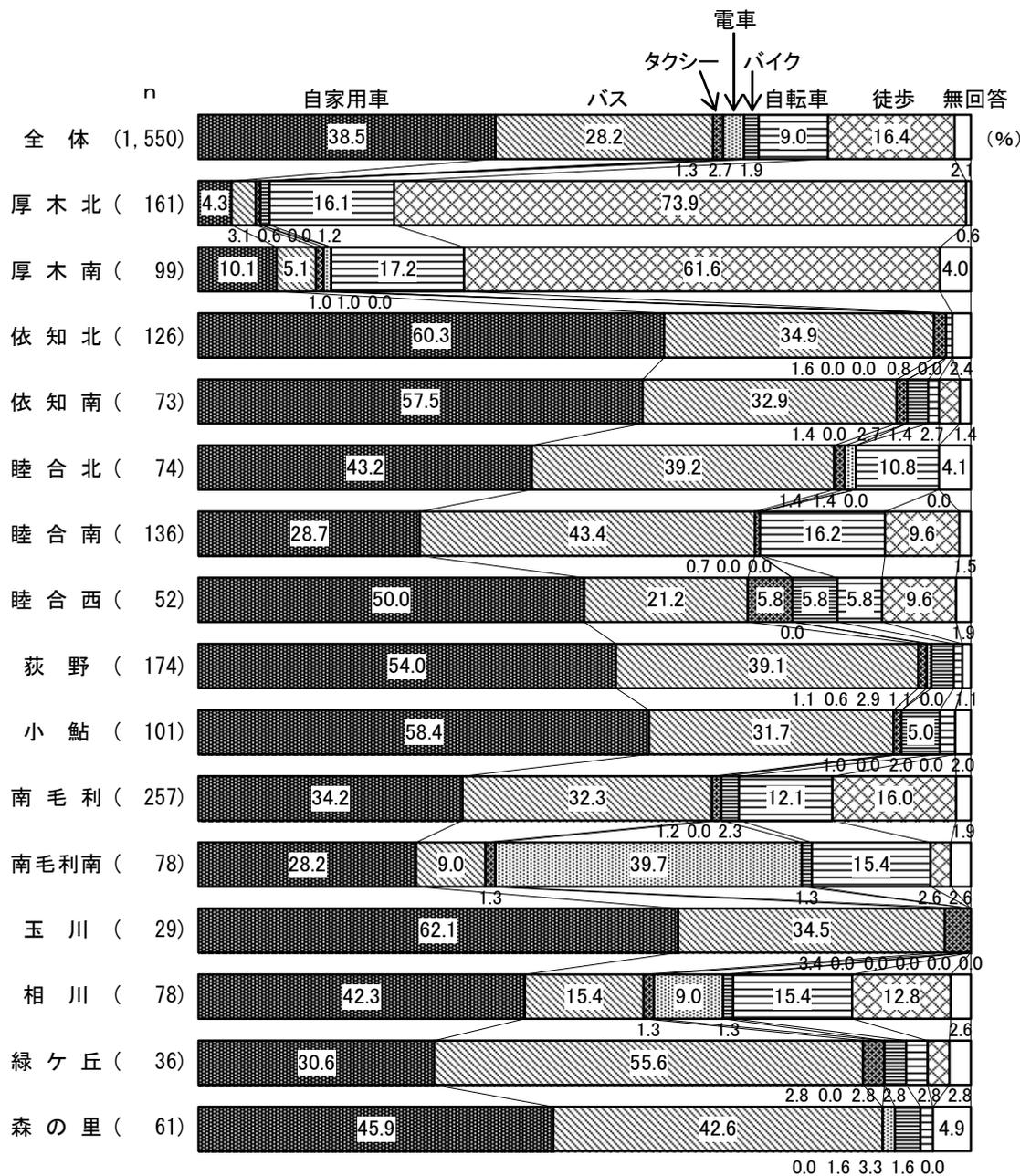
年齢別で見ると、40～69歳では「自家用車」が4割台と高くなっている。20歳未満と70～79歳、80歳以上では「バス」が4割台と高くなっている。20～29歳では「徒歩」(24.1%)が2割半ばと高くなっている。

図11-1-3 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段—性別、年齢別



〔居住地区別の結果〕

図11-1-4 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段—居住地区別

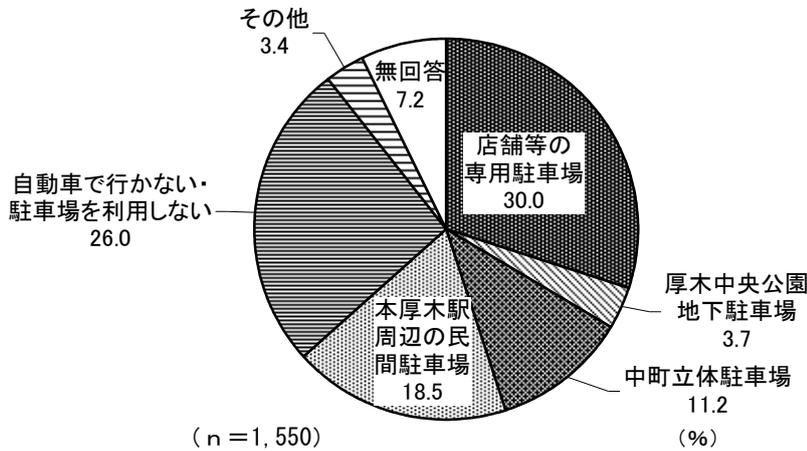


(2) 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場 (B: 問21)

問. 本厚木駅周辺を訪れるとき、主にどちらの駐車場を利用していますか。

(1つだけ選んでください)

図11-2-1 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場



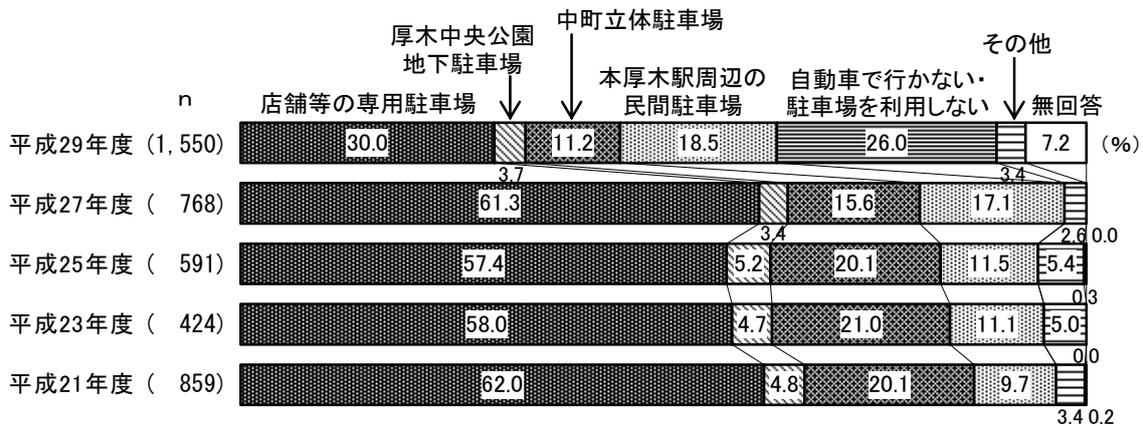
【全体】

本厚木駅周辺で主に利用する駐車場について聞いたところ、「店舗等の専用駐車場」(30.0%)が3割で最も高く、次いで「本厚木駅周辺の民間駐車場」(18.5%)、「中町立体駐車場」(11.2%)、「厚木中央公園地下駐車場」(3.7%)となっている。また、「自動車で行かない・駐車場を利用しない」(26.0%)は2割半ばを超えている。

【経年変化】

平成29年度調査では、回答の対象者や選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

図11-2-2 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場—経年変化



(注1) 平成27年度調査以前では、本厚木周辺で買物をするときの自宅からの主な交通手段について、「自家用車」と答えた人のみに質問していた。

(注2) 平成29年度調査では、「自動車で行かない・駐車場を利用しない」の選択肢を追加している。

(注3) 「店舗等の専用駐車場」は、平成25年度調査以前では「デパート等の専用駐車場」としていた。

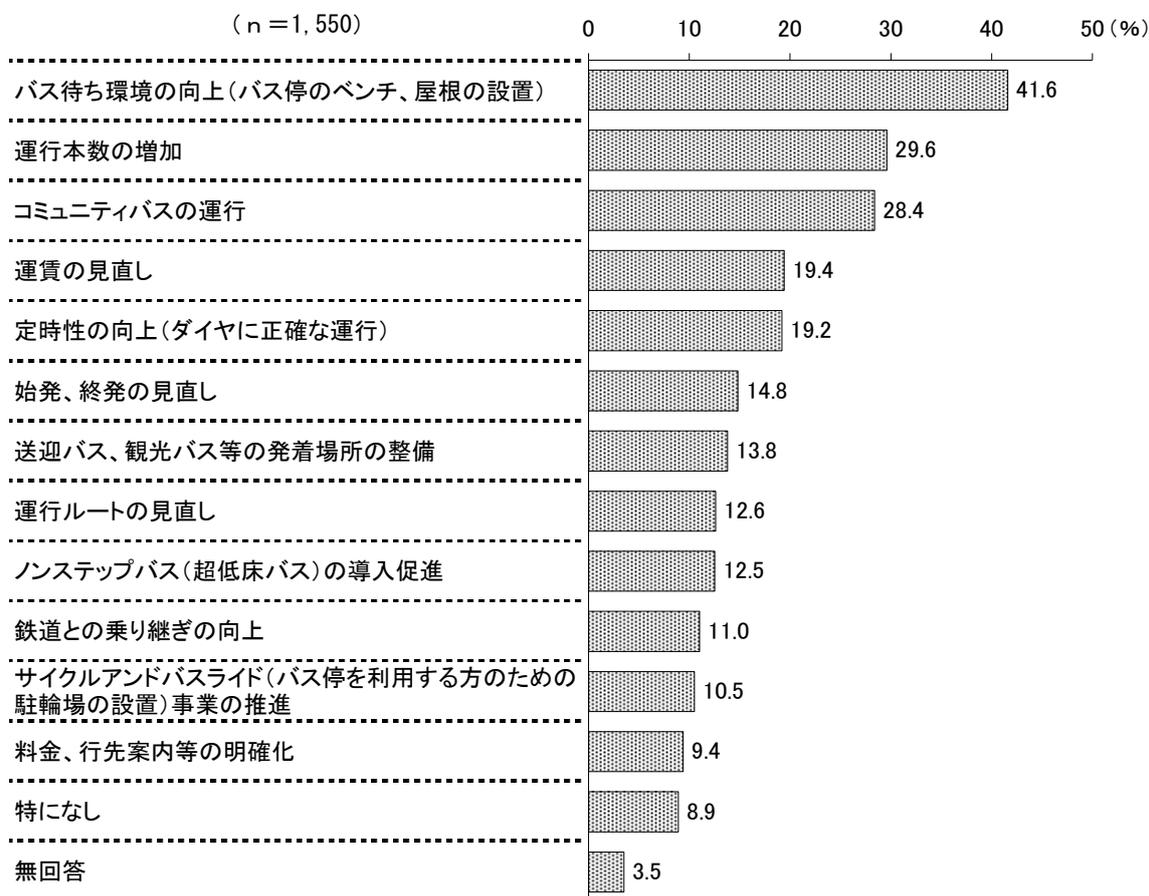
(注4) 「本厚木駅周辺の民間駐車場」は、平成25年度調査以前では「一番街周辺の民間駐車場」としていた。

(3) 市内のバス交通への取組 (B:問22)

問. 厚木市内のバス交通について、どのような取組が必要であると思いますか。

(3つまで選んでください)

図11-3-1 市内のバス交通への取組



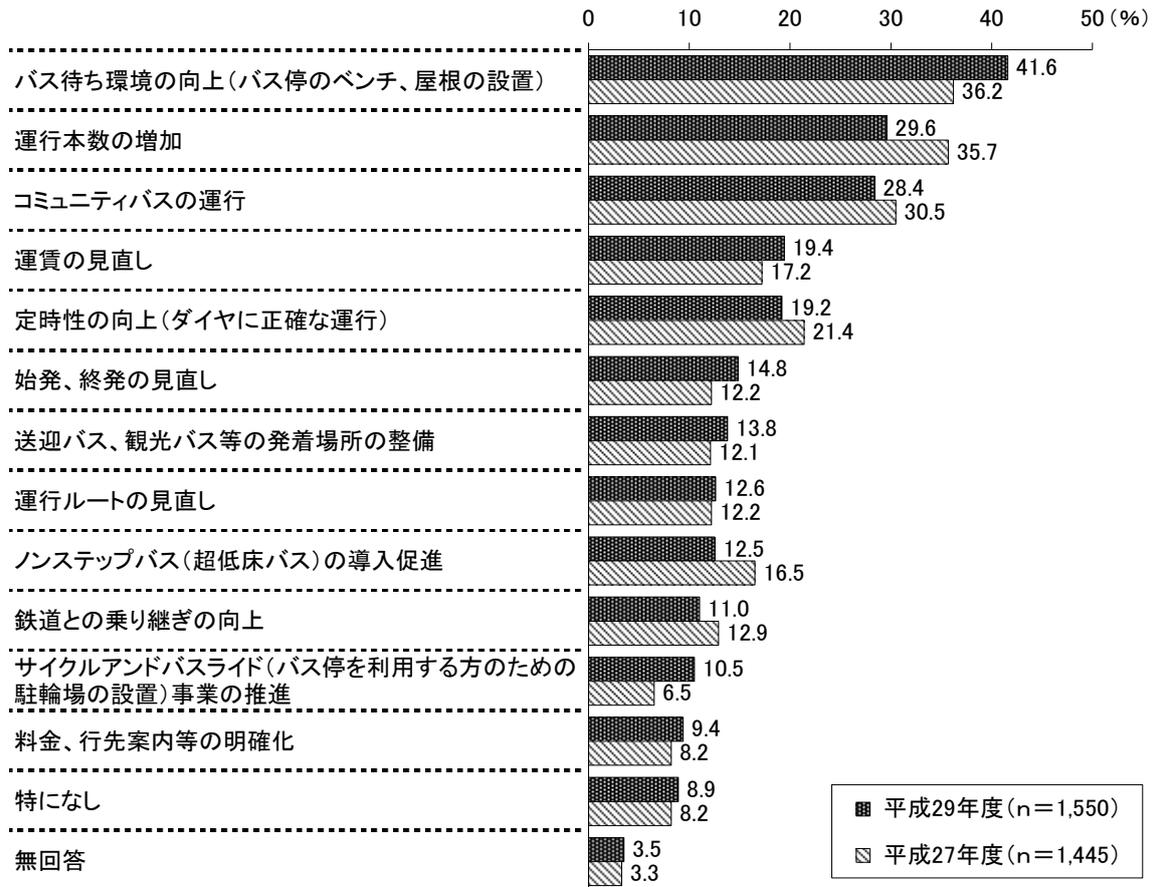
【全体】

市内のバス交通への取組について聞いたところ、「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置)」(41.6%)が4割を超えて最も高く、次いで「運行本数の増加」(29.6%)、「コミュニティバスの運行」(28.4%)、「運賃の見直し」(19.4%)、「定時性の向上(ダイヤに正確な運行)」(19.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「バス待ち環境の向上（バス停のベンチ、屋根の設置）」（41.6％）は平成27年度調査（36.2％）より5.4ポイント、「サイクルアンドバスライド（バス停を利用する方のための駐輪場の設置）事業の推進」（10.5％）は平成27年度調査（6.5％）より4.0ポイント増加している。一方、「運行本数の増加」（29.6％）は平成27年度調査（35.7％）より6.1ポイント、「ノンステップバス（超低床バス）の導入促進」（12.5％）は平成27年度調査（16.5％）より4.0ポイント減少している。

図11-3-2 市内のバス交通への取組—経年変化



【属性別】

性別で見ると、女性では「運行本数の増加」（31.7%）が男性（27.3%）より4.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳未満では「バス待ち環境の向上（バス停のベンチ、屋根の設置）」（56.0%）と「運賃の見直し」（56.0%）がともに5割半ばを超えて高くなっている。20歳未満～29歳では「運行本数の増加」が4割前後と高くなっている。60～69歳では「コミュニティバスの運行」（37.0%）が3割半ばを超えて高くなっている。70～80歳以上では「ノンステップバス（超低床バス）の導入促進」が2割を超えて高くなっている。

表11-3-1 市内のバス交通への取組—性別、年齢別

(%)

		n	バス待ち環境の向上（バス停のベンチ、屋根の設置）	運行本数の増加	コミュニティバスの運行	運賃の見直し	定時性の向上（ダイヤに正確な運行）	始発、終発の見直し	送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	運行ルートの見直し	進 ノンステップバス（超低床バス）の導入促進	鉄道との乗り継ぎの向上	サイクルアンドバスライド（バス停を利用するための駐輪場の設置） 事業の推進	料金、行先案内等の明確化	特になし	無回答
全 体		1,550	41.6	29.6	28.4	19.4	19.2	14.8	13.8	12.6	12.5	11.0	10.5	9.4	8.9	3.5
性別	男 性	684	40.2	27.3	27.6	18.4	18.9	15.2	13.9	13.3	11.0	12.6	9.4	10.5	10.5	3.2
	女 性	839	42.7	31.7	29.2	20.4	19.5	14.9	13.6	11.9	13.6	9.7	11.3	8.5	7.6	3.6
年 齢 別	20歳未満	25	56.0	40.0	8.0	56.0	28.0	16.0	4.0	12.0	8.0	8.0	8.0	12.0	8.0	-
	20～29歳	108	43.5	39.8	13.9	16.7	21.3	14.8	2.8	12.0	6.5	15.7	13.0	11.1	14.8	0.9
	30～39歳	180	47.8	35.6	19.4	16.1	18.3	16.1	8.9	15.6	8.3	11.7	16.7	14.4	10.6	1.1
	40～49歳	263	31.9	32.7	25.5	20.9	24.0	18.3	9.9	12.9	6.8	14.4	12.5	12.2	10.3	2.3
	50～59歳	234	35.9	30.8	30.8	20.9	19.7	22.6	15.0	12.8	10.3	13.7	9.8	11.1	5.6	3.8
	60～69歳	330	41.2	24.8	37.0	19.7	16.7	15.5	14.8	12.7	9.4	8.5	7.3	7.9	10.0	4.2
	70～79歳	283	46.6	25.1	32.2	19.1	16.6	7.4	23.7	11.3	23.7	7.1	8.8	4.9	5.3	5.3
	80歳以上	112	50.0	25.9	30.4	13.4	17.9	7.1	11.6	8.0	23.2	10.7	8.0	5.4	9.8	6.3

〔居住地区別の結果〕

表11-3-2 市内のバス交通への取組—居住地区別

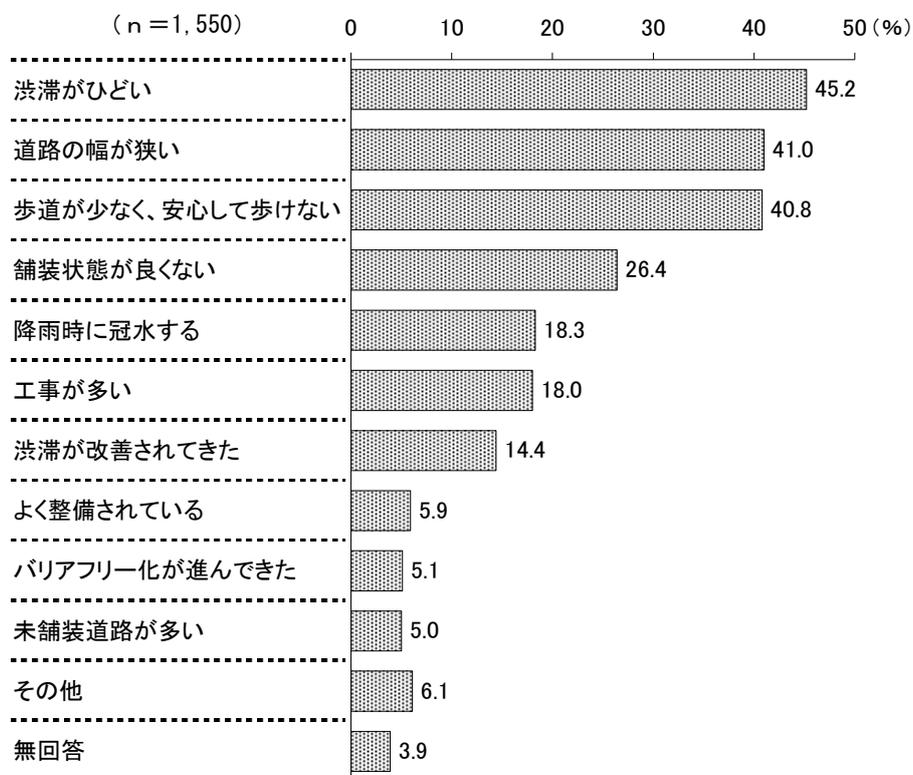
(%)

	n	バス待ち環境の向上（バス停のベンチ、屋根の設置）	運行本数の増加	コミュニティバスの運行	運賃の見直し	定時性の向上（ダイヤに正確な運行）	始発、終発の見直し	送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	運行ルートの見直し	ノンステップバス（超低床バス）の導入促進	鉄道との乗り継ぎの向上	サイクルアンドバスライド（バス停を利用する方のための駐輪場の設置）事業の推進	料金、行先案内等の明確化	特になし	無回答	
全 体	1,550	41.6	29.6	28.4	19.4	19.2	14.8	13.8	12.6	12.5	11.0	10.5	9.4	8.9	3.5	
居 住 地 区 別	厚 木 北	161	34.8	15.5	26.7	13.0	7.5	6.8	21.7	10.6	13.7	13.0	14.9	14.9	18.6	2.5
	厚 木 南	99	35.4	18.2	28.3	12.1	8.1	8.1	21.2	8.1	13.1	9.1	11.1	14.1	18.2	6.1
	依 知 北	126	42.9	39.7	31.7	31.7	19.8	23.0	6.3	16.7	12.7	11.1	7.1	5.6	4.0	4.0
	依 知 南	73	52.1	19.2	31.5	17.8	34.2	6.8	17.8	8.2	15.1	13.7	15.1	6.8	1.4	5.5
	睦 合 北	74	47.3	24.3	31.1	25.7	21.6	18.9	9.5	10.8	12.2	2.7	14.9	10.8	6.8	5.4
	睦 合 南	136	50.7	16.2	24.3	18.4	18.4	16.9	13.2	11.0	14.7	7.4	11.8	11.8	11.0	1.5
	睦 合 西	52	36.5	21.2	25.0	11.5	19.2	21.2	15.4	9.6	19.2	7.7	11.5	3.8	9.6	3.8
	荻 野	174	44.3	33.9	27.6	32.2	18.4	12.6	12.6	17.2	8.6	10.3	8.6	10.3	5.7	1.7
	小 鮎	101	42.6	38.6	26.7	15.8	16.8	18.8	10.9	13.9	14.9	12.9	7.9	5.0	5.0	5.0
	南 毛 利	257	41.2	38.1	29.2	12.1	23.3	16.3	13.2	15.2	12.5	11.7	11.7	7.4	8.2	1.6
	南毛利南	78	38.5	24.4	29.5	16.7	12.8	11.5	15.4	16.7	2.6	14.1	9.0	10.3	12.8	7.7
	玉 川	29	34.5	55.2	41.4	31.0	20.7	24.1	3.4	3.4	3.4	20.7	3.4	3.4	6.9	-
	相 川	78	42.3	28.2	29.5	15.4	25.6	14.1	15.4	7.7	12.8	10.3	11.5	14.1	7.7	6.4
	緑ヶ丘	36	61.1	25.0	27.8	11.1	52.8	11.1	11.1	2.8	16.7	2.8	5.6	-	5.6	2.8
森の里	61	19.7	60.7	27.9	36.1	13.1	24.6	6.6	13.1	11.5	21.3	-	11.5	1.6	4.9	

(4) 市内の道路の現状 (B: 問23)

問. 厚木市の道路の現状について、どのように感じますか。(いくつでも選んでください)

図11-4-1 市内の道路の現状



【全体】

市内の道路の現状について聞いたところ、「渋滞がひどい」(45.2%)が4割半ばで最も高く、次いで「道路の幅が狭い」(41.0%)、「歩道が少なく、安心して歩けない」(40.8%)、「舗装状態が良くない」(26.4%)、「降雨時に冠水する」(18.3%)、「工事が多い」(18.0%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「道路の幅が狭い」（41.0％）は平成27年度調査（35.7％）より5.3ポイント、「舗装状態が良くない」（26.4％）は平成27年度調査（21.6％）より4.8ポイント増加している。

表11-4-1 市内の道路の現状—経年変化

調 査 年	n	(%)											
		渋滞 がひどい	道路 の幅が狭い	歩道 が少なく、 安心して歩 けない	舗装 状態が良く ない	降雨 時に冠水す る	工事 が多い	渋滞 が改善され てきた	よく 整備されて いる	バリ アフリー化 が進んでき た	未舗 装道路が多 い	その他	無 回答
平成29年度	1,550	45.2	41.0	40.8	26.4	18.3	18.0	14.4	5.9	5.1	5.0	6.1	3.9
平成27年度	1,445	45.1	35.7	39.3	21.6	17.0	19.4	12.9	4.8	6.7	2.8	7.2	4.4
平成25年度	1,284	43.0	33.2	31.6	17.5	14.5	19.9	17.6	6.5	10.0	3.7	6.5	6.9
平成23年度	814	44.7	32.9	32.6	17.8	16.2	28.5	18.6	4.9	16.2	2.6	6.0	5.3
平成21年度	1,610	51.1	31.3	35.2	18.6	18.4	29.0	14.7	5.3	15.9	3.7	5.0	5.3
平成19年度	1,506	52.7	33.9	31.5	17.9	19.7	32.0	12.9	4.3	17.3	3.7	4.4	5.8

(注1)「道路の幅が狭い」は、平成27年度調査以前では「道路幅員が狭い」としていた。

(注2)「降雨時に冠水する」は、平成25年度調査以前では「側溝が整備されていないため、降雨時に冠水する」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「渋滞がひどい」（47.5%）が女性（43.4%）より4.1ポイント高くなっている。一方、女性では「降雨時に冠水する」（20.9%）が男性（14.6%）より6.3ポイント、「道路の幅が狭い」（42.7%）が男性（38.7%）より4.0ポイント、「歩道が少なく、安心して歩けない」（42.6%）が男性（38.6%）より4.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、50～59歳では「渋滞がひどい」（54.3%）が5割半ばと高くなっている。20歳未満では「道路の幅が狭い」（56.0%）が5割半ばを超え、「工事が多い」（28.0%）が3割近く、「よく整備されている」（20.0%）が2割と高くなっている。

表11-4-2 市内の道路の現状－性別、年齢別

(%)

		n	渋滞がひどい	道路の幅が狭い	歩道が少なく、安心して歩けない	舗装状態が良くない	降雨時に冠水する	工事が多い	渋滞が改善されてきた	よく整備されている	バリアフリー化が進んできた	未舗装道路が多い	その他	無回答
全 体		1,550	45.2	41.0	40.8	26.4	18.3	18.0	14.4	5.9	5.1	5.0	6.1	3.9
性別	男 性	684	47.5	38.7	38.6	27.5	14.6	16.2	15.1	7.3	4.4	3.8	6.0	3.1
	女 性	839	43.4	42.7	42.6	25.0	20.9	19.1	13.8	4.6	5.6	5.6	6.1	4.4
年 齢 別	20歳未満	25	40.0	56.0	40.0	12.0	20.0	28.0	-	20.0	4.0	4.0	-	-
	20～29歳	108	46.3	35.2	23.1	22.2	17.6	16.7	8.3	8.3	2.8	7.4	7.4	0.9
	30～39歳	180	48.3	43.3	43.3	26.7	18.3	20.0	11.1	7.8	3.9	7.2	5.0	0.6
	40～49歳	263	46.0	36.5	41.4	25.9	20.5	14.4	17.1	5.3	3.0	3.8	10.3	1.5
	50～59歳	234	54.3	39.7	38.5	29.9	21.4	18.8	12.8	5.1	5.1	3.8	6.8	2.1
	60～69歳	330	43.6	44.5	41.2	27.0	19.4	22.1	13.9	4.2	4.8	3.6	4.5	4.2
	70～79歳	283	42.8	47.0	46.3	26.9	13.1	13.8	18.0	4.2	6.0	4.6	4.6	7.1
	80歳以上	112	31.3	27.7	44.6	24.1	16.1	17.9	17.9	8.0	11.6	6.3	5.4	11.6

〔居住地区別の結果〕

表11-4-3 市内の道路の現状－居住地区別

(%)

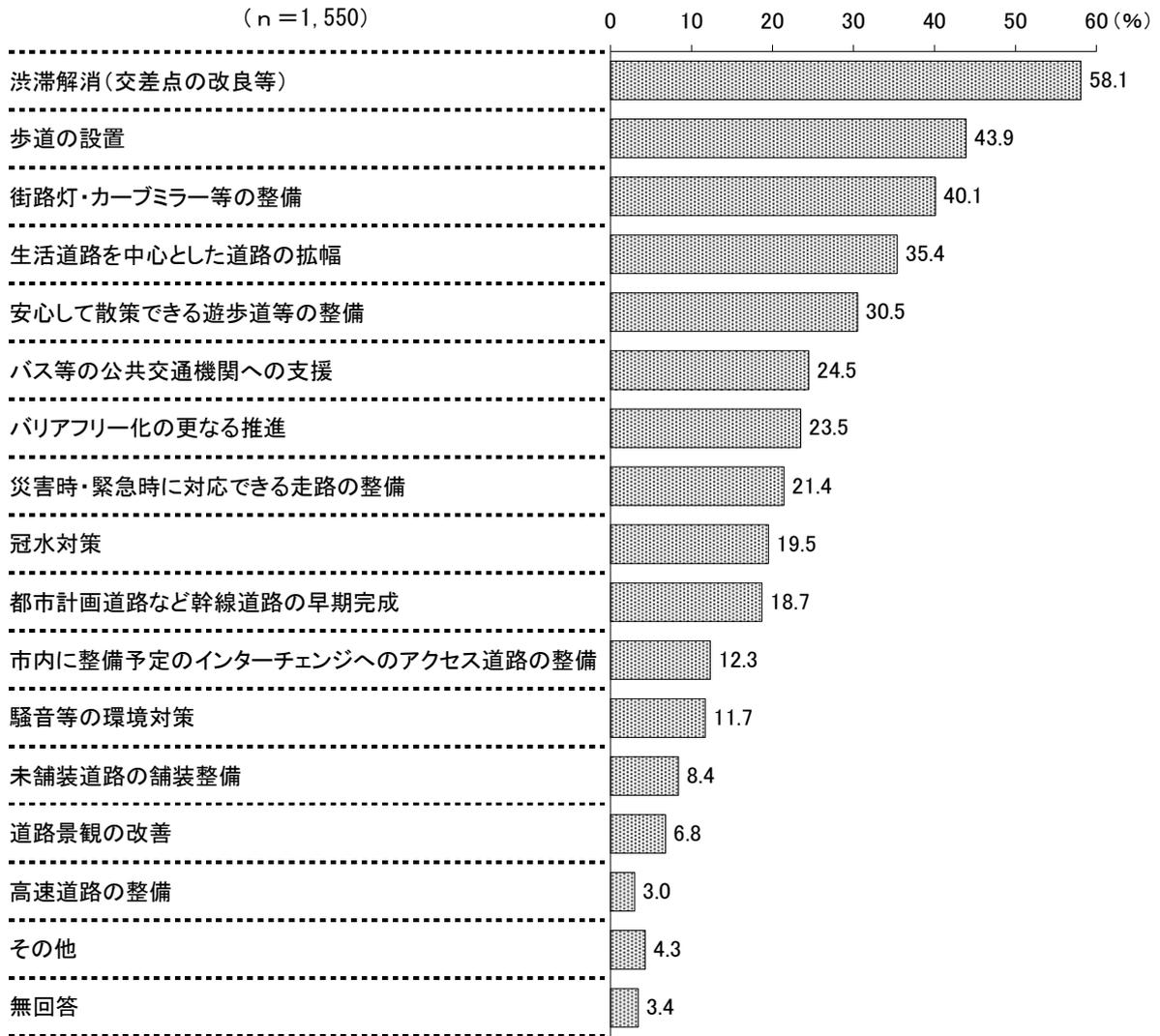
		n	渋滞がひどい	道路の幅が狭い	歩道が少なく、安心して歩けない	舗装状態が良くない	降雨時に冠水する	工事が多い	渋滞が改善されてきた	よく整備されている	バリアフリー化が進んできた	未舗装道路が多い	その他	無回答
全 体		1,550	45.2	41.0	40.8	26.4	18.3	18.0	14.4	5.9	5.1	5.0	6.1	3.9
居 住 地 区 別	厚 木 北	161	36.0	37.3	38.5	29.8	23.0	15.5	14.3	8.7	8.1	2.5	11.8	2.5
	厚 木 南	99	38.4	30.3	39.4	18.2	21.2	8.1	14.1	8.1	7.1	8.1	10.1	3.0
	依 知 北	126	47.6	47.6	45.2	27.0	22.2	16.7	24.6	2.4	6.3	5.6	3.2	2.4
	依 知 南	73	46.6	52.1	45.2	30.1	16.4	15.1	20.5	4.1	5.5	5.5	4.1	2.7
	睦 合 北	74	45.9	40.5	52.7	31.1	16.2	20.3	16.2	8.1	5.4	9.5	4.1	5.4
	睦 合 南	136	28.7	49.3	54.4	34.6	21.3	16.9	11.0	3.7	5.1	6.6	7.4	3.7
	睦 合 西	52	40.4	38.5	46.2	30.8	17.3	15.4	13.5	7.7	5.8	3.8	5.8	5.8
	荻 野	174	45.4	39.1	41.4	23.0	15.5	16.1	18.4	4.0	2.9	4.6	4.6	5.7
	小 鮎	101	55.4	38.6	29.7	22.8	19.8	25.7	11.9	5.0	1.0	4.0	3.0	4.0
	南 毛 利	257	56.4	45.5	40.9	23.7	15.6	19.8	10.5	5.1	2.7	2.7	4.3	3.1
	南毛利南	78	37.2	43.6	33.3	25.6	15.4	24.4	15.4	6.4	7.7	9.0	6.4	3.8
	玉 川	29	55.2	48.3	37.9	20.7	10.3	24.1	6.9	-	3.4	6.9	3.4	6.9
	相 川	78	46.2	41.0	41.0	35.9	24.4	14.1	15.4	11.5	6.4	3.8	5.1	2.6
	緑ヶ丘	36	61.1	30.6	38.9	19.4	11.1	30.6	8.3	5.6	11.1	2.8	8.3	5.6
森の里	61	45.9	18.0	18.0	19.7	11.5	18.0	6.6	8.2	3.3	1.6	9.8	4.9	

(5) 道路整備への取組 (B:問24)

問. 厚木市の道路整備について、どのような取組が必要であると思いますか。

(いくつでも選んでください)

図11-5-1 道路整備への取組



【全体】

道路整備への取組について聞いたところ、「渋滞解消(交差点の改良等)」(58.1%)が6割近くで最も高く、次いで「歩道の設置」(43.9%)、「街路灯・カーブミラー等の整備」(40.1%)、「生活道路を中心とした道路の拡幅」(35.4%)、「安心して散策できる遊歩道等の整備」(30.5%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位3項目は平成27年度調査および平成25年度調査と同じ順位となっている。また、「街路灯・カーブミラー等の整備」(40.1%)は平成27年度調査(33.2%)より6.9ポイント増加している。

表11-5-1 道路整備への取組一経年変化(上位8項目)

順位	平成29年度 (n=1,550)		平成27年度 (n=1,445)		平成25年度 (n=1,284)		平成23年度 (n=814)		平成21年度 (n=1,610)		平成19年度 (n=1,506)	
1	渋滞解消 (交差点の 改良等)	58.1	渋滞解消 (交差点の 改良等)	55.4	渋滞解消 (交差点の 改良等)	55.9	渋滞解消 (交差点の 改良等)	54.9	渋滞解消 (交差点の 改良等)	59.3	渋滞解消 (交差点の 改良等)	56.6
2	歩道の設置	43.9	歩道の設置	45.0	歩道の設置	39.3	街路灯・ カーブミラー 等整備	36.7	街路灯・ カーブミラー 等整備	39.6	街路灯・ カーブミラー 等整備	39.4
3	街路灯・ カーブミラー 等の整備	40.1	街路灯・ カーブミラー 等整備	33.2	街路灯・ カーブミラー 等整備	35.0	歩道の設置	34.3	歩道の設置	35.7	安心して散策 できる遊歩道 等の整備	37.6
4	生活道路を 中心とした 道路の拡幅	35.4	安心して散策 できる遊歩道 等の整備	33.1	生活道路を 中心とした 道路拡幅	31.5	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備	32.6	安心して散策 できる遊歩道 等の整備	34.4	バス等の公共 交通機関への 支援	35.0
5	安心して散策 できる遊歩道 等の整備	30.5	生活道路を 中心とした 道路拡幅	32.5	安心して散策 できる遊歩道 等の整備	31.4	安心して散策 できる遊歩道 等の整備	32.3	バス等の公共 交通機関への 支援	30.7	歩道の設置	31.1
6	バス等の公共 交通機関への 支援	24.5	バス等の公共 交通機関への 支援	22.2	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備	29.7	バス等の公共 交通機関への 支援	28.4	バリアフリー 化の更なる 推進	27.9	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備	29.4
7	バリアフリー 化の更なる 推進	23.5	バリアフリー 化の更なる 推進	21.9	バス等の公共 交通機関への 支援	25.9	生活道路を 中心とした 道路拡幅	26.9	生活道路を 中心とした 道路拡幅	27.5	生活道路を 中心とした 道路拡幅	27.4
8	災害時・緊急 時に対応でき る走路の整備	21.4	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備	21.1	バリアフリー 化の更なる 推進	22.0	バリアフリー 化の更なる 推進	25.4	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備	26.6	バリアフリー 化の更なる 推進	26.3

(注)「冠水対策」は、平成27年度調査では「道路冠水対策」としていた。また、平成25年度調査以前では選択肢に加えていない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「冠水対策」（23.0％）が男性（15.1％）より7.9ポイント、「街路灯・カーブミラー等の整備」（43.4％）が男性（35.7％）より7.7ポイント、「バス等の公共交通機関への支援」（27.8％）が男性（20.9％）より6.9ポイント、「災害時・緊急時に対応できる走路の整備」（24.3％）が男性（17.7％）より6.6ポイント、「バリアフリー化の更なる推進」（26.1％）が男性（19.6％）より6.5ポイント高くなっている。一方、男性では「都市計画道路など幹線道路の早期完成」（23.0％）が女性（15.3％）より7.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、50～59歳では「渋滞解消（交差点の改良等）」（69.2％）が約7割と高くなっている。20歳未満では「歩道の設置」（68.0％）が7割近く、「街路灯・カーブミラー等の整備」（52.0％）が5割を超え、「安心して散歩できる遊歩道等の整備」（40.0％）が4割と高くなっている。50～59歳と80歳以上では「バリアフリー化の更なる推進」が約3割と高くなっている。

表11-5-2 道路整備への取組—性別、年齢別

(%)

		n	渋滞解消（交差点の改良等）	歩道の設置	街路灯・カーブミラー等の整備	生活道路を中心とした道路の拡幅	安心して散歩できる遊歩道等の整備	バス等の公共交通機関への支援	バリアフリー化の更なる推進	災害時・緊急時に対応できる走路の整備	冠水対策	都市計画道路など幹線道路の早期完成	市内に整備予定のインターチェンジへのアクセス道路の整備	騒音等の環境対策	未舗装道路の舗装整備	道路景観の改善	高速道路の整備	その他	無回答
全体		1,550	58.1	43.9	40.1	35.4	30.5	24.5	23.5	21.4	19.5	18.7	12.3	11.7	8.4	6.8	3.0	4.3	3.4
性別	男性	684	61.3	41.2	35.7	34.6	28.7	20.9	19.6	17.7	15.1	23.0	15.6	12.0	6.6	7.7	3.9	5.3	2.9
	女性	839	55.9	46.4	43.4	36.0	31.8	27.8	26.1	24.3	23.0	15.3	9.7	11.4	9.8	6.1	2.3	3.5	3.7
年齢別	20歳未満	25	52.0	68.0	52.0	40.0	40.0	28.0	20.0	20.0	20.0	8.0	4.0	20.0	8.0	-	-	-	-
	20～29歳	108	59.3	33.3	42.6	26.9	22.2	30.6	13.0	16.7	13.9	16.7	8.3	16.7	13.0	6.5	4.6	5.6	2.8
	30～39歳	180	63.3	47.8	47.8	36.1	32.2	27.8	17.2	23.3	21.1	16.1	17.2	11.7	12.8	8.3	4.4	5.6	2.2
	40～49歳	263	61.2	46.0	42.2	35.7	24.7	23.2	21.7	21.7	23.6	17.5	13.3	14.4	6.8	5.3	3.4	6.8	1.5
	50～59歳	234	69.2	42.7	47.0	37.6	24.4	19.2	29.1	21.8	25.6	18.4	13.7	11.1	8.1	8.5	3.8	3.4	1.3
	60～69歳	330	54.5	40.6	35.8	35.2	31.5	21.5	23.6	22.1	20.0	21.2	12.7	11.2	5.8	7.6	2.1	4.5	3.3
	70～79歳	283	53.4	46.6	33.6	38.5	37.8	28.6	25.4	22.3	14.8	21.9	12.4	9.5	7.8	6.4	2.5	2.5	4.9
	80歳以上	112	43.8	45.5	33.0	28.6	36.6	25.9	30.4	17.9	11.6	14.3	3.6	7.1	9.8	5.4	0.9	1.8	11.6

〔居住地区別の結果〕

表11-5-3 道路整備への取組—居住地区別

(%)

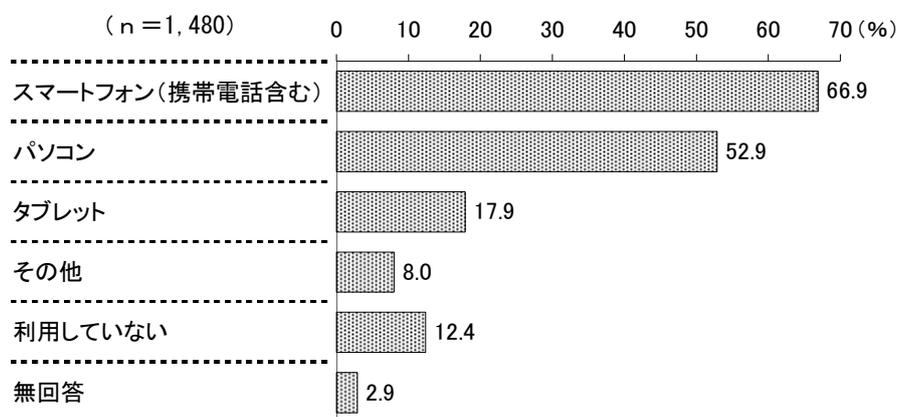
	n	渋滞解消（交差点の改良等）	歩道の設置	街路灯・カーブミラー等の整備	生活道路を中心とした道路の拡幅	安心して散策できる遊歩道等の整備	バス等の公共交通機関への支援	バリアフリー化の更なる推進	災害時・緊急時に対応できる走路の整備	冠水対策	都市計画道路など幹線道路の早期完成	市内に整備予定のインターチェンジへのアクセス道路の整備	騒音等の環境対策	未舗装道路の舗装整備	道路景観の改善	高速道路の整備	その他	無回答	
全 体	1,550	58.1	43.9	40.1	35.4	30.5	24.5	23.5	21.4	19.5	18.7	12.3	11.7	8.4	6.8	3.0	4.3	3.4	
居 住 地 区 別	厚 木 北	161	50.9	39.8	32.9	36.0	34.8	11.8	31.7	18.6	23.6	10.6	11.2	18.6	8.1	6.2	3.1	6.2	0.6
	厚 木 南	99	49.5	42.4	35.4	26.3	26.3	14.1	27.3	17.2	23.2	14.1	11.1	6.1	7.1	9.1	2.0	3.0	3.0
	依 知 北	126	64.3	50.0	35.7	43.7	32.5	36.5	19.0	26.2	21.4	23.0	11.9	11.1	7.9	7.9	2.4	4.0	4.0
	依 知 南	73	56.2	42.5	39.7	41.1	31.5	26.0	21.9	30.1	12.3	24.7	11.0	20.5	8.2	8.2	-	4.1	4.1
	睦 合 北	74	52.7	52.7	39.2	35.1	35.1	17.6	24.3	27.0	23.0	18.9	14.9	9.5	12.2	2.7	2.7	1.4	4.1
	睦 合 南	136	42.6	55.1	45.6	45.6	34.6	25.7	25.7	23.5	22.8	16.9	4.4	18.4	11.0	6.6	2.2	6.6	1.5
	睦 合 西	52	44.2	40.4	50.0	34.6	38.5	15.4	32.7	17.3	13.5	19.2	5.8	19.2	9.6	3.8	-	1.9	1.9
	荻 野	174	58.6	46.6	41.4	33.9	33.3	26.4	19.0	19.0	19.5	22.4	14.9	12.1	6.9	12.6	4.6	4.0	4.6
	小 鮎	101	60.4	37.6	42.6	31.7	22.8	29.7	17.8	16.8	16.8	25.7	19.8	5.9	5.0	8.9	3.0	2.0	6.9
	南 毛 利	257	70.4	45.1	40.5	31.1	26.5	29.6	22.2	22.2	18.7	18.3	12.5	8.2	7.0	4.3	2.7	4.3	2.3
	南毛利南	78	53.8	35.9	50.0	44.9	25.6	16.7	26.9	24.4	15.4	14.1	15.4	14.1	11.5	3.8	9.0	7.7	3.8
	玉 川	29	69.0	37.9	48.3	31.0	24.1	17.2	10.3	20.7	13.8	20.7	20.7	3.4	10.3	3.4	3.4	3.4	6.9
	相 川	78	60.3	42.3	39.7	37.2	35.9	20.5	24.4	26.9	26.9	21.8	12.8	6.4	11.5	5.1	3.8	5.1	6.4
	緑ヶ丘	36	75.0	52.8	41.7	27.8	36.1	27.8	22.2	16.7	16.7	11.1	8.3	13.9	8.3	13.9	2.8	2.8	5.6
森の里	61	67.2	26.2	32.8	23.0	18.0	44.3	19.7	11.5	11.5	18.0	14.8	4.9	6.6	3.3	3.3	1.6	1.6	

12 広報

(1) 家庭で利用する情報機器 (A: 問19)

問. 家庭では、どのような情報機器を利用していますか。(いくつでも選んでください)

図12-1-1 家庭で利用する情報機器



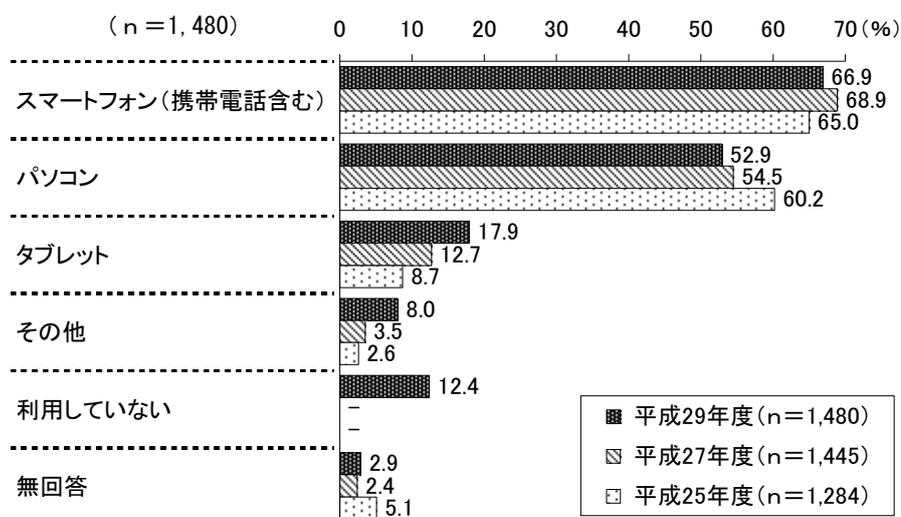
【全体】

家庭で利用する情報機器について聞いたところ、「スマートフォン(携帯電話含む)」(66.9%)が6割半ばを超えて最も高く、次いで「パソコン」(52.9%)、「タブレット」(17.9%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「タブレット」(17.9%)は増加傾向にあり、平成27年度調査(12.7%)より5.2ポイント増加している。一方、「パソコン」(52.9%)は減少傾向にある。

図12-1-2 家庭で利用する情報機器—経年変化



(注1) 平成29年度調査では、「利用していない」の選択肢を追加している。

(注2) 「タブレット」は、平成27年度調査以前では「タブレット型パソコン」としていた。

(注3) 平成27年度調査以前では、「テレビ」、「インターネット」、「ラジオ」、「電子メール」、「ゲーム機」の選択肢を追加していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「スマートフォン（携帯電話含む）」（68.5%）が男性（65.2%）より3.3ポイント高くなっている。一方、男性では「パソコン」（60.6%）が女性（46.7%）より13.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20歳未満～39歳では「スマートフォン（携帯電話含む）」が9割以上と高くなっている。20歳未満では「パソコン」（90.9%）が約9割と高くなっている。20歳未満～59歳では「タブレット」が2割半ばと高くなっている。80歳以上では「利用していない」（38.2%）が4割近くと高くなっている。

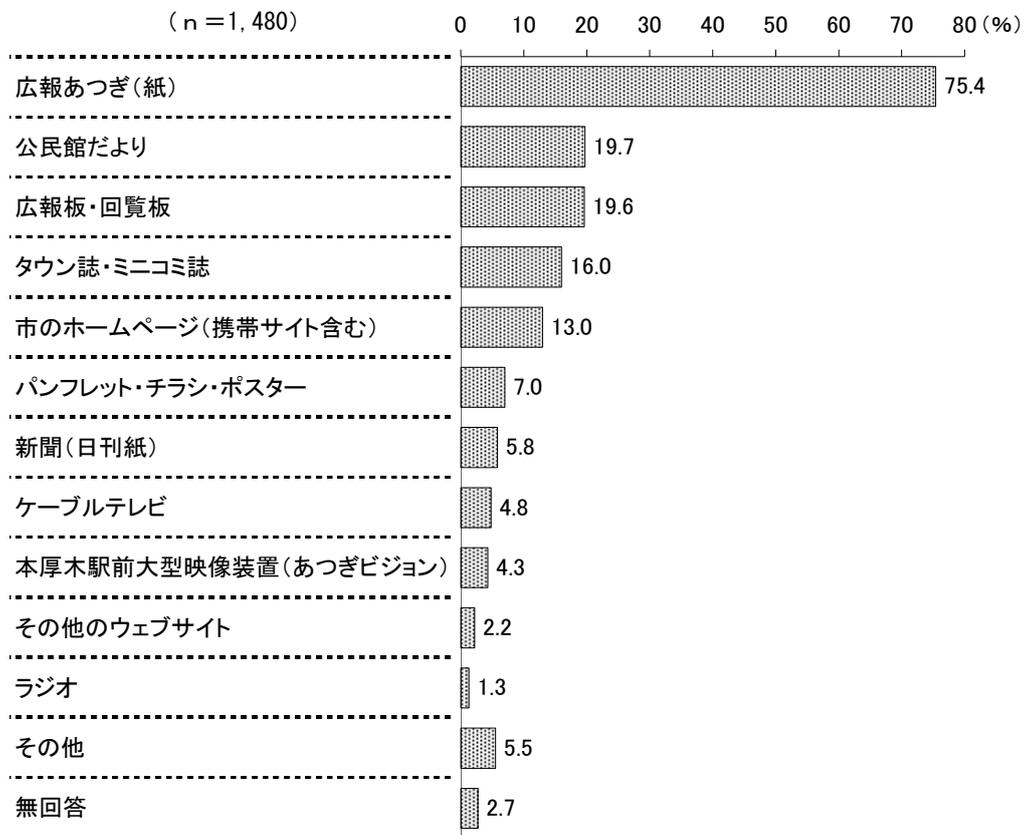
表12-1-1 家庭で利用する情報機器—性別、年齢別

		(%)						
		n	スマートフォン (携帯電話含む)	パソコン	タブレット	その他	利用していない	無回答
全 体		1,480	66.9	52.9	17.9	8.0	12.4	2.9
性別	男 性	650	65.2	60.6	19.2	9.7	9.5	1.8
	女 性	806	68.5	46.7	16.7	6.5	14.5	3.7
年 齢 別	20歳未満	22	100.0	90.9	22.7	4.5	-	-
	20～29歳	99	99.0	69.7	25.3	-	-	-
	30～39歳	186	91.9	62.9	25.3	1.1	1.1	-
	40～49歳	233	86.3	60.1	27.0	3.4	5.2	-
	50～59歳	217	75.1	63.1	25.8	5.5	6.9	0.5
	60～69歳	316	58.5	50.0	13.0	9.2	17.4	1.9
	70～79歳	295	40.0	39.3	7.8	16.9	20.0	7.8
80歳以上	102	26.5	21.6	2.9	15.7	38.2	11.8	

(2) 市の情報の入手方法 (A: 問20)

問. 厚木市の情報を主に何から入手していますか。(2つまで選んでください)

図12-2-1 市の情報の入手方法



【全体】

市の情報の入手方法について聞いたところ、「広報あつぎ(紙)」(75.4%)が7割半ばで最も高く、次いで「公民館だより」(19.7%)、「広報板・回覧板」(19.6%)、「タウン誌・ミニコミ誌」(16.0%)、「市のホームページ(携帯サイト含む)」(13.0%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、選択可能数が平成27年度調査と異なっているほか、一部の選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

表12-2-1 市の情報の入手方法—経年変化

調 査 年	n	(%)													
		広報あつぎ (紙)	公民館だより	広報板・回覧板	タウン誌・ミニコミ誌	市のホームページ (携帯サイト含む)	パンフレット・チラシ・ポスター	新聞(日刊紙)	ケーブルテレビ	本厚木駅前大型映像装置 (あつぎビジョン)	その他のウェブサイト	ラジオ	その他	無回答	市の携帯版ウェブサイト
平成29年度	1,480	75.4	19.7	19.6	16.0	13.0	7.0	5.8	4.8	4.3	2.2	1.3	5.5	2.7	-
平成27年度	1,471	85.9	38.4	10.0	22.6	20.9	15.5	8.8	6.9	9.6	-	0.5	5.7	1.3	2.2
平成25年度	1,270	82.0	33.1	10.8	21.7	22.8	6.6	11.6	8.7	7.8	-	0.7	5.6	3.3	2.4
平成23年度	814	77.8	21.6	4.5	12.0	22.5	2.5	8.2	3.8	4.7	-	0.1	3.6	4.1	1.6
平成21年度	1,610	83.7	27.1	4.0	15.8	13.1	2.4	8.6	6.0	-	-	0.6	1.5	1.7	1.0
平成19年度	1,506	83.2	25.6	3.1	13.1	11.0	2.3	11.5	8.6	-	-	0.4	7.0	2.1	0.7
平成17年度	1,008	84.9	28.8	9.6	8.3	12.3	0.2	2.6	2.2	-	-	5.8	0.7	15.3	0.7

(注1) 平成27年度調査～平成23年度調査では、選択可能数を3つまでとしていた。

(注2) 平成29年度調査では、「その他のウェブサイト」の選択肢を追加している。

(注3) 平成23年度調査以降では、「本厚木駅前大型映像装置(あつぎビジョン)」の選択肢を追加している。

(注4) 「広報あつぎ(紙)」は、平成27年度調査以前では「広報あつぎ」としていた。

(注5) 「市のホームページ(携帯サイト含む)」は、平成27年度調査以前では2つの選択肢「市のホームページ」、「市の携帯版ウェブサイト」としていた。

(注6) 「パンフレット・チラシ・ポスター」は、平成27年度調査以前では「パンフレット・チラシ」としていた。

(注7) 「広報板・回覧板」は、平成27年度調査以前では「掲示板やポスター」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「広報あつぎ（紙）」（78.0%）が男性（72.3%）より5.7ポイント、「公民館だより」（22.2%）が男性（16.6%）より5.6ポイント高くなっている。一方、男性では「市のホームページ（携帯サイト含む）」（14.6%）が女性（11.3%）より3.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、60～80歳以上では「広報あつぎ（紙）」が8割台と高くなっている。70～79歳では「公民館だより」（32.9%）が3割半ば近くと高くなっている。80歳以上では「広報板・回覧板」（30.4%）が約3割と高くなっている。20～39歳では「市のホームページ（携帯サイト含む）」が2割半ばと高くなっている。

表12-2-2 市の情報の入手方法—性別、年齢別

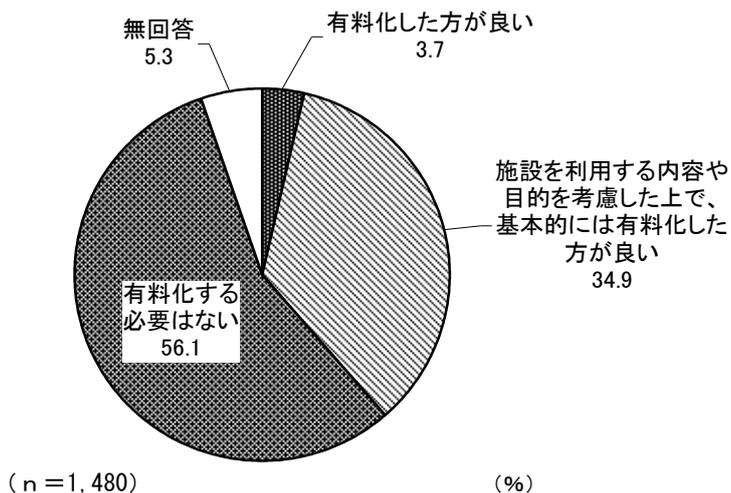
			広報あつぎ（紙）	公民館だより	広報板・回覧板	タウン誌・ミニコミ誌	市のホームページ（携帯サイト含む）	パンフレット・チラシ・ポスター	新聞（日刊紙）	ケーブルテレビ	本厚木駅前大型映像装置（あつぎビジョン）	その他のウェブサイト	ラジオ	その他	無回答
		n													
全 体		1,480	75.4	19.7	19.6	16.0	13.0	7.0	5.8	4.8	4.3	2.2	1.3	5.5	2.7
性別	男 性	650	72.3	16.6	19.5	14.5	14.6	6.3	7.1	6.3	3.7	2.9	1.5	7.1	1.5
	女 性	806	78.0	22.2	19.9	17.2	11.3	7.6	4.8	3.5	4.8	1.6	1.1	4.2	3.6
年 齢 別	20歳未満	22	63.6	9.1	13.6	9.1	9.1	13.6	-	-	13.6	4.5	4.5	9.1	4.5
	20～29歳	99	47.5	4.0	10.1	6.1	24.2	7.1	4.0	5.1	13.1	5.1	-	16.2	3.0
	30～39歳	186	67.7	8.1	16.1	16.1	25.3	7.5	1.6	3.8	5.9	2.7	1.6	10.8	1.6
	40～49歳	233	69.1	10.7	15.5	18.0	19.3	6.4	3.9	6.4	4.7	6.0	1.7	9.0	1.3
	50～59歳	217	77.0	16.1	18.4	18.9	16.6	8.8	3.2	5.5	4.1	2.3	0.5	3.2	2.8
	60～69歳	316	84.5	26.9	21.8	19.6	7.0	7.6	6.6	4.4	2.5	-	1.6	2.2	1.9
	70～79歳	295	82.7	32.9	23.4	14.2	3.7	5.8	9.5	4.7	2.0	0.7	1.4	2.0	3.4
	80歳以上	102	80.4	26.5	30.4	11.8	3.9	3.9	13.7	2.9	2.0	-	1.0	2.0	6.9

13 行政

(1) 市の施設の利用料 (A:問21)

問. 現在、厚木市には使用料が有料の施設と無料の施設がありますが、使用料が無料の施設についてどのように思いますか。(1つだけ選んでください)

図13-1-1 市の施設の利用料



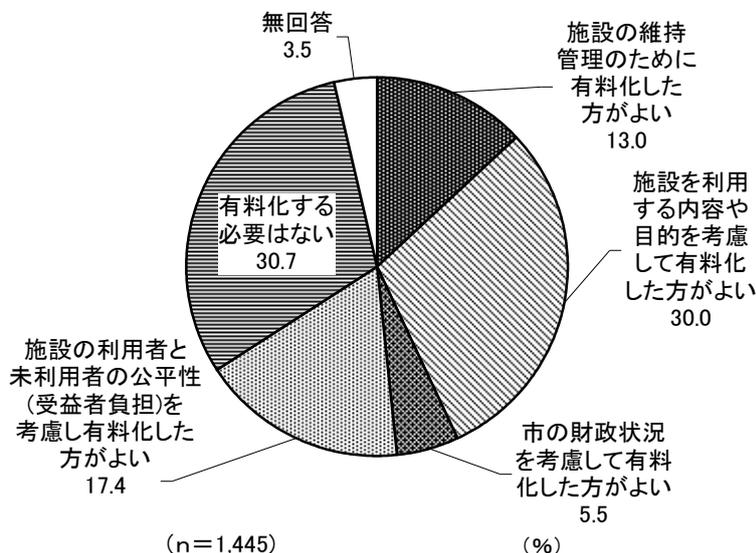
【全体】

使用料が無料の市の施設の利用料について聞いたところ、「有料化する必要はない」(56.1%)が5割半ばを超え最も高くなっている。「施設を利用する内容や目的を考慮した上で、基本的には有料化した方が良い」(34.9%)は3割半ばで、「有料化した方が良い」(3.7%)は1割未満となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、選択肢が平成27年度調査と異なっているため、平成27年度調査の結果を参考に記載する。

図13-1-2 市の施設の利用料—平成27年度調査の結果

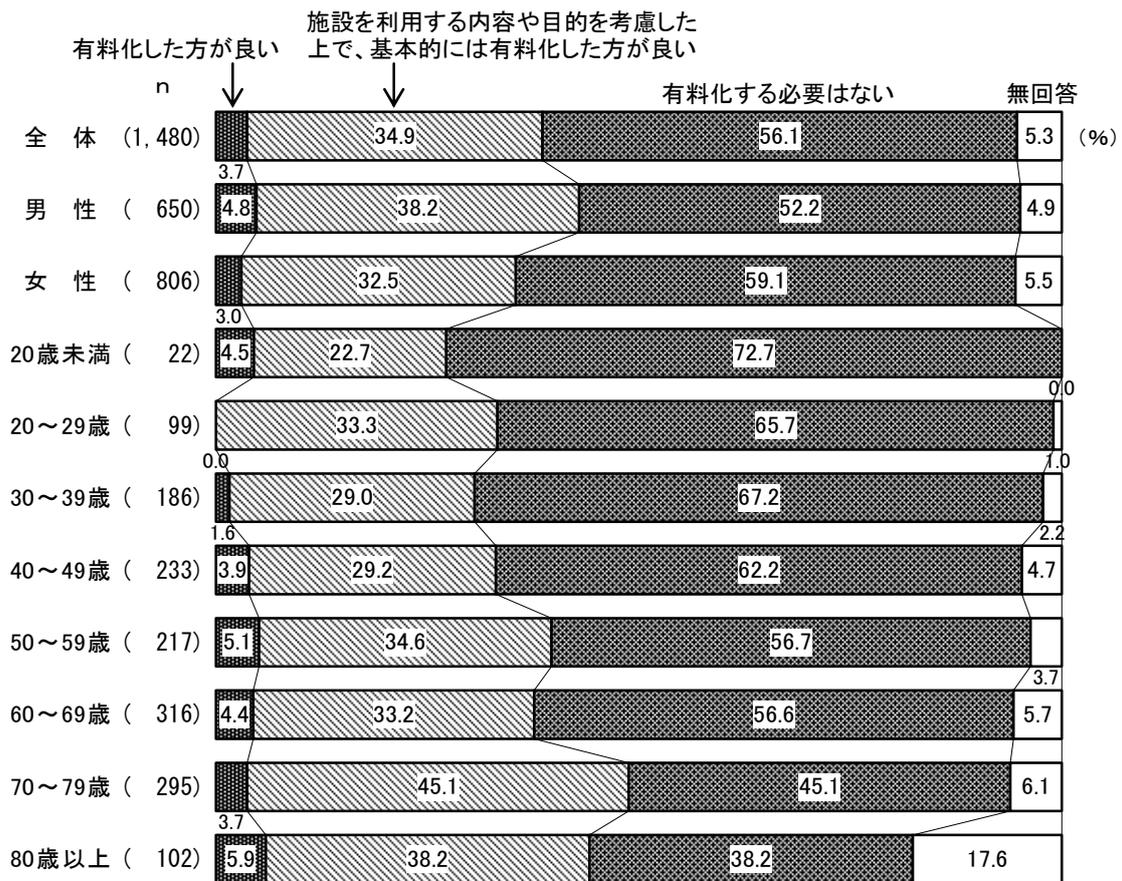


【属性別】

性別で見ると、女性では「有料化する必要はない」(59.1%)が男性(52.2%)より6.9ポイント高くなっている。一方、男性では「施設を利用する内容や目的を考慮した上で、基本的には有料化した方が良い」(38.2%)が女性(32.5%)より5.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「有料化する必要はない」は20歳未満(72.7%)で7割半ば近く、20～49歳で6割台と高くなっている。70～79歳では「施設を利用する内容や目的を考慮した上で、基本的には有料化した方が良い」(45.1%)が4割半ばと高くなっている。

図13-1-3 市の施設の利用料—性別、年齢別

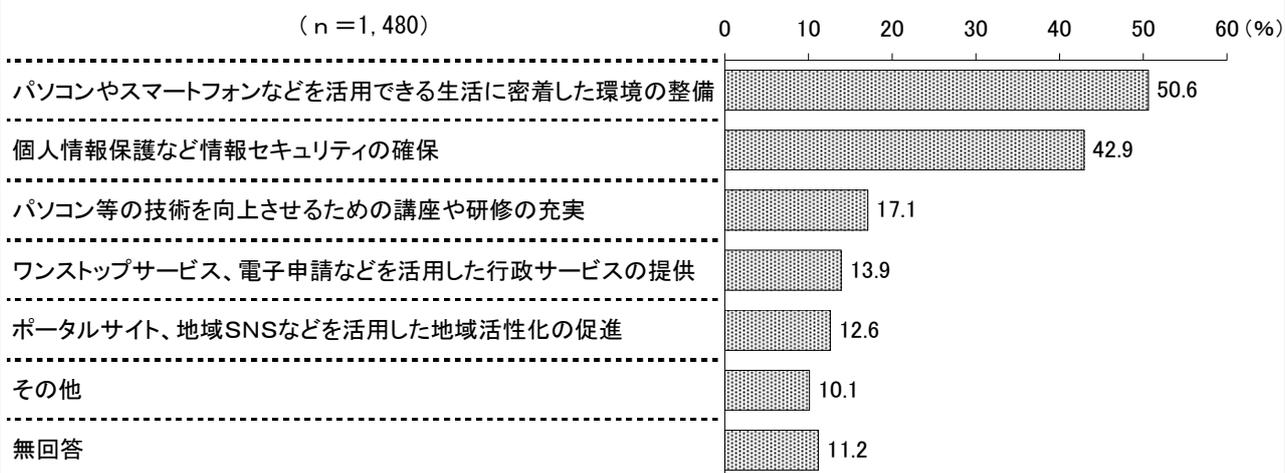


(2) 行政サービスの情報化推進への取組 (A:問22)

問. 様々な行政サービスの情報化を推進するためには、どのような取組が必要であると思いますか。(2つまで選んでください)

図13-2-1 行政サービスの情報化推進への取組

(n=1,480)



【全体】

行政サービスの情報化推進への取組について聞いたところ、「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」(50.6%)が約5割で最も高く、次いで「個人情報保護など情報セキュリティの確保」(42.9%)、「パソコン等の技術を向上させるための講座や研修の充実」(17.1%)、「ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供」(13.9%)、「ポータルサイト、地域SNSなどを活用した地域活性化の促進」(12.6%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、一部の選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

表13-2-1 行政サービスの情報化推進への取組—経年変化

調査年	n	(%)											
		た 環 境 の 整 備	パ ソ コ ン や ス マ ー ト フ ォ ン な ど を 活 用 で き る 生 活 に 密 着 し な	リ テ ィ の 確 保	個 人 情 報 の 確 保 な ど 情 報 セ キ ュ	る パ ソ コ ン 等 の 講 座 や 研 修 を 向 上 さ せ	ビ ス の 提 供	申 請 な ど を 活 用 し た 行 政 サ ー ビ ス の 提 供	ワ ン ス ト ッ プ サ ー ビ ス 、 電 子	促 進	ポ ー タ ル サ イ ト 、 地 域 活 性 化 の S	そ の 他	無 回 答
平成29年度	1,480	50.6	42.9	17.1	13.9	12.6	10.1	11.2	-				
平成27年度	1,445	42.8	41.6	12.0	9.8	10.7	7.7	8.4	25.2				
平成25年度	1,284	36.8	35.9	14.9	12.7	11.0	7.6	11.4	26.0				
平成23年度	814	22.0	34.0	17.7	17.0	9.1	9.5	13.3	27.9				
平成21年度	1,610	8.0	29.4	13.4	23.1	-	3.2	15.7	19.1				
平成19年度	1,506	7.1	26.6	14.3	16.4	-	2.7	18.6	20.3				

(注)「パソコン等の技術を向上させるための講座や研修の充実」は、平成27年度調査以前では「パソコン等に習熟するための講座や研修の充実」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供」(19.4%)が女性(9.6%)より9.8ポイント、「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」(55.2%)が女性(46.9%)より8.3ポイント高くなっている。一方、女性では「個人情報保護など情報セキュリティの確保」(45.9%)が男性(38.8%)より7.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、20～39歳では「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」が6割台と高くなっている。20歳未満では「ポータルサイト、地域SNSなどを活用した地域活性化の促進」(50.0%)が5割と高くなっている。

表13-2-2 行政サービスの情報化推進への取組—性別、年齢別

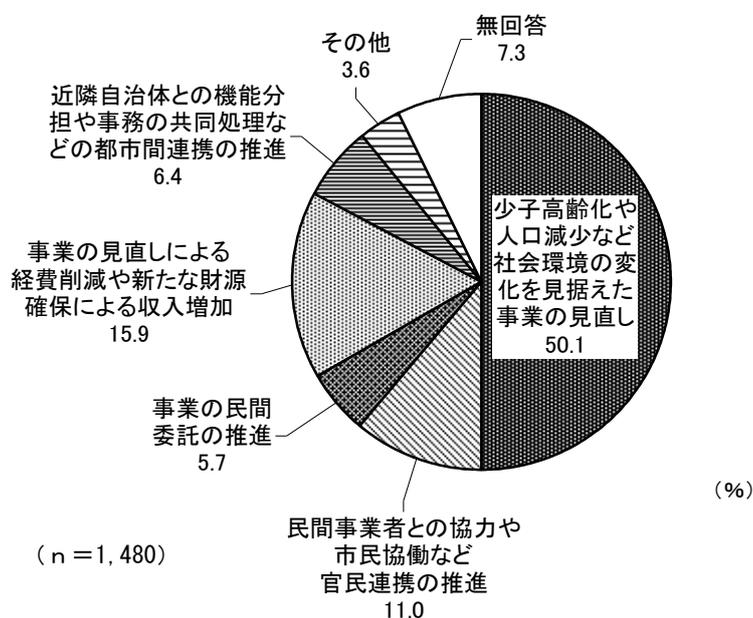
(%)

		n	たパソコンやスマートフォンに密着した環境の整備	個人情報保護など情報セキュリティの確保	パソコン等の講座や研修の向上させるための講座や研修の充実	ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供	ポータルサイト、地域活性化の促進	その他	無回答
全 体		1,480	50.6	42.9	17.1	13.9	12.6	10.1	11.2
性別	男 性	650	55.2	38.8	18.8	19.4	14.3	8.6	9.7
	女 性	806	46.9	45.9	16.0	9.6	11.2	11.0	12.7
年齢別	20歳未満	22	50.0	50.0	22.7	4.5	50.0	9.1	-
	20～29歳	99	63.6	41.4	11.1	17.2	26.3	3.0	2.0
	30～39歳	186	64.5	49.5	10.8	16.7	17.7	6.5	1.6
	40～49歳	233	59.2	47.2	11.2	19.7	15.0	9.9	5.2
	50～59歳	217	55.3	47.5	19.4	19.8	12.4	7.8	4.6
	60～69歳	316	50.3	40.5	19.3	11.7	8.9	10.4	14.6
	70～79歳	295	36.3	37.6	22.7	8.5	7.5	14.6	20.0
	80歳以上	102	24.5	35.3	19.6	4.9	2.0	14.7	33.3

(3) より良い市民サービスを維持していく取組 (A: 問23)

問. 今後もより良い市民サービスを維持していくため、どのような取組が必要であると思いますか。(1つだけ選んでください)

図13-3-1 より良い市民サービスを維持していく取組



【全体】

より良い市民サービスを維持していく取組について聞いたところ、「少子高齢化や人口減少など社会環境の変化を見据えた事業の見直し」(50.1%)が約5割で最も高く、次いで「事業の見直しによる経費削減や新たな財源確保による収入増加」(15.9%)、「民間事業者との協力や市民協働など官民連携の推進」(11.0%)、「近隣自治体との機能分担や事務の共同処理などの都市間連携の推進」(6.4%)となっている。

【経年変化】

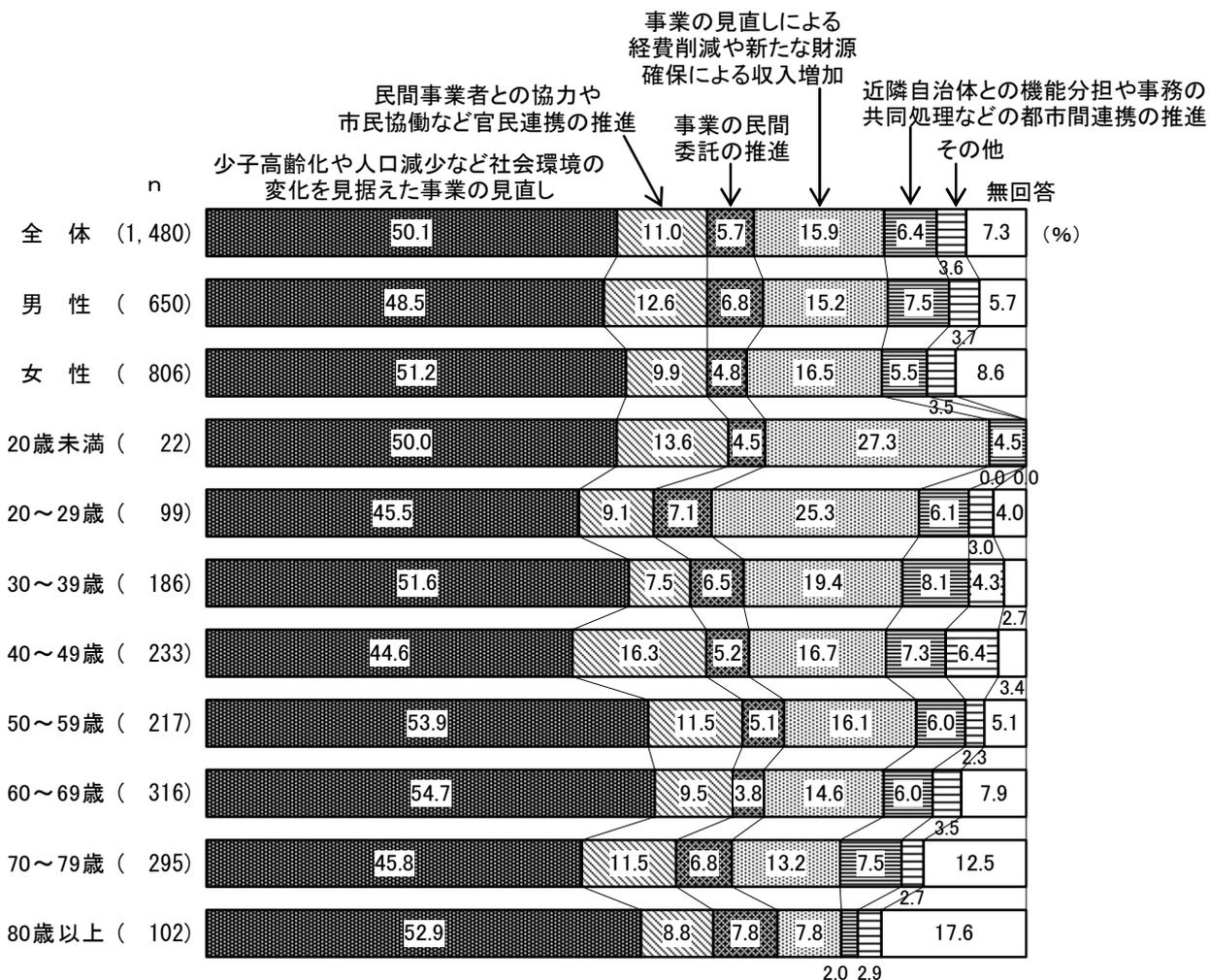
新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、20歳未満～29歳では「事業の見直しによる経費削減や新たな財源確保による収入増加」が2割半ばと高くなっている。

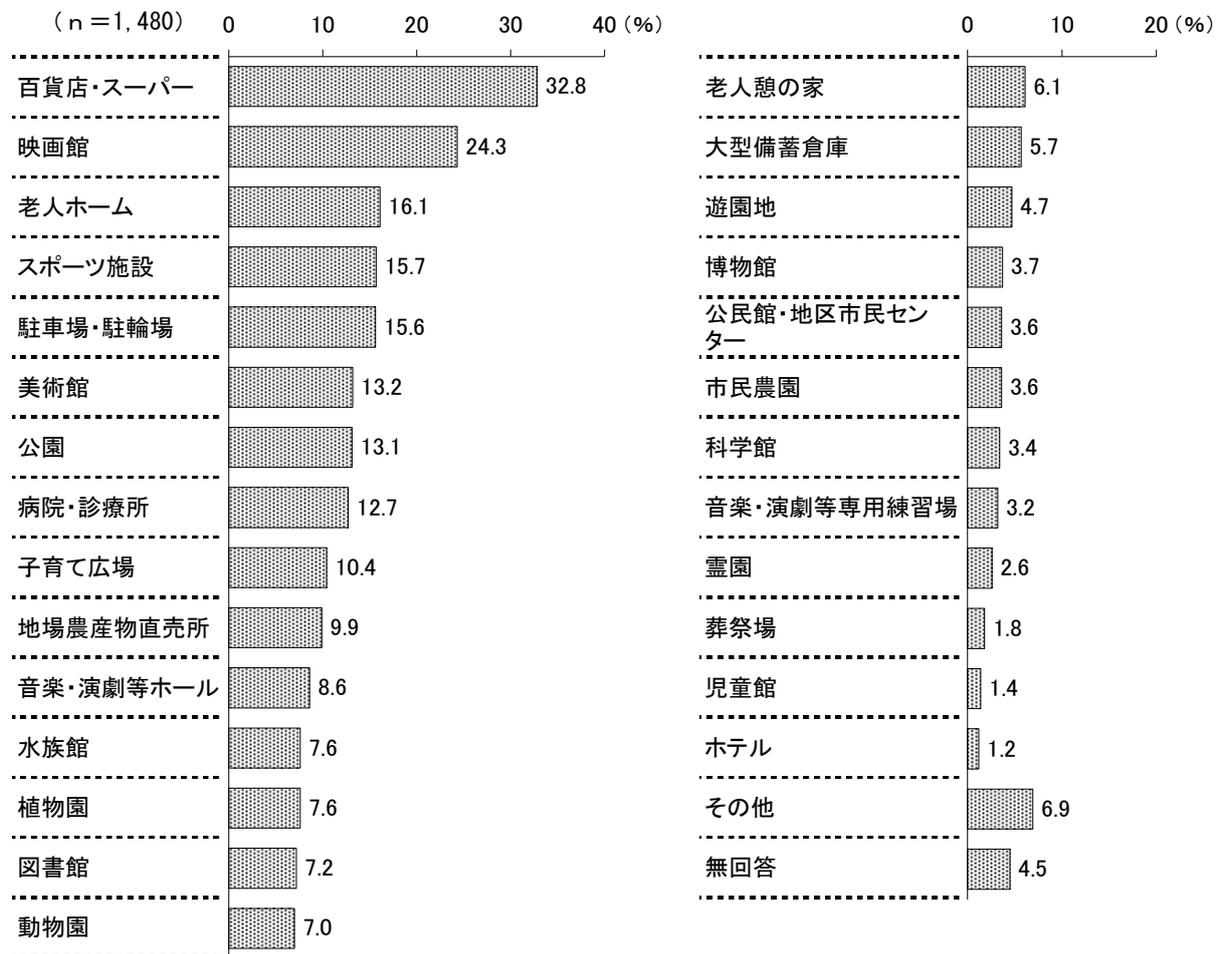
図13-3-2 より良い市民サービスを維持していく取組一性別、年齢別



(4) 市に必要な施設 (A: 問24)

問. 厚木市にどのような施設が必要であると思いますか。(3つまで選んでください)

図13-4-1 市に必要な施設



【全体】

市に必要な施設について聞いたところ、「百貨店・スーパー」(32.8%)が3割半ば近くで最も高く、次いで「映画館」(24.3%)、「老人ホーム」(16.1%)、「スポーツ施設」(15.7%)、「駐車場・駐輪場」(15.6%)となっている。

【経年変化】

平成27年度以前の調査では、「生活をする上で、特に必要な施設」について聴いていたため、参考に記載する。

表13-4-1 市に必要な施設—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	平成29年度 (n=1,480)		平成27年度 (n=1,471)		平成25年度 (n=1,270)		平成23年度 (n=814)		平成21年度 (n=1,610)		平成19年度 (n=1,506)		平成17年度 (n=1,008)	
	1	百貨店・スーパー	32.8	病院・診療所	64.9	病院・診療所	60.7	病院・診療所	66.6	病院・診療所	54.7	病院・診療所	50.9	病院・診療所
2	映画館	24.3	百貨店・スーパー	58.7	百貨店・スーパー	54.8	百貨店・スーパー	57.7	百貨店・スーパー	35.7	百貨店・スーパー	37.5	百貨店・スーパー	36.8
3	老人ホーム	16.1	公園	20.9	公園	22.8	公園	25.1	公園	30.4	公園	32.3	公園	33.5
4	スポーツ施設	15.7	駐車場・駐輪場	19.1	駐車場・駐輪場	19.1	駐車場・駐輪場	21.9	駐車場・駐輪場	17.5	駐車場・駐輪場	17.3	駐車場・駐輪場	20.6
5	駐車場・駐輪場	15.6	公民館・地区市民センター	16.4	公民館・地区市民センター	13.7	公民館・地区市民センター	15.5	公民館・地区市民センター	17.1	公民館・地区市民センター	15.7	公民館・地区市民センター	17.8

【属性別】

性別で見ると、男女ともに「百貨店・スーパー」が第1位、「映画館」が第2位となっている。「スポーツ施設」は男性で第3位、「老人ホーム」は女性で第3位となっている。

年齢別で見ると、「映画館」は20歳未満～29歳で第1位、30～69歳で第2位となっている。「百貨店・スーパー」は30～79歳で第1位、20歳未満で同率の第2位、20～29歳で第2位、80歳以上で第3位となっている。「老人ホーム」は80歳以上で第1位、70～79歳で第2位、50～59歳で同率の第3位となっている。「スポーツ施設」は20歳未満で同率の第2位、20～49歳で第3位となっている。

表13-4-2 市に必要な施設—性別、年齢別（上位3項目）

(%)

順位	男 性 (n=650)		女 性 (n=806)	
1	百貨店・スーパー	29.5	百貨店・スーパー	35.6
2	映画館	23.7	映画館	25.1
3	スポーツ施設	21.4	老人ホーム	17.1

(%)

順位	20歳未満 (n=22)		20～29歳 (n=99)		30～39歳 (n=186)		40～49歳 (n=233)	
1	映画館	68.2	映画館	49.5	百貨店・スーパー	37.6	百貨店・スーパー	40.3
2	百貨店・スーパー／ スポーツ施設／ 駐車場・駐輪場／ 病院・診療所／ 音楽・演劇等ホール	18.2	百貨店・スーパー	27.3	映画館	29.0	映画館	27.5
3			スポーツ施設	24.2	スポーツ施設	22.0	スポーツ施設	19.7

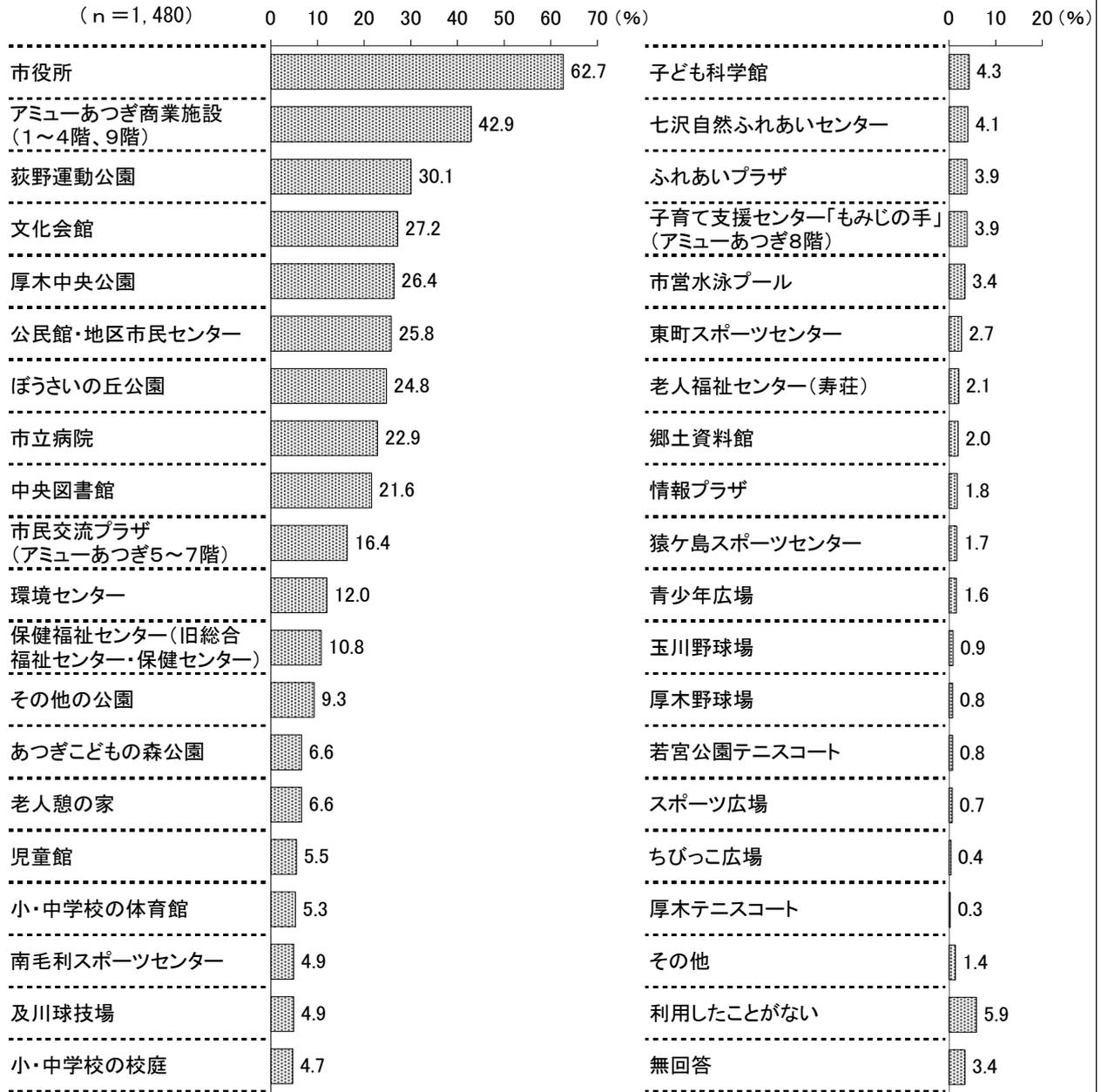
(%)

順位	50～59歳 (n=217)		60～69歳 (n=316)		70～79歳 (n=295)		80歳以上 (n=102)	
1	百貨店・スーパー	35.9	百貨店・スーパー	33.5	百貨店・スーパー	26.4	老人ホーム	30.4
2	映画館	28.6	映画館	17.7	老人ホーム	23.7	病院・診療所	24.5
3	老人ホーム／ 駐車場・駐輪場	17.5	美術館	17.1	駐車場・駐輪場	20.7	百貨店・スーパー	23.5

(5) 市の施設の利用状況 (A:問25)

問. この1年間に、利用された「市の施設」を教えてください。(いくつでも選んでください)

図13-5-1 市の施設の利用状況



【全体】

市の施設の利用状況について聞いたところ、「市役所」(62.7%)が6割半ば近くで最も高く、次いで「アミュあつぎ商業施設(1~4階、9階)」(42.9%)、「荻野運動公園」(30.1%)、「文化会館」(27.2%)、「厚木中央公園」(26.4%)となっている。

【経年変化】

平成29年度調査では、一部の選択肢が過去と異なっているため、参考に記載する。

表13-5-1 市の施設の利用状況—経年変化（上位5項目と「利用したことがない」）

(%)

順位	平成29年度 (n=1,480)		平成27年度 (n=1,471)		平成25年度 (n=1,270)		平成23年度 (n=814)		平成21年度 (n=1,610)		平成19年度 (n=1,500)		平成17年度 (n=1,008)	
1	市役所	62.7	市役所	67.5	市役所	62.8	ぼうさいの丘公園	33.5	中央図書館	31.4	荻野運動公園	36.9	中央図書館	28.4
2	アミューあつぎ商業施設(1～4階、9階)	42.9	アミューあつぎ 市民交流プラザ	37.7	中央図書館	29.1	中央図書館	29.2	文化会館	31.1	中央図書館	34.2	荻野運動公園	28.1
3	荻野運動公園	30.1	公民館・地区市民センター	34.4	ぼうさいの丘公園	26.8	文化会館	26.8	ぼうさいの丘公園	30.7	文化会館	33.3	文化会館	27.8
4	文化会館	27.2	ぼうさいの丘公園	29.2	荻野運動公園	25.7	荻野運動公園	26.3	荻野運動公園	25.7	ぼうさいの丘公園	28.1	総合福祉センター	17.1
5	厚木中央公園	26.4	文化会館	28.2	文化会館	25.6	厚木中央公園	24.0	市立公民館・地区市民センター	22.4	厚木中央公園	24.1	市立公民館・地区市民センター	17.0
	利用したことがない	5.9	利用したことがない	6.3	利用したことがない	7.6	利用したことがない	15.6	利用したことがない	16.6	利用したことがない	12.7	利用したことがない	21.3

- (注1) 平成29年調査では、「アミューあつぎ商業施設(1～4階、9階)」、「市立病院」、「環境センター」、「あつぎこどもの森公園」、「その他の公園」、「ちびっこ広場」の選択肢を追加している。
- (注2) 平成29年調査では、「保健福祉センター(旧総合福祉センター・保健センター)」の選択肢を追加し、平成27年度調査以前で選択肢としていた「総合福祉センター」と「保健センター」は、平成29年調査では選択肢に加えていない。
- (注3) 平成25年度調査以降では、「市役所」の選択肢を追加している。
- (注4) 「市民交流プラザ(アミューあつぎ5～7階)」は、平成27年度調査では「アミューあつぎ 市民交流プラザ」としていた。また、平成25年度調査以前では選択肢に加えていない。

IV. 調査票と集計結果

厚木市民意識調査 調査票（A）

■最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

① 性別を教えてください。（n=1,480）

1 男性	43.9	3 答えたくない	0.5
2 女性	54.5	無回答	1.1

② 年齢を教えてください。（n=1,480）

1 20歳未満	1.5	4 40~49歳	15.7	7 70~79歳	19.9
2 20~29歳	6.7	5 50~59歳	14.7	8 80歳以上	6.9
3 30~39歳	12.6	6 60~69歳	21.4	無回答	0.7

③ 家族構成を教えてください。（n=1,480）

1 夫婦	29.8	4 親子孫（三世代）	6.2	
2 親子（親との二世代）	11.6	5 単身	21.2	
3 親子（子との二世代）	25.6	6 その他	3.8	無回答 1.8

④ お住まいの地区はどちらですか。（n=1,480）

1 厚木北（松枝、元町、東町、厚木町、寿町、吾妻町、水引、栄町、中町、田村町）	10.0
2 厚木南（幸町、泉町、旭町、南町、温水68~105番地、船子607~734番地、岡田1丁目8番）	6.6
3 依知北（上依知、猿ヶ島、山際、関口808~829番地、下川入）	7.3
4 依知南（関口、中依知、下依知、金田）	5.3
5 睦合北（三田、三田南、棚沢）	4.5
6 睦合南（妻田東、妻田西、妻田南、妻田北）	7.8
7 睦合西（林、及川、王子1丁目）	4.9
8 荻野（上荻野、まつかげ台、みはる野、中荻野、下荻野、鳶尾）	12.0
9 小鮎（飯山、上古沢、下古沢、宮の里）	6.6
10 南毛利（戸室、恩名、温水、温水西、愛名、長谷、毛利台）	16.7
11 南毛利南（船子、愛甲、愛甲東、愛甲西）	4.9
12 玉川（小野、七沢、岡津古久）	1.4
13 相川（岡田、酒井、戸田、下津古久、上落合、長沼）	4.3
14 緑ヶ丘（緑ヶ丘、王子2丁目、王子3丁目）	2.7
15 森の里	4.3
	無回答 0.9

⑤ お住まいの形態を教えてください。(n=1,480)

1 持ち家(分譲マンション含む。)	71.5	5 社宅・寮・官舎	1.7
2 民営借家	2.6	6 間借り	0.7
3 民営アパート(賃貸マンション含む。)	17.8	7 その他	1.6
4 公営住宅	2.9		無回答 1.2

⑥ 厚木市にどのくらいお住まいですか。(n=1,480)

1 20年以上(生まれてからずっと)	21.6	5 5~9年	7.7
2 20年以上(移り住んで以来)	45.8	6 3~4年	4.7
3 10~19年(生まれてからずっと)	1.8	7 2年以下	4.4
4 10~19年(移り住んで以来)	13.0		無回答 1.0

⑦ 職業を教えてください。(n=1,480)

1 会社員・公務員	30.3	4 パート・アルバイトなど	15.5	7 無職	25.1
2 自営業	5.1	5 学生	2.4	8 その他	2.6
3 農林業	0.3	6 専業主婦(主夫)	17.6		無回答 1.1

⑧ ⑦で1から5とお答えの方にお聴きします。通勤(通学)先はどちらですか。(n=793)

1 自宅	5.9	4 その他の県内	20.8	7 その他	4.9
2 厚木市内	49.8	5 東京23区内	6.8		無回答 4.4
3 横浜・川崎市内	5.4	6 その他の都内	1.9		

⑨ 日頃、鉄道を利用する際の最寄駅はどちらですか。(n=1,480)

1 本厚木駅	77.2	3 海老名駅	6.1	5 その他	1.7
2 愛甲石田駅	9.7	4 厚木駅	0.9		無回答 4.5

■ここからは、あなたご自身のお考えについて、お伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

問1 現在お住まいの地区にずっと住み続けたいですか。(1つだけ選んでください) (n=1,480)

1	ずっと住み続けたい	59.1	
2	市内の他の地区に移りたい	5.6	
3	市外に移りたい	8.0	
4	どちらともいえない ⇒ 問4へ	26.5	無回答 0.8

▶問2 問1で「住み続けたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=875)

1	自然環境が良い	28.5	8	交通の便が良い	19.2
2	教育環境が良い	0.6	9	人間関係が良い	7.2
3	子育て環境が充実している	3.9	10	生まれ育ったところである	10.7
4	保健福祉施策が充実している	3.1	11	住み慣れて愛着がある	32.8
5	自分の家や土地がある	43.9	12	通勤・通学に便利である	4.6
6	仕事や学校の関係がある	6.4	13	その他	2.7
7	買物が便利である	13.0			無回答 0.3

▶問3 問1で「他の地区または市外に移りたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=201)

1	自然環境が良くない	6.0	7	買物が不便	43.3
2	教育環境が不十分	1.0	8	交通の便が悪い	48.8
3	子育て環境が不十分	1.5	9	人間関係が希薄である	6.0
4	保健福祉施策が不十分	7.0	10	通勤・通学に不便である	17.4
5	自分の家や土地でない	12.4	11	その他	23.4
6	仕事や学校の関係がない	4.0			無回答 1.0

問4 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。また、将来どのようなまちになってほしいと思いますか。

(①～②について、それぞれ該当するものを3つまで選んでください) (n=1,480)

	自然環境の豊かなまち	都市と自然が共存しているまち	交通の利便性の高いまち	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	防犯・防災対策が充実したまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	研究所・大学等のある研究学園都市	若者が多い活気のあるまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	インターネットエンジをいかした流通機能の高いまち	無回答
(記入例)	1	2	3	④	5	⑥	7	8	9	⑩	11	×
①現在の厚木市のイメージ	44.5	26.4	23.6	37.4	6.1	19.3	10.2	3.0	11.3	5.4	23.3	11.1
②あなたが望む将来の厚木市	17.3	31.1	36.6	9.3	35.3	31.1	5.3	19.6	41.9	12.0	8.9	8.2

子育て・福祉・健康について

問5 安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、どのような取組が必要であると思いますか。(5つまで選んでください) (n=1,480)

1	産前産後の育児や家事などの支援の充実	42.8
2	親のリフレッシュの場や機会の提供	26.2
3	サロン(児童館等における子育て支援活動)の充実	15.6
4	子育て支援センター「もみじの手」の充実	16.4
5	子育て相談体制の充実	31.0
6	延長保育、休日保育、病児保育など保育サービスの充実	50.0
7	新たな認可保育所の整備	25.1
8	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実	34.9
9	特別支援教育・保育の充実	19.0
10	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	29.0
11	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実	32.8
12	子どもの貧困対策の充実	34.5
13	その他	6.2
	無回答	10.5

問6 誰もが住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる社会（地域包括ケア社会）の実現について、どのような取組が必要であると思いますか。（5つまで選んでください）（n=1,480）

1	住民の理解を促進するための学習機会・広報・普及啓発の充実	7.2
2	住民がお互いに助け合える地域社会づくり	38.6
3	住民が気軽に集える居場所づくり	23.3
4	住民が地域で活躍できる機会・場所の充実	12.0
5	一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実	62.2
6	医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備	45.6
7	介護や福祉の公的サービスの充実	46.6
8	買物やごみ出しなどの生活支援サービスの充実	22.1
9	医療や介護の専門職同士の連携強化	11.1
10	医療や介護の専門職の人材の確保及び育成	22.8
11	医療や介護などに関して気軽に相談できる窓口の充実	31.1
12	病院や介護施設などの充実	40.7
13	生活習慣病予防や介護予防・認知症予防の取組の充実	19.5
14	医療・介護・介護予防などに充当するための財源確保	37.2
15	その他	2.1
	無回答	3.1

問7 がん検診を受診していますか。（主なものを1つだけ選んでください）（n=1,480）

1	厚木市のがん検診を受診している	30.3
2	人間ドックを受診している	9.1
3	職場や学校の健康診査を受診している	23.9
4	受診していない	34.1
	無回答	2.6

問8 自殺を予防するために、どのような対策が必要であると思いますか。（1つだけ選んでください）（n=1,480）

1	積極的な相談事業の展開	31.2
2	啓発事業の推進（広報・キャンペーン）	6.4
3	自殺のサインに気付く役割を担う人材の育成	24.6
4	関係機関等との連携の強化	14.7
5	特に有効な対策はない	17.9
	無回答	5.3

問9 風邪などにかかったとき、通院する医療機関は決まっていますか。（1つだけ選んでください）（n=1,480）

1	かかりつけの医院や診療所	62.4
2	総合病院などの大きな病院	9.9
3	特に決まっていない	25.3
4	その他	0.9
	無回答	1.6

人権について

問 10 自分の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(1つだけ選んでください)

(n=1,480)

1	ある	17.6	2	ない	76.2	無回答	6.1
---	----	------	---	----	------	-----	-----

問 11 どのような人権問題や差別に対して、関心がありますか。

(いくつでも選んでください) (n=1,480)

1	女性に対する問題	26.6
2	子どもに対する問題	27.6
3	高齢者に対する問題	36.0
4	障がい者に対する問題	42.3
5	同和関係者に対する問題	5.7
6	外国人に対する問題	13.6
7	HIV(エイズウィルス)感染者やハンセン病患者などに対する問題	7.4
8	インターネットを悪用した問題	36.1
9	北朝鮮当局による人権侵害問題	19.1
10	ホームレスに対する問題	10.3
11	LGBT(性的指向・性同一性障がい等)に関する問題	9.5
12	ヘイトスピーチに関する問題	10.4
13	東日本大震災の被害者に対する問題	28.9
14	その他の人権問題	8.0
15	関心がない	5.9
	無回答	7.0

国際交流について

問 12 異文化への理解を深め、国際化に対応するためには、どのような取組が必要であると思いますか。(2つまで選んでください) (n=1,480)

1	文化・スポーツ等の交流の推進	38.2
2	市内外国籍市民との交流促進	18.6
3	青少年海外研修の推進	12.6
4	学校・社会教育での意識の醸成	37.6
5	多言語による行政情報等の提供	11.7
6	外国籍市民等との活動場所の提供	12.6
7	国際友好都市との交流	10.9
8	外国の大学・企業等の誘致	6.8
9	国際理解を推進する講座等の開催	6.7
10	市内企業の国際活動の支援	5.6
11	新たな友好都市の締結	3.6
12	その他	4.1
	無回答	6.7

教育・生涯学習・文化・スポーツについて

問 13 現在の教育において、どのような取組が重要であると思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,480)

1	家庭・学校・地域との連携に向けた取組	21.8
2	家庭での教育力の向上に向けた取組	7.5
3	学力の向上に向けた取組	4.9
4	体力の向上に向けた取組	4.5
5	子どもの規範意識の醸成に向けた取組	13.6
6	教員の指導力向上に向けた取組	14.5
7	いじめ、暴力行為などの対応	24.5
8	不登校などの対応	2.9
9	その他	2.0
	無回答	3.7

問 14 文化芸術活動をより充実させるために、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n=1,480)

1	文化会館での鑑賞機会の充実	24.6
2	活動発表の機会の充実	15.0
3	活動を担う人・支える人の発掘及び支援	32.4
4	施設の整備	20.7
5	活動への参加や鑑賞に関する情報提供	32.6
6	文化芸術を通じた国際交流や地域間交流	12.1
7	地域の風土や郷土文化に配慮した都市景観の創造	15.3
8	その他	3.7
	無回答	5.6

問 15 講座・教育などの学習活動へ参加を検討する場合、どのような理由が妨げとなりますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,480)

1	参加する時間がない	29.5	5	参加したい講座等がない	16.4
2	学習機会に関する情報がない	15.7	6	特に支障はない	13.8
3	学習しても成果をいかす場がない	4.9	7	その他	7.0
4	一緒に学ぶ仲間がない	7.2		無回答	5.5

問 16 運動（スポーツ）をどのような目的で、また、どのくらいの頻度で行っていますか。

(①～④について、それぞれ該当するものを1つ選んでください) (n=1,480)

	ほぼ 毎日	週 3～4回	週 1～2回	月 1～3回	して いない	その他	無回答
(記入例) ① 健康管理	1	2	③	4	5	6	
① 健康管理	16.0	10.6	16.1	11.0	34.0	2.1	10.1
② 趣味・習い事	3.3	4.5	12.4	13.5	48.3	1.6	16.3
③ 競技	0.4	0.9	2.5	3.2	69.7	1.4	21.8
④ ①～③以外の目的	2.1	1.5	3.0	3.2	49.3	5.8	35.1

問 17 今後、どのようなスポーツイベントを開催してほしいですか。

(いくつでも選んでください) (n=1,480)

1	個人のレベル(初級・中級・上級)に合わせた教室	31.7
2	有名選手の講演会	16.5
3	スポーツ観戦	35.5
4	参加・体験型	33.8
5	競技型	3.2
6	パラスポーツ(障がい者スポーツ)の参加・体験	7.8
7	その他	11.4
	無回答	10.0

観光について

問 18 厚木市の観光の活性化には、どのような取組が重要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n=1,480)

1	駐車場の整備などの交通利便性の向上	36.6
2	高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり	22.0
3	食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成	23.2
4	テレビ・インターネットを利用した観光地の紹介	12.2
5	四季折々のイベントの開催	19.4
6	温泉地(飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷)の整備	17.8
7	ハイキングコースや公園などの自然をいかした観光資源の整備	22.0
8	他市と連携した広域的な観光ルートの創出	5.7
9	スポーツイベント等をいかした新たな観光分野の開拓	7.3
10	外国人旅行客向け観光プランの充実	5.3
11	観光ガイドなどの人材の育成	4.9
12	その他	3.1
	無回答	3.6

広報について

問 19 家庭では、どのような情報機器を利用していますか。(いくつでも選んでください)

(n=1,480)

1	パソコン	52.9	4	その他	8.0
2	スマートフォン(携帯電話含む)	66.9	5	利用していない	12.4
3	タブレット	17.9		無回答	2.9

問 20 厚木市の情報を主に何から入手していますか。(2つまで選んでください) (n=1,480)

1	広報あつぎ(紙)	75.4	7	広報板・回覧板	19.6
2	市のホームページ(携帯サイト含む)	13.0	8	ラジオ	1.3
3	その他のウェブサイト	2.2	9	ケーブルテレビ	4.8
4	本厚木駅前大型映像装置 (あつぎビジョン)	4.3	10	新聞(日刊紙)	5.8
5	公民館だより	19.7	11	タウン誌・ミニコミ誌	16.0
6	パンフレット・チラシ・ポスター	7.0	12	その他	5.5
				無回答	2.7

行政について

問 21 現在、厚木市には使用料が有料の施設と無料の施設がありますが、使用料が無料の施設についてどのように思いますか。(1つだけ選んでください) (n=1,480)

1 有料化した方が良い	3.7
2 施設を利用する内容や目的を考慮した上で、基本的には有料化した方が良い	34.9
3 有料化する必要はない	56.1
	無回答 5.3

問 22 様々な行政サービスの情報化を推進するためには、どのような取組が必要であると思いますか。(2つまで選んでください) (n=1,480)

1 パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備	50.6
2 個人情報保護など情報セキュリティの確保	42.9
3 パソコン等の技術を向上させるための講座や研修の充実	17.1
4 ポータルサイト、地域SNSなどを活用した地域活性化の促進	12.6
5 ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供	13.9
6 その他	10.1
	無回答 11.2

問 23 今後もより良い市民サービスを維持していくため、どのような取組が必要であると思いますか。(1つだけ選んでください) (n=1,480)

1 少子高齢化や人口減少など社会環境の変化を見据えた事業の見直し	50.1
2 民間事業者との協力や市民協働など官民連携の推進	11.0
3 事業の民間委託の推進	5.7
4 事業の見直しによる経費削減や新たな財源確保による収入増加	15.9
5 近隣自治体との機能分担や事務の共同処理などの都市間連携の推進	6.4
6 その他	3.6
	無回答 7.3

問 24 厚木市にどのような施設が必要であると思いますか。(3つまで選んでください)

(n=1,480)

1 公園	13.1	15 美術館	13.2
2 子育て広場	10.4	16 博物館	3.7
3 スポーツ施設	15.7	17 科学館	3.4
4 公民館・地区市民センター	3.6	18 植物園	7.6
5 児童館	1.4	19 動物園	7.0
6 図書館	7.2	20 水族館	7.6
7 老人憩の家	6.1	21 遊園地	4.7
8 老人ホーム	16.1	22 市民農園	3.6
9 病院・診療所	12.7	23 地場農産物直売所	9.9
10 霊園	2.6	24 百貨店・スーパー	32.8
11 葬祭場	1.8	25 ホテル	1.2
12 音楽・演劇等ホール	8.6	26 駐車場・駐輪場	15.6
13 音楽・演劇等専用練習場	3.2	27 大型備蓄倉庫	5.7
14 映画館	24.3	28 その他	6.9
			無回答 4.5

問 25 この1年間に、利用された「市の施設」を教えてください。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 480)

1	市役所	62.7	19	荻野運動公園	30.1
2	文化会館	27.2	20	あつぎこどもの森公園	6.6
3	アミューあつぎ商業施設 (1~4階、9階)	42.9	21	その他の公園	9.3
4	市民交流プラザ (アミューあつぎ5~7階)	16.4	22	ちびっこ広場	0.4
5	子育て支援センター「もみじの手」 (アミューあつぎ8階)	3.9	23	東町スポーツセンター	2.7
6	市立病院	22.9	24	猿ヶ島スポーツセンター	1.7
7	保健福祉センター (旧総合福祉センター・保健センター)	10.8	25	南毛利スポーツセンター	4.9
8	子ども科学館	4.3	26	玉川野球場	0.9
9	中央図書館	21.6	27	及川球技場	4.9
10	老人福祉センター(寿荘)	2.1	28	厚木野球場	0.8
11	郷土資料館	2.0	29	青少年広場	1.6
12	公民館・地区市民センター	25.8	30	スポーツ広場	0.7
13	老人憩の家	6.6	31	小・中学校の体育館	5.3
14	児童館	5.5	32	小・中学校の校庭	4.7
15	七沢自然ふれあいセンター	4.1	33	市営水泳プール	3.4
16	情報プラザ	1.8	34	環境センター	12.0
17	ぼうさいの丘公園	24.8	35	ふれあいプラザ	3.9
18	厚木中央公園	26.4	36	若宮公園テニスコート	0.8
			37	厚木テニスコート	0.3
			38	その他	1.4
			39	利用したことがない	5.9
				無回答	3.4

ご協力ありがとうございました。

最後に、本調査に関するご意見等がありましたら、お書きください。

厚木市民意識調査 調査票（B）

■最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

① 性別を教えてください。（n=1,550）

1 男性	44.1	3 答えたくない	0.6
2 女性	54.1	無回答	1.1

② 年齢を教えてください。（n=1,550）

1 20歳未満	1.6	4 40~49歳	17.0	7 70~79歳	18.3
2 20~29歳	7.0	5 50~59歳	15.1	8 80歳以上	7.2
3 30~39歳	11.6	6 60~69歳	21.3	無回答	1.0

③ 家族構成を教えてください。（n=1,550）

1 夫婦	28.5	4 親子孫（三世代）	5.9
2 親子（親との二世代）	13.0	5 単身	19.8
3 親子（子との二世代）	27.4	6 その他	3.5
		無回答	1.9

④ お住まいの地区はどちらですか。（n=1,550）

1 厚木北（松枝、元町、東町、厚木町、寿町、吾妻町、水引、栄町、中町、田村町）	10.4
2 厚木南（幸町、泉町、旭町、南町、温水68~105番地、船子607~734番地、岡田1丁目8番）	6.4
3 依知北（上依知、猿ヶ島、山際、関口808~829番地、下川入）	8.1
4 依知南（関口、中依知、下依知、金田）	4.7
5 睦合北（三田、三田南、棚沢）	4.8
6 睦合南（妻田東、妻田西、妻田南、妻田北）	8.8
7 睦合西（林、及川、王子1丁目）	3.4
8 荻野（上荻野、まつかげ台、みはる野、中荻野、下荻野、鳶尾）	11.2
9 小鮎（飯山、上古沢、下古沢、宮の里）	6.5
10 南毛利（戸室、恩名、温水、温水西、愛名、長谷、毛利台）	16.6
11 南毛利南（船子、愛甲、愛甲東、愛甲西）	5.0
12 玉川（小野、七沢、岡津古久）	1.9
13 相川（岡田、酒井、戸田、下津古久、上落合、長沼）	5.0
14 緑ヶ丘（緑ヶ丘、王子2丁目、王子3丁目）	2.3
15 森の里	3.9
	無回答 1.0

⑤ お住まいの形態を教えてください。(n=1,550)

1 持ち家(分譲マンション含む。)	75.1	5 社宅・寮・官舎	1.9
2 民営借家	3.1	6 間借り	0.8
3 民営アパート(賃貸マンション含む。)	14.1	7 その他	1.7
4 公営住宅	2.0		無回答 1.2

⑥ 厚木市にどのくらいお住まいですか。(n=1,550)

1 20年以上(生まれてからずっと)	23.5	5 5~9年	7.8
2 20年以上(移り住んで以来)	41.5	6 3~4年	5.0
3 10~19年(生まれてからずっと)	1.9	7 2年以下	4.8
4 10~19年(移り住んで以来)	14.5		無回答 1.0

⑦ 職業を教えてください。(n=1,550)

1 会社員・公務員	31.1	4 パート・アルバイトなど	15.5	7 無職	24.6
2 自営業	6.1	5 学生	2.5	8 その他	3.2
3 農林業	0.5	6 専業主婦(主夫)	15.2		無回答 1.3

⑧ ⑦で1から5とお答えの方にお聴きします。通勤(通学)先はどちらですか。(n=864)

1 自宅	7.2	4 その他の県内	21.5	7 その他	2.9
2 厚木市内	49.2	5 東京23区内	7.6		無回答 3.9
3 横浜・川崎市内	6.3	6 その他の都内	1.4		

⑨ 日頃、鉄道を利用する際の最寄駅はどちらですか。(n=1,550)

1 本厚木駅	76.7	3 海老名駅	6.3	5 その他	2.2
2 愛甲石田駅	9.9	4 厚木駅	1.1		無回答 3.9

■ここからは、あなたご自身のお考えについて、お伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

問1 現在お住まいの地区にずっと住みたいですか。(1つだけ選んでください) (n=1,550)

1	ずっと住みたい	59.2		
2	市内の他の地区に移りたい	5.9		
3	市外に移りたい	8.6		
4	どちらともいえない ⇒ 問4へ	25.4	無回答	0.8

▶問2 問1で「住みたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=918)

1	自然環境が良い	30.8	8	交通の便が良い	17.8
2	教育環境が良い	1.5	9	人間関係が良い	7.4
3	子育て環境が充実している	4.1	10	生まれ育ったところである	12.2
4	保健福祉施策が充実している	3.1	11	住み慣れて愛着がある	31.9
5	自分の家や土地がある	46.5	12	通勤・通学に便利である	4.1
6	仕事や学校の関係がある	6.4	13	その他	1.9
7	買物が便利である	10.5		無回答	0.5

▶問3 問1で「他の地区または市外に移りたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=226)

1	自然環境が良くない	9.7	7	買物が不便	35.4
2	教育環境が不十分	2.7	8	交通の便が悪い	41.2
3	子育て環境が不十分	2.7	9	人間関係が希薄である	7.1
4	保健福祉施策が不十分	8.0	10	通勤・通学に不便である	15.5
5	自分の家や土地でない	15.5	11	その他	20.4
6	仕事や学校の関係がない	4.0		無回答	1.8

問4 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。また、将来どのようなまちになってほしいと思いますか。

(①～②について、それぞれ該当するものを3つまで選んでください) (n=1,550)

	自然環境の豊かなまち	都市と自然が共存しているまち	交通の利便性の高いまち	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	防犯・防災対策が充実したまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	研究所・大学等のある研究学園都市	若者が多い活気のあるまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	インターネットエンジをいかした流通機能の高いまち	無回答
(記入例)	1	2	3	④	5	⑥	7	8	9	⑩	11	×
①現在の厚木市のイメージ	43.5	27.2	24.5	38.3	6.3	20.0	8.6	3.4	12.7	7.0	22.7	9.7
②あなたが望む将来の厚木市	17.5	26.7	36.8	8.6	34.3	33.2	5.2	19.4	42.8	9.8	11.0	8.7

安全・防災について

問5 現在の本厚木駅周辺の治安について、どのように感じますか。(1つだけ選んでください)

(n=1,550)

1 大変良くなった	2.6	4 悪くなった	14.7
2 良くなった	29.5	5 大変悪くなった	4.3
3 変わらない	46.5	無回答	2.3

問6 防犯対策について、どのような取組が効果的だと思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,550)

1 夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ	31.6
2 防犯カメラの設置	33.4
3 道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす	22.4
4 地域住民等によるパトロール	7.2
5 広報等により市民に防犯を呼びかける	1.5
6 その他	3.1
無回答	0.8

問7 市民協働による交通安全や防犯、けがの予防など、セーフコミュニティの手法を用いて安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に、関心がありますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,550)

1 とても関心がある	21.9	4 あまり関心がない	10.1
2 少し関心がある	41.9	5 関心がない	4.8
3 どちらともいえない	19.5	無回答	1.7

問8 安心・安全なまちづくりの一環として、地域で実施している「防犯パトロール」や「児童・生徒の登下校時の見守り活動(愛の目運動)」などの活動に参加したいと思いますか。(1つだけ選んでください) (n=1,550)

1 すでに参加している	7.2	3 将来的には参加したい	20.2
2 機会があれば参加したい	25.9	4 参加は考えていない	44.2
		無回答	2.5

問9 いざという時のために、どのような応急手当を身に付ける必要があると思いますか。また、どのような応急手当ができますか。

(①~②について、それぞれ該当するものをいくつでも選んでください) (n=1,550)

項目	止血	食べ物などがのどに詰まった場合の対処	心臓マッサージ(胸骨圧迫)	AED(自動体外式除細動器)の使用	人工呼吸	その他	何もできない	無回答
(記入例) ① 身に付ける必要がある応急手当	①	2	③	4	⑤	6	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
① 身に付ける必要がある応急手当	53.4	51.1	51.3	58.5	37.9	5.9	<input checked="" type="checkbox"/>	10.8
② 実行できる応急手当	35.0	16.0	25.0	25.6	19.2	2.8	32.1	10.3

環境について

問 10 地球温暖化防止には、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n=1,550)

1	再生可能エネルギーの普及拡大	52.0
2	省エネルギーの推進	40.3
3	自動車の利用抑制	12.8
4	循環型社会の構築	16.8
5	森林等の保全・創出	37.7
6	情報提供と環境教育の充実	14.6
7	その他	2.8
	無回答	3.3

問 11 資源とごみの分別を意識していますか。(1つだけ選んでください) (n=1,550)

1	意識している	72.3	3	あまり意識していない	2.6
2	おおむね意識している	22.8	4	意識していない	0.8
				無回答	1.5

問 12 ごみの減量化・資源化を推進する上で、どのような取組が重要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n=1,550)

1	家庭での資源とごみの分別の徹底	58.5
2	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	21.4
3	販売店の過剰包装の削減	34.6
4	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	16.1
5	買物袋の持参	19.7
6	小・中学校における環境学習の充実	13.7
7	環境問題(ごみ減量化・資源化)を学習できる場の提供や施設見学会の実施	8.1
8	生ごみ処理機等の購入	8.6
9	行政による住民説明会の開催	2.7
10	その他	3.7
	無回答	1.4

問 13 厚木市内の河川整備について、どのような取組が必要であると思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,550)

1	自然環境に配慮した河川整備	36.8
2	水辺の自然を楽しめる親水施設の整備	19.2
3	河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組	19.4
4	河川堤防を活用した遊歩道の整備	20.1
5	その他	2.4
	無回答	2.2

まちづくりについて

問 14 まちづくり全般の変化について、おおむね5年前と比べてどう感じますか。

転入されて5年未満の方は、次の設問へお進みください。

(①～⑬について、それぞれ該当するものを1つ選んでください) (n = 1, 382)

項 目	5年前と比べ			
	良 く な っ た	変 わ ら な い	悪 く な っ た	無 回 答
(記入例) ① コミュニティ活動・ボランティア活動	①	2	3	
① コミュニティ活動・ボランティア活動	25.2	57.1	1.4	16.3
② 公園や自然環境など緑の空間	25.7	55.4	4.5	14.5
③ 河川など水辺の空間づくり	14.8	66.5	3.8	14.9
④ 災害に強い都市環境	11.1	71.6	1.8	15.6
⑤ 地域防災対策	22.9	60.0	2.4	14.8
⑥ 放置自転車や歩行者の安全	40.4	37.4	8.5	13.7
⑦ 犯罪や非行の防止	15.1	58.1	11.2	15.6
⑧ 生涯学習の場と機会	19.5	62.4	1.4	16.7
⑨ スポーツ・レクリエーション活動の場と機会	20.3	62.6	1.9	15.3
⑩ 文化芸術活動	16.9	64.7	2.3	16.1
⑪ 人にやさしい市街地の形成	9.3	67.5	6.9	16.3
⑫ 道路整備など交通渋滞緩和対策	22.4	51.2	13.0	13.5
⑬ 行政サービスの情報化	20.5	60.0	4.4	15.1

問 15 ふだん、どこにある店舗・施設を利用していますか。

(①～⑪について、それぞれ該当するものを1つ選んでください) (n=1,550)

品 目		自宅周辺	本厚木駅周辺	愛甲石田駅周辺	その他厚木市内	近隣市	横浜市内	東京23区内	インターネット	その他	利用しない	無回答
(記入例) ① 食料品		1	2	3	④	5	6	7	8	9	10	
店 舗	① 食料品	56.3	16.1	1.2	16.9	4.5	0.3	0.1	0.6	0.8	0.5	2.6
	② 外食	19.6	25.2	1.2	22.0	12.8	1.5	2.5	0.1	2.2	6.5	6.4
	③ 日用衣料品・雑貨	26.9	22.6	0.6	22.1	13.5	1.4	1.8	3.2	1.6	0.8	5.6
	④ 高級衣料品・装飾品	1.9	10.2	0.1	6.1	19.7	12.7	13.3	4.3	4.8	18.2	8.5
	⑤ 電気製品・家具・趣味用品	17.5	10.4	0.1	33.4	14.5	1.4	2.3	11.1	1.5	1.9	6.0
施 設	⑥ 病院・診療所	36.8	17.6	2.3	26.3	9.7	0.6	0.6		1.2	0.8	4.1
	⑦ 郵便局・銀行	43.2	30.5	2.7	15.1	2.3	0.1	0.3		0.6	0.6	4.5
	⑧ 幼稚園・保育所	15.6	3.3	0.3	5.7	1.1	0.0	0.0		0.5	50.8	22.7
	⑨ 福祉・介護施設	11.6	5.9	0.3	10.2	1.0	0.0	0.0		0.5	52.7	17.7
	⑩ 公園・スポーツ施設	25.8	8.6	0.4	20.5	3.9	0.4	0.3		0.8	26.7	12.6
	⑪ 趣味・習い事	13.2	13.9	0.5	13.1	5.2	0.8	2.0	0.7	2.6	35.3	12.7

問 16 自宅周辺に、どのような施設が必要であると思いますか。

※自宅周辺とは、徒歩や自転車で移動できる範囲です。(5つまで選んでください)

(n=1,550)

1	飲食店	37.0	8	市役所などの行政窓口	27.5
2	食料品など日常的な買い物をする施設	58.7	9	郵便局や銀行	42.8
3	コンビニエンスストア	30.5	10	図書館(図書室)	16.5
4	大型の商業施設	26.5	11	スポーツ施設	20.7
5	病院・診療所	48.1	12	公民館や集会施設	10.9
6	デイサービスなどの福祉・介護施設	18.3	13	その他	8.6
7	幼稚園・保育所などの子育て関連施設	10.8		無回答	5.0

問 17 現在の本厚木駅周辺（中心市街地）のイメージについて、どのように感じますか。
 （①～⑩について、それぞれ該当するものを1つ選んでください）（n = 1, 550）

項目	1	2	3	無回答
（記入例）① 活気	ある	普通	ない	
① 活気	ある 13.9	普通 47.4	ない 31.8	7.0
② 明るさ・清潔感	ある 12.6	普通 57.9	ない 22.1	7.4
③ 駐車場	多い 14.3	普通 47.2	少ない 30.6	7.9
④ 駐輪場	多い 5.3	普通 49.2	少ない 35.4	10.1
⑤ 商店（飲食店等）	多い 20.8	普通 53.5	少ない 18.3	7.5
⑥ マンション（住宅）	多い 33.9	普通 51.1	少ない 6.1	8.9
⑦ 緑	多い 7.7	普通 40.3	少ない 44.8	7.3
⑧ 歩道の整備	良い 10.8	普通 55.5	悪い 26.4	7.2
⑨ 治安	良い 5.9	普通 58.7	悪い 28.0	7.4
⑩ 交通渋滞の状況	良い 3.0	普通 45.2	悪い 44.8	7.0

問 18 本厚木駅周辺で、仕事・学校帰りや休みの日にどのようなことをしたいですか。
 （3つまで選んでください）（n = 1, 550）

1 知人・友人とおしゃべりをする	35.3
2 一人でゆっくり自分だけの時間を過ごす	35.3
3 おいしい料理を楽しむ	47.7
4 コンサートやお祭りなどのイベントに参加する	17.7
5 個人の能力を高める講座・勉強会に参加する	13.3
6 夫婦や恋人同士でデートをする	11.8
7 公園などで緑を眺めリラックスする	26.3
8 運動やスポーツをする	18.0
9 絵画や彫刻、現代アートなどの芸術に触れる	12.8
10 ボランティア活動をする	3.1
11 その他	12.4
	無回答 7.7

問 19 厚木市の将来的なまちづくりについて、優先的にどのような取組が必要であると思いますか。(3つまで選んでください) (n=1,550)

1	中心市街地の整備による活性化	53.7
2	魅力ある都市景観の創造	28.0
3	インターチェンジ周辺の新たな拠点づくり	17.5
4	良好な住環境の保全	40.1
5	豊かな自然環境の保護	28.5
6	身近な公園や緑地の整備	24.7
7	河川の保全と親しみやすい水辺の環境づくり	19.3
8	優良な農地の保全と有効利用	10.3
9	幹線道路の計画的な整備	26.5
10	その他	5.4
	無回答	4.6

交通・道路について

問 20 本厚木駅周辺を訪れるとき、自宅からはどのような交通手段を利用していますか。(1つだけ選んでください) (n=1,550)

1	自家用車	38.5	3	タクシー	1.3	5	バイク	1.9	7	徒歩	16.4
2	バス	28.2	4	電車	2.7	6	自転車	9.0		無回答	2.1

問 21 本厚木駅周辺を訪れるとき、主にどちらの駐車場を利用していますか。(1つだけ選んでください) (n=1,550)

1	店舗等の専用駐車場	30.0	4	本厚木駅周辺の民間駐車場	18.5
2	厚木中央公園地下駐車場	3.7	5	自動車で行かない・駐車場を利用しない	26.0
3	中町立体駐車場	11.2	6	その他	3.4
				無回答	7.2

問 22 厚木市内のバス交通について、どのような取組が必要であると思いますか。(3つまで選んでください) (n=1,550)

1	バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置)	41.6
2	運行本数の増加	29.6
3	コミュニティバスの運行	28.4
4	定時性の向上(ダイヤに正確な運行)	19.2
5	運賃の見直し	19.4
6	ノンステップバス(超低床バス)の導入促進	12.5
7	鉄道との乗り継ぎの向上	11.0
8	始発、終発の見直し	14.8
9	運行ルートの見直し	12.6
10	送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	13.8
11	料金、行先案内等の明確化	9.4
12	サイクルアンドバスライド(バス停を利用する方のための駐輪場の設置)事業の推進	10.5
13	特になし	8.9
	無回答	3.5

問 23 厚木市の道路の現状について、どのように感じますか。(いくつでも選んでください)

(n = 1, 550)

1	渋滞がひどい	45.2	7	歩道が少なく、安心して歩けない	40.8
2	渋滞が改善されてきた	14.4	8	未舗装道路が多い	5.0
3	バリアフリー化が進んできた	5.1	9	舗装状態が良くない	26.4
4	よく整備されている	5.9	10	降雨時に冠水する	18.3
5	道路の幅が狭い	41.0	11	その他	6.1
6	工事が多い	18.0		無回答	3.9

問 24 厚木市の道路整備について、どのような取組が必要であると思いますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 550)

1	渋滞解消(交差点の改良等)	58.1
2	バリアフリー化の更なる推進	23.5
3	都市計画道路など幹線道路の早期完成	18.7
4	生活道路を中心とした道路の拡幅	35.4
5	歩道の設置	43.9
6	未舗装道路の舗装整備	8.4
7	安心して散策できる遊歩道等の整備	30.5
8	災害時・緊急時に対応できる走路の整備	21.4
9	街路灯・カーブミラー等の整備	40.1
10	騒音等の環境対策	11.7
11	高速道路の整備	3.0
12	バス等の公共交通機関への支援	24.5
13	道路景観の改善	6.8
14	市内に整備予定のインターチェンジへのアクセス道路の整備	12.3
15	冠水対策	19.5
16	その他	4.3
	無回答	3.4

ご協力ありがとうございました。

最後に、本調査に関するご意見等がありましたら、お書きください。

厚木市民意識調査報告書

平成 30 年 1 月

発 行 厚木市

企画・編集 厚木市市長室広報課
〒243-8511 厚木市中町三丁目 17 番 17 号
電話 046 (225) 2043

調査協力 株式会社エスピー研